

平成 28 年度
防災・減災に関する県民意識調査
調査報告書

平成 29 年 4 月

和 歌 山 県

はじめに

和歌山県では、平成 16 年度から「地震・津波等に関する県民意識調査」を実施し、県民の防災意識や地震・津波対策の現状を把握するとともに、行政に期待することなどを調査し、その現状と動向を踏まえた総合的な対策を推進するための基礎調査として活用してきた。

このような中、特に近年では、地震・津波に加え、気候変動などによる集中豪雨等の自然災害により各地に甚大な被害が発生しているため、今回の調査では、新たに風水害や避難所生活等についての設問を追加し、「防災・減災に関する県民意識調査」と改めた。

平成 23 年の東日本大震災及び紀伊半島大水害から 5 年以上が経過した今、県民の意識や行動の実態、行政へのニーズがどのように変化しているかなど調査・分析を行い、今後の防災・減災対策に反映することにより、本県の長期総合計画に掲げる「安全・安心で、尊い命を守る和歌山」の実現につなげていきたい。

平成 29 年 4 月

— 目 次 —

はじめに

1. 調査の概要	1
1.1. 調査目的	1
1.2. 調査期間	1
1.3. 調査対象	1
1.4. 調査方法	1
1.5. 調査票の回答状況	1
1.6. 集計結果	2
1.7. 標本構成	2
2. 調査結果概要	3
2.1. 南海トラフの地震について	4
2.2. 地震・津波への意識と避難について	4
2.3. 風水害への意識と避難について	5
2.4. 避難情報について	6
2.5. 避難生活について	6
2.6. 地域との協力について	7
2.7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について	7
2.8. 地震防災対策	9
3. 調査結果	10
3.1. 南海トラフの地震等について	10
3.1.1 南海トラフの地震について、どの程度関心を持っているか	10
3.1.2 南海トラフ地震が起こる可能性についてどのように思うか	12
3.2. 地震・津波への意識と避難について	14
3.2.1 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合の避難行動	14
3.2.2 避難する理由は何か	16
3.2.3 いつ避難するか	18
3.2.4 どこに避難するか	19
3.2.5 家の外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか	21
3.2.6 どのようにして避難するか	23
3.2.7 避難しない理由は何か	25
3.2.8 県や市町村がすべき対策（地震・津波）	27
3.3. 地震発生時の火災防止について	29
3.3.1 漏電ブレーカーを設置しているか	29
3.3.2 漏電ブレーカーを設置していない理由	30
3.3.3 感震ブレーカーを設置しているか	31
3.3.4 感震ブレーカーを設置していない理由	32

3.3.5	地震発生時の火災を防ぐために自宅でどのような対策をしているか.....	33
3.4.	風水害への意識と避難について.....	34
3.4.1	大雨が続いた場合の避難行動.....	34
3.4.2	どこに避難するか.....	35
3.4.3	どのようにして避難するか.....	36
3.4.4	避難しない理由は何か.....	37
3.4.5	県や市町村がすべき対策（風水害）.....	38
3.5.	災害時の情報収集について.....	39
3.5.1	防災行政無線.....	39
3.5.2	緊急情報をどのように入手するか.....	41
3.5.3	「防災わかやまメール配信サービス」への登録状況.....	43
3.5.4	緊急地震速報を知っているか.....	46
3.5.5	自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか.....	48
3.5.6	台風や大雨の際、河川の水位情報を確認しているか.....	50
3.5.7	水位情報の確認方法.....	51
3.5.8	水位情報を確認しない理由.....	52
3.6.	災害時の避難について.....	53
3.6.1	避難カードを知っているか.....	53
3.6.2	避難カードに記入しているか.....	55
3.6.3	どこで避難生活を送るか.....	57
3.6.4	自家用車の中で避難生活を送る理由.....	58
3.6.5	避難生活を送る上でどのようなことが心配か.....	59
3.7.	自主防災組織等について.....	60
3.7.1	町内会（自治会）に入っているか.....	60
3.7.2	自主防災組織に入っているか.....	63
3.7.3	地域の自主防災組織の活動は活発か.....	67
3.7.4	自主防災組織が抱える課題は何だと思うか.....	69
3.7.5	自主防災組織に入っていない理由は何か.....	70
3.7.6	地域での支援体制ができているか.....	71
3.7.7	大地震後、地域の人と協力してできることは何か.....	73
3.7.8	地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか.....	75
3.8.	住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について.....	77
3.8.1	自宅の建築年はいつか.....	77
3.8.2	自宅の形態は（戸建、集合住宅等）何か.....	78
3.8.3	自宅の構造は（木造、鉄骨造等）何か.....	79
3.8.4	専門家による耐震診断を受けたことがあるか.....	80
3.8.5	耐震診断の結果はどうか.....	82

3.8.6	耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか.....	84
3.8.7	耐震補強をすぐにしない理由は何か.....	86
3.8.8	耐震診断を受けない理由は何か.....	87
3.8.9	今後耐震診断を受けたいか.....	88
3.8.10	住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか.....	90
3.8.11	家具等の固定をしているか.....	92
3.8.12	家具等の固定をしていないのはなぜか.....	94
3.8.13	家具等の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか.....	96
3.8.14	ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検し、どのような対応したか.....	98
3.8.15	点検していないのはなぜか.....	99
3.8.16	すぐに対応しない理由は何か.....	101
3.8.17	ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか.....	102
3.9.	日頃の防災対策について.....	103
3.9.1	どのような地震防災対策を行っているか.....	103
3.9.2	非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か.....	105
3.9.3	家庭では何日分の水や食料を備蓄しているか.....	107
3.9.4	どのような建物や家財に関わる保険に加入しているか.....	108
3.9.5	「地震保険」等に参加していない理由は何か.....	109
3.9.6	過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか.....	110
3.9.7	どのような訓練に参加したか.....	113
3.9.8	訓練に参加しない理由は何か.....	114
3.9.9	どのような訓練が必要だと思うか.....	116
3.9.10	地震や防災に関する各知識や情報を知っているか.....	117
3.9.11	自然災害や防災についての知識や情報をどこから入手しているか.....	120
3.9.12	防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか.....	122
4.	アンケート回答者の属性.....	127
4.1.	性別.....	127
4.2.	年齢.....	127
4.3.	居住年数.....	128
4.4.	職業.....	129
4.5.	家族構成.....	130
4.6.	ご近所とのつきあい.....	131
4.7.	居住地.....	132
5.	参考資料.....	133
5.1.	津波危険地区一覧.....	133
5.2.	単純集計表.....	135
5.2.1	南海トラフの地震について.....	135

5.2.2	地震・津波への意識と避難について.....	136
5.2.3	地震発生時の火災防止について.....	139
5.2.4	風水害への意識と避難について.....	141
5.2.5	災害時の情報収集について.....	143
5.2.6	自主防災組織等について.....	147
5.2.7	住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について.....	150
5.2.8	日頃の防災対策について.....	157
5.2.9	回答者の属性.....	163
6.	調査票.....	166

1. 調査の概要

1.1. 調査目的

本調査は、県民の地震・津波及び風水害等に対する認知度や日頃の防災対策、行政へのニーズ等のデータを収集・分析し、今後の防災・減災対策に反映させることを目的とするものである。

なお、これまで平成 16・19・22・23・25 年度に調査を実施しており、今回が 6 回目の調査となる。

1.2. 調査期間

平成 28 年 12 月 1 日から平成 28 年 12 月 24 日

1.3. 調査対象

(1) 対象者

A) 南海トラフ巨大地震による津波で全域もしくはそのほとんどが浸水深 1 m 以上と想定される地域(町丁目・大字) (以下、津波危険地区という。)に居住する、満 20 歳以上の住民から 2,000 人

B) 津波危険地区を除く地域(以下、「全県地区」という。)に居住する、満 20 歳以上の住民から 2,000 人

(2) 対象者の抽出方法

各市町村の住民基本台帳から無作為に抽出した。なお、各市町村の抽出人数は人口比率から決定している。

1.4. 調査方法

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査

1.5. 調査票の回答状況

配布数と有効回答数及び有効回答率は、以下のとおりである。

表 1.5-1 配布数と有効回答数及び有効回答率

区 分	配布数	有効回答数	有効回答率
津波危険地区	2,000	1,317	65.9%
全県地区	2,000	1,310	65.5%
合計	4,000	2,627	65.7%

注) 有効回答数は、白紙回答を「無効」として算出している。

1.6. 集計結果

調査結果は、設問別、地区別(津波危険地区、全県地区)に集計を行っている。ただし、「3.4 風水害への意識と避難について(問8、問9、問14)」及び「2.6.5 避難生活を送る上でどのようなことが心配か(問17)」については、津波危険地区と全県地区の合計としている。

過年度調査(平成16・19・22・23・25年度)において同じ質問を設けている場合は、過年度調査と同様に合計(津波危険地区+全県地区)で経年変化について整理している。

問3については、過年度調査において津波危険地区のみを対象とし調査を実施していたため、過年度調査と同様に津波危険地区のみで経年変化について整理している。

さらに、一部の項目において、性別・年代などの各基本属性項目と各設問をクロス集計している。

1.7. 標本構成

本報告書では、結果数値等を以下のとおり取り扱っている。

(1) アンケートの回答には、単数回答(1つだけ選択する回答)と複数回答(該当するもの全てを選択する回答)がある。

単数回答の設問において、複数を選択している場合は「無回答・無効」に含めて集計している。

(2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント(%)値で表記している(%の値の母数は、その設問の該当標本数(有効回答数))。

(3) %値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、合計が必ずしも100%とならない場合(99.9%または100.1%など)がある。

同様に、複数の選択肢を合わせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合がある。

2. 調査結果概要

「平成 28 年度 防災・減災に関する県民意識調査」結果概要

南海トラフの地震への関心について、「非常に関心がある」、「関心がある」、「多少関心がある」を合わせると 96.6%となっており、県民の関心は依然として非常に高く、また、南海トラフの地震が今後 10 年以内に起こる可能性があると思っている割合は平成 23 年に次いで高くなっており、地震に対する危機意識についても高まっていると考えられる。

津波からの避難については、「夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難する」と回答した方の割合が津波危険地区では 8 割を上回っている。避難の理由については、「津波に襲われる危険があるから」が最も高く、約 9 割となっていることから、津波からの避難意識は依然として高いといえる。一方、「津波に襲われる危険があるから」と回答した方のうち、約 4 割が津波警報などの発表や市町村からの避難の呼びかけがあってから、または近所の人や家族が避難してから避難を開始すると回答している。また、風水害時においても、避難勧告発令時点に避難を開始している、または開始する割合は 4 割に満たず、災害から命を守る避難行動の原則である早期避難の意識がまだ十分ではないといえる。

今回新たに追加した避難生活の設問については、自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなったときに「自家用車の中(車中泊)」で生活すると回答した方が約 1 割という結果が出ており、これらの方は車中泊を行う可能性がある。

自身や家庭での防災対策については、過去一年間に「防災訓練に参加していない」と回答した方が約 4 割と調査開始以降最も低くなっており、防災訓練への参加状況は高くなってきている。一方、家庭において家具等を固定していると回答した割合が約 5 割弱、耐震補強が必要と診断された後「建て替えた」、「補強した」と回答した割合が約 3 割と前回調査から横ばいとなっており、今後、より一層の啓発が必要である。

地域での防災対策については、自主防災組織が活動している割合は調査開始以降最も高くなっており、活発に活動している自主防災組織がある一方、「自主防災組織に入っている」と回答した割合は 3 割に満たないなど、県全体では、自主防災組織の存在や活動がまだ広く認知されていないことが考えられ、地域での活動をより活発にしていく必要がある。

県や市町村に求める防災対策については、ハード対策として「避難所や避難場所の整備」や「避難路の整備」等を求める声が多く、ソフト対策として「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」等を求める声が多くなっている。

今回の調査で得られた傾向や意見を踏まえ、今後の防災・減災対策に反映させるとともに、地域の防災力を向上させていくことが必要である。

2.1. 南海トラフの地震について

- ・ 南海トラフの地震への関心について、「非常に関心がある」、「関心がある」、「多少関心がある」を合わせると 96.6%となっており、関心は非常に高いものとなっている。
- ・ 地震が起こる可能性について、「明日起きても不思議はないと思っている」(43.0%)が最も高くなっている。
また、今後 10 年以内に起こる可能性があると思っている割合は 63.2%となっており、平成 23 年の 63.7%に次いで高く、地震に対する危機意識は高まっていると考えられる。

2.2. 地震・津波への意識と避難について

- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難するかについて、「避難する」は津波危険地区で 81.5%、全県地区で 64.3%となっており、津波への危機感が避難意識の高さに反映されていると考えられる。
避難の理由について、津波危険地区では「津波に襲われる危険があるから」(89.6%)、全県地区では「余震で家が倒壊する危険があるから」(65.6%)が最も高くなっている。
- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にいつ避難するかについて、「揺れが収まったらできるだけ早く避難する」が津波危険地区(56.8%)、全県地区(46.5%)とも最も高くなっている。
津波危険地区では、津波警報等の発表や市町村からの避難の呼びかけがあってから、または近所の人や家族が避難してから避難を開始する割合が 39.5%となっており、津波の危険がある地域においても、「揺れたら逃げる」という早期避難の意識がまだ十分ではないことが分かる。
- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合の避難場所について、津波危険地区では「自宅近くの高台」(41.6%)、「市町村が決めた避難場所」(41.4%)が高くなっており、全県地区では「市町村が決めた避難場所」(53.7%)が最も高くなっている。
経年変化をみると、「市町村が決めた避難場所」(41.4%)は平成 25 年の 37.4%から増加している。
- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、揺れが収まってから家の外に避難するのにかかる時間について、「5～10 分後」が津波危険地区(36.5%)、全県地区(25.3%)とも最も高くなっている。
なお、「5 分以内」(14.4%)は、平成 25 年の 13.7%から増加している。
- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、どのように避難するかについて、「歩いて避難する」が津波危険地区(79.0%)、全県地区(75.2%)とも最も高くなっている。

- ・ 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合「避難しない」理由について、「自宅が安全だから」が津波危険地区(25.7%)、全県地区(39.9%)とも最も高くなっている。
また、津波危険地区では「自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから」(24.1%)が平成25年(10.1%)から増加している。
- ・ 県や市町村に求める地震や津波時の避難対策として、「避難所や避難場所の整備」(56.6%)、「避難路の整備」(45.0%)等のハード対策や、「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」(56.5%)等のソフト対策が必要と考えられている。
なお、ほとんどの項目で平成25年から減少している。
- ・ 自宅に漏電ブレーカーを設置している割合は津波危険地区では67.2%、全県地区では68.1%となっている。一方、感震ブレーカーを設置している割合は津波危険地区では23.1%、全県地区では22.1%となっており、感震ブレーカーを設置している割合は漏電ブレーカーに比べて低くなっている。
感震ブレーカーを設置していない理由について、「感震ブレーカーについて知らなかった」が最も高く、津波危険地区、全県地区とも約78%となっている。
- ・ 火災を防ぐための自宅での対策について、津波危険地区、全県地区とも「逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災報知機を設置している」、「火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置している」が高くなっている。一方、「特に何もしていない」が津波危険地区では41.5%、全県地区では34.2%となっている。

2.3. 風水害への意識と避難について

- ・ これまでに経験のない大雨が降り続いたとき、避難勧告発令時点で避難を開始している、または開始する割合は35.4%にとどまっておき、風水害時における早期避難の意識が十分に浸透していないことが分かる。
- ・ これまでに経験のない大雨が降り続いたときの避難場所について、「市町村が決めた避難場所」が最も高く、70.0%となっている。
- ・ 避難の方法は「歩いて避難する」(66.7%)が最も高く、次いで「車で避難する」(27.3%)が高くなっている。
- ・ これまでに経験のない大雨が降り続いたときに避難しない理由について、「自宅が安全だから」(45.1%)が最も高く、一方、「避難経路が危険だから」、「近くの避難場所を知らないから」は10%以下となっている。
- ・ 県や市町村が求める風水害時の避難対策として、「市町村による避難勧告等の迅速な決定と伝達」(57.1%)が最も高く、次いで「避難所や避難場所の整備」(51.8%)、「避難路の整備」が42.1%となっている。

2.4. 避難情報について

- ・ 防災行政無線について、「ふだんから放送の内容がはっきり聞き取れる」(28.8%)、「よく聞こえるときもあるが、雨や風の具合で聞き取れないことがある」(35.4%)は、調査開始以降最も高くなっている。また、「近くに防災行政無線のスピーカーが設置されていない」(3.9%)は、調査開始以降最も低くなっている。
- ・ 災害時の緊急情報の入手先については、「テレビ」が津波危険地区(89.1%)、全県地区(87.3%)とも最も高くなっている。
- ・ 「防災わかやまメール配信サービス」に登録している割合は 25.0%であり、調査開始以降最も高くなっている。
登録している割合は 50 代男性が最も高く、37.2%となっている。一方、20 代女性が最も低く、11.9%となっている。
- ・ 気象庁の緊急地震速報について、「よく知っている」、「何となく知っている」を合わせると 85.5%となり、広く認知されている。
緊急地震速報を受けたときの対応について、「家の中の安全なところを探して身を守る」(46.7%)と答えた割合が最も高く、次いで「家族に危険を知らせる」(32.9%)、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」(32.1%)が高くなっている。
- ・ 台風や大雨の際に、河川の水位情報を確認している割合は 39.1%となっており、その確認方法は「テレビのデータ放送」(78.2%)が最も高くなっている。河川の水位を確認しない理由は、「調べ方がわからない」(35.1%)が最も高くなっている。
- ・ 避難カードの認知度(「知っている」、「何となく知っている」の合計)は 31.5%であり、平成 25 年の 22.1%から増加している。
また、避難カードを「知っている」と回答した方のうち緊急避難先等を避難カードに記入している割合は 28.1%となっており、約 7 割が避難カードについて知っていながらも記入までには至っていない。

2.5. 避難生活について

- ・ 自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなったときの避難生活の場所について、「最寄りの避難所」が津波危険地区(55.3%)、全県地区(49.6%)とも最も高くなっている。一方、「自家用車の中(車中泊)」が津波危険地区では 10.7%、全県地区では 12.4%となっており、避難者のうち約 1 割は車中泊を行う可能性がある。
車中泊を行う理由として、「避難所ではプライバシーが確保されないと思うから」、「避難所に多くの被災者が殺到し入ることができないと思うから」がそれぞれ 50%を上回っている。

- ・ 避難所生活を送る上で心配なこととして、「トイレの問題」(76.2%)が最も高くなっている。次いで「食料や水の問題」(71.9%)、「洗濯・入浴の問題」(56.6%)が高く、「避難生活によるストレスや体調不良」、「プライバシーの問題」等の集団生活での不安も50%を上回っている。

2.6. 地域との協力について

- ・ 町内会(自治会)に入っているかについて、「入っている」は8割を上回っている一方、地域の自主防災組織に入っているかについては、「入っている」は3割に満たない。また、近所づきあいが親密なほど、自主防災組織に「入っている」割合が高くなっている。
自主防災組織に加入していない理由として、「どんな活動をしているのか知らないから」が津波危険地区、全県地区とも最も高く、40%を上回っている。
- ・ 自主防災組織の活動について、活動している割合（「活発に活動している」、「ある程度活動している」の合計）は津波危険地区では76.1%、全県地区では62.5%と、津波危険地区での活動がより活発に行われている。
活動している割合は69.4%となっており、調査開始以降最も高くなっている。
- ・ 自主防災組織の課題について、「限られた住民だけの参加になっている」が50%を上回っており、次いで「防災訓練の内容がマンネリ化している」などが高くなっている。自主防災組織に加入していない理由として、「どんな活動をしているのか知らないから」が最も高くなっている。
- ・ 災害時に要配慮者を支援する体制ができているかについて、「できている」、「検討している」を合わせて14.9%となっている。
一方、「よく知らない」が72.3%と高くなっている。
- ・ 大地震の発生後に地域の人と協力してできることについて、津波危険地区、全県地区とも「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」が最も高く、50%を上回っている。
- ・ 地域の防災力を高めるために必要なことについて、「自主防災組織の育成・強化」、「自主防災組織の防災資機材の整備・充実」、「地震・津波や風水害などの学習会」等が高くなっている。

2.7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

- ・ 住宅の建築年について、旧耐震基準である「昭和56年5月以前」が津波危険地区(44.9%)、全県地区(37.7%)とも最も高くなっている。
自宅の形態について、「一戸建て」が津波危険地区(82.5%)、全県地区(82.6%)とも最

も高くなっている。

構造種別について、「木造」が津波危険地区(74.8%)、全県地区(67.8%)とも最も高くなっている。

- ・ 「昭和 56 年 5 月以前に建てられた建物」のうち、専門家による耐震診断を受けたことがある割合は津波危険地区で 10.7%、全県地区で 9.9%となっている。
耐震診断を受けていない理由について、津波危険地区では「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」(27.1%)が最も高くなっている。
- ・ 耐震診断の結果について、「耐震補強が必要」は津波危険地区で 43.3%、全県地区で 29.6%となっている。耐震補強が必要と診断された後、「建て替えた」、「補強した」割合は全県地区の 42.2%に対し、津波危険地区では 27.3%と大幅に低くなっている。すぐに補強しない理由としては、津波危険地区、全県地区とも「費用がかかるから」が 60%を上回り、また「補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから」が 50%を上回っている。
- ・ 県や市町村がすべき住宅耐震化の促進対策については、「耐震診断の専門家の無料派遣」が津波危険地区(59.6%)、全県地区(65.6%)とも最も高くなっており、耐震診断士による無料耐震診断の制度が十分認知されていないことが分かる。
- ・ 家具等を固定している割合（「全部または大部分を固定している」、「一部のみ固定している」、「固定が必要な家具類はない」の合計）は 45.5%であり、平成 25 年の 43.8%からほぼ横ばいとなっている。
家具等を固定していない理由として、「手間がかかるから」(26.5%)が最も高くなっており、次いで「固定しても被害は出ると思うから」(21.5%)、「費用がかかるから」(19.7%)となっている。
- ・ 県や市町村に求める家具固定の推進対策について、「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」(42.2%)が最も高くなっており、次いで「家具類の固定に必要な費用の補助」(36.9%)、「無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣」(34.8%)となっている。
- ・ ブロック塀や石塀、門柱などの耐震性の点検について、「点検していない」が津波危険地区(64.7%)、全県地区(69.8%)とも最も高くなっている。
ブロック塀等を点検しない理由として、「点検しなくても安全と思うから」(20.6%)が最も高く、次いで「点検の方法がわからないから」(16.9%)となっている。
- ・ 県や市町村に求めるブロック塀や石塀、門柱などの耐震化促進対策について、「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」が最も高く、50%を上回っている。

2.8. 地震防災対策

- ・ 家庭での地震防災対策について、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(65.0%)が最も高く、次いで「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(53.3%)となっている。一方、全県地区では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(51.9%)が最も高く、次いで「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(43.1%)となっている。
- ・ 非常持ち出し品として常備しているもののうち「懐中電灯」、「飲料水」、「携帯ラジオ」、「食料品」は50%を上回っており、多くの項目で平成25年から増加している。
- ・ 水や食料の備蓄量について、津波危険地区、全県地区とも、備蓄を行っている割合の半数程度は1～3日以内の備蓄量しか用意しておらず、県が推奨している7日間以上の備蓄を行っている割合は5%以下にとどまっている。また、そもそも「備蓄をしていない」割合は約29%となっている。
- ・ 建物や家財に関わる保険への加入について、「火災保険」が津波危険地区(57.7%)、全県地区(63.6%)とも最も高くなっており、次いで「地震保険」が高く、津波危険地区、全県地区とも約35%となっている。地震の被害を補償対象とする保険に加入していない理由については、「保険料が高いから」が津波危険地区(38.8%)、全県地区(45.3%)とも最も高くなってきている。
- ・ 過去一年間の防災訓練において、「防災訓練に参加していない」(44.3%)が調査開始以降最も低くなっており、防災訓練への参加状況は過去最高といえる。なお、防災訓練に参加していない理由としては、特に参加の割合が低い全県地区で「地域や職場などで防災訓練が実施されていないから」(38.3%)となっている。
- ・ 地震や防災に関する情報の認識については、ほとんどの項目で津波危険地区の方が全県地区より知っている割合が高くなってきている。
経年変化をみると、「南海トラフ沿いの3つの領域(東海・東南海・南海)においては、約90～150年周期で繰り返し津波を伴う地震が発生していること」(72.4%)、「南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること」(43.4%)を知っている割合は平成25年から大きく増加している。
- ・ 地震や防災に関する情報の入手先について、90.3%が「テレビ」を情報源としている。なお、「テレビ」(90.3%)、「新聞」(43.4%)は平成25年から減少しており、一方、「インターネット」(29.1%)は調査開始以降増加傾向にある。
- ・ 防災に関する活動の実施・参加経験については、全ての項目で津波危険地区の方が全県地区より割合が高くなってきている。また、津波危険地区においては「災害時に避難するのに適切な場所を見て回った」割合も46.5%と高く、津波避難に対する意識が高いといえる。

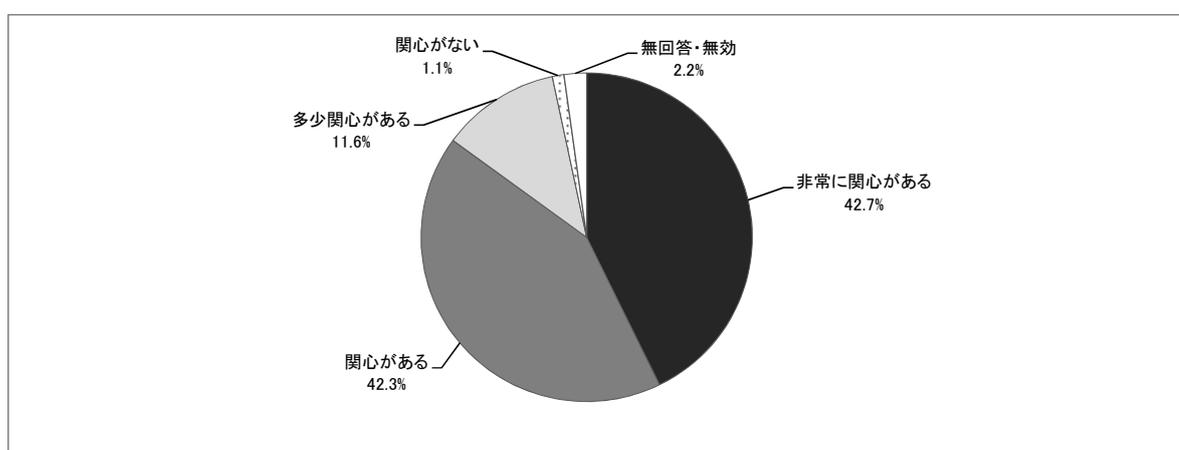
3. 調査結果

3.1. 南海トラフの地震等について

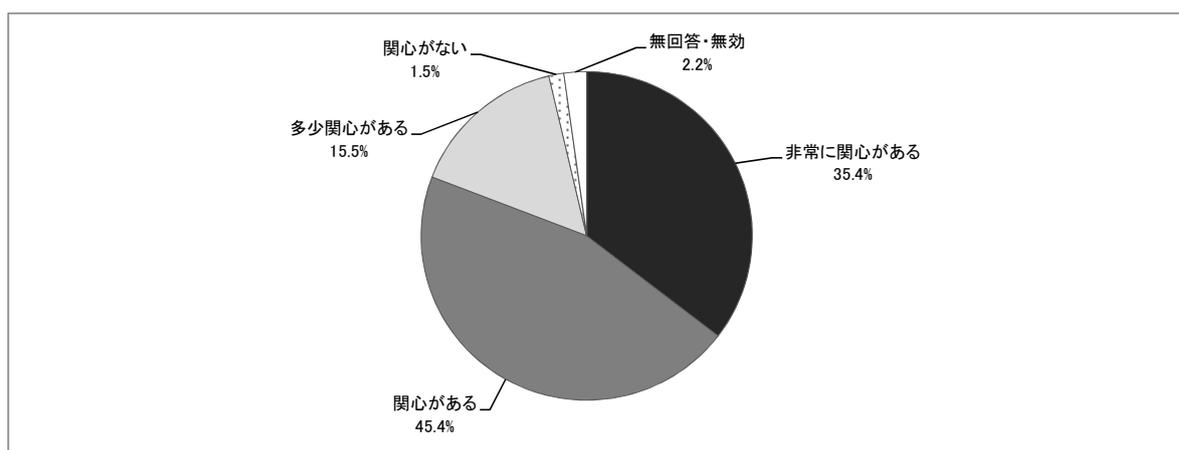
3.1.1 南海トラフの地震について、どの程度関心を持っているか

問1 あなたは、南海トラフの地震(東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震を含む。以下同じ。)について、どの程度関心を持っていますか(ひとつだけ○)。

- ・南海トラフの地震に関心がある割合(「非常に関心がある」、「関心がある」、「多少関心がある」の合計)は津波危険地区で96.6%、全県地区で96.3%となっている。
- ・津波危険地区では「非常に関心がある」は40%を上回っている。



津波危険地区(N=1,317)



全県地区(N=1,310)

図 3.1-1 南海トラフの地震について、どの程度関心を持っているか

- ・経年変化をみると、「非常に興味がある」(39.1%)は、前回(平成 25 年)の 36.3%から増加している。

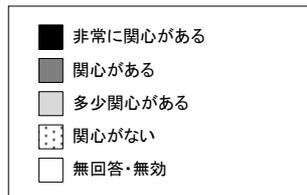
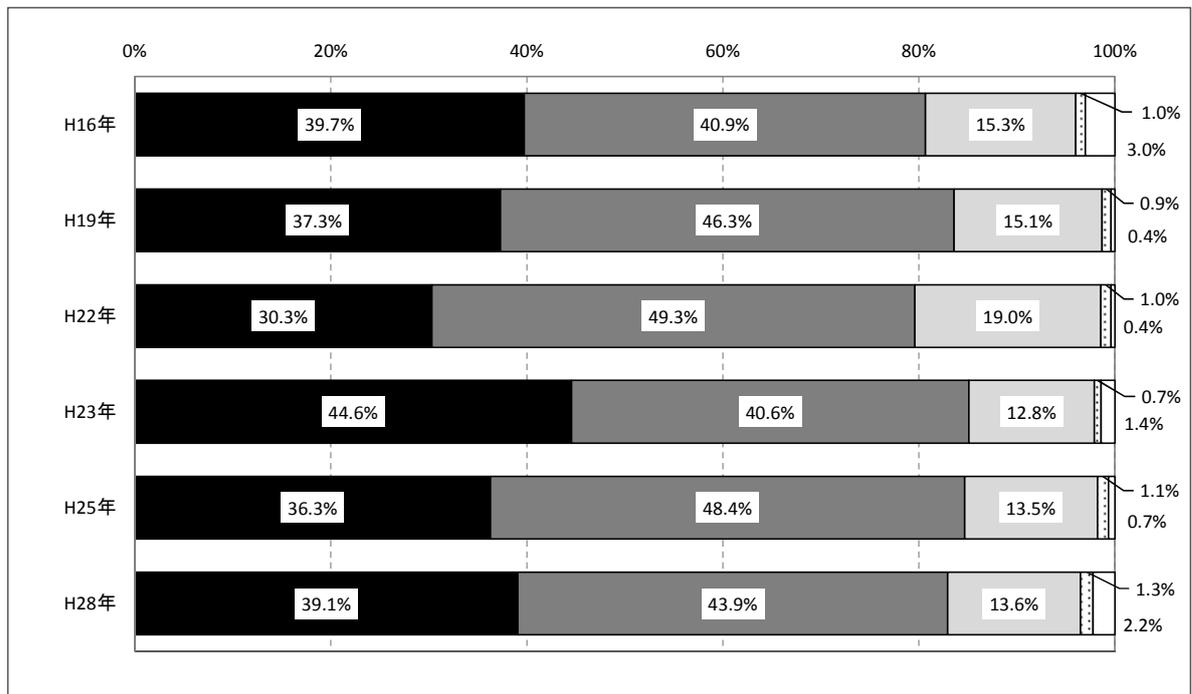
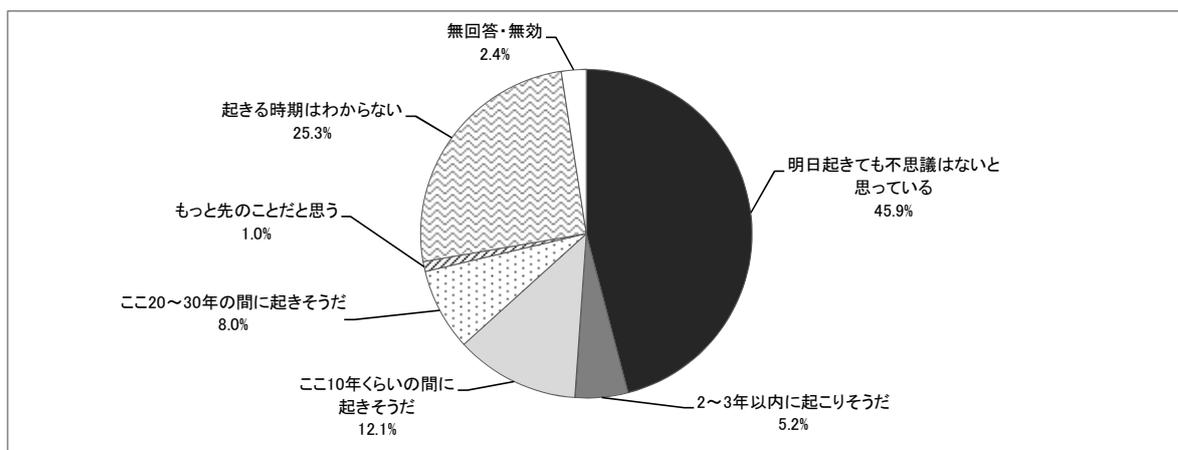


図 3.1-2 南海トラフの地震について、どの程度関心を持っているか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

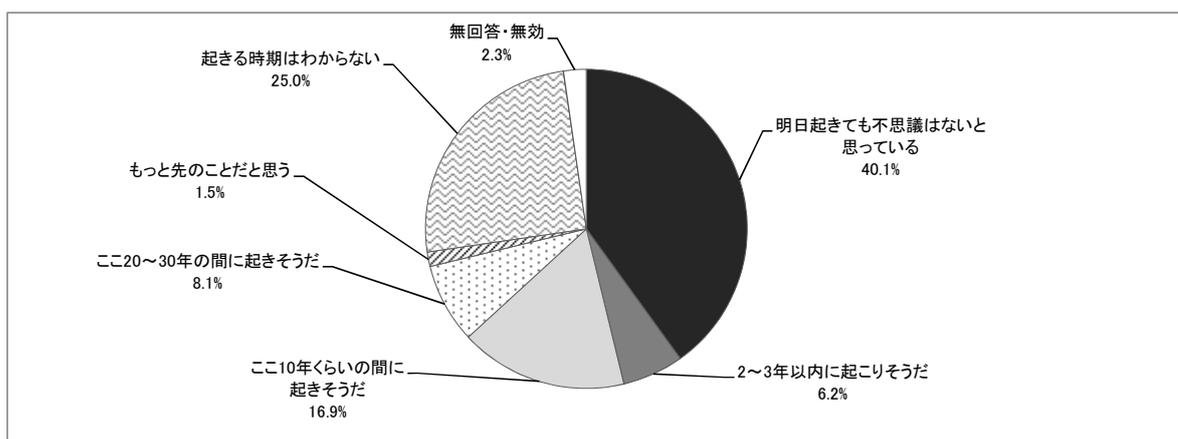
3.1.2 南海トラフ地震が起こる可能性についてどのように思うか

問2 あなたは、南海トラフの地震が起こる可能性について、どのように思っていますか(ひとつだけ○)。

- ・南海トラフの地震が起こる可能性について、「明日起きても不思議はないと思っている」が津波危険地区(45.9%)、全県地区(40.1%)とも最も高くなっている。
- ・今後10年以内に起こる可能性があると思っている割合(「明日起きても不思議ではないと思っている」、「2～3年以内に起こりそうだ」、「ここ10年くらいの間に起きそうだ」の合計)は津波危険地区、全県地区とも63.2%となっている。



津波危険地区 (N=1,317)



全県地区 (N=1,310)

図 3.1-3 南海トラフ地震が起こる可能性についてどのように思うか

- ・経年変化をみると、「明日起きても不思議はないと思っている」(43.0%)は、前回(平成25年)の35.2%から増加している。
 - ・今後10年以内にかかる可能性があると思っている割合(「明日起きても不思議ではないと思っている」、「2～3年以内にかかりそうだ」、「ここ10年くらいの間に起きそうだ」の合計)は63.2%であり、平成23年の63.7%に次いで高くなっている。
- ※H16～H25までは「東海・東南海・南海3連動地震」を想定した質問としている。

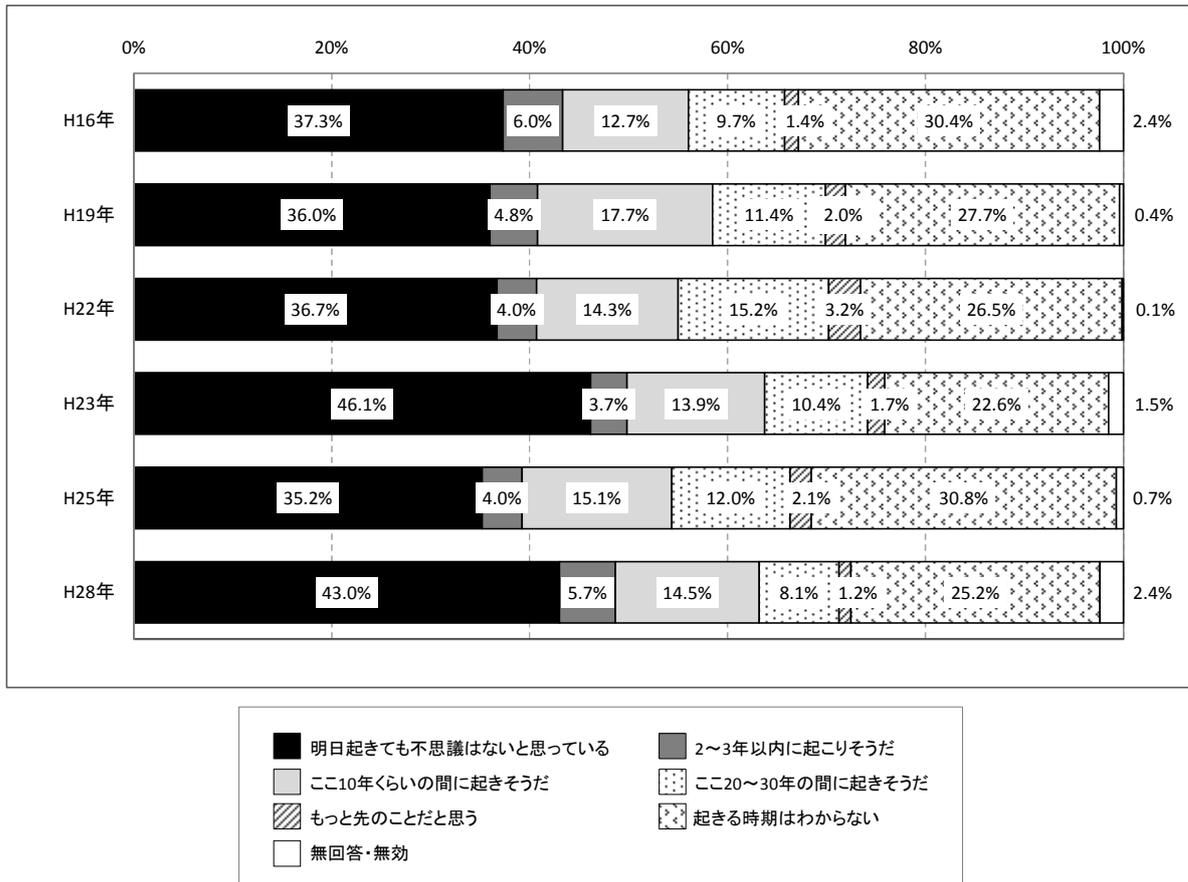


図 3.1-4 南海トラフ地震が起こる可能性についてどのように思うか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.2. 地震・津波への意識と避難について

3.2.1 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合の避難行動

問3 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、「避難する」割合は津波危険地区で 81.5%、全県地区で 64.3%となっており、津波危険地区での避難意識の方が高くなっている。

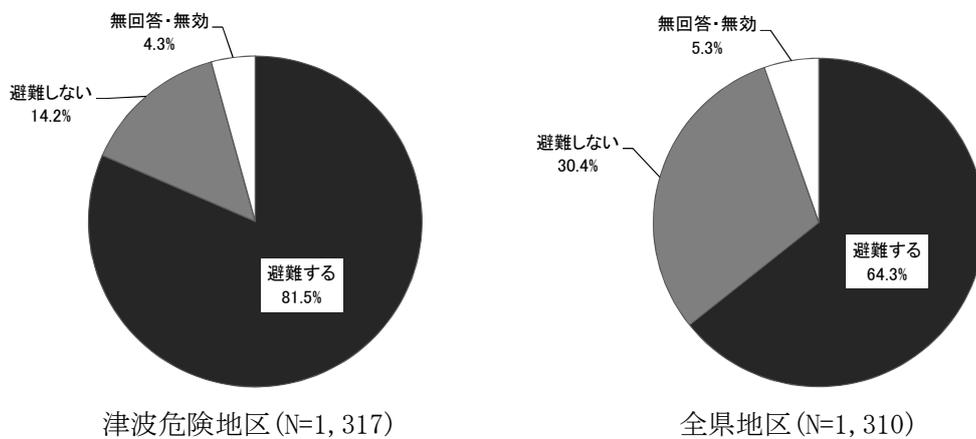


図 3.2-1 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか

・経年変化をみると、平成 23 年以降は特に大きな変化は見られない。

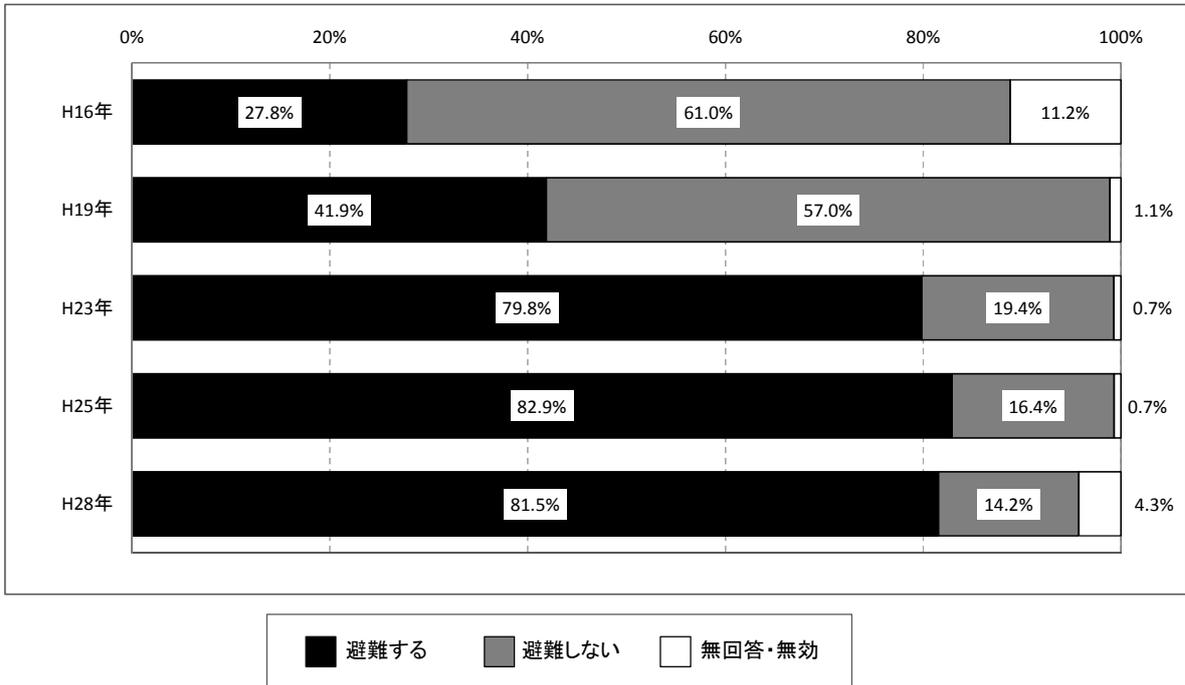


図 3.2-2 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか —経年変化—
※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.2 避難する理由は何か

<問3で「避難する」と回答された方にお聞きします。>

問3-1 あなたが避難する主な理由は何ですか(いくつでも○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合の避難する理由について、津波危険地区では「津波に襲われる危険があるから」が最も高く、89.6%となっている。
- ・全県地区では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も高く、65.6%となっている。

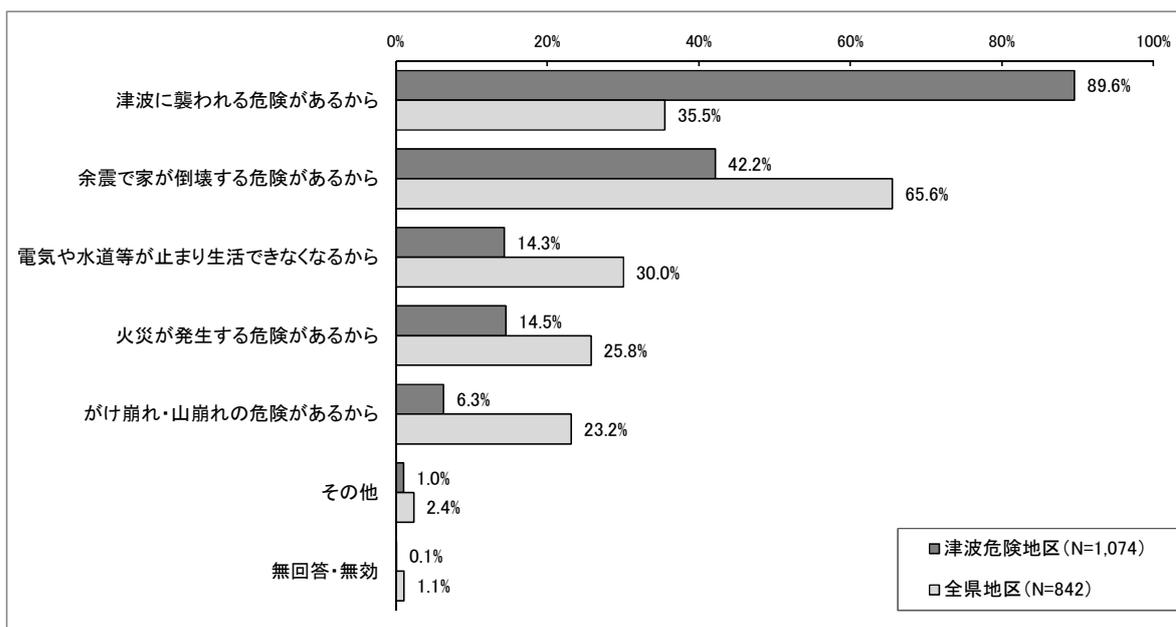


図 3.2-3 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 避難する理由は何か

- ・経年変化をみると、「津波に襲われる危険があるから」(89.6%)は、前回(平成 25 年)の 87.4%から増加している。

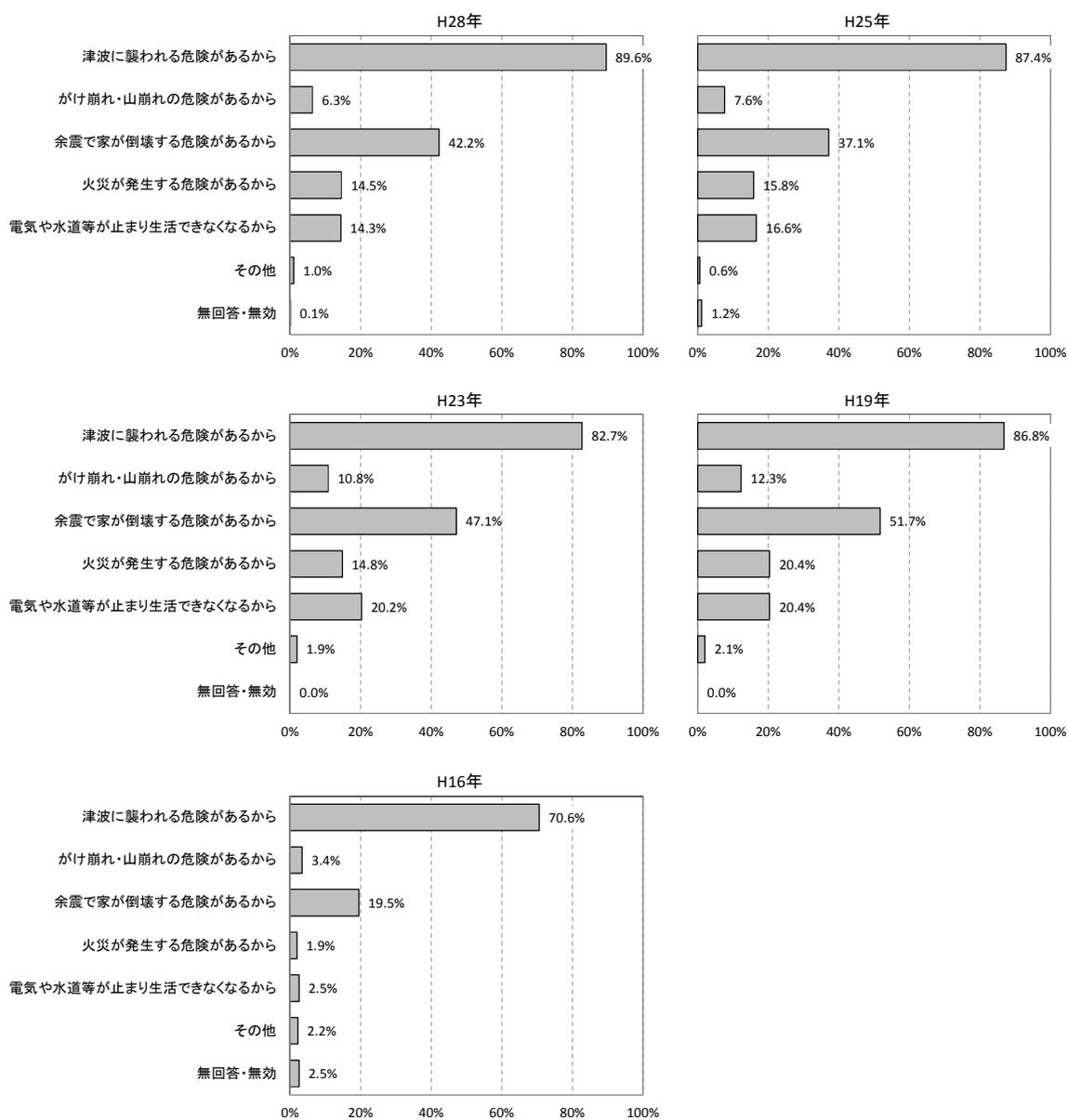


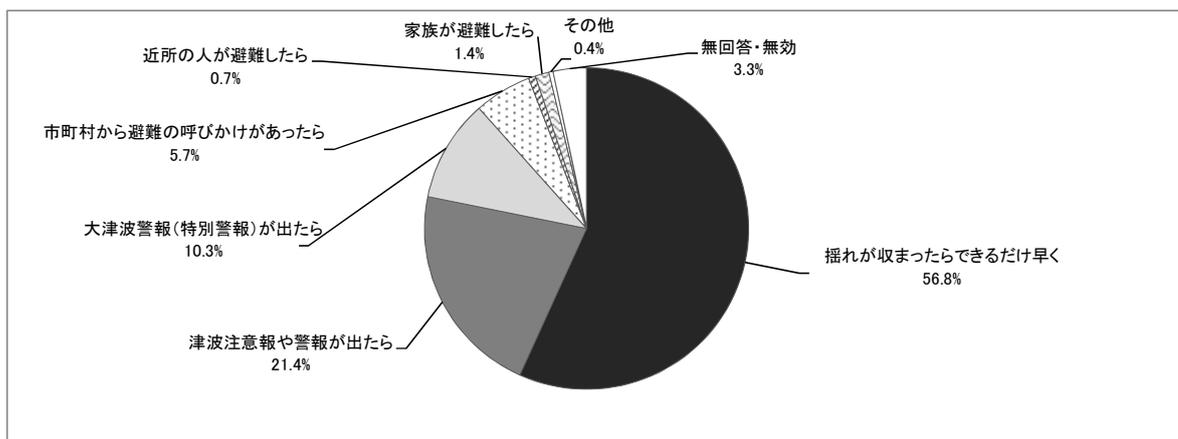
図 3.2-4 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 避難する理由は何か —経年変化—
 ※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.3 いつ避難するか

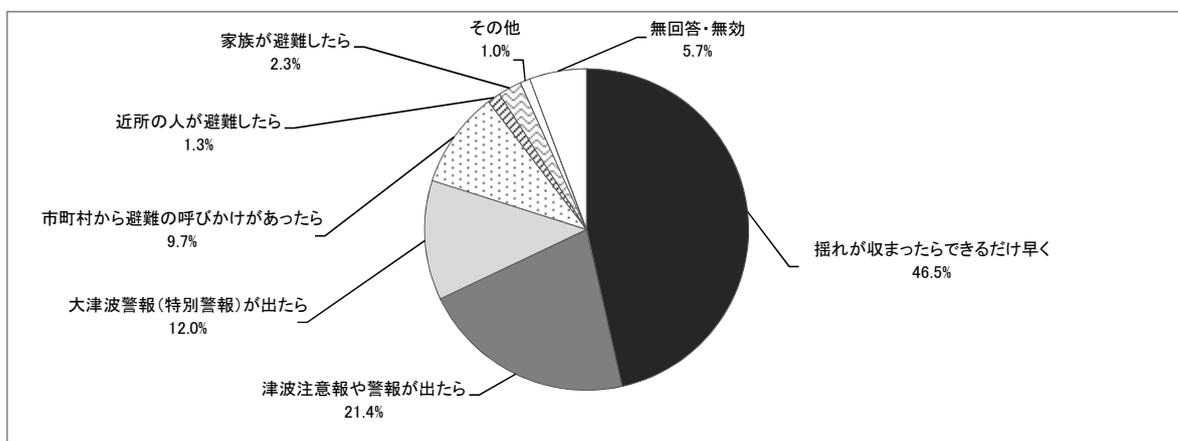
<問3-1で「津波に襲われる危険があるから」と回答された方にお聞きます。>

問3-2 あなたは、いつ避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にいつ避難するかについて、「揺れが収まったらできるだけ早く」が津波危険地区(56.8%)、全県地区(46.5%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「津波注意報や警報が出たら」が高く、津波危険地区、全県地区とも21.4%となっている。



津波危険地区(N=962)



全県地区(N=299)

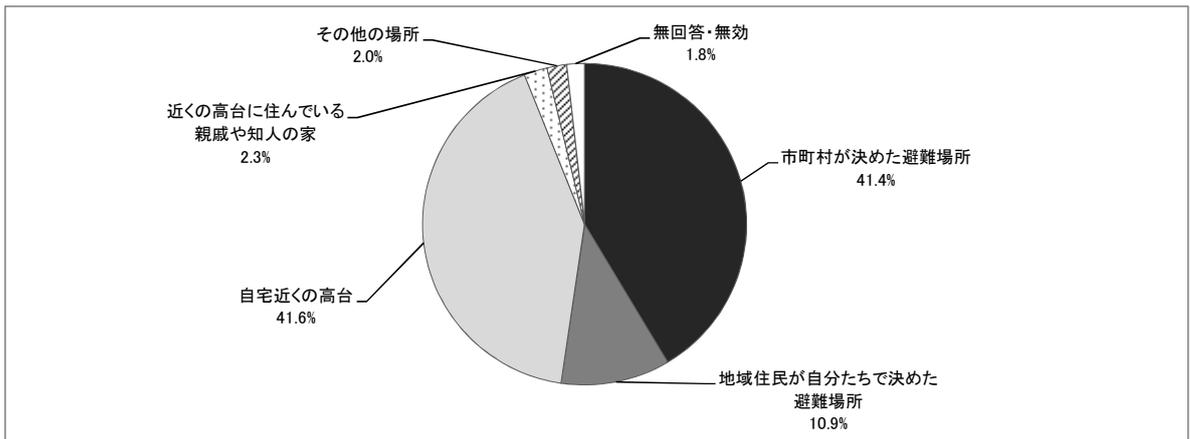
図 3.2-5 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) いつ避難するか

3.2.4 どこに避難するか

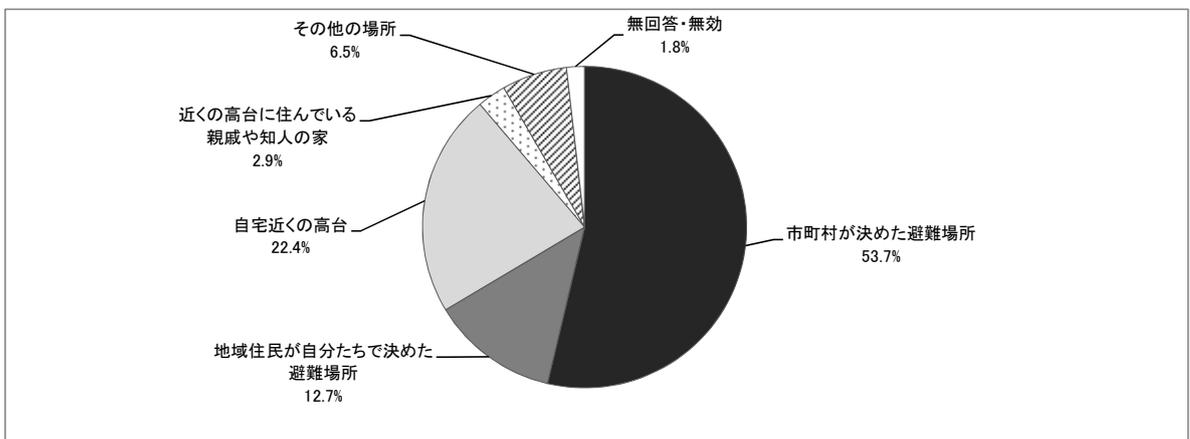
<問3で「避難する」と回答された方にお聞きします。>

問3-3 あなたは、どこに避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にどこに避難するかについて、津波危険地区では「自宅近くの高台」(41.6%)、「市町村が決めた避難場所」(41.4%)が高くなっている。
- ・全県地区では「市町村が決めた避難場所」(53.7%)が最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1,074)



全県地区 (N=842)

図 3.2-6 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) どこに避難するか

・経年変化をみると、「市町村が決めた避難場所」(41.4%)は、前回(平成25年)の37.4%から増加している。

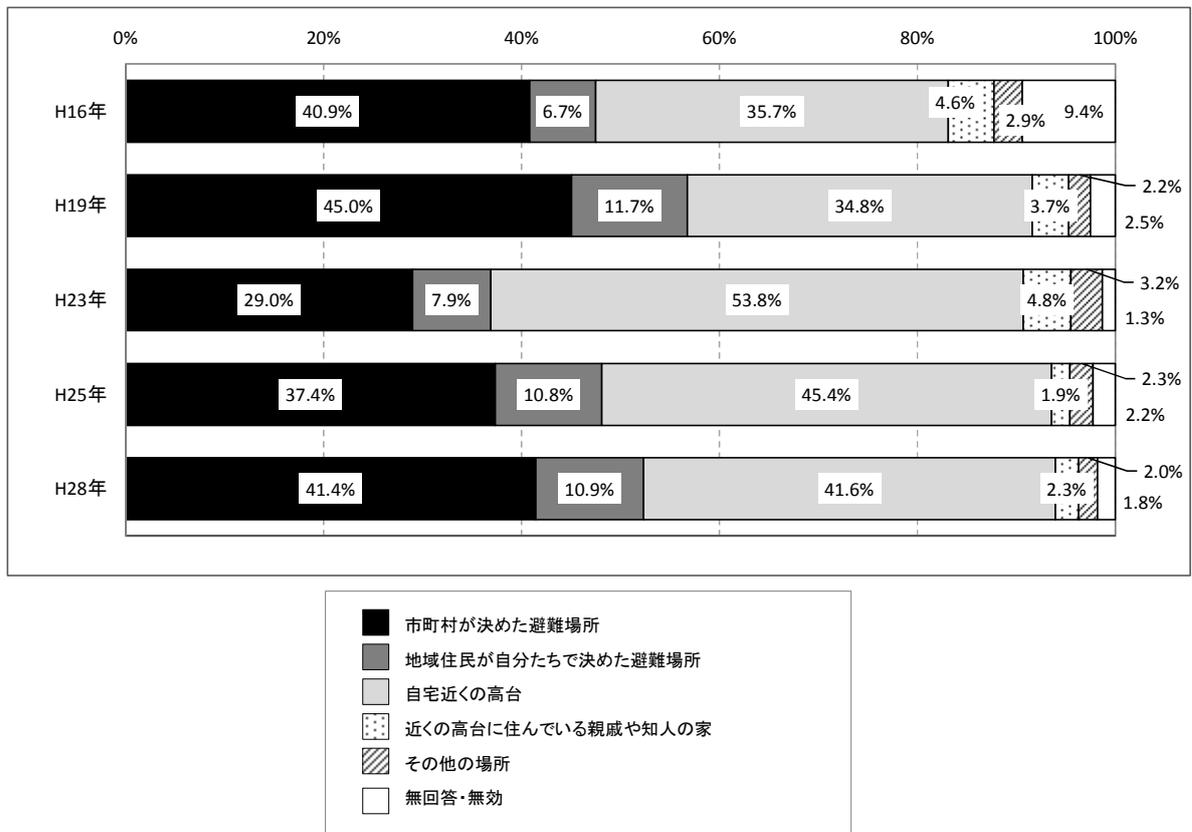


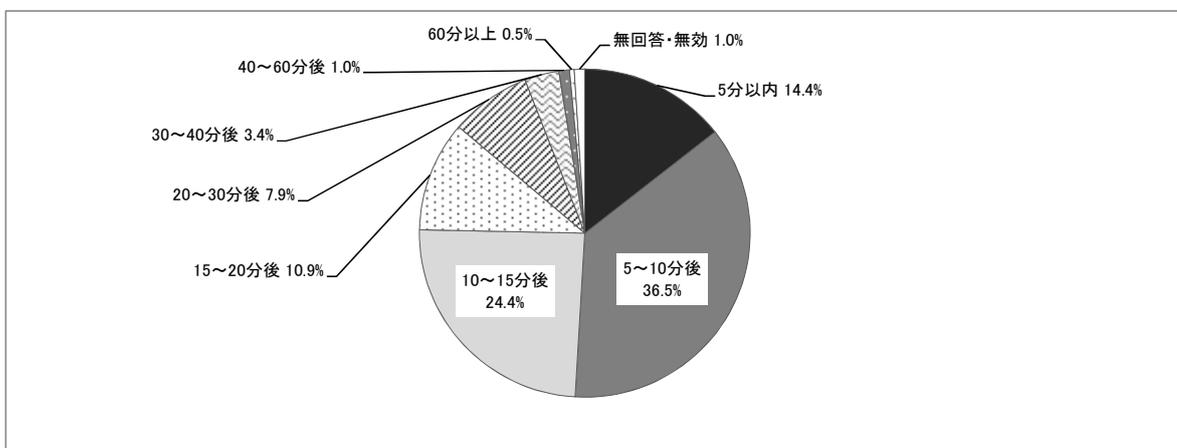
図 3.2-7 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) どこに避難するか —経年変化—
 ※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.5 家の外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか

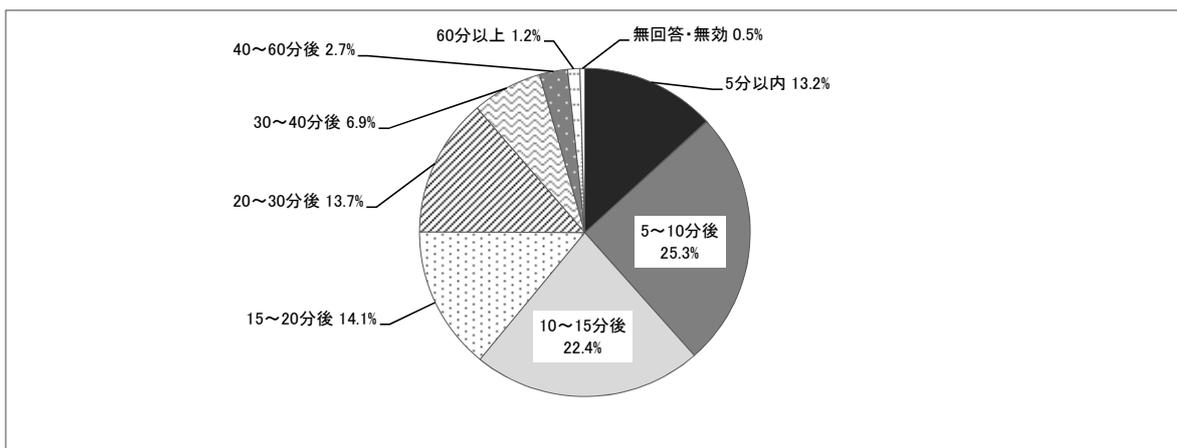
<問3で「避難する」と回答された方にお聞きします。>

問3-4 余震が続く中で、あなたが避難のため家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電で真っ暗になっており、しかも揺れでタンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に家の外に避難するのにかかると思う時間について、「5～10分後」が津波危険地区(36.5%)、全県地区(25.3%)とも最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1,074)



全県地区 (N=842)

図 3.2-8 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 家の外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか

・経年変化をみると、「5分以内」(14.4%)は、前回(平成25年)の13.7%から増加している。

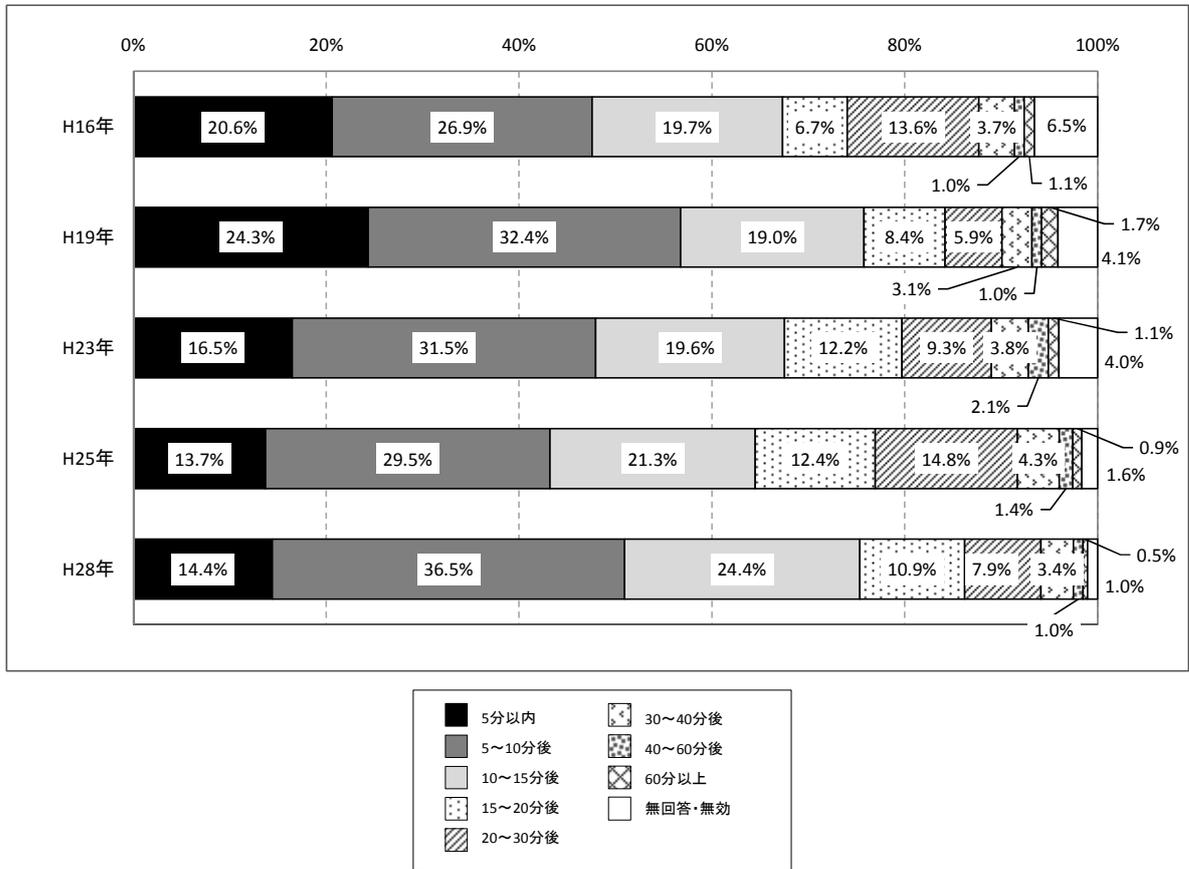


図 3.2-9 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 家の外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか —経年変化—

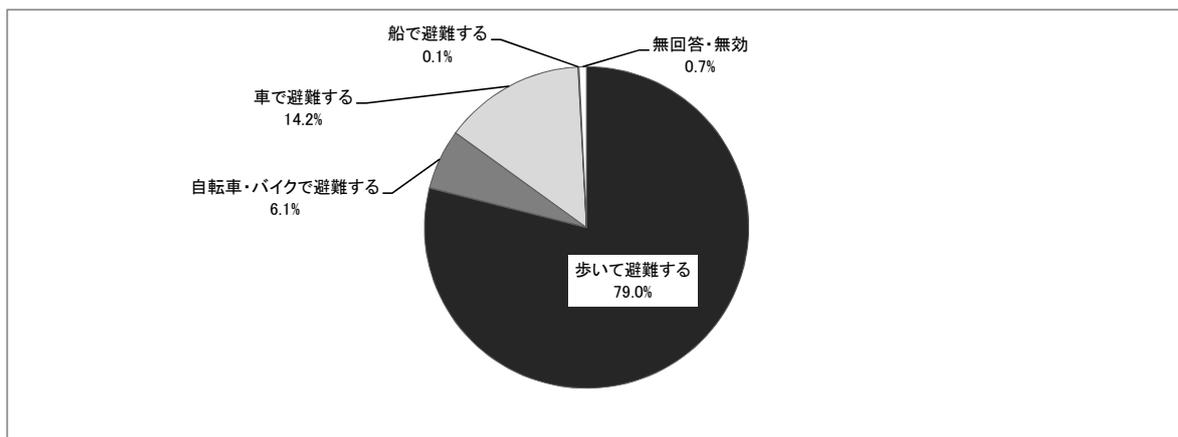
※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.6 どのようにして避難するか

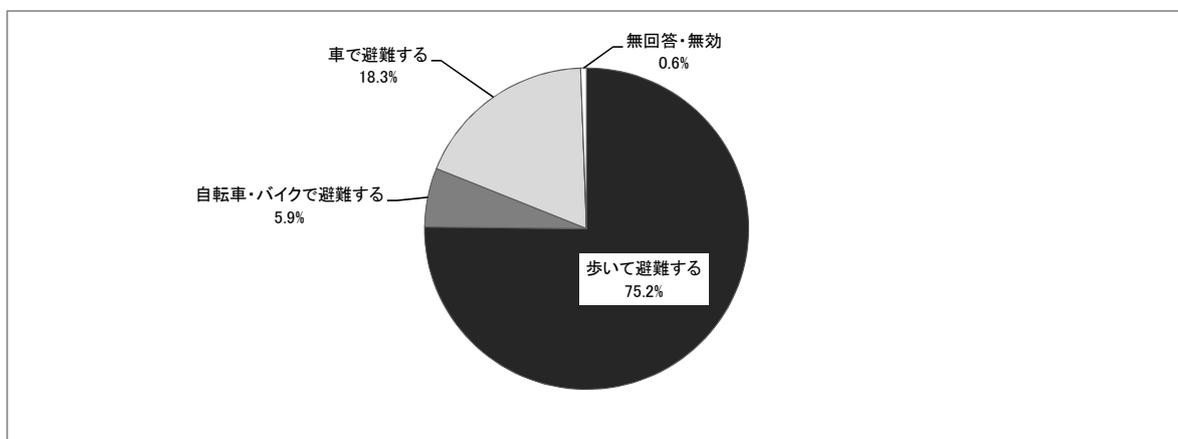
<問3で「避難する」と回答された方にお聞きします。>

問3-5 あなたは、どのようにして避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にどのようにして避難するかについて、「歩いて避難する」が津波危険地区(79.0%)、全県地区(75.2%)とも最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1,074)



全県地区 (N=842)

図 3.2-10 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) どのようにして避難するか

・経年変化をみると、「歩いて避難する」は特に大きな変化は見られない。一方、「車で避難する」(14.2%)は、前回(平成25年)の8.7%から増加している。

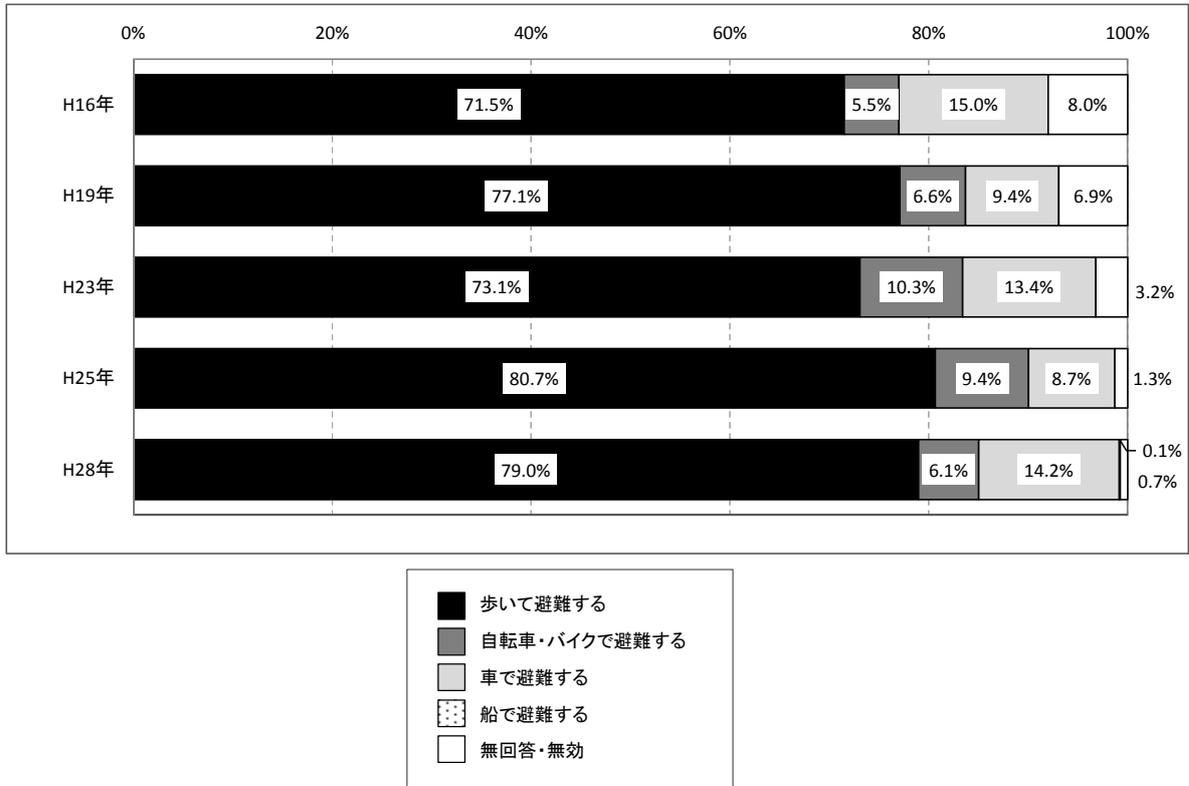


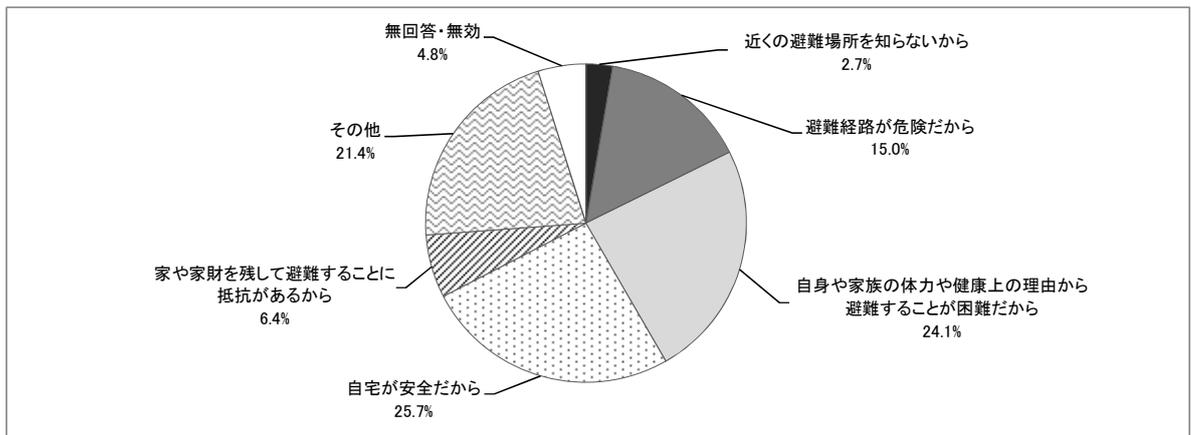
図 3.2-11 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) どのようにして避難するか —経年変化—
 ※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.7 避難しない理由は何か

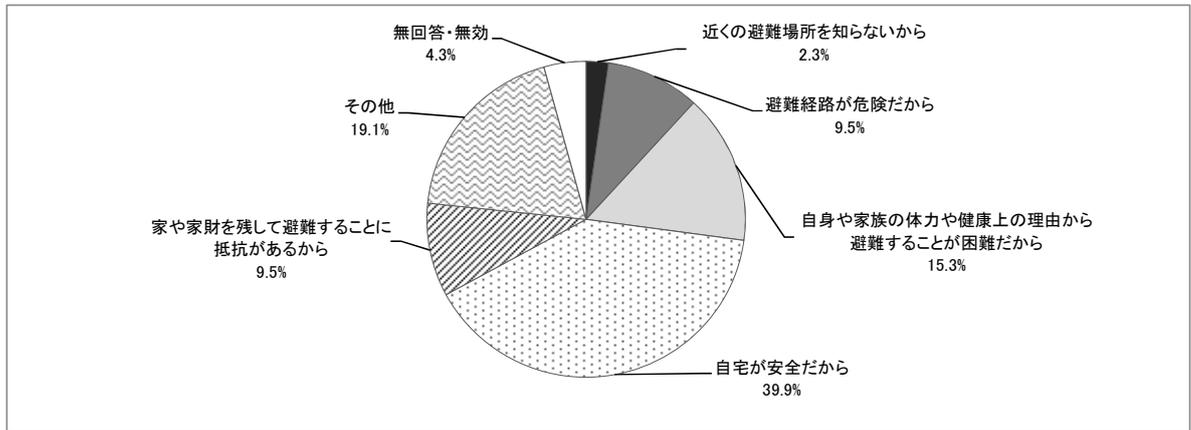
<問3で「避難しない」と回答された方にお聞きします。>

問3-6 あなたが避難しない主な理由は何ですか(ひとつだけ○)。

- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難しない理由について、「自宅が安全だから」が津波危険地区(25.7%)、全県地区(39.9%)とも最も高くなっている。
- ・次いで津波危険地区では「自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから」(24.1%)が高くなっている。



津波危険地区 (N=187)



全県地区 (N=398)

図 3.2-12 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 避難しない理由は何か

- ・経年変化をみると、「避難経路が危険だから」(15.0%)は前回(平成25年)の20.7%から減少している。一方、「自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから」(24.1%)は前回の10.1%から増加している。

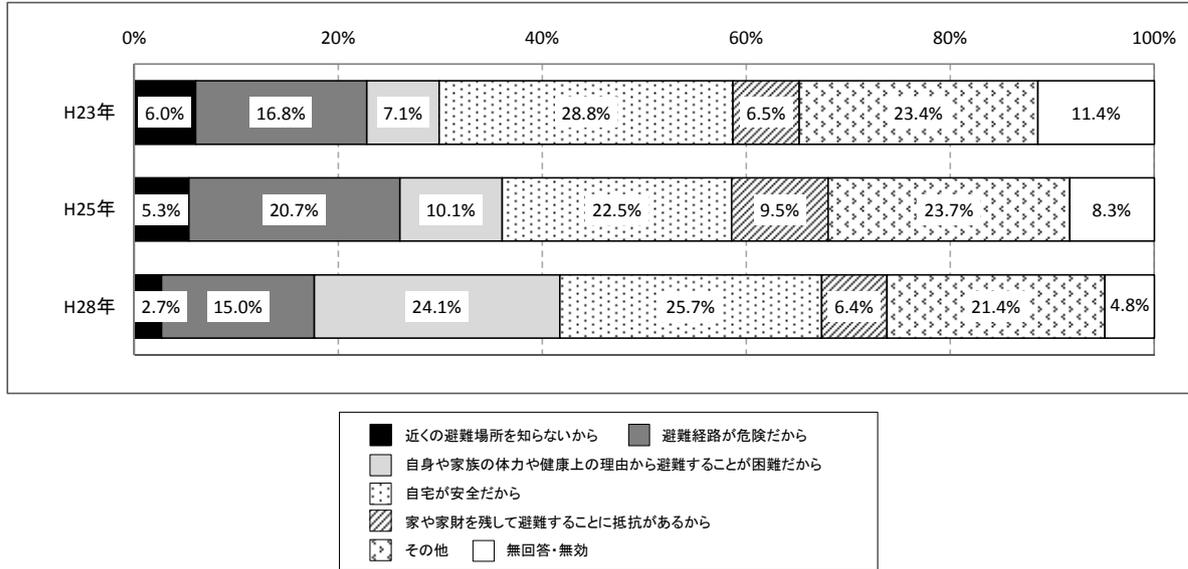


図 3.2-13 (夜間に自宅で大地震に遭遇した場合) 避難しない理由は何か —経年変化—
 ※H16～H25 は津波危険地区のみを対象とした調査のため、津波危険地区のみで比較

3.2.8 県や市町村がすべき対策（地震・津波）

問4 地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつでも○)。

- ・地震や津波の避難対策として県や市町村は何をすべきかについて、津波危険地区では「避難所や避難場所の整備」、「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」、「避難路の整備」が50%を上回っている。
- ・全県地区では「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」、「避難所や避難場所の整備」が50%を上回っている。

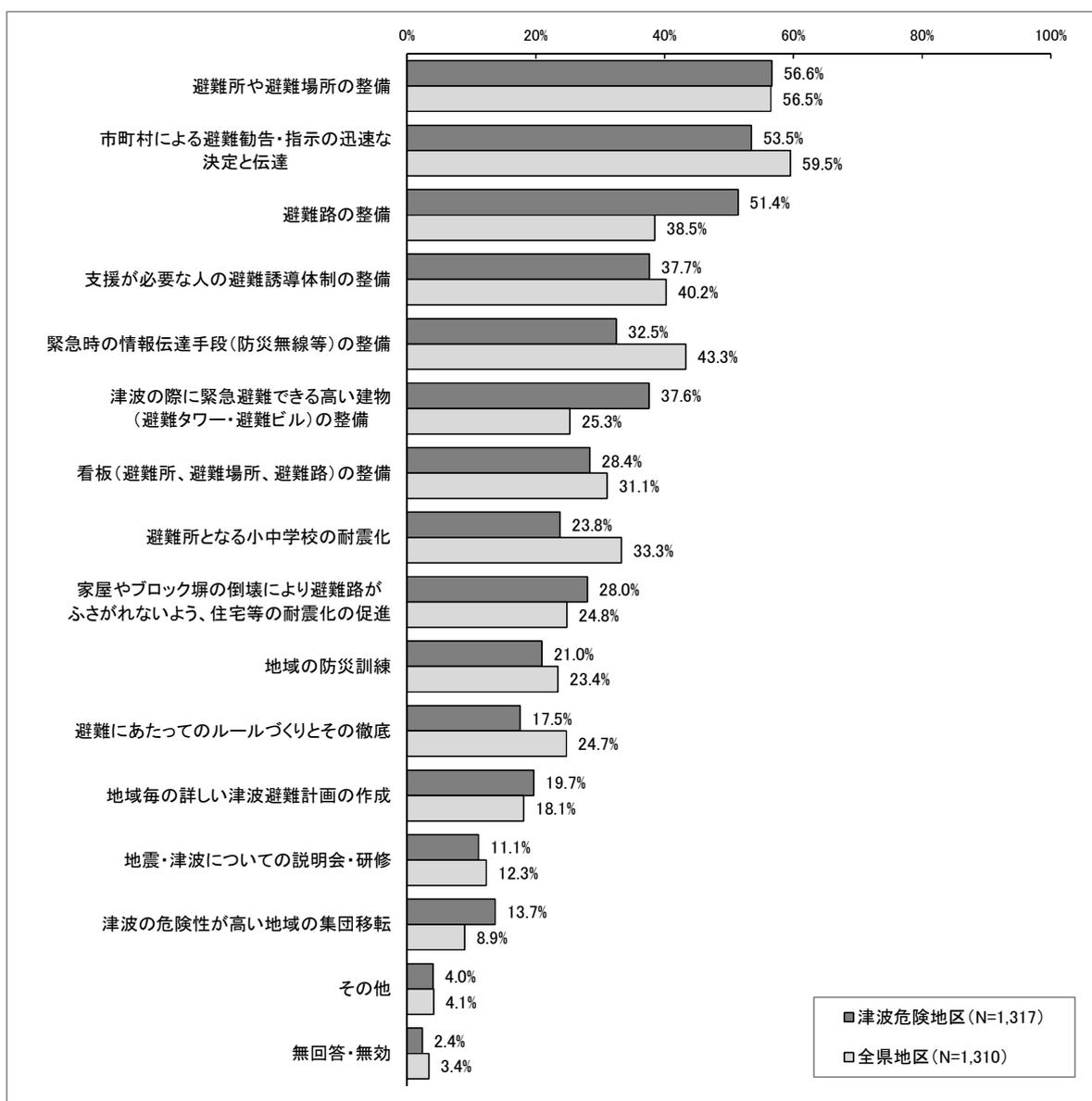


図 3.2-14 地震や津波の対策として県や市町村は何をすべきだと思うか

・経年変化をみると、ほとんどの項目で前回(平成25年)から減少している。

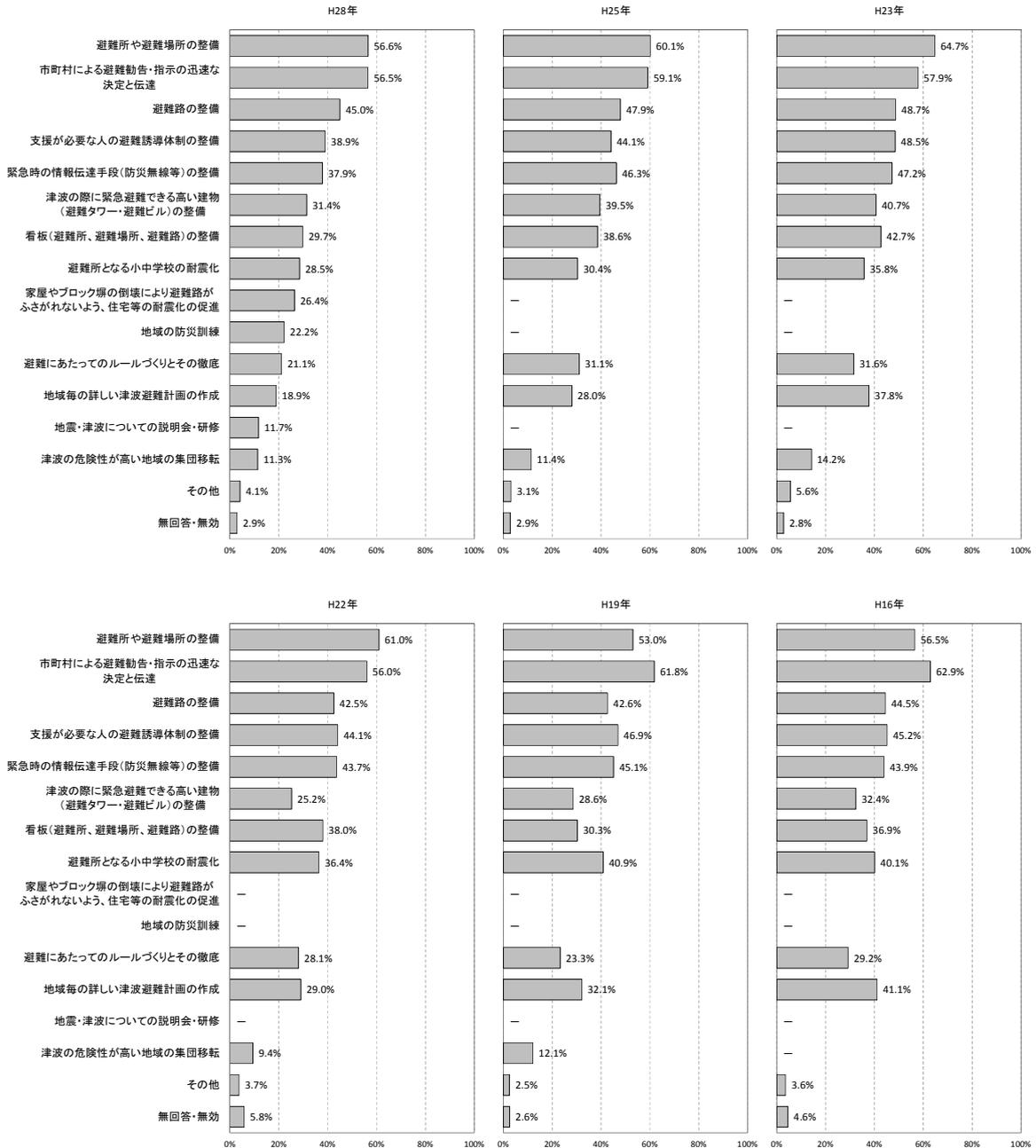


図 3.2-15 地震や津波の対策として県や市町村は何をすべきだと思うか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.3. 地震発生時の火災防止について

3.3.1 漏電ブレーカーを設置しているか

問5 漏電を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置のことを「漏電ブレーカー(漏電遮断器)」といいます。あなたの自宅に漏電ブレーカーを設置していますか(ひとつだけ○)。

- ・自宅への漏電ブレーカーの設置について、「設置している」は津波危険地区で 67.2%、全県地区で 68.1%となっている。

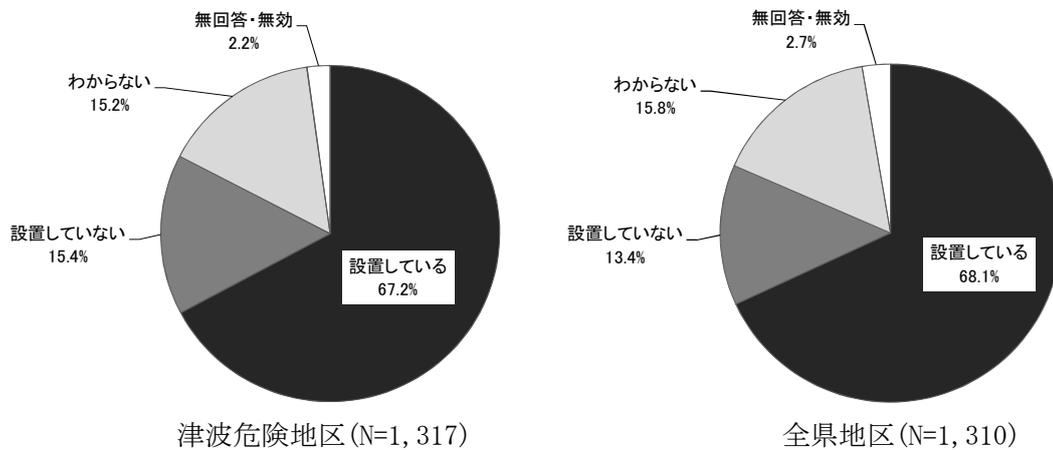


図 3.3-1 漏電ブレーカーを設置しているか

3.3.2 漏電ブレーカーを設置していない理由

<問5で「設置していない」と回答された方にお聞きします。>

問5-1 なぜ設置していないのですか(いくつでも○)。

- ・漏電ブレーカーを設置していない理由について、「漏電ブレーカーについて知らなかった」が津波危険地区(54.2%)、全県地区(52.3%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「建物が老朽化しているから」が高く、津波危険地区で26.1%、全県地区で23.9%となっている。

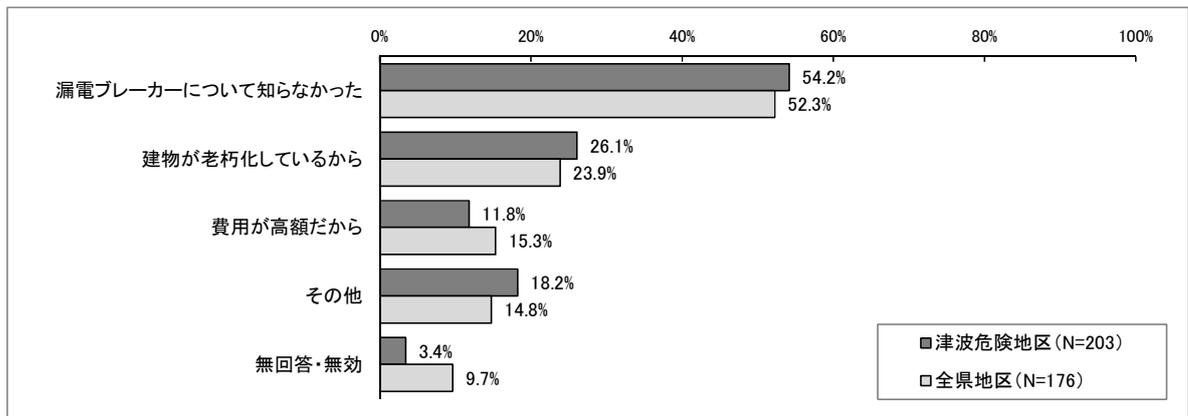


図 3.3-2 漏電ブレーカーを設置していない理由

3.3.3 感震ブレーカーを設置しているか

問6 地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置を「感震ブレーカー」といいます。あなたの自宅に感震ブレーカーを設置していますか(ひとつだけ○)。

- ・自宅への感震ブレーカーの設置について、「設置している」は津波危険地区で23.1%、全県地区で22.1%となっている。

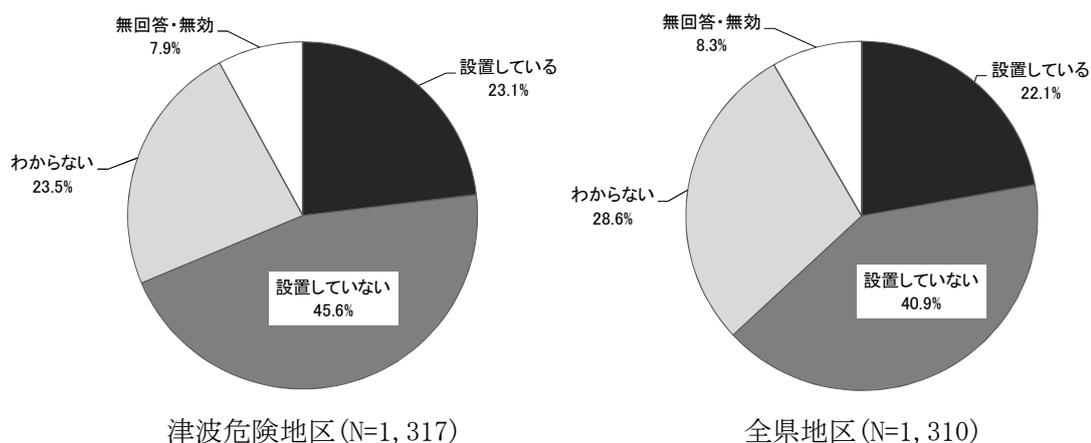


図 3.3-3 感震ブレーカーを設置しているか

3.3.4 感震ブレーカーを設置していない理由

<問6で「設置していない」と回答された方にお聞きします。>

問6-1 なぜ設置していないのですか(いくつでも○)。

- ・感震ブレーカーを設置していない理由について、「感震ブレーカーについて知らなかった」が津波危険地区(78.2%)、全県地区(78.4%)とも最も高くなっている。

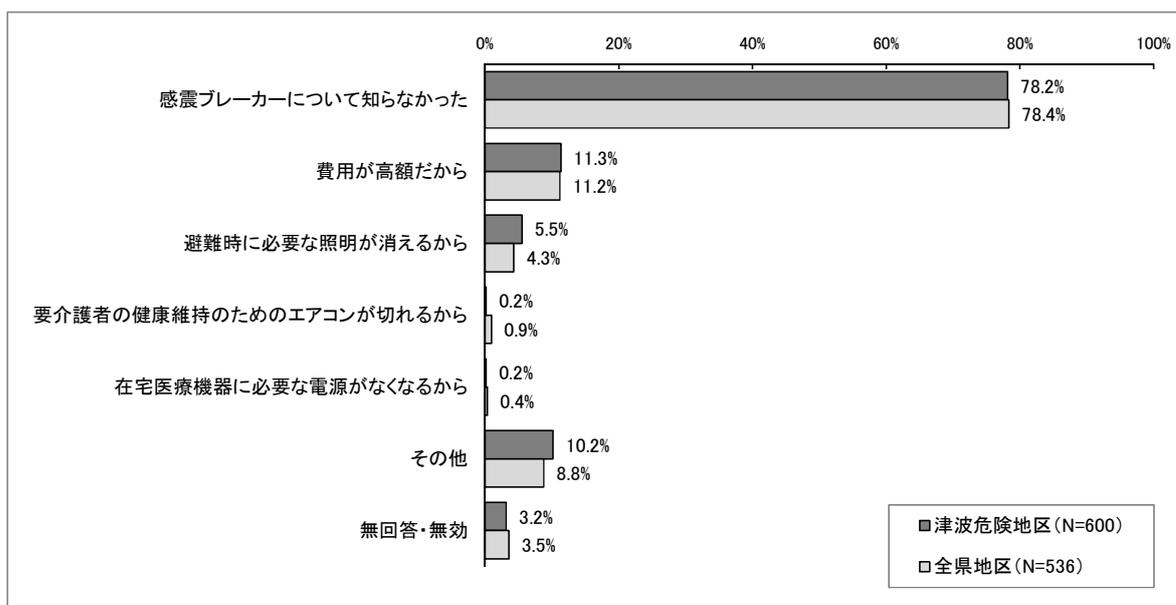


図 3.3-4 感震ブレーカーを設置していない理由

3.3.5 地震発生時の火災を防ぐために自宅でのどのような対策をしているか

問7 そのほかに、地震発生時の火災を防ぐために自宅でのどのような対策をしていますか(いくつでも○)。

- ・津波危険地区では「特に何もしていない」(41.5%)が最も高く、次いで「逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置している」(35.5%)が高くなっている。
- ・全県地区では「逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置している」(39.8%)、「火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置している」(39.2%)が高くなっている。

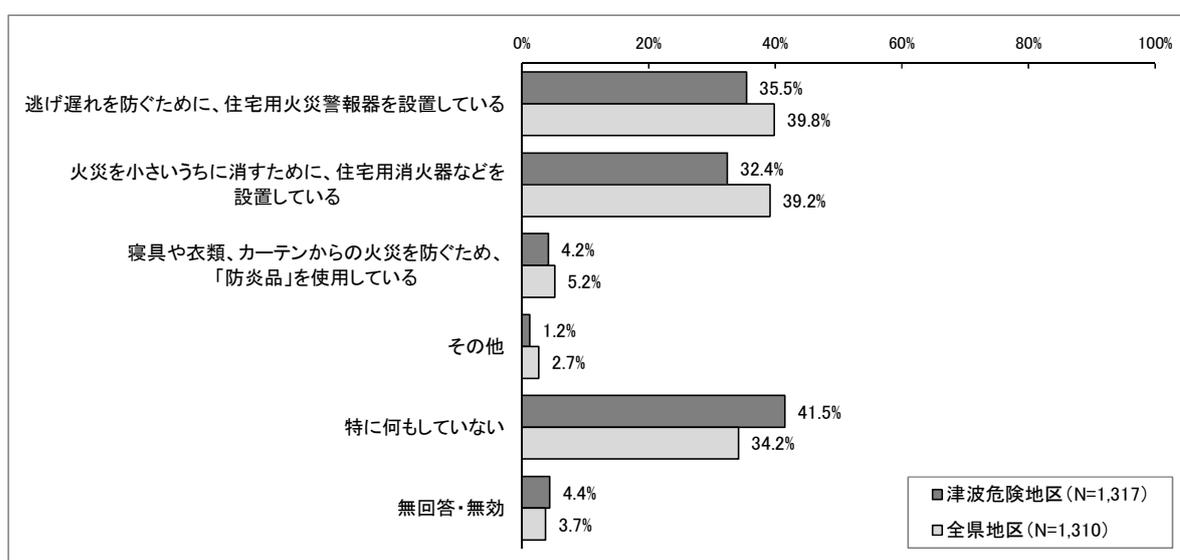


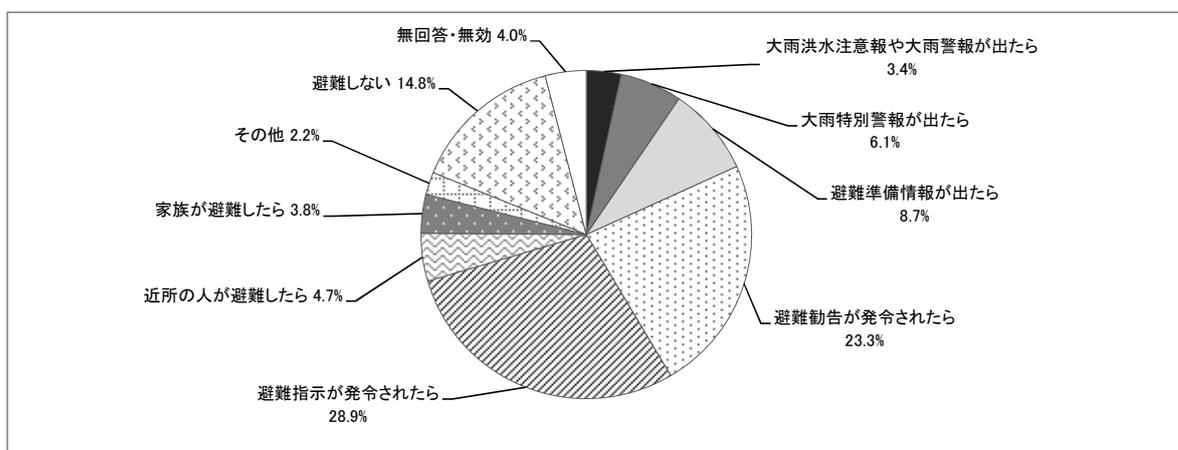
図 3.3-5 地震発生時の火災を防ぐために自宅でのどのような対策をしているか

3.4. 風水害への意識と避難について

3.4.1 大雨が続いた場合の避難行動

問8 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、以下の状況のうち、どの段階で避難しますか(ひとつだけ○)。

・これまでに経験のない大雨が降り続いた場合どの段階で避難するかについて、「避難指示が発令されたら」(28.9%)、「避難勧告が発令されたら」(23.3%)が高くなっている。



津波危険地区＋全県地区 (N=2,627)

図 3.4-1 大雨が降り続いた場合、どの段階で避難するか

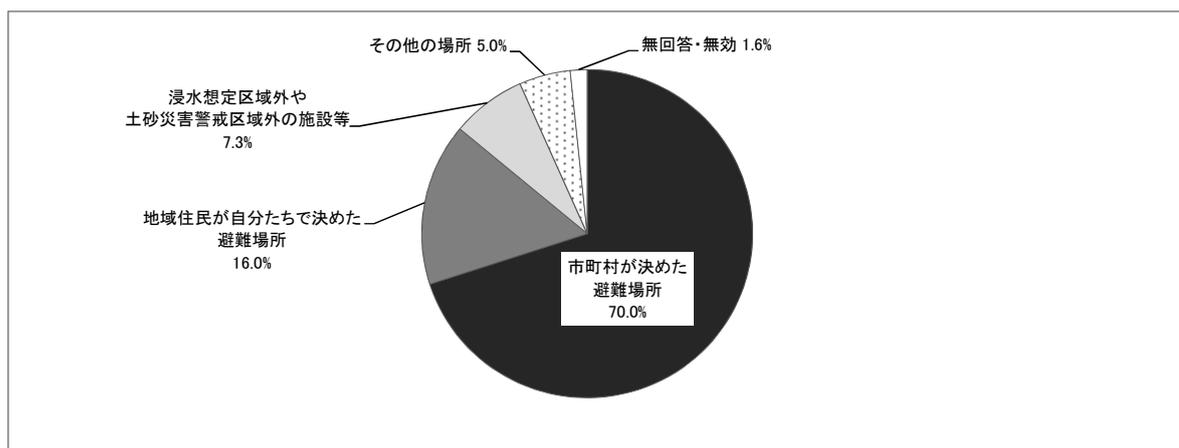
※平成 28 年 12 月 26 日より、「避難指示」は「避難指示(緊急)」、「避難準備情報」は「避難準備・高齢者等避難開始」に名称が変更されている。

3.4.2 どこに避難するか

<問8で「避難しない」以外を回答された方にお聞きします。>

問8-1 あなたは、どこに避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・これまでに経験のない大雨が降り続いた場合にどこに避難するかについて、「市町村が決めた避難場所」が最も高く、70.0%となっている。



津波危険地区+全県地区 (N=2,132)

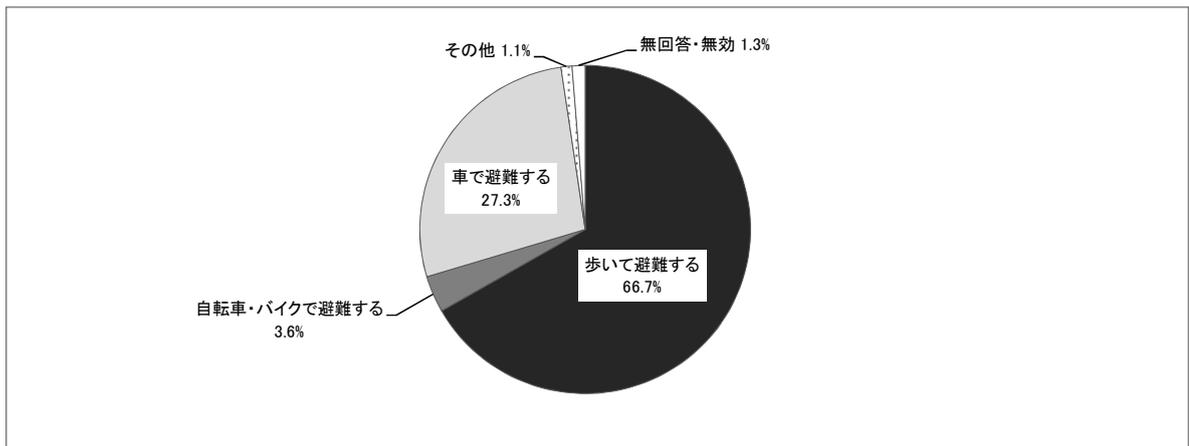
図 3.4-2 (大雨が降り続いた場合) どこに避難するか

3.4.3 どのようにして避難するか

<問8で「避難しない」以外を回答された方にお聞きします。>

問8-2 あなたはどのようにして避難しますか(ひとつだけ○)。

- ・ これまでに経験のない大雨が降り続いた場合にどのようにして避難するかについて、「歩いて避難する」(66.7%)が最も高く、次いで「車で避難する」(27.3%)が高くなっている。



津波危険地区+全県地区 (N=2, 132)

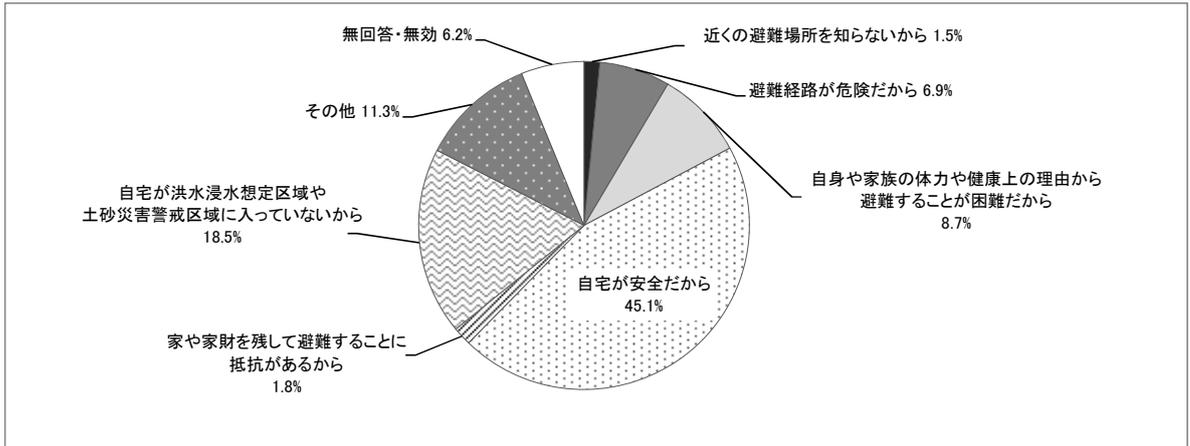
図 3.4-3 (大雨が降り続いた場合) どのようにして避難するか

3.4.4 避難しない理由は何か

<問8で「避難しない」と回答された方にお聞きします。>

問8-3 あなたが避難しない主な理由は何ですか(ひとつだけ○)。

- ・これまでに経験のない大雨が降り続いた場合に避難しない理由について、「自宅が安全だから」(45.1%)が最も高く、次いで「自宅が洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に入っていないから」(18.5%)が高くなっている。



津波危険地区+全県地区 (N=390)

図 3.4-4 (大雨が降り続いた場合) 避難しない理由は何か

3.4.5 県や市町村がすべき対策（風水害）

問9 風水害時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつでも○)。

- ・風水害時の避難対策として、県や市町村は何をすべきかについて、「市町村による避難勧告等の迅速な決定と伝達」(57.1%)が最も高く、次いで「避難所や避難場所の整備」(51.8%)が高くなっている。

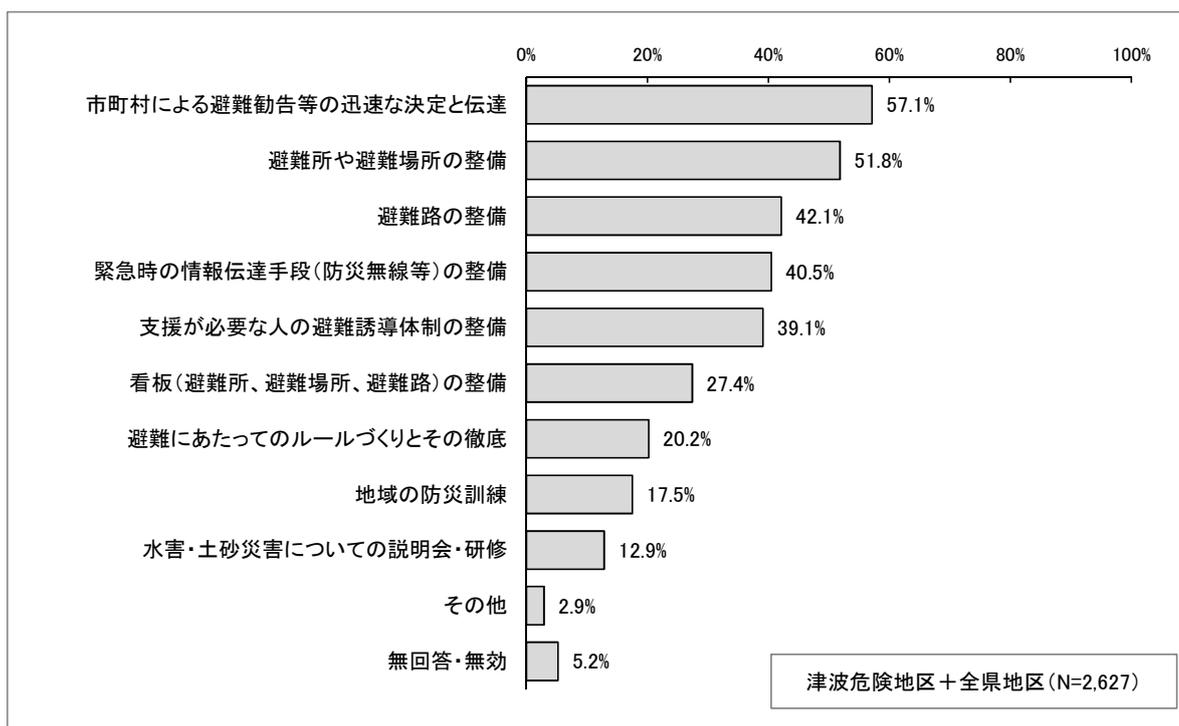


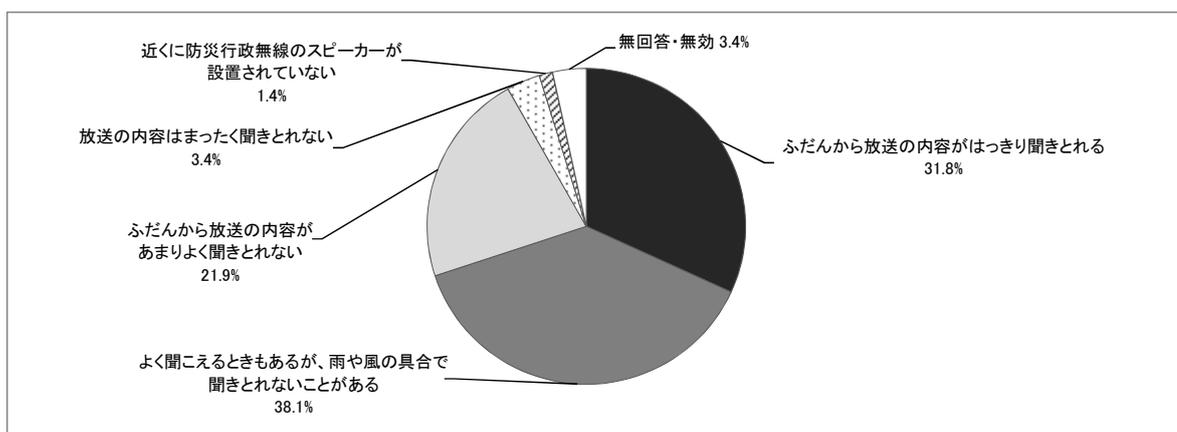
図 3.4-5 風水害時の対策として県や市町村は何をすべきだと思うか

3.5. 災害時の情報収集について

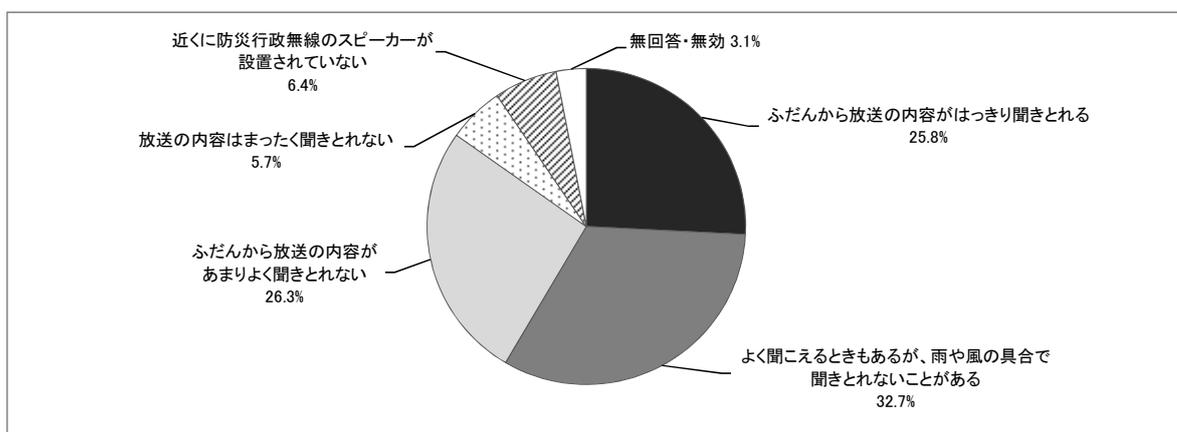
3.5.1 防災行政無線

問 10 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災行政無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ○）。

- ・ 防災行政無線の有無、聞こえ具合について、「よく聞こえるときもあるが、雨や風の具合で聞きとれないことがある」が、津波危険地区(38.1%)、全県地区(32.7%)とも最も高くなっている。
- ・ 次いで津波危険地区では「ふだんから放送の内容がはっきり聞き取れる」(31.8%)、全県地区では「ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない」(26.3%)が高くなっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

図 3.5-1 近くに防災行政無線のスピーカーはあるか。聞こえ具合はどうか。

- ・経年変化をみると、「ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる」(28.8%)、「よく聞こえるときもあるが、雨や風の具合で聞きとれないことがある」(35.4%)は、調査開始以降最も高くなっている。
- ・「近くに防災行政無線のスピーカーが設置されていない」(3.9%)は、調査開始以降最も低くなっている。

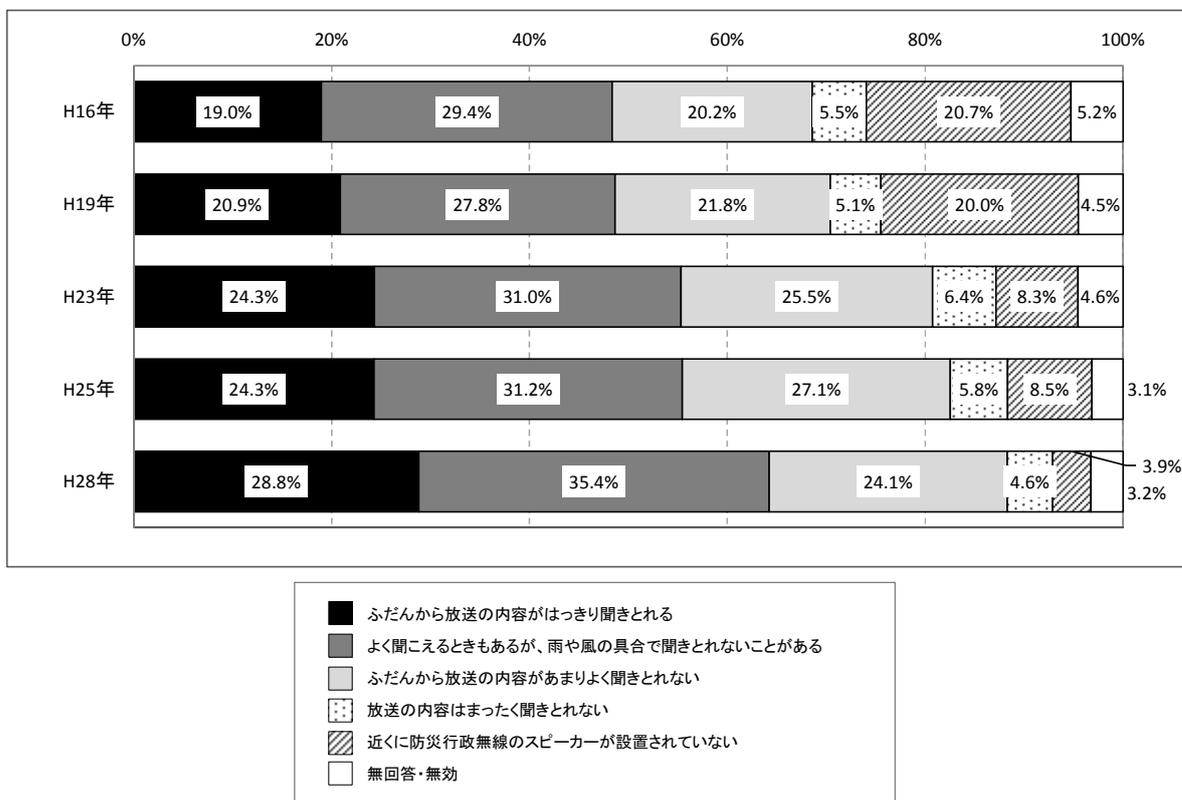


図 3.5-2 近くに防災行政無線のスピーカーはあるか。聞こえ具合はどうか。
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.5.2 緊急情報をどのように入手するか

問 11 あなたは、災害時における緊急情報をどのように入手していますか(いくつでも○)。

- ・緊急情報をどのように入手しているかについて、「テレビ」が津波危険地区(89.1%)、全県地区(87.3%)とも最も高くなっている。
- ・次いで津波危険地区では「防災行政無線」(38.6%)が他の媒体より高くなっている。また、「インターネット」、「ラジオ」、「電子メール」は津波危険地区、全県地区とも20%を上回っている。

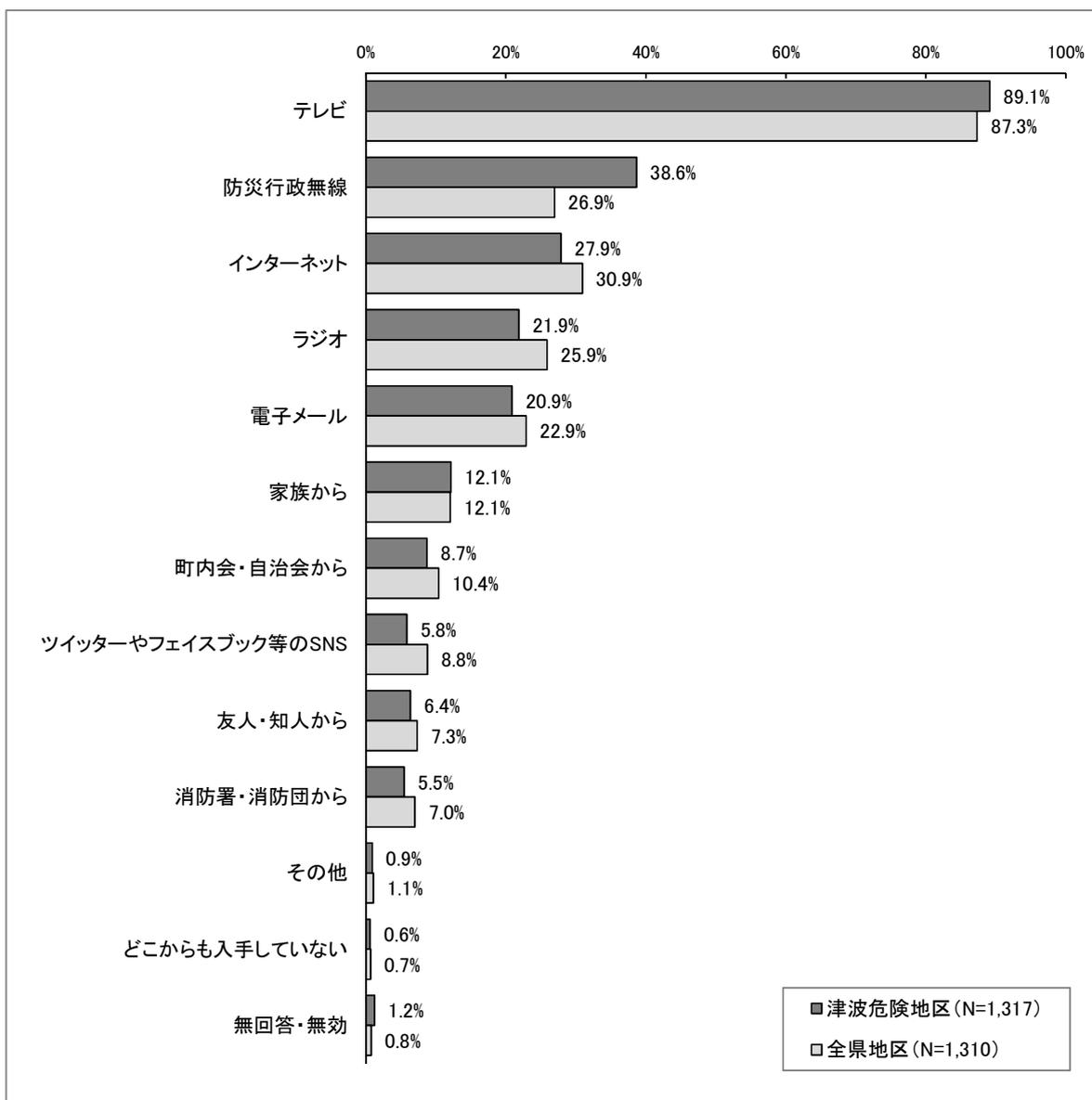


図 3.5-3 緊急情報をどのように入手しているか

- ・年代別にみると、各年代とも「テレビ」が最も高くなっている。
- ・「インターネット」は30代で男女とも60%を上回っているが、70代以上では4%台となっている。
- ・性別にみると、「ラジオ」は各年代とも男性の方が高くなっている。

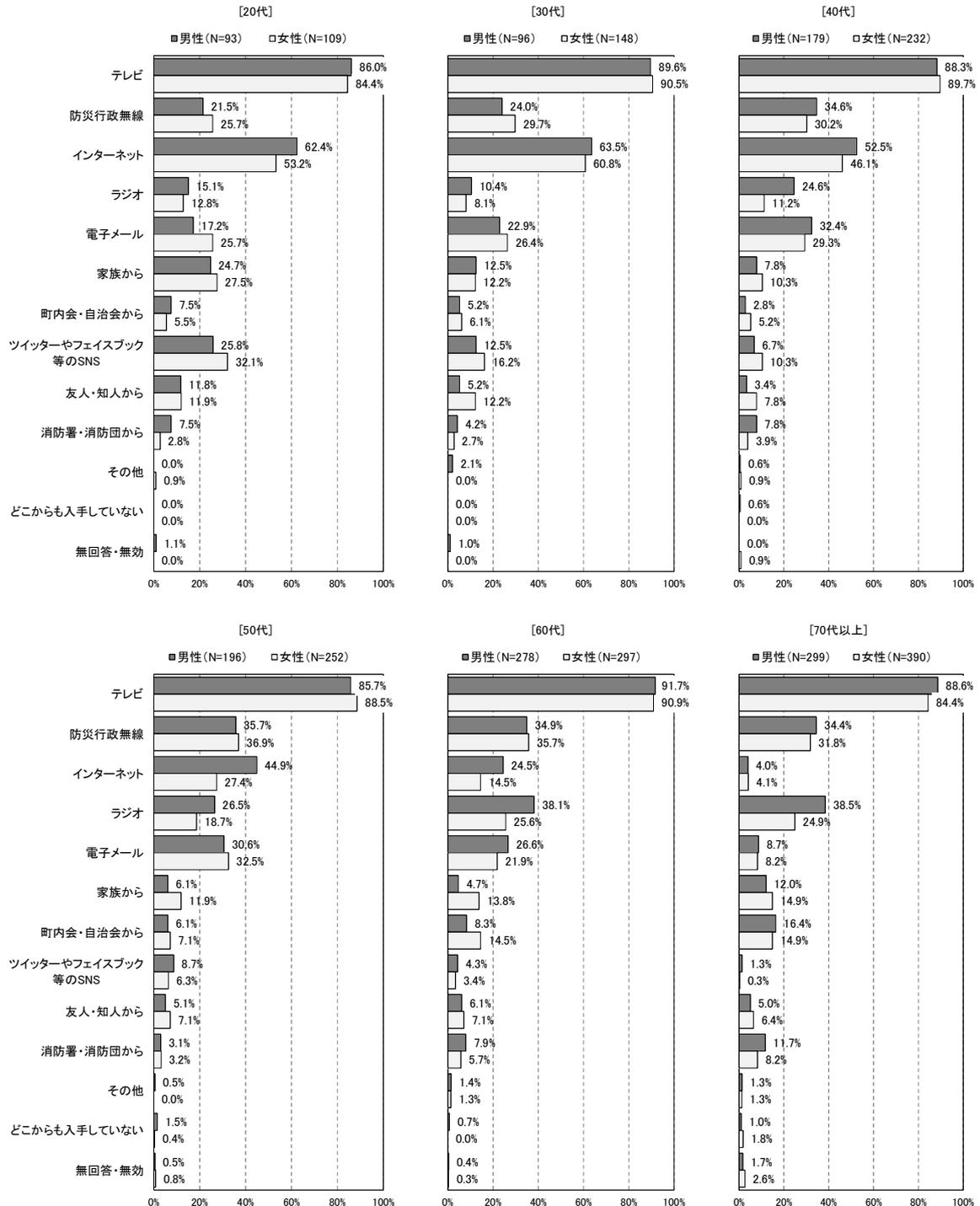


図 3.5-4 緊急情報をどのように入手しているか
—性別・年代別比較（津波危険地区+全県地区）—

3.5.3 「防災わかやまメール配信サービス」への登録状況

問 12 県の「防災わかやまメール配信サービス(気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス)」に登録していますか(ひとつだけ○)。

- ・「防災わかやまメール配信サービス」について、「登録している」は、津波危険地区で25.7%、全県地区で24.2%となっている。

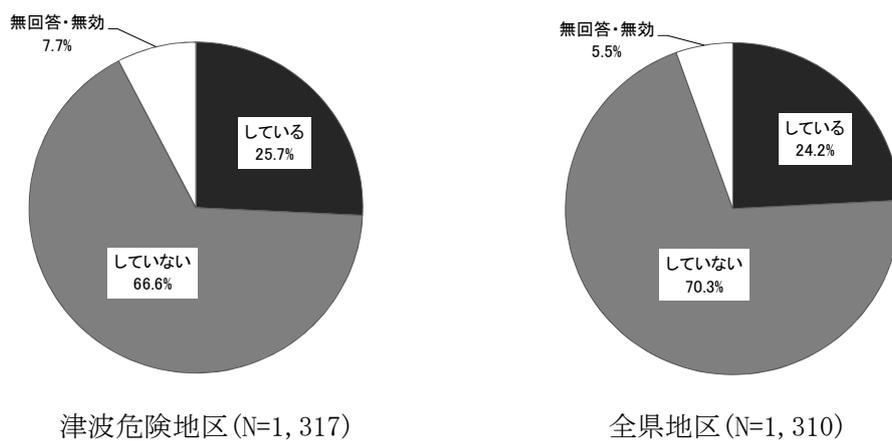


図 3.5-5 「防災わかやまメール配信サービス」への登録状況

・経年変化をみると、「登録している」(25.0%)は、調査開始以降最も高くなっている。

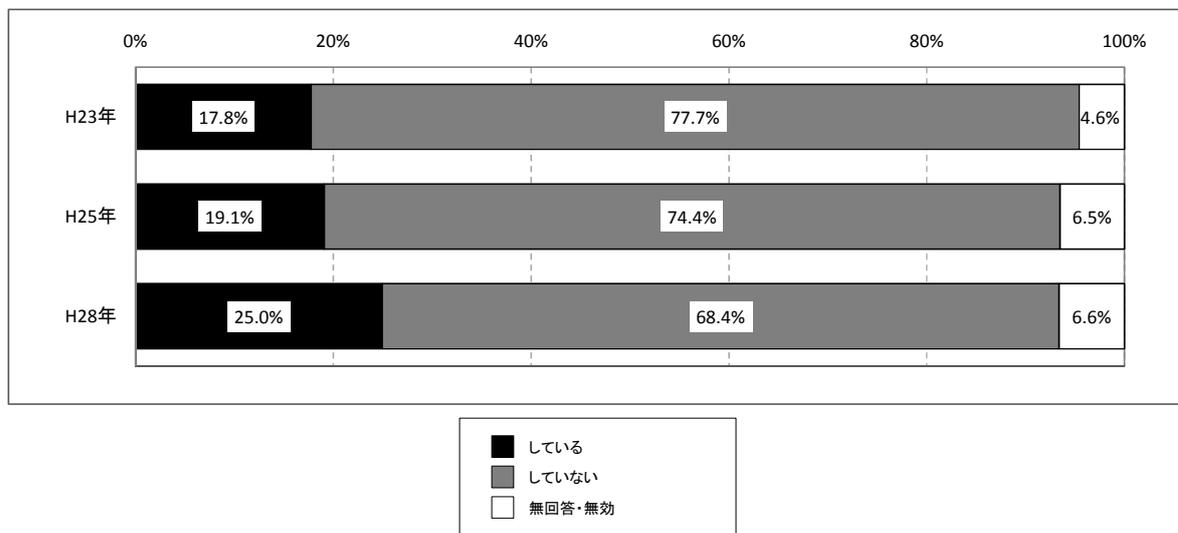


図 3.5-6 「防災わかやまメール配信サービス」への登録状況
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

- ・性別・年代別にみると、各年代の男女とも「登録していない」が最も高くなっている。
- ・「登録している」は、50代の男性が最も高く、37.2%となっている。一方、20代の女性は最も低く、11.9%となっている。

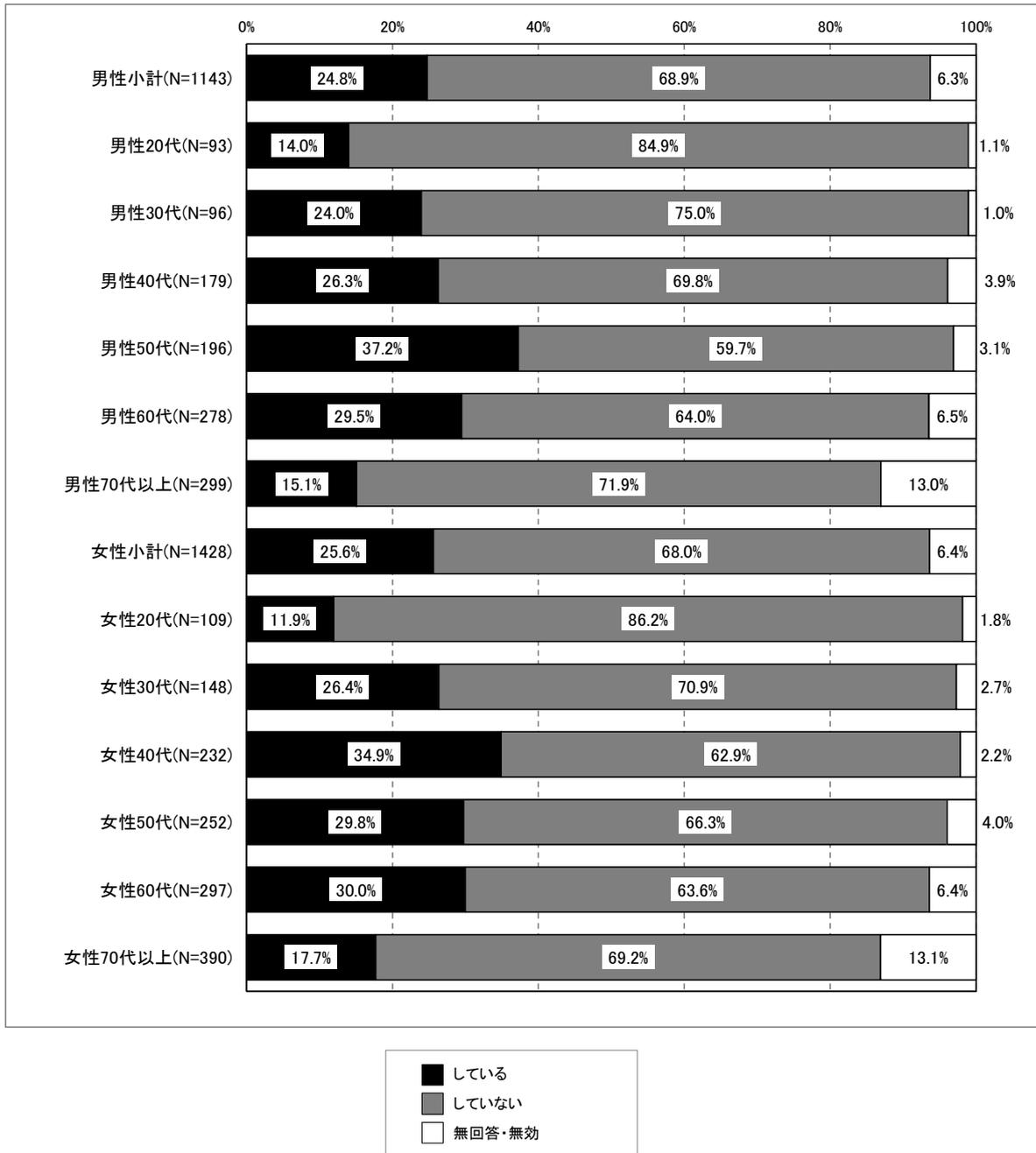


図 3.5-7 「防災わかやまメール配信サービス」への登録状況
—性別・年代別比較（津波危険地区＋全県地区）—

3.5.4 緊急地震速報を知っているか

問 13-1 気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。
あなたはこのことをご存知ですか。

- ・気象庁の緊急地震速報を知っているかについて、「よく知っている」が津波危険地区(48.6%)、全県地区(49.7%)とも最も高くなっており、「何となく知っている」を合わせると、共に約85%の認知度がある。
- ・「知らない」は、津波危険地区で12.1%、全県地区で11.8%となっている。

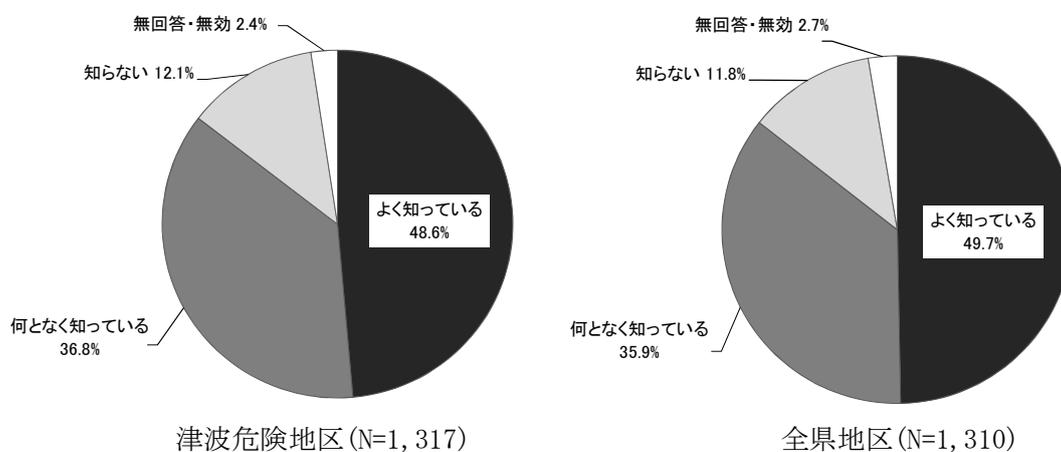


図 3.5-8 緊急地震速報を知っているか

・経年変化をみると、特に大きな変化はみられない。

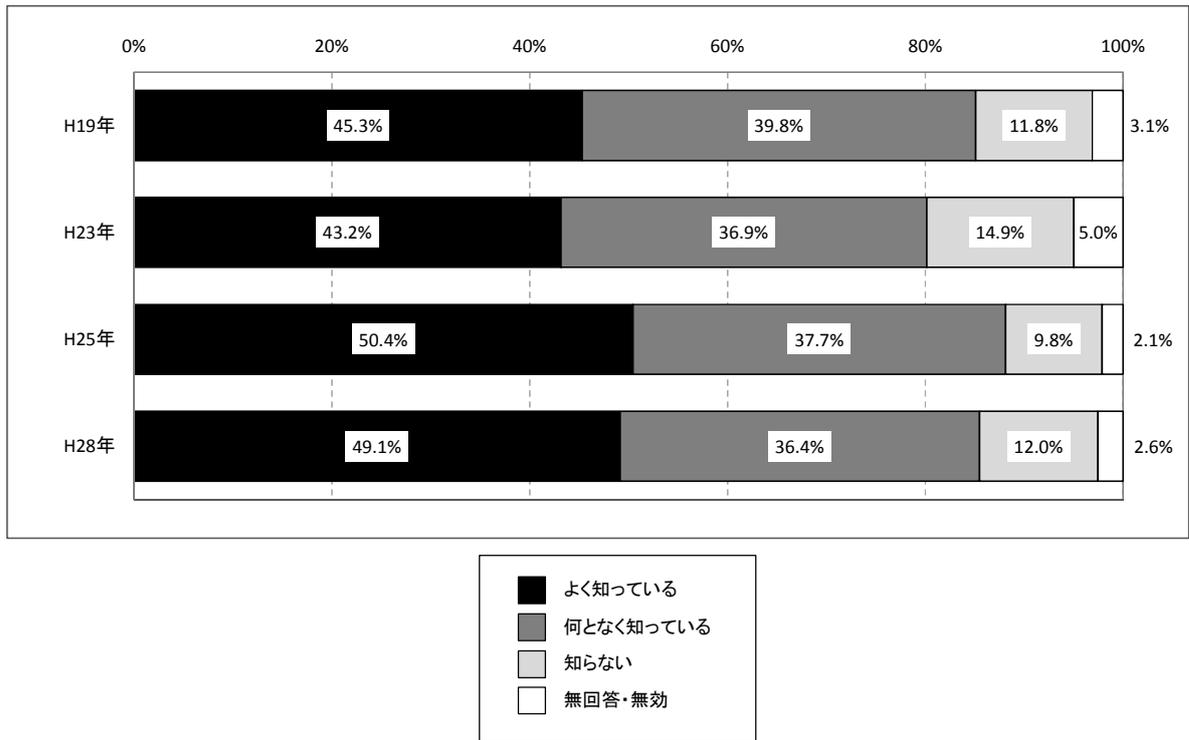


図 3.5-9 緊急地震速報を知っているか —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.5.5 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか

問 13-2 もし、あなたが「あと 10 数秒で震度 6 強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか(いくつでも○)。

- ・「家の中の安全なところを探して身を守る」が津波危険地区(46.4%)、全県地区(46.9%)とも最も高く、次いで「家族に危険を知らせる」、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」が高くなっている。

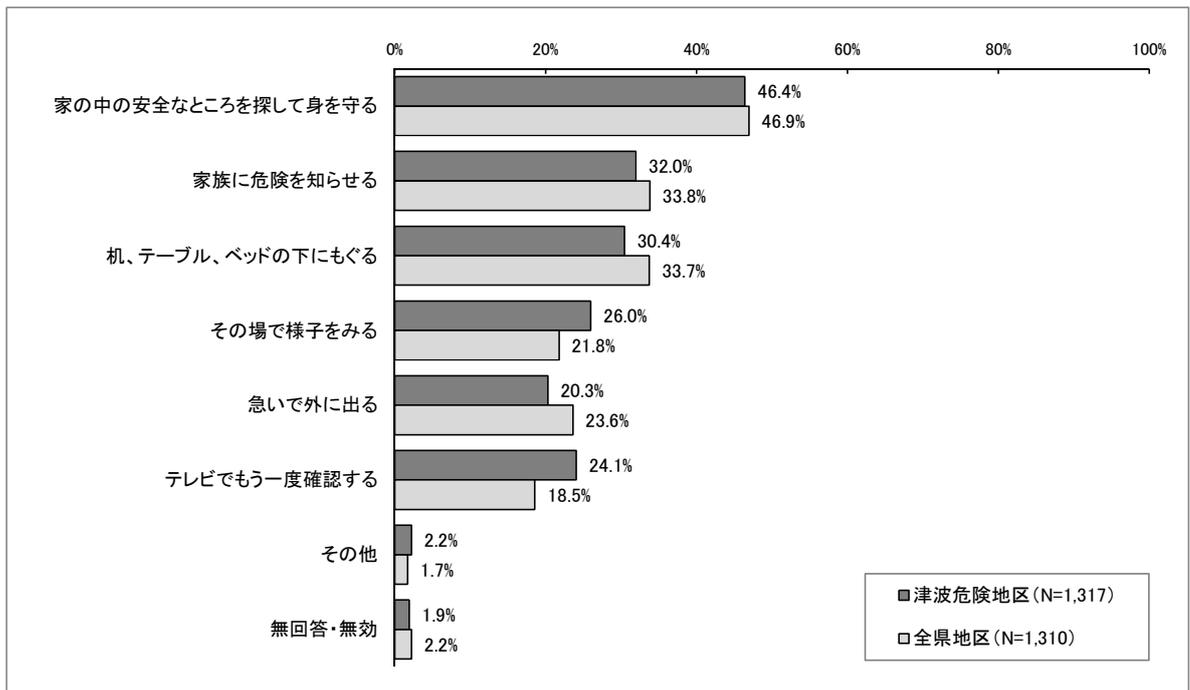


図 3.5-10 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか

- ・経年変化をみると、「家族に危険を知らせる」(32.9%)は、前回(平成25年)の43.3%から減少している。一方、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」(32.1%)は前回の28.5%から増加している。

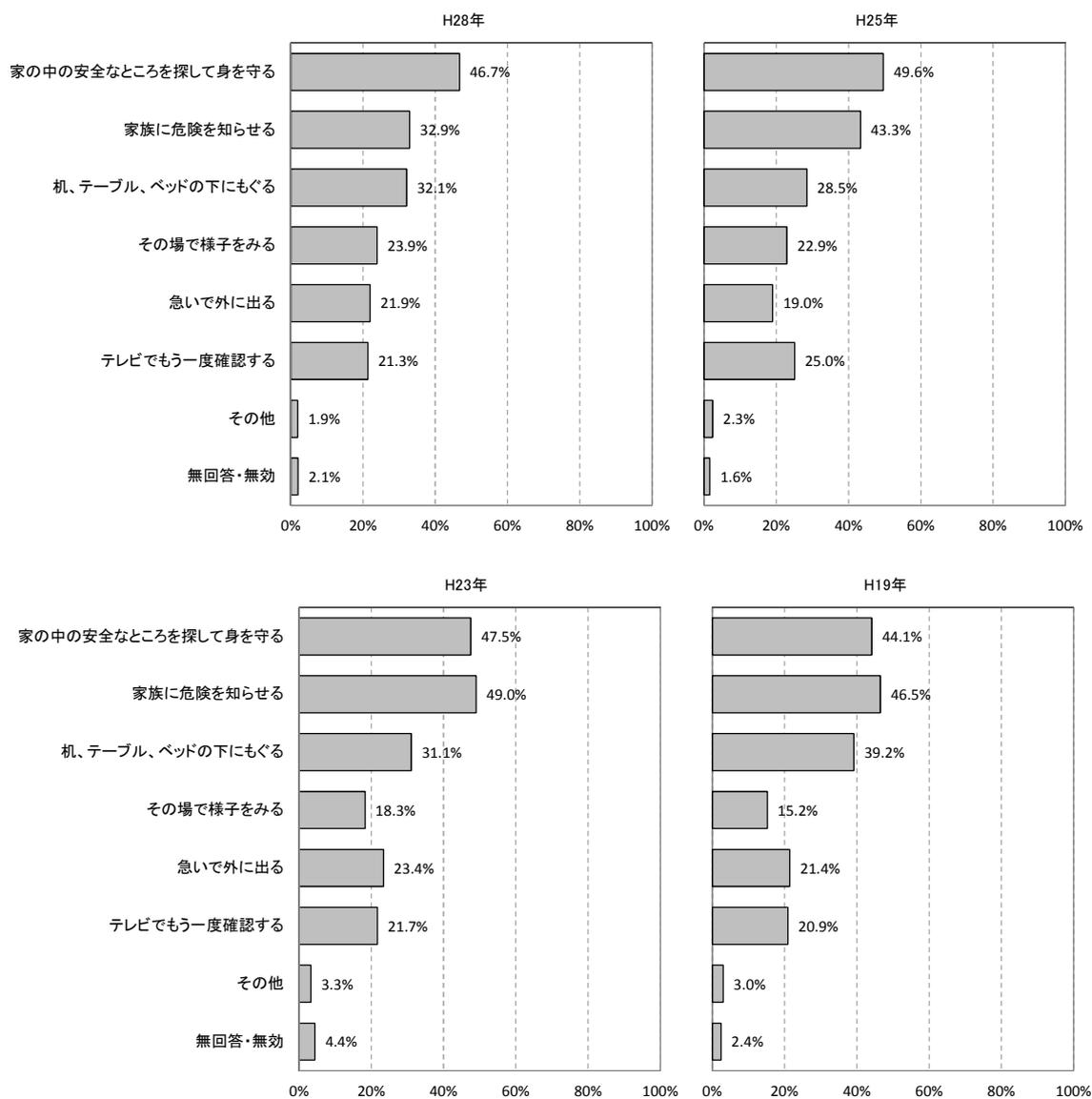
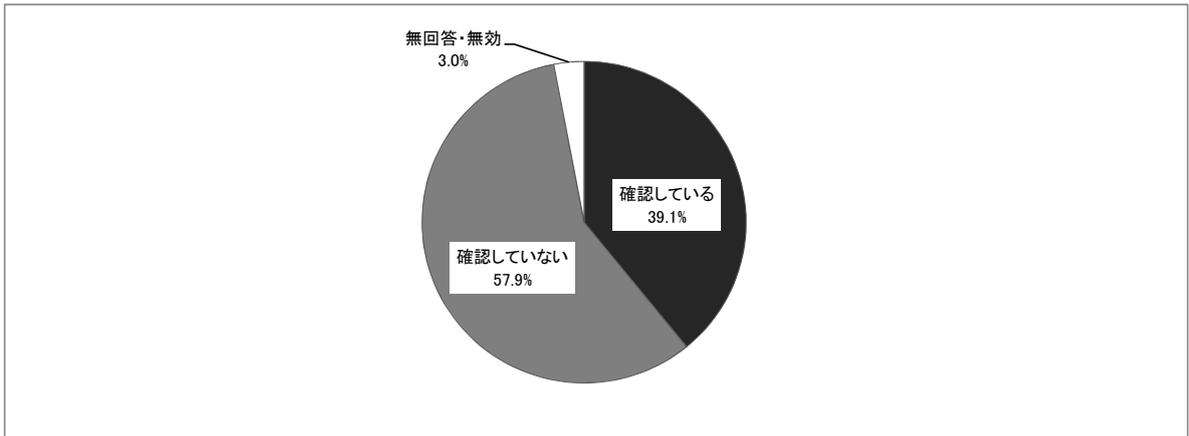


図 3.5-11 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.5.6 台風や大雨の際、河川の水位情報を確認しているか

問 14 県では、テレビのデータ放送及びホームページ等を用いて河川の水位情報を出しています。あなたは、台風や大雨の際、河川の水位情報を確認していますか。

- ・台風や大雨の際、河川の水位情報を確認しているかについて、「確認している」は 39.1%となっている。



津波危険地区＋全県地区 (N=2,627)

図 3.5-12 台風や大雨の際、河川の水位情報を確認しているか

3.5.7 水位情報の確認方法

<問 14 で「確認している」と回答された方にお聞きします。>

問 14-1 どういった方法によって確認していますか(いくつでも○)。

- ・台風や大雨の際の河川の水位情報をどのように確認しているかについて、「テレビのデータ放送」が最も高く、78.2%となっている。

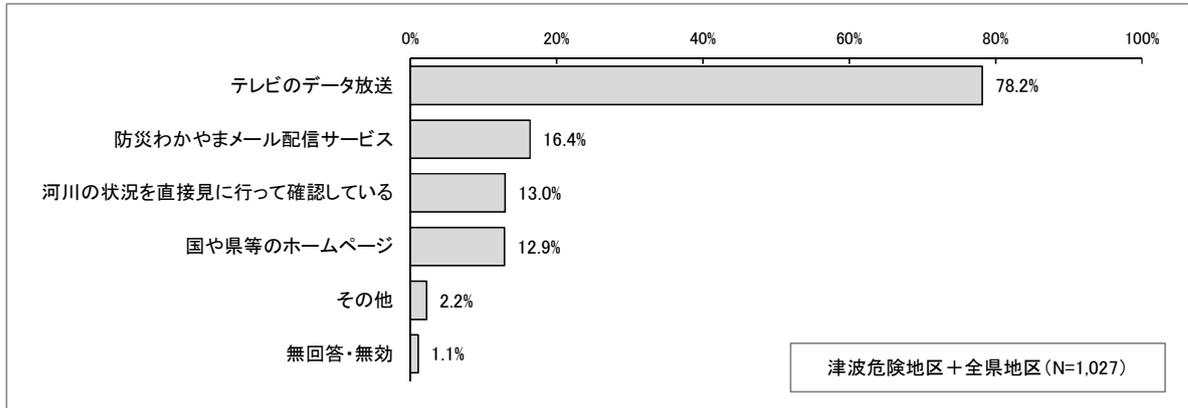


図 3.5-13 水位情報の確認方法

3.5.8 水位情報を確認しない理由

<問 14 で「確認していない」と回答された方にお聞きします。>

問 14-2 なぜ確認していないのですか(いくつでも○)。

- ・台風や大雨の際の河川の水位情報を確認していない理由について、「調べ方がわからない」が最も高く、35.1%となっている。

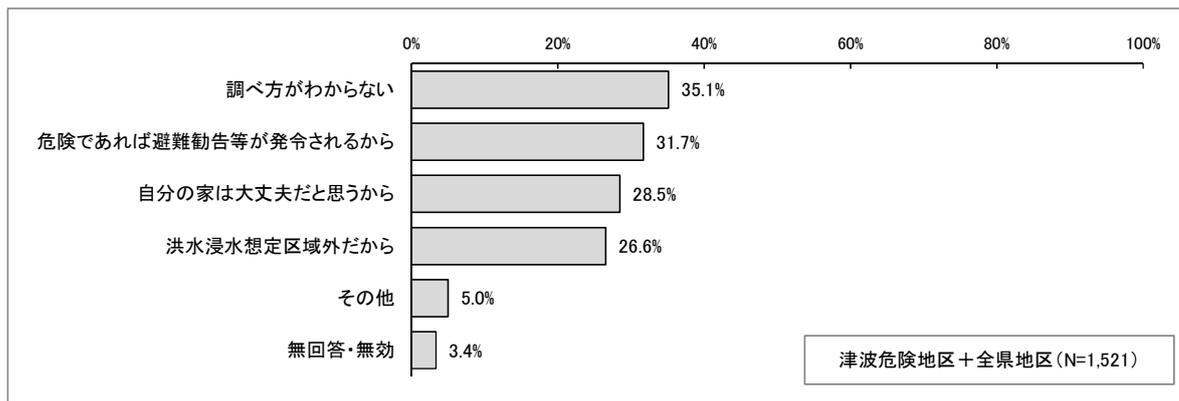


図 3.5-14 水位情報を確認しない理由

3.6. 災害時の避難について

3.6.1 避難カードを知っているか

問 15 あなたは、避難カードを知っていますか(ひとつだけ○)。

- ・避難カードの認知度(「知っている」、「何となく知っている」の合計)は津波危険地区で33.1%、全県地区で29.9%となっている。

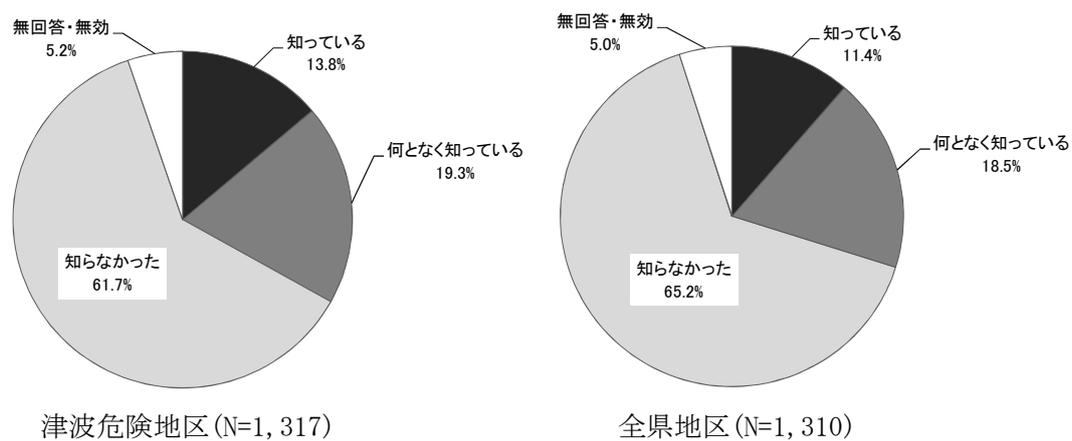


図 3.6-1 避難カードを知っているか

- ・経年変化をみると、避難カードの認知度(31.5%)は、前回(平成 25 年)の 22.1%から増加している。

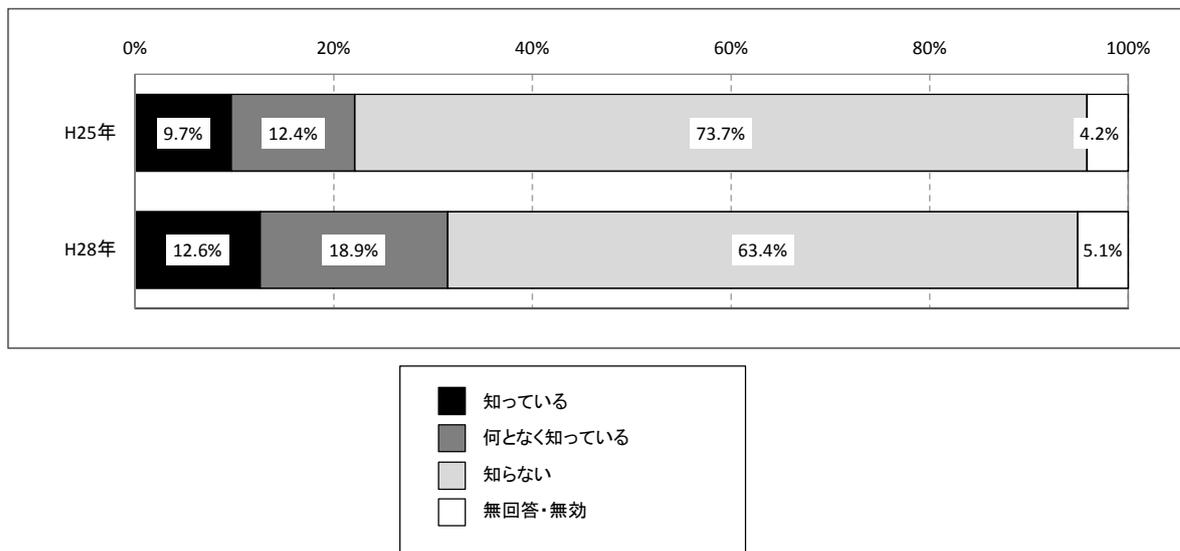


図 3.6-2 避難カードを知っているか —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.6.2 避難カードに記入しているか

<問 15 で「知っている」と回答された方にお聞きします。>

問 15-1 あなたは、家族と同居している場合は家族等と避難場所や避難経路等を話し合っ
て、緊急避難先等を避難カードに記入していますか(ひとつだけ
〇)。

- ・緊急避難先等を避難カードに記入しているかについて、「記入している」は津波危険地区で 29.1%、全県地区で 26.8%となっている。

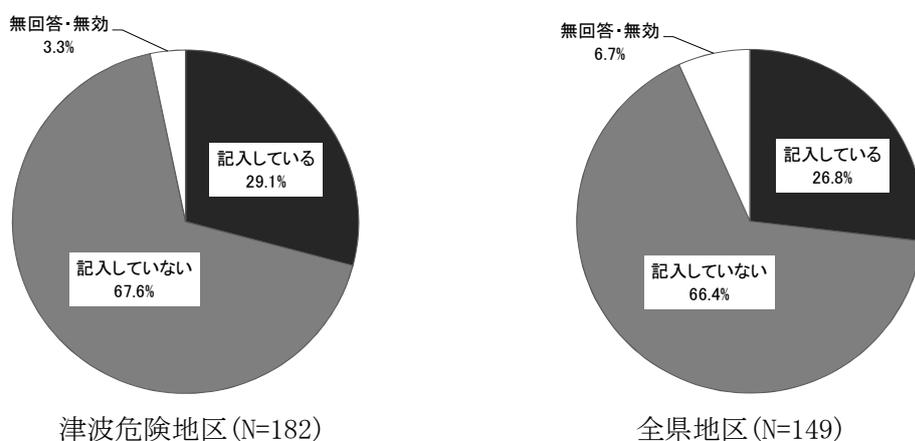


図 3.6-3 避難カードに記入しているか

- ・経年変化をみると、「記入している」(28.1%)は、前回(平成25年)の14.0%から増加している。

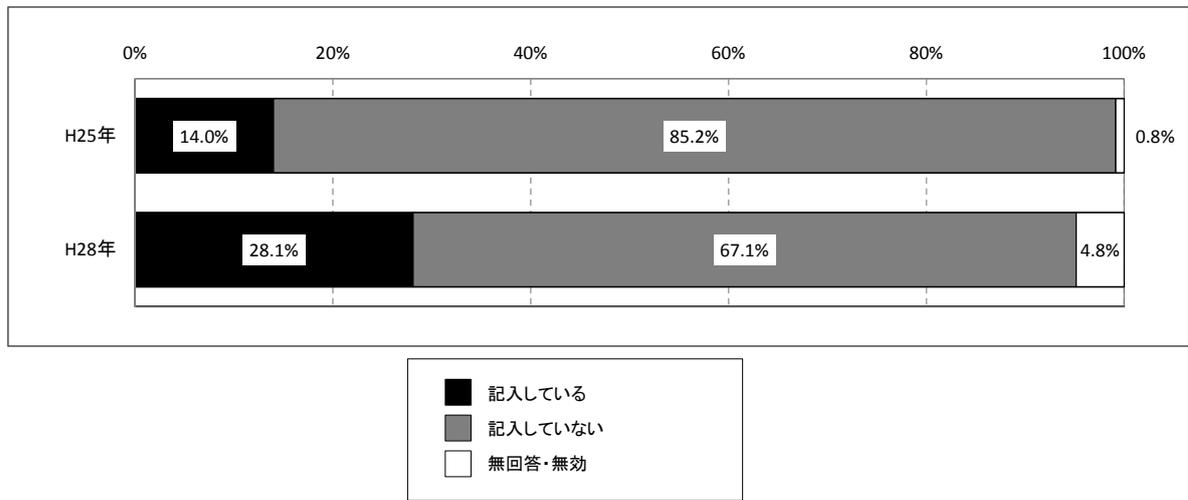
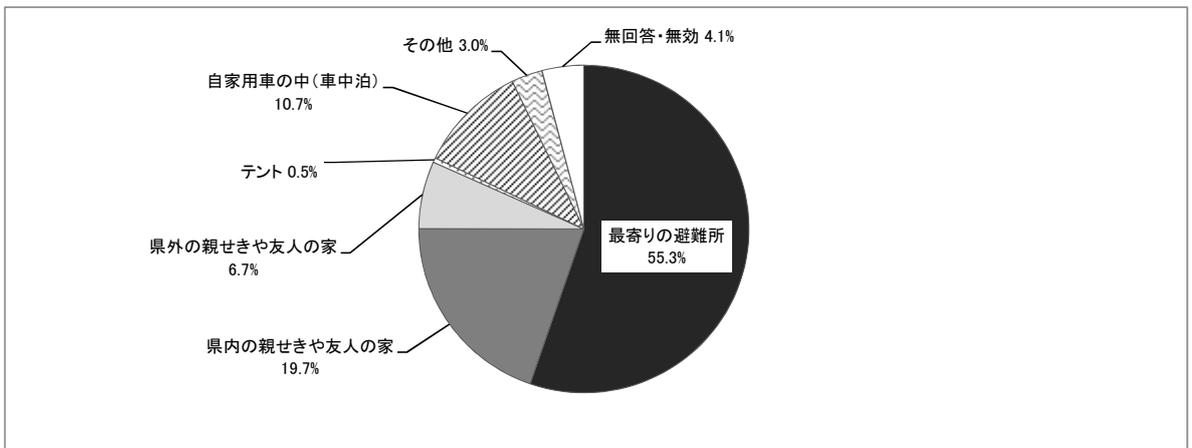


図 3.6-4 避難カードに記入しているか —経年変化(津波危険地区+全県地区)—

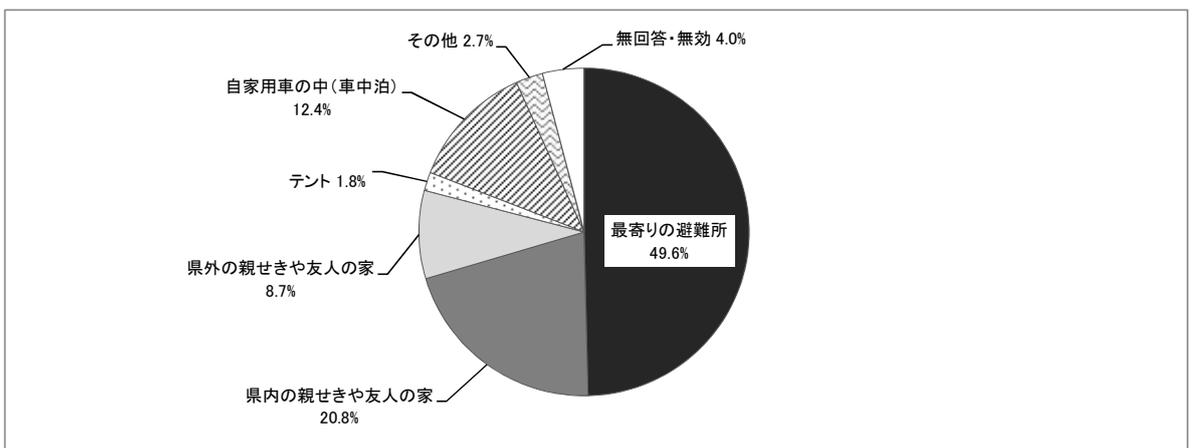
3.6.3 どこで避難生活を送るか

問 16 あなたの住んでいる地域で大規模な災害が発生し、自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなってしまったとします。あなたはどこで避難生活を送りますか(ひとつだけ○)。

- ・自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなった場合、どこで避難生活を送るかについて、「最寄りの避難所」が津波危険地区(55.3%)、全県地区(49.6%)とも最も高くなっている。
- ・「自家用車の中(車中泊)」は津波危険地区で10.7%、全県地区で12.4%となっている。



津波危険地区(N=1,317)



全県地区(N=1,310)

図 3.6-5 どこで避難生活を送るか

3.6.4 自家用車の中で避難生活を送る理由

<問 16 で「自家用車の中（車中泊）」と回答された方にお聞きします。>

問 16-1 自家用車の中で避難生活を送る主な理由は何ですか(いくつでも○)。

- ・ 自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなった場合、自家用車の中で避難生活を送ることを選択する理由について、津波危険地区、全県地区とも「避難所ではプライバシーが確保されないと思うから」、「避難所に多くの被災者が殺到し入ることができないと思うから」が高く、50%を上回っている。

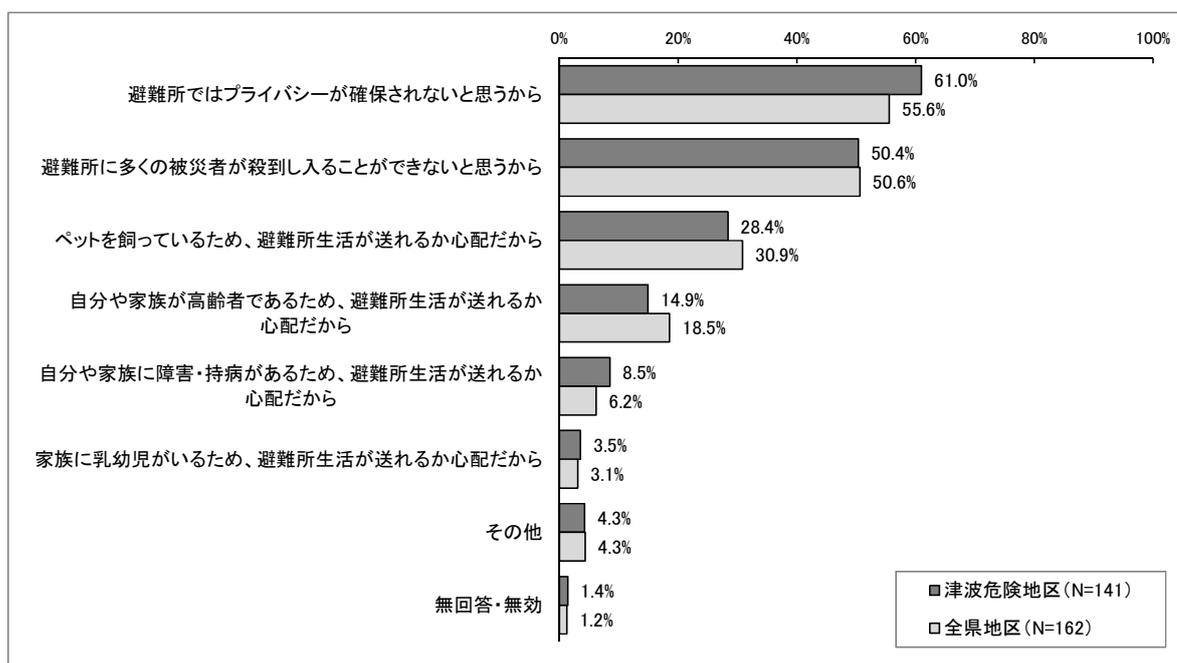


図 3.6-6 自家用車の中で避難生活を送る理由

3.6.5 避難生活を送る上でどのようなことが心配か

問 17 あなたが避難所生活を送ることを考えた時、どのようなことが心配ですか（いくつでも○）。

- ・避難生活を送ることを考えたときに心配なことについて、「トイレの問題」が最も高く、76.2%となっている。
- ・次いで「食料や水の問題」（71.9%）が高く、「洗濯・入浴の問題」、「避難生活によるストレスや体調不良」、「プライバシーの問題」も50%を上回っている。

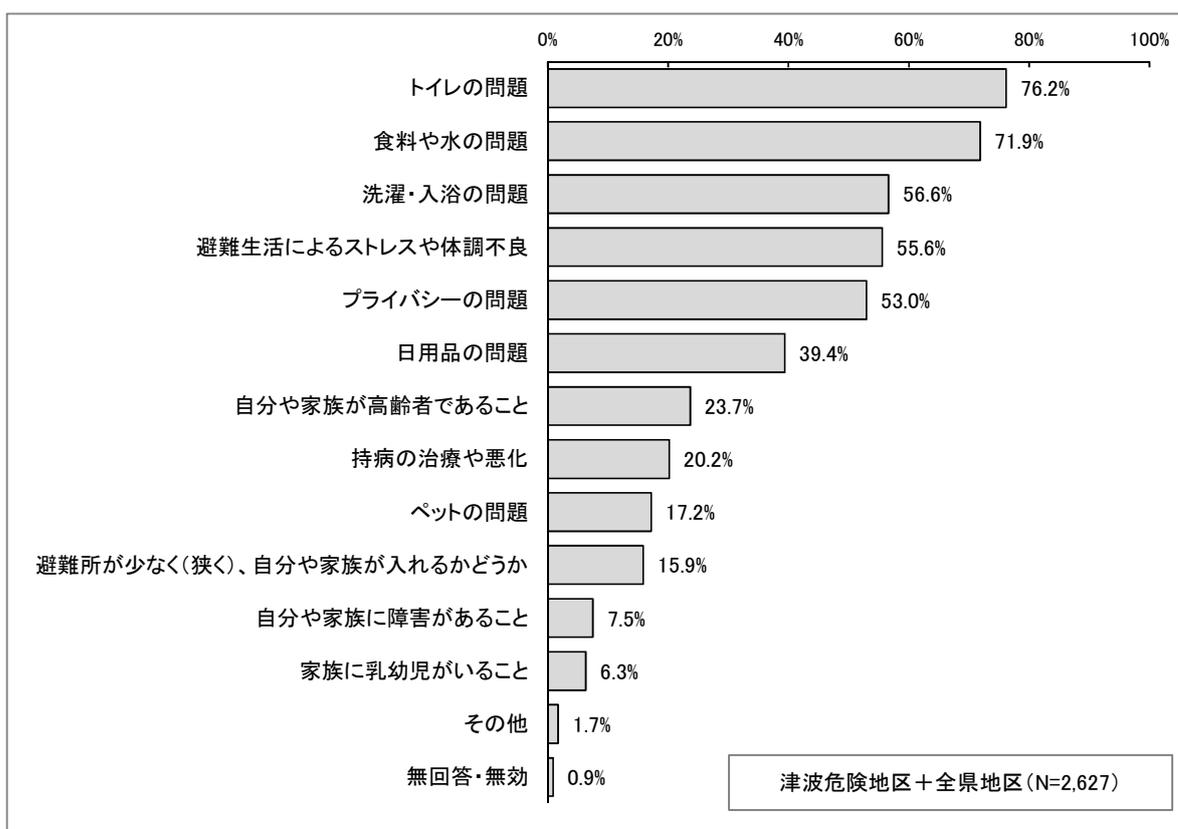


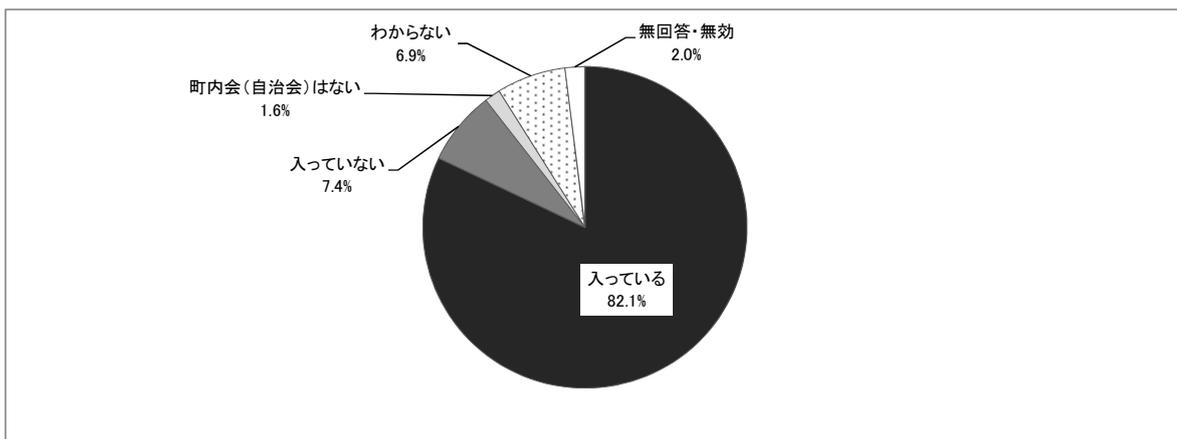
図 3.6-7 避難生活を送る上でどのようなことが心配か

3.7. 自主防災組織等について

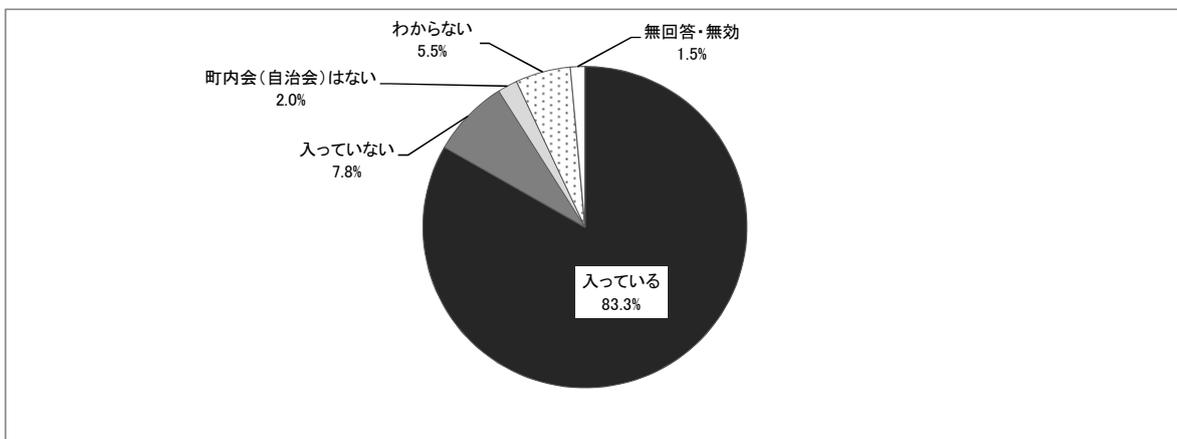
3.7.1 町内会（自治会）に入っているか

問 18 あなたのお宅は、町内会(自治会)に入っていますか。

- ・町内会(自治会)への加入について、「入っている」が津波危険地区(82.1%)、全県地区(83.3%)とも最も高くなっている。



津波危険地区(N=1,317)



全県地区(N=1,310)

図 3.7-1 町内会（自治会）に入っているか

・経年変化をみると、「入っている」は、平成19年以降減少傾向にある。

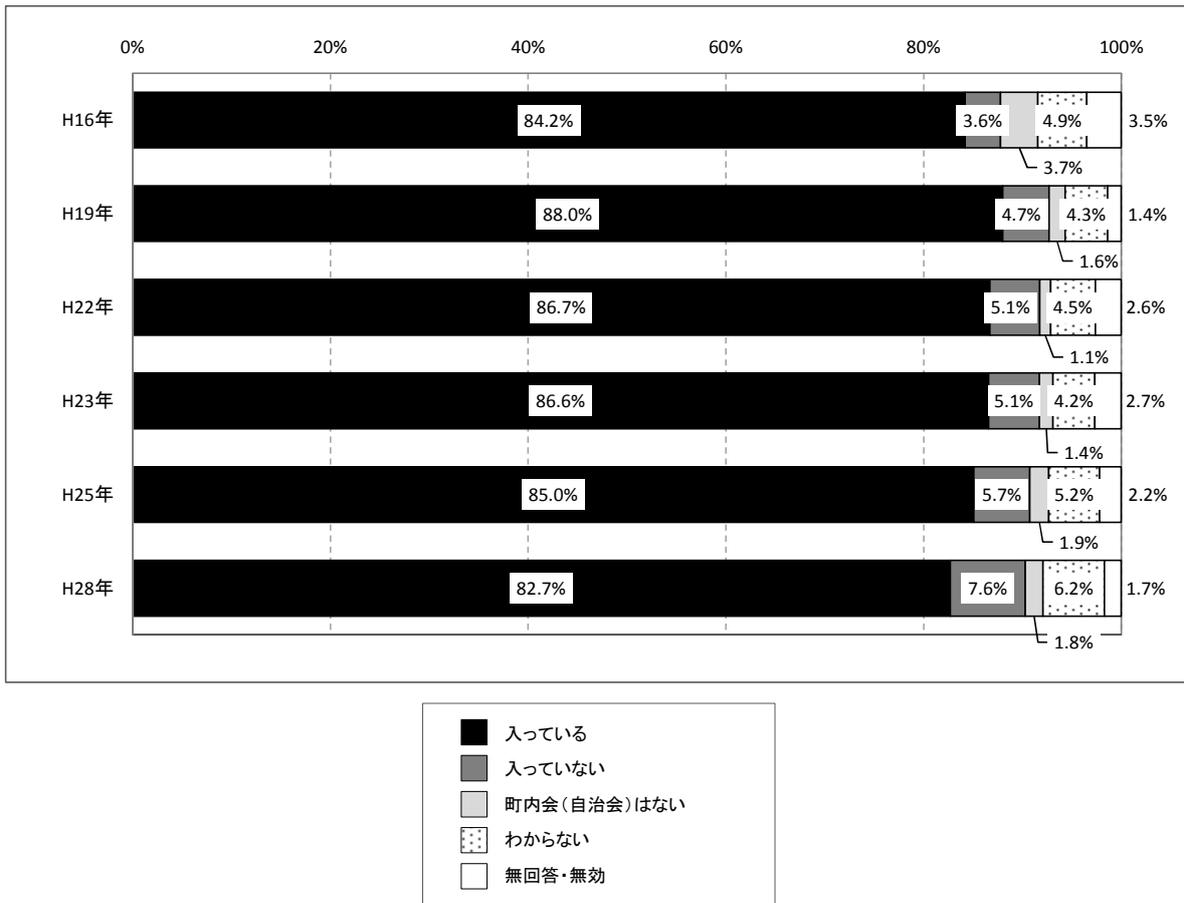


図 3.7-2 町内会（自治会）に入っているか —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

- ・近所づきあい別にみると、「留守を頼んだり親しく話をする」では「町内会（自治会）に入っている」が 90.7%となっている一方、「ほとんどつきあいが無い」では 52.6%となっており、近所づきあいが親密であるほど、「町内会（自治会）に入っている」割合が高くなっている。

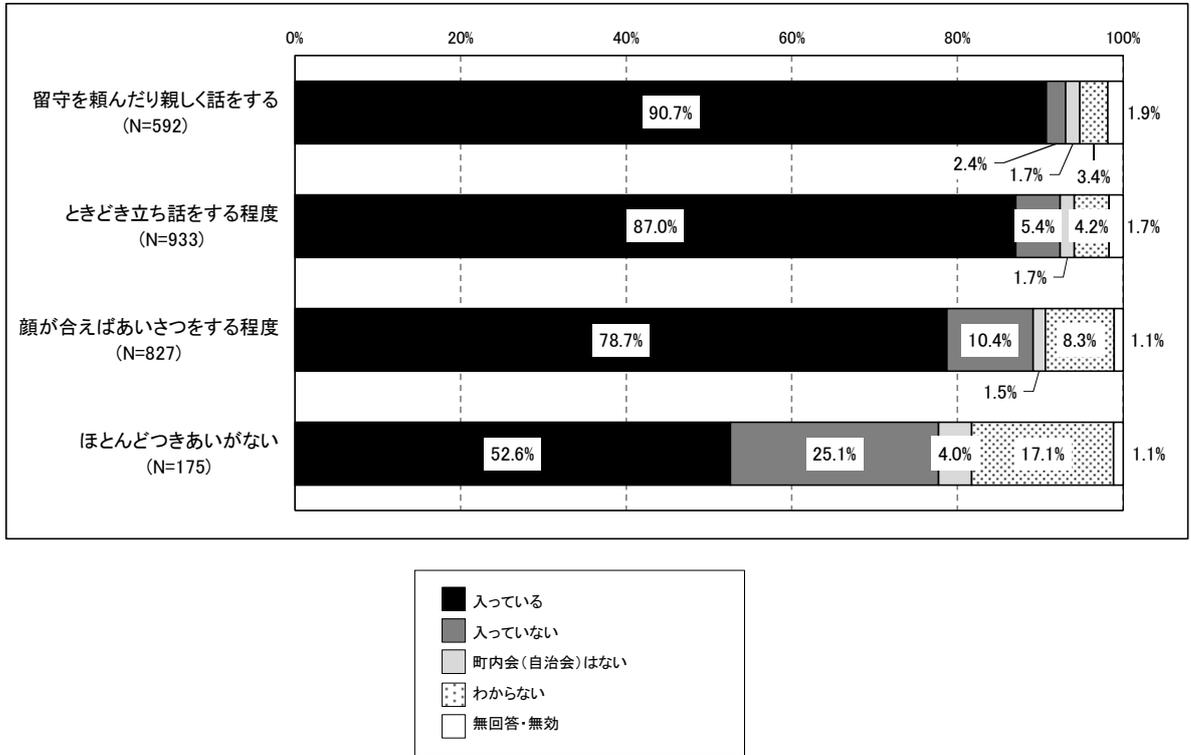


図 3.7-3 町内会（自治会）に入っているか
—近所づきあい別比較（津波危険地区＋全県地区）—

3.7.2 自主防災組織に入っているか

問 19 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。

- ・ 自主防災組織に加入しているかについて、「わからない」が津波危険地区(44.6%)、全県地区(45.7%)とも最も高くなっている。
- ・ 「入っている」は津波危険地区、全県地区とも3割に満たない。

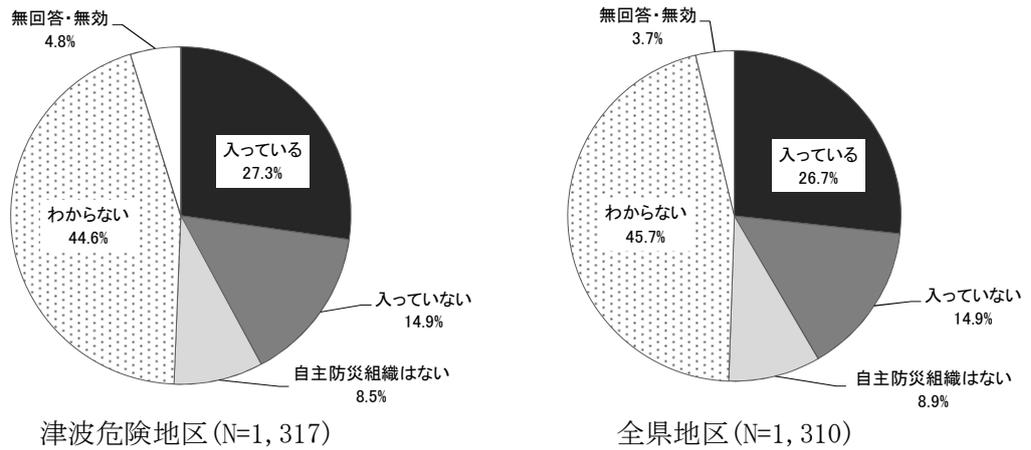


図 3.7-4 地域の自主防災組織に入っているか

・経年変化をみると、「入っている」(27.0%)、「入っていない」(14.9%)とも、前回(平成25年)より減少している。

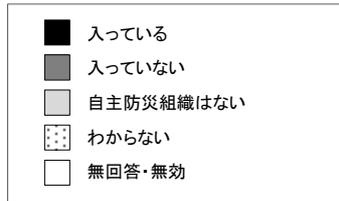
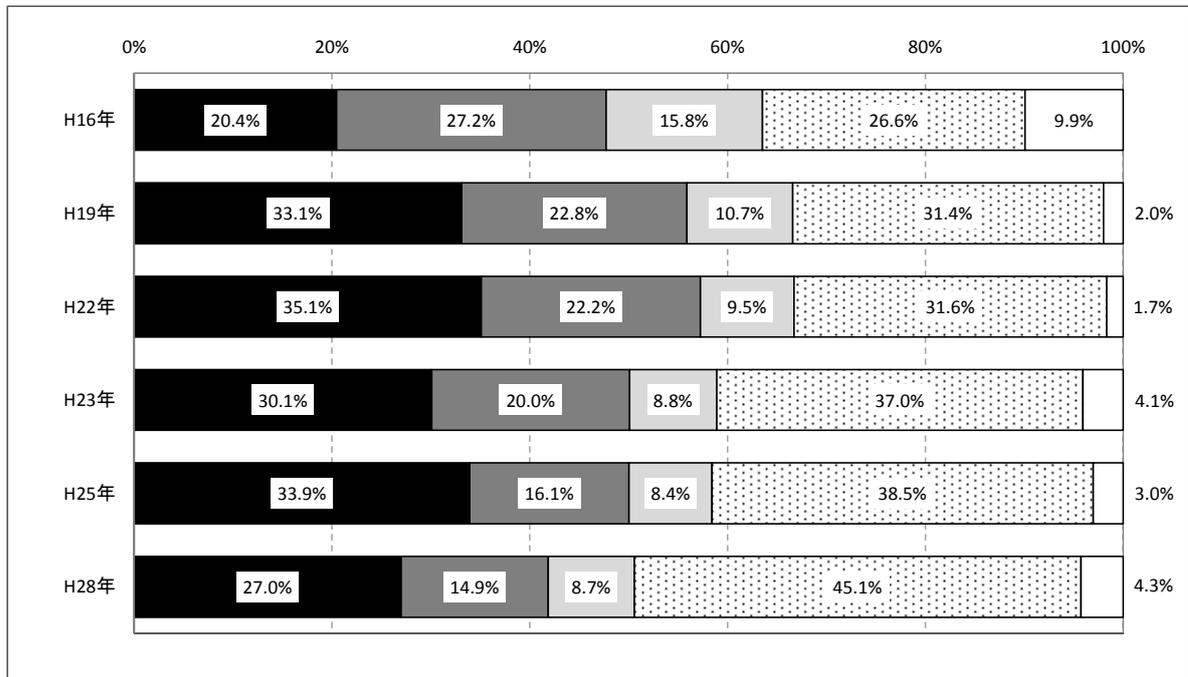


図 3.7-5 地域の自主防災組織に入っているか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

・近所づきあい別にみると、「留守を頼んだり親しく話をする」では「入っている」が42.1%と最も高くなっているが、「ほとんどつきあいがない」では「入っている」が6.3%と低くなっており、近所づきあいが親密であるほど自主防災組織に入っている割合が高くなっている。

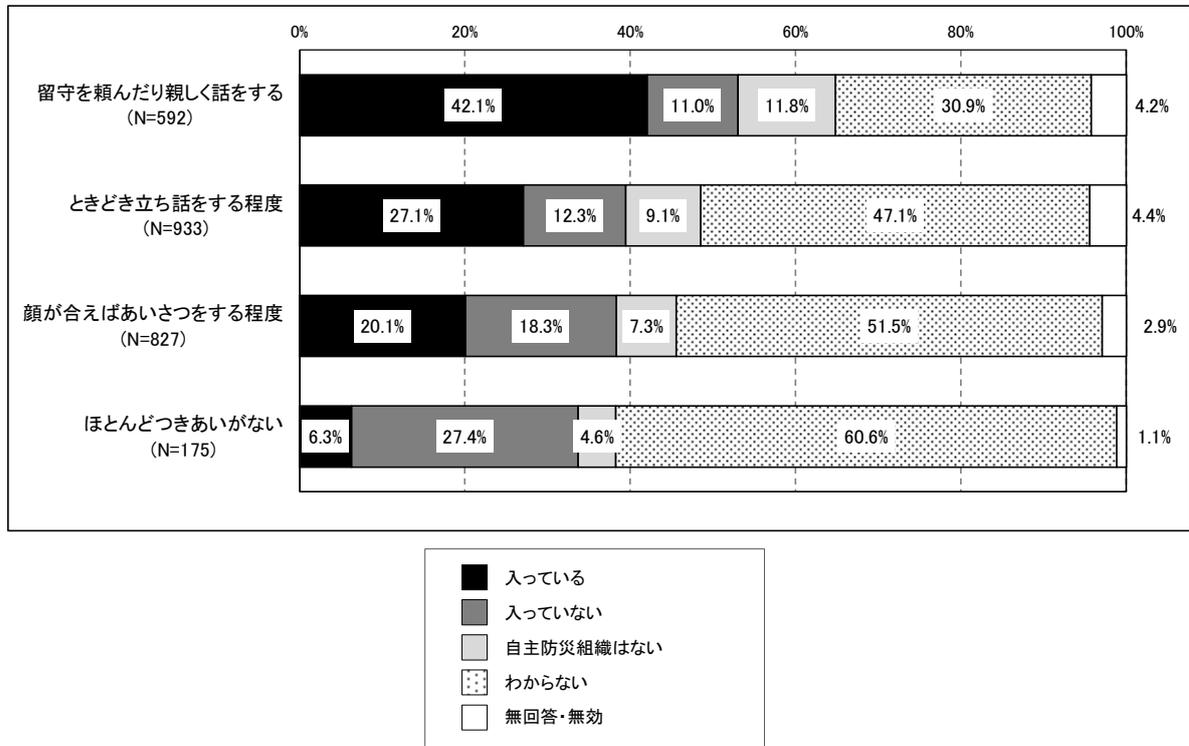


図 3.7-6 地域の自主防災組織に入っているか
—近所づきあい別比較（津波危険地区＋全県地区）—

・性別・年代別にみると、「入っている」は「女性60代」が最も高く、37.4%となっている。次いで「男性70代以上」(34.8%)、「女性70代以上」(34.1%)となっており、高齢層が高い傾向にある。

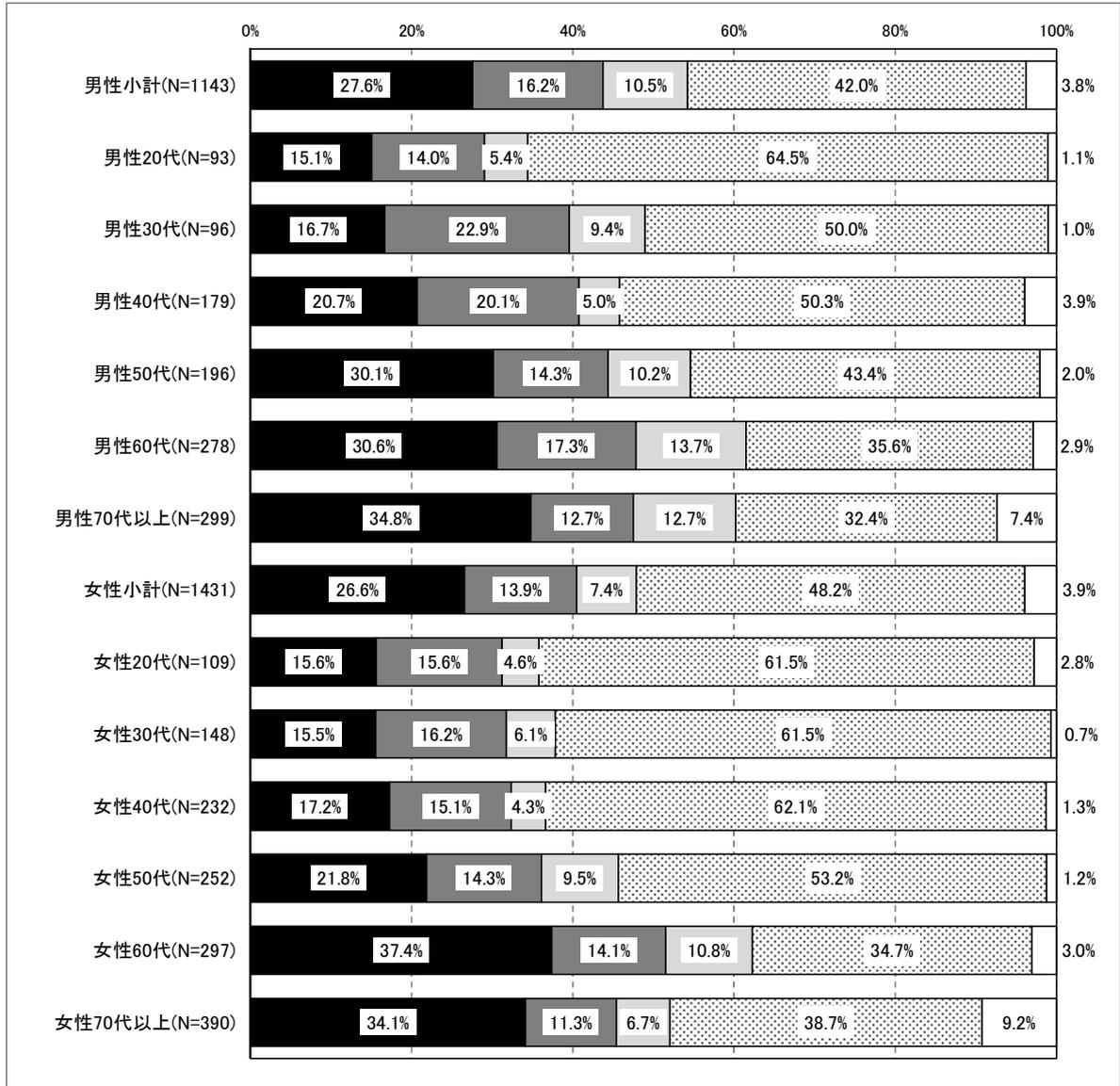


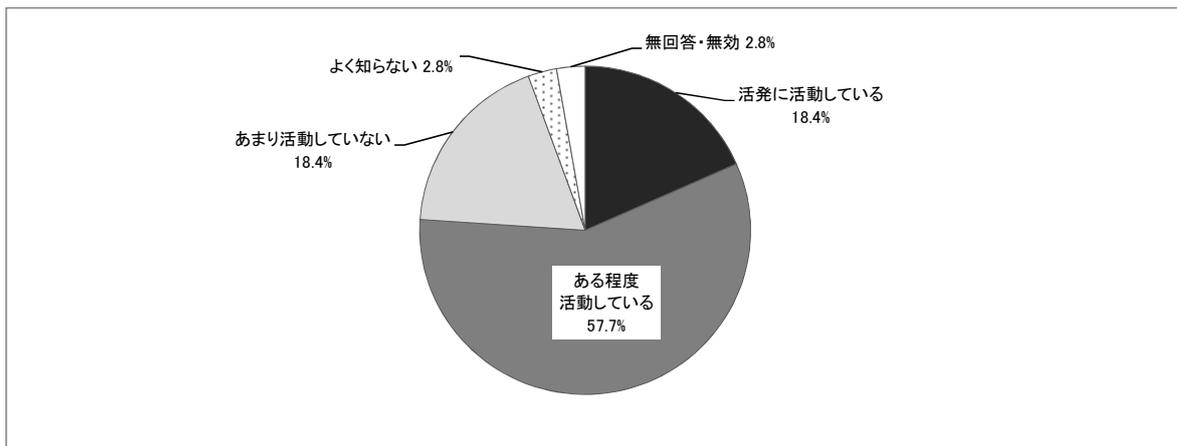
図 3.7-7 地域の自主防災組織に入っているか
—性別・年代別比較(津波危険地区+全県地区)—

3.7.3 地域の自主防災組織の活動は活発か

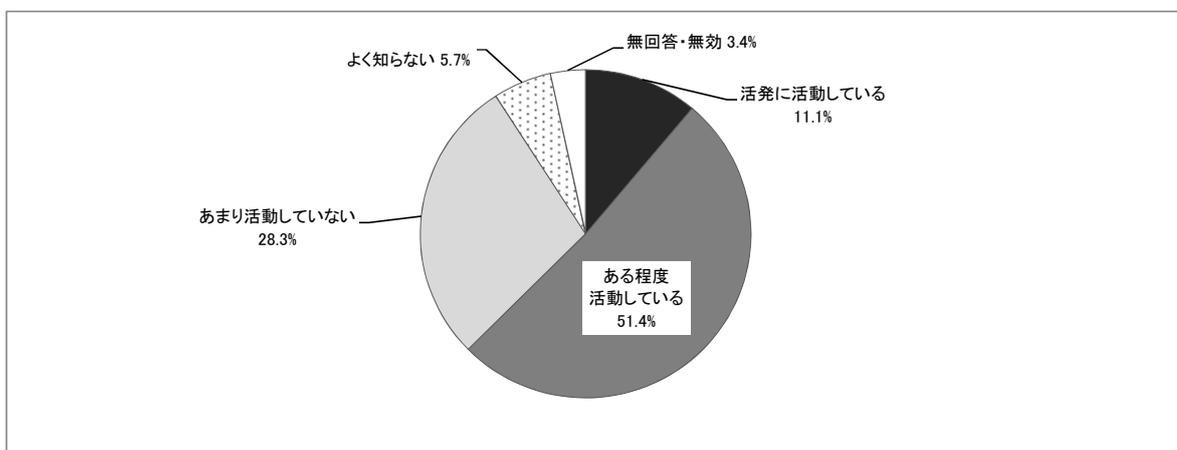
<問 19 で「入っている」と回答された方にお聞きします。>

問 19-1 あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか。

- ・地域の自主防災組織の活動が活発であるかについて、活動している割合（「活発に活動している」、「ある程度活動している」の合計）は津波危険地区で 76.1%、全県地区で 62.5%となっている。



津波危険地区 (N=359)



全県地区 (N=350)

図 3.7-8 地域の自主防災組織の活動は活発か

- ・経年変化をみると、活動している割合は69.4%となっており、調査開始以降最も高くなっている。

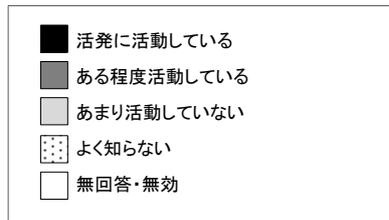
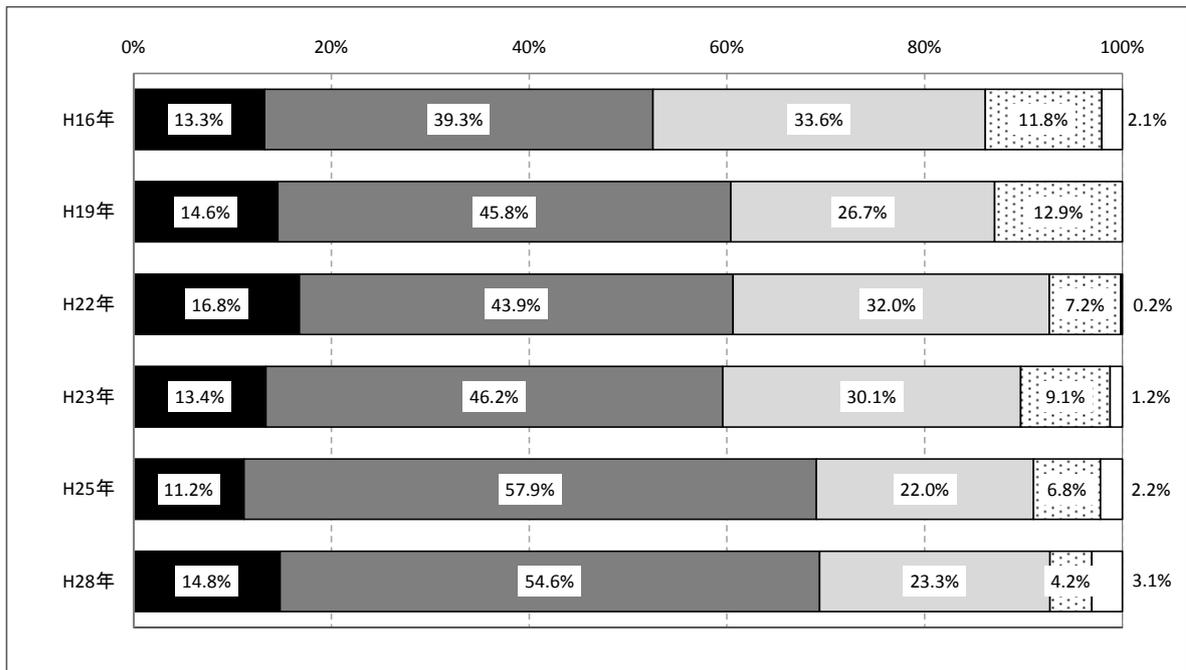


図 3.7-9 地域の自主防災組織の活動は活発か
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.7.4 自主防災組織が抱える課題は何だと思うか

<問 19 で「入っている」と回答された方にお聞きします。>

問 19-2 自主防災組織が抱える課題は何だと思えますか(いくつでも○)。

- ・地域の自主防災組織が抱える課題は津波危険地区、全県地区とも「限られた住民だけの活動となっている」が最も高く、50%を上回っている。
- ・次いで津波危険地区では「防災訓練の内容がマンネリ化している」(39.8%)、「住民同士が連携する意識が希薄である」(32.3%)が高く、全県地区では「住民同士が連携する意識が希薄である」(36.9%)、「防災訓練の内容がマンネリ化している」(29.4%)が高くなっている。

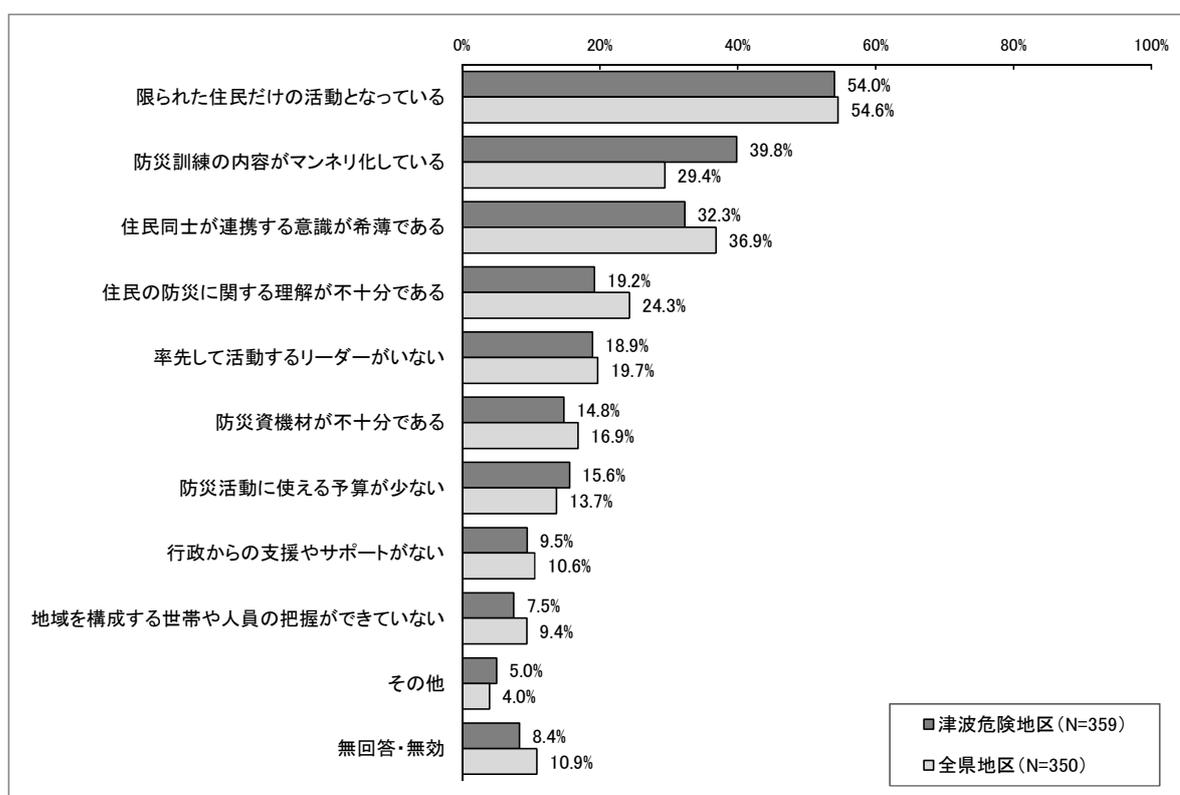


図 3.7-10 自主防災組織が抱える課題は何だと思うか

3.7.5 自主防災組織に入っていない理由は何か

<問 19 で「入っていない」と回答された方にお聞きします。>

問 19-3 なぜ、自主防災組織に入っていないのですか(いくつでも○)。

・地域の自主防災組織に入っていない理由について、「どんな活動をしているのか知らないから」が津波危険地区(44.4%)、全県地区(43.1%)とも最も高くなっている。

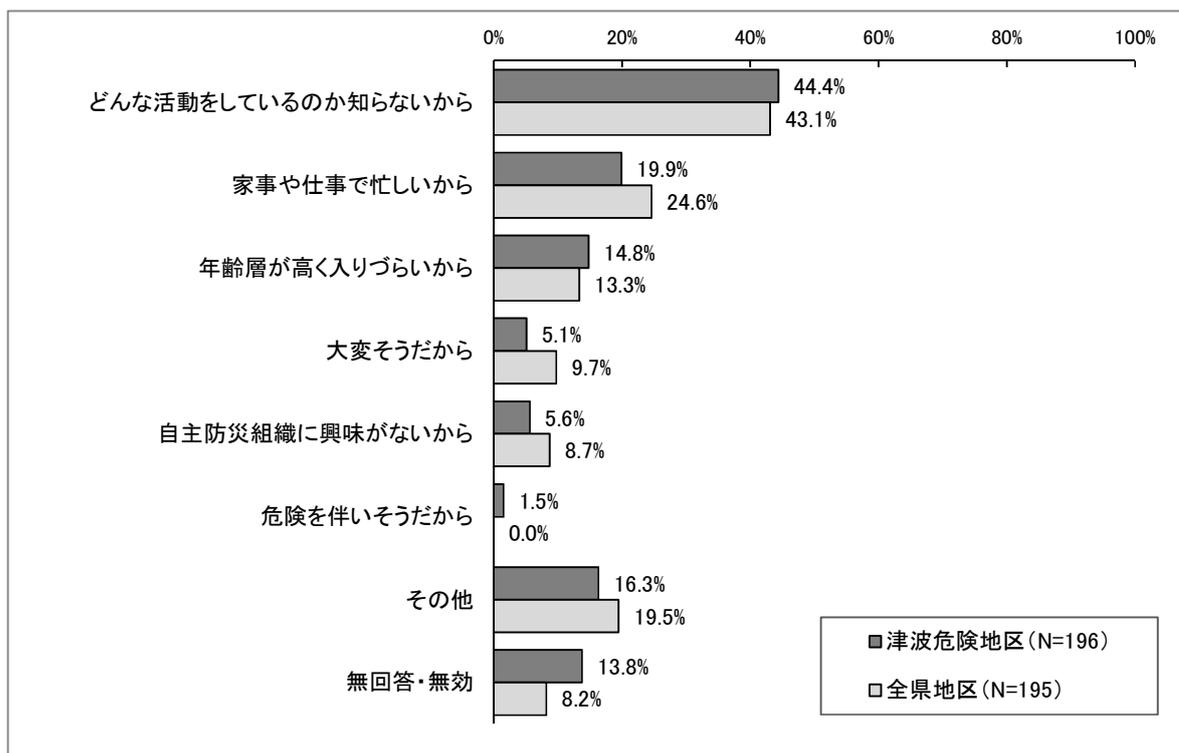
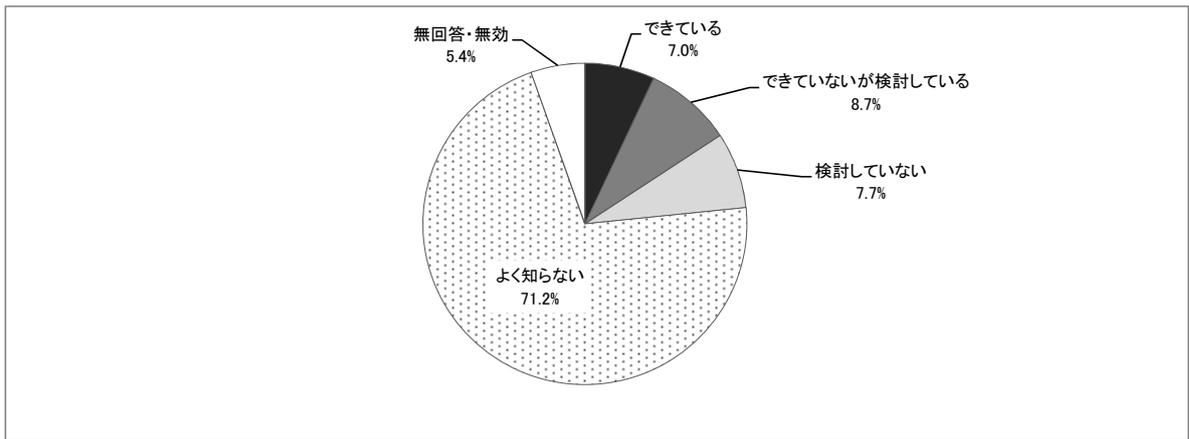


図 3.7-11 自主防災組織に入っていない理由は何か

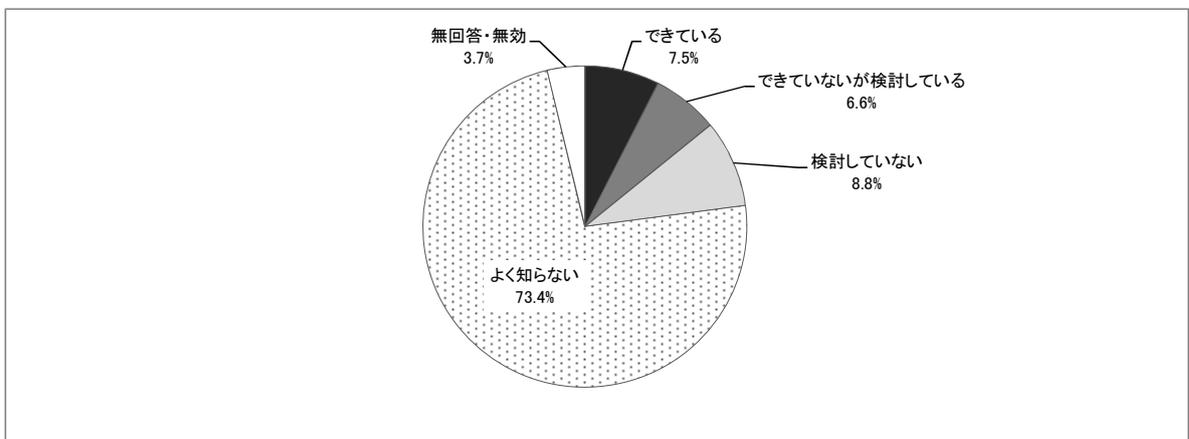
3.7.6 地域での支援体制ができているか

問 20 災害時に要配慮者を地域において支援する体制ができていますか。

- ・災害時に要配慮者を地域において支援する体制ができているかについて、「よく知らない」が津波危険地区(71.2%)、全県地区(73.4%)とも最も高くなっている。
- ・「支援する体制ができている」は津波危険地区で 7.0%、全県地区で 7.5%となっている。



津波危険地区 (N=1,317)



全県地区 (N=1,310)

図 3.7-12 災害時に要配慮者を支援する体制ができているか

・経年変化をみると、「よく知らない」が高くなっている。

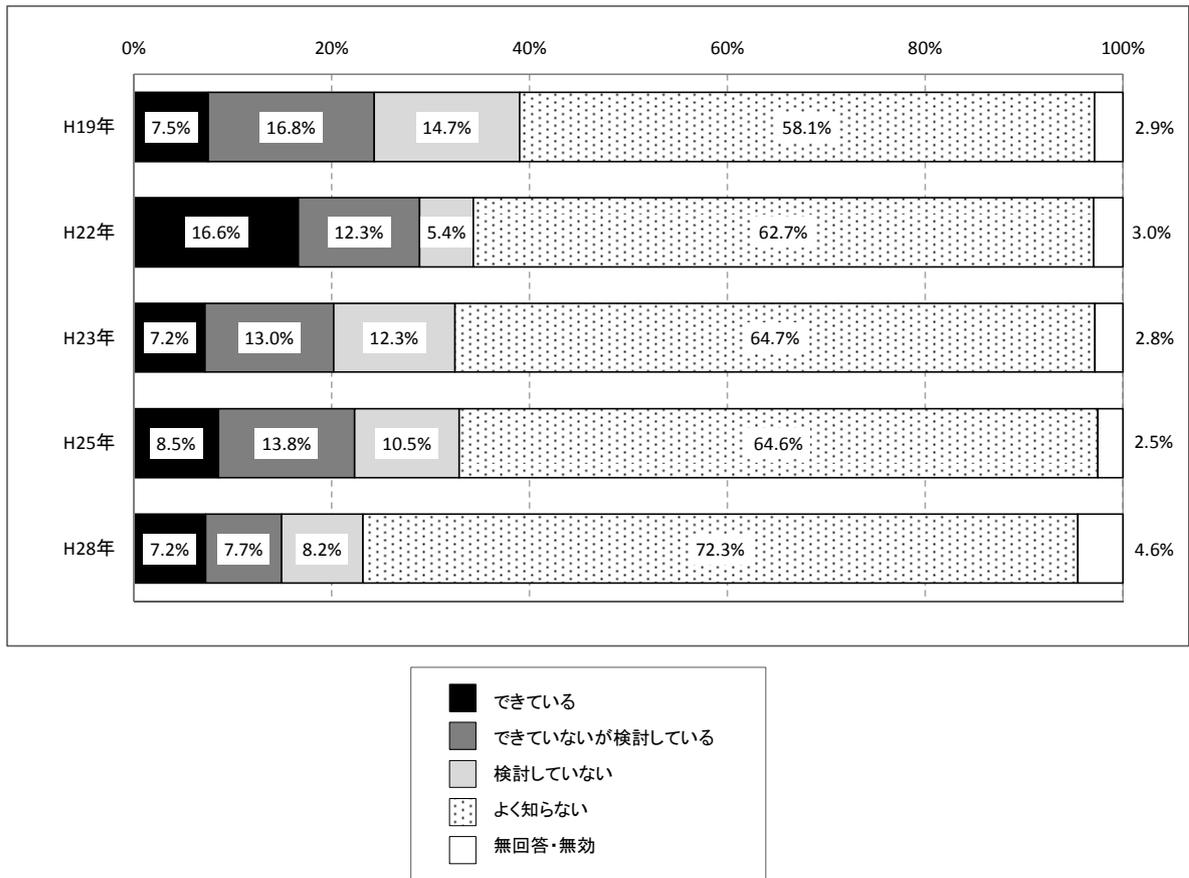


図 3.7-13 災害時に要配慮者を支援する体制ができているか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.7.7 大地震後、地域の人と協力してできることは何か

問 21 大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力してどのようなことができると思いますか(いくつでも○)。

- ・大地震が起きたあと、地域の人と協力してできることについて、津波危険地区、全県地区とも「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」が最も高く、50%を上回っている。
- ・次いで「避難した人たちのために、炊き出しをする」、「生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する」が高くなっている。
- ・「(回答項目のようなことは)できない」は津波危険地区で 14.2%、全県地区で 12.7%となっている。

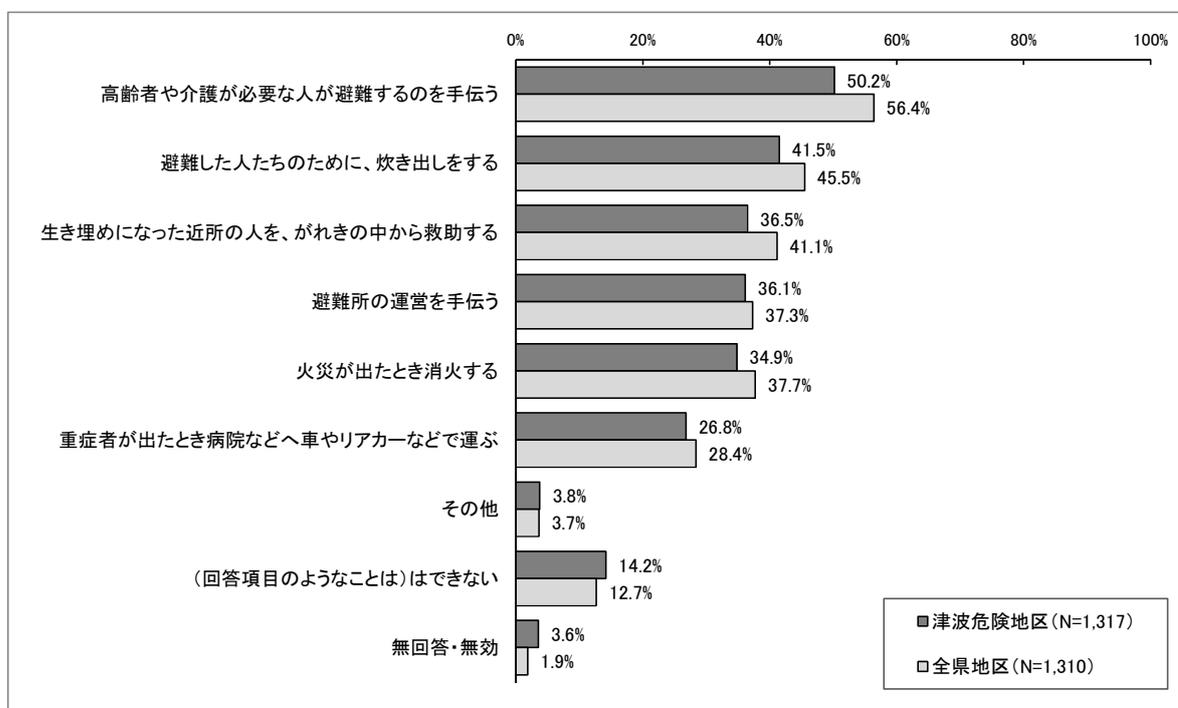


図 3.7-14 大地震後、地域の人と協力してできることは何か

・経年変化をみると、協力してできることについてはほとんどの項目で前回(平成 25 年)から減少している。一方、「(回答項目のようなことは)できない」(13.4%)は、前回の9.4%から増加している。

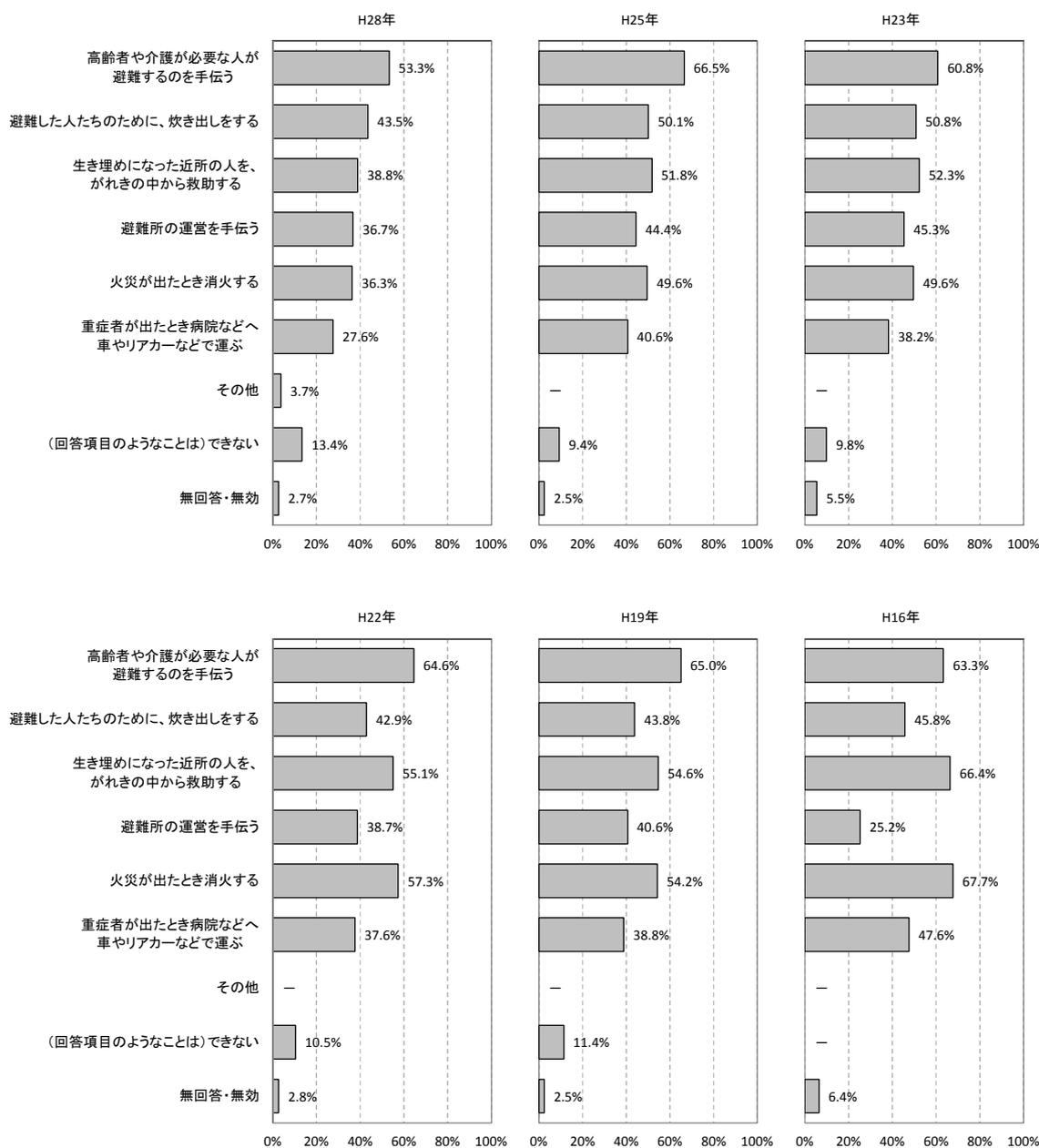


図 3.7-15 大地震後、地域の人と協力してできることは何か
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.7.8 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか

問 22 あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか(いくつでも○)。

- ・地域の防災力を高めるために必要なことについて、特に回答が集中した項目はなく、津波危険地区、全県地区とも「自主防災組織の育成・強化」、「自主防災組織の防災資機材の整備・充実」、「地震・津波や風水害などの学習会」、「消防団・近隣の事業所などとの連携促進」、「地域防災リーダーの育成・研修」が高くなっている。

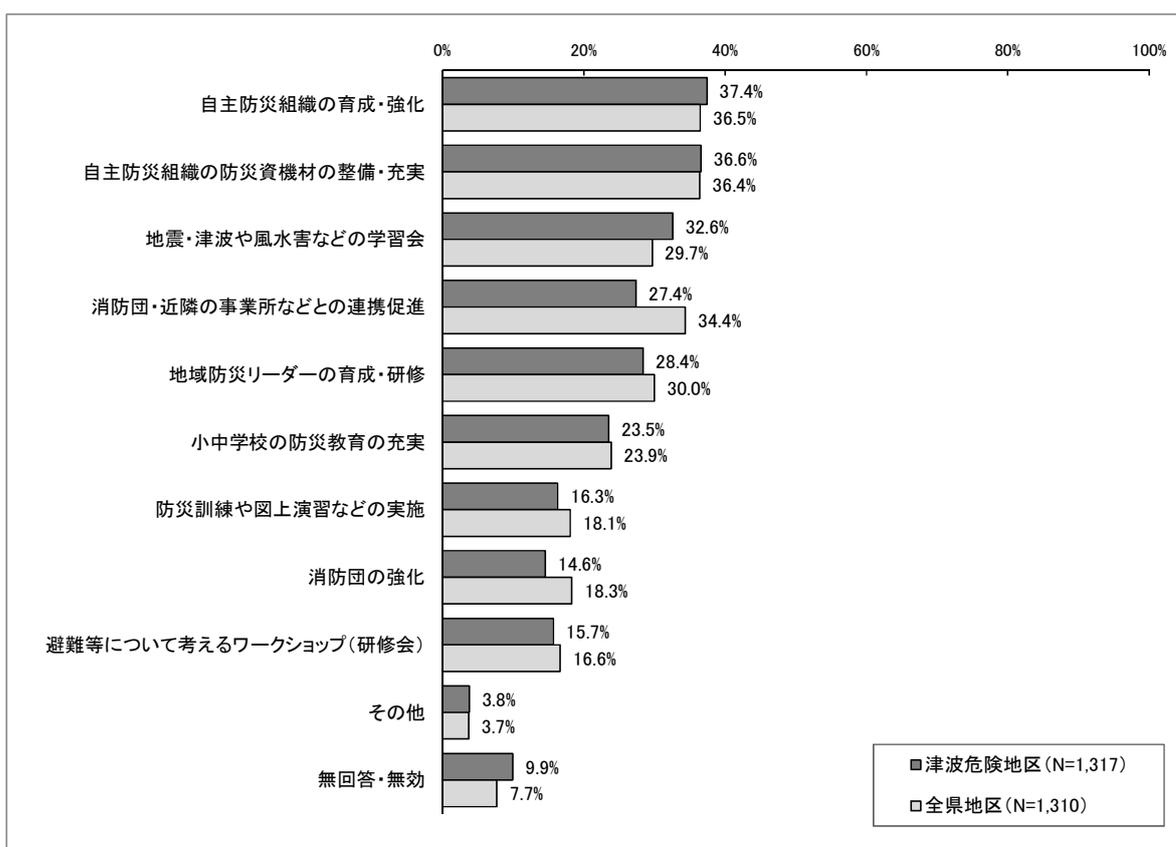


図 3.7-16 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか

・経年変化をみると、「自主防災組織の防災資機材の整備・充実」(36.5%)は、前回(平成25年)の32.5%から増加している。

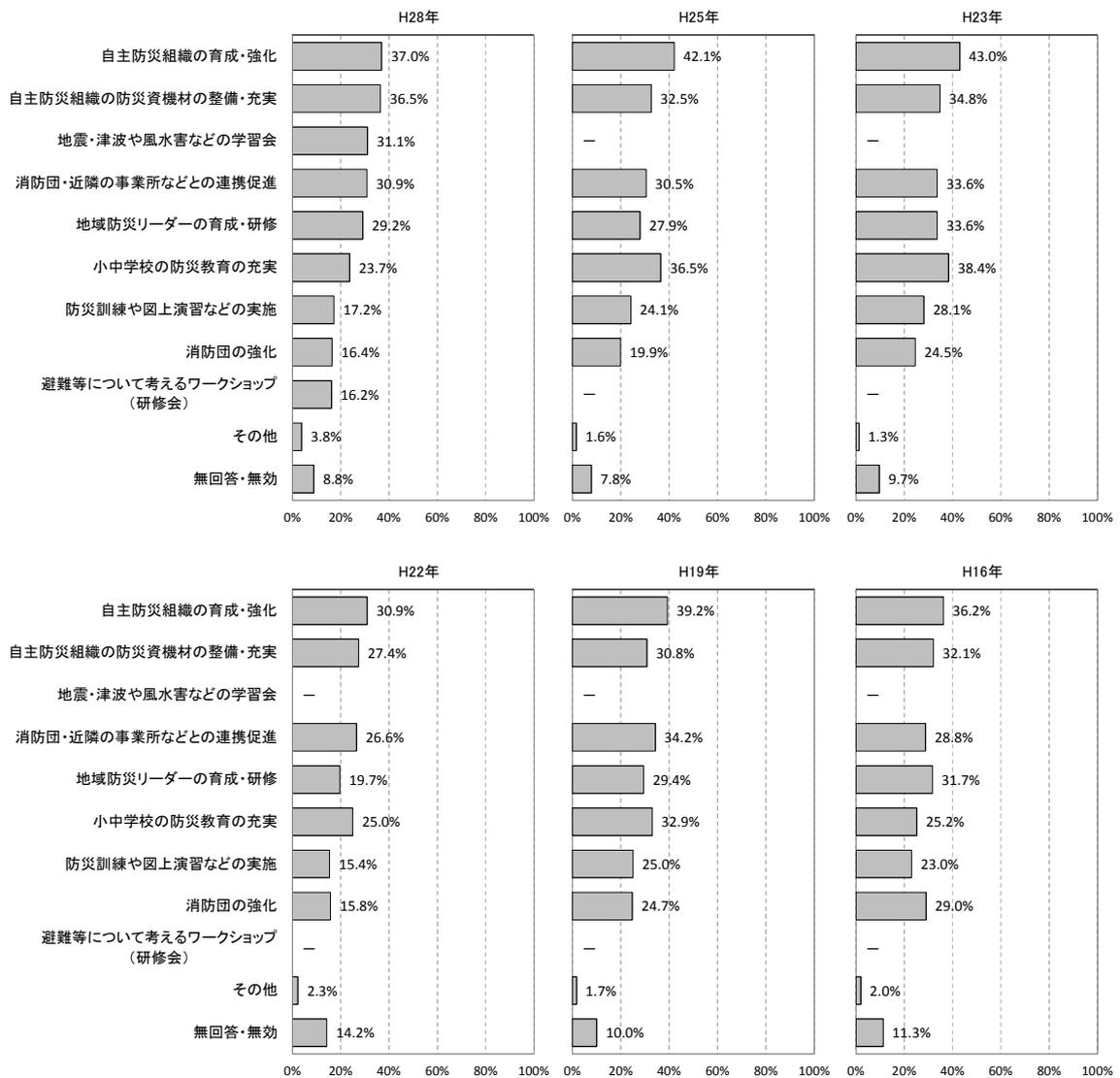


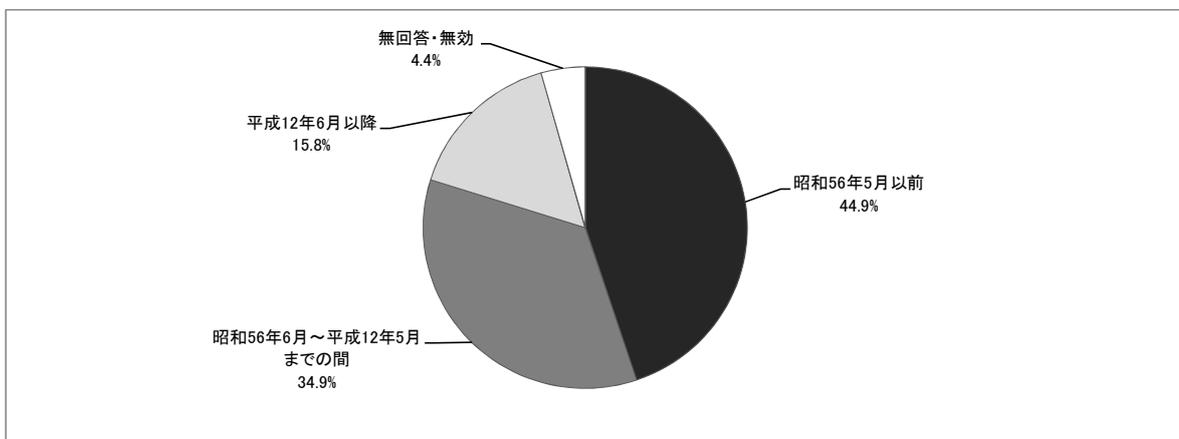
図 3.7-17 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.8. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

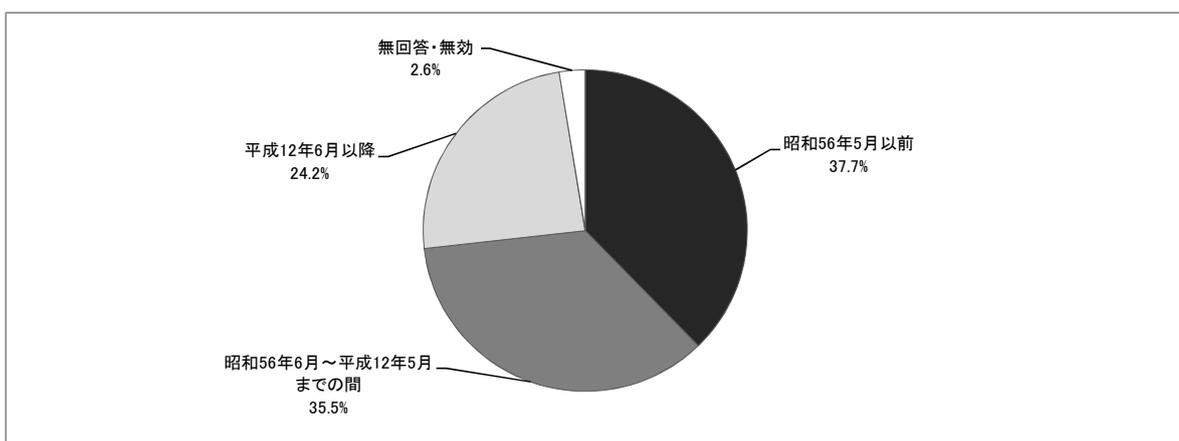
3.8.1 自宅の建築年はいつか

問 23 あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください(ひとつだけ○)。

- ・ 建築年について、「昭和 56 年 5 月以前」が津波危険地区(44.9%)、全県地区(37.7%)とも最も高くなっている。
- ・ 次いで「昭和 56 年 6 月～平成 12 年 5 月までの間」が高く、津波危険地区で 34.9%、全県地区で 35.5%となっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



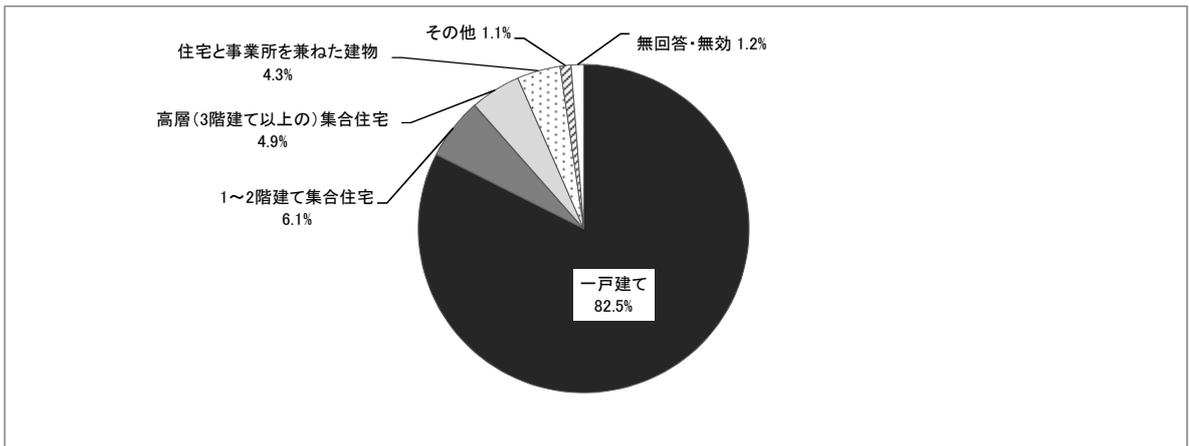
全県地区 (N=1, 310)

図 3.8-1 自宅の建築年

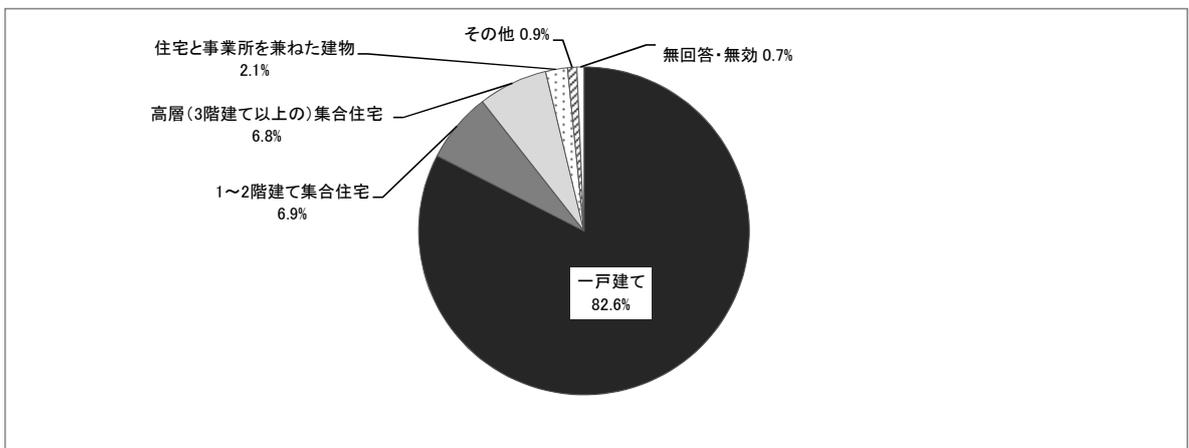
3.8.2 自宅の形態は（戸建、集合住宅等）何か

問 24 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。

- ・自宅の形態について、「一戸建て」が津波危険地区(82.5%)、全県地区(82.6%)とも最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



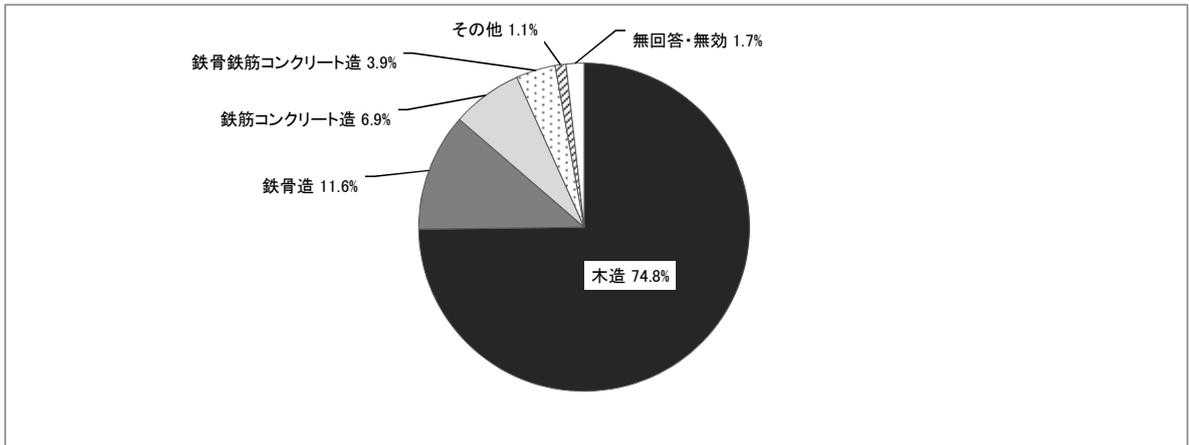
全県地区 (N=1, 310)

図 3.8-2 自宅の形態

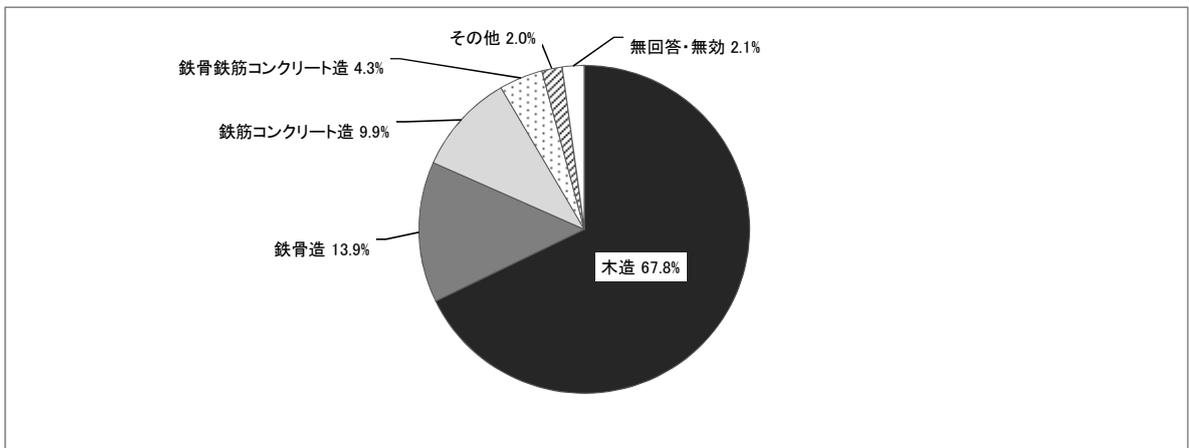
3.8.3 自宅の構造は（木造、鉄骨造等）何か

問25 あなたがお住まいのご自宅の構造は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。

- ・自宅の構造について、「木造」が津波危険地区(74.8%)、全県地区(67.8%)とも最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

図 3.8-3 自宅の構造

3.8.4 専門家による耐震診断を受けたことがあるか

問 26 ご自宅は、専門家による耐震診断(地震の揺れに対する建物の強さの診断)を受けたことがありますか。

- ・ 専門家による耐震診断を受けたことが「ある」割合は津波危険地区で 9.6%、全県地区で 11.6%となっている。

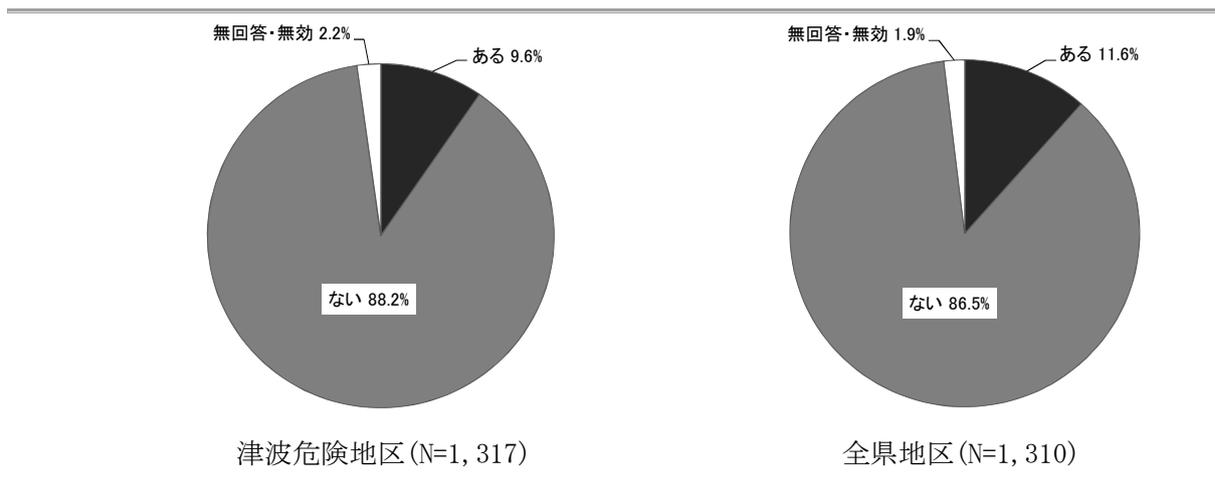


図 3.8-4 専門家による耐震診断を受けたことがあるか

- ・ 「昭和 56 年 5 月以前に建てられた建物」のうち、耐震診断を受けたことが「ある」割合は、津波危険地区で 10.7%、全県地区で 9.9%となっている。

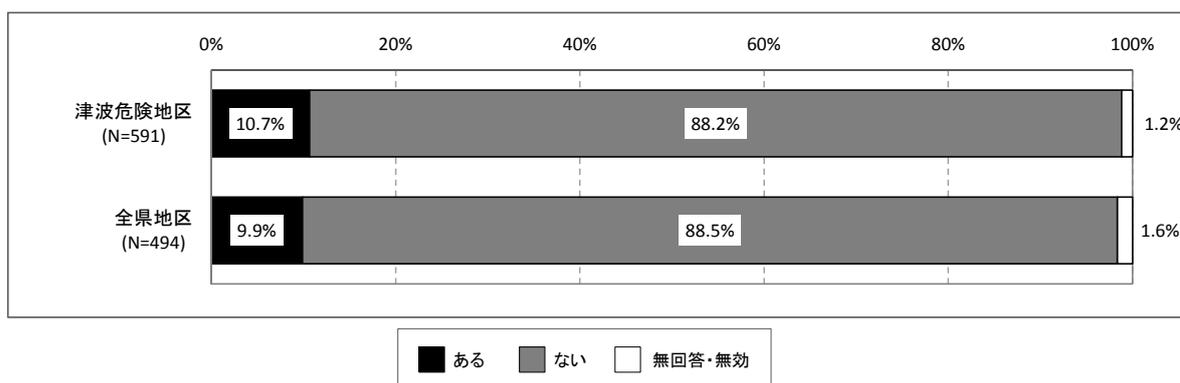


図 3.8-5 専門家による耐震診断を受けたことがあるか
—問 23「昭和 56 年 5 月以前に建てられた住宅」とのクロス集計—

・経年変化をみると、特に大きな変化はみられない。

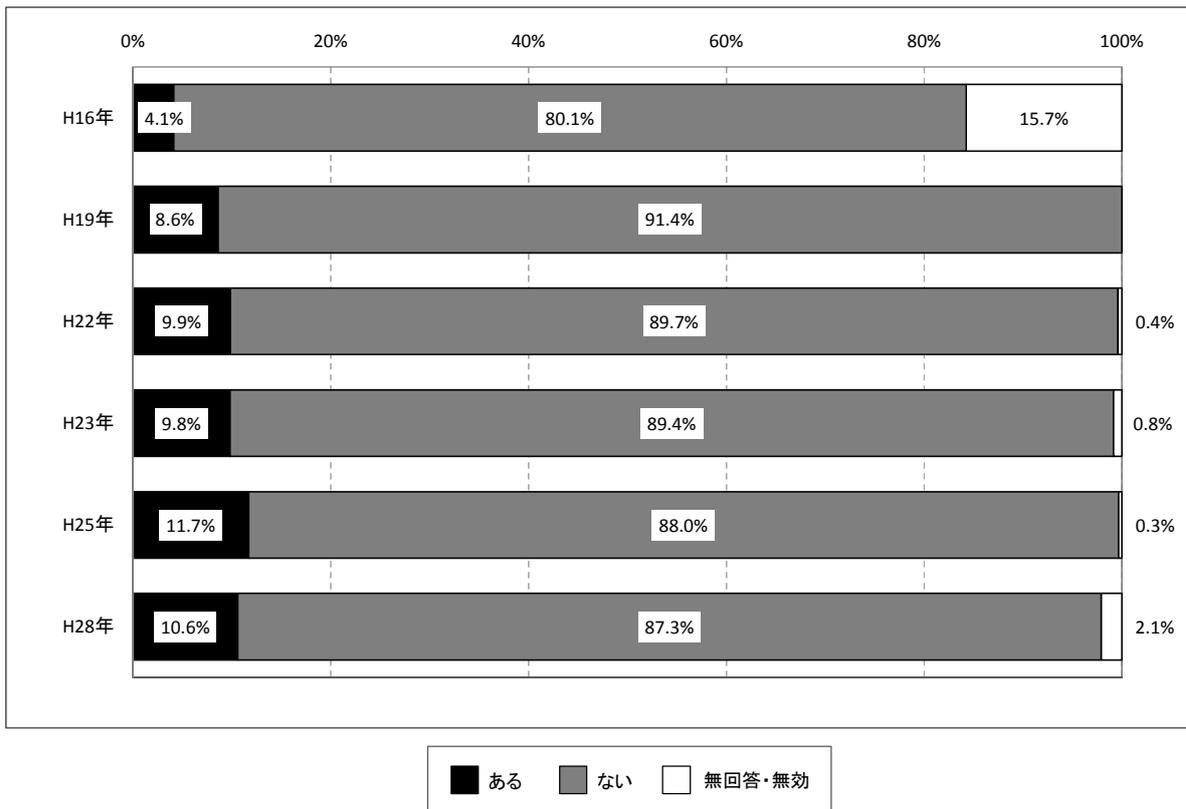


図 3.8-6 専門家による耐震診断を受けたことがあるか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.8.5 耐震診断の結果はどうか

<問 26 で「ある」と回答された方にお聞きします。>

問 26-1 耐震診断をした結果はどうでしたか(ひとつだけ○)。

- 耐震診断の結果について、「耐震補強が必要」は津波危険地区で 43.3%、全県地区で 29.6%となっている。

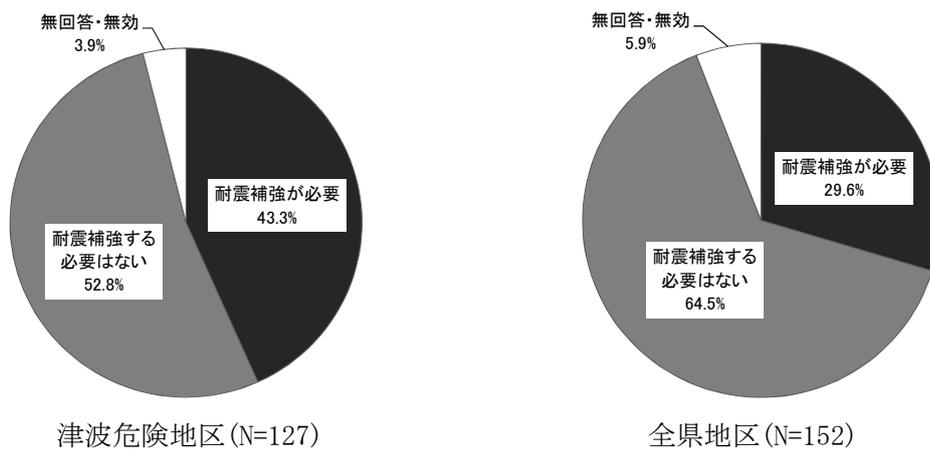


図 3.8-7 耐震診断の結果はどうか

・経年変化をみると、「耐震補強が必要」(35.8%)は、調査開始以降最も少なくなっている。

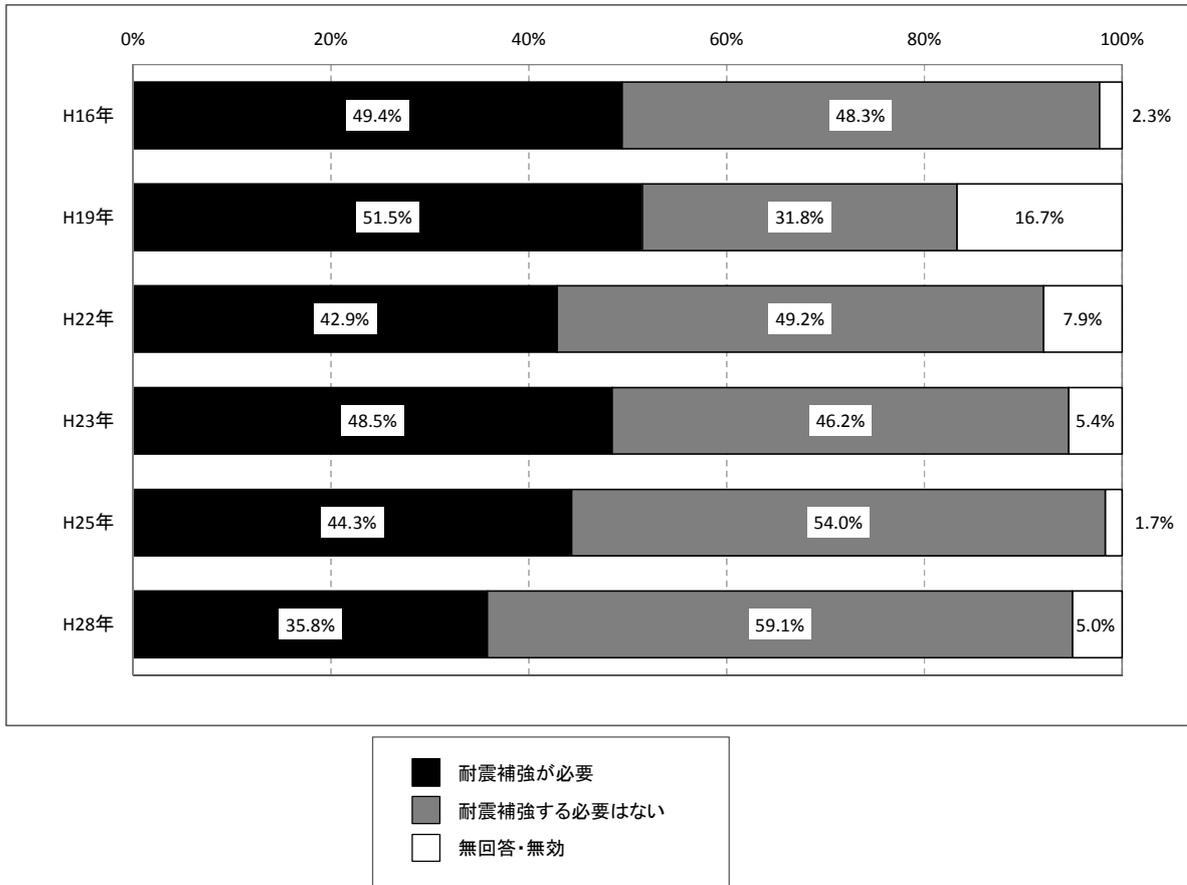


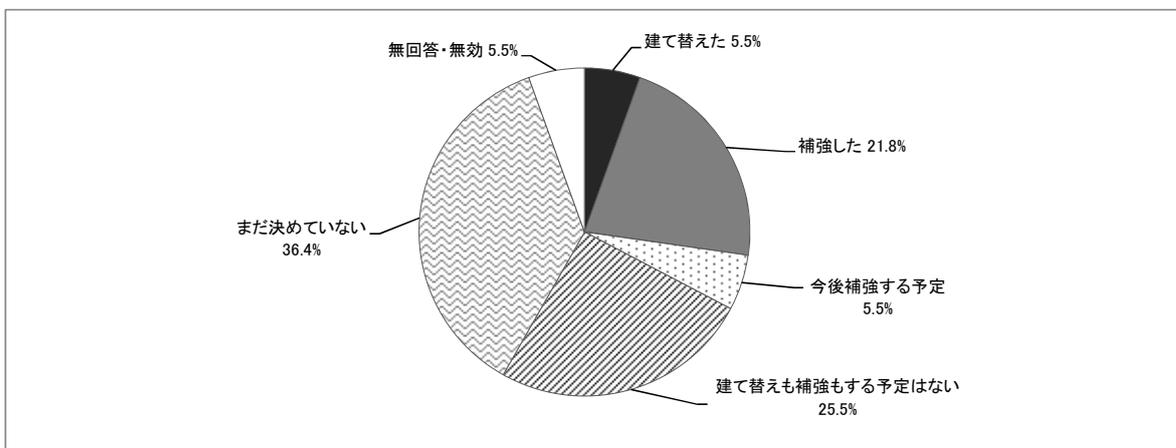
図 3.8-8 耐震診断の結果はどうか —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.8.6 耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか

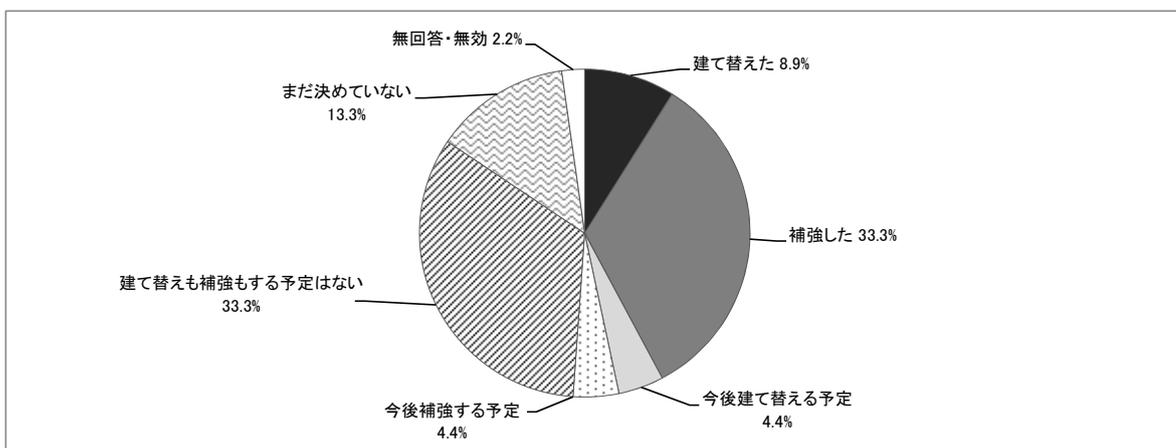
<問 26-1で「耐震補強が必要」と回答された方にお聞きします。>

問 26-2 耐震補強が必要と診断された後、どう対応しましたか(ひとつだけ○)。

- ・耐震補強が必要と診断された後の対応について、津波危険地区では「まだ決めていない」(36.4%)が最も高く、「建て替えた」、「補強した」、「今後補強する予定」は合計で32.8%となった。
- ・全県地区では「建て替えた」、「今後建て替える予定」、「補強した」、「今後補強する予定」は合計で51.0%となっている。



津波危険地区 (N=55)



全県地区 (N=45)

図 3.8-9 耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか

・経年変化をみると、補強等を行った割合（「建て替えた」、「補強した」の合計）は34.0%であり、平成25年の35.9%に次いで高くなっている。

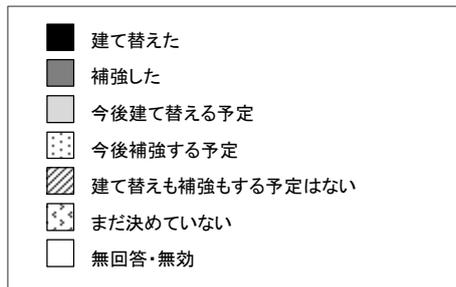
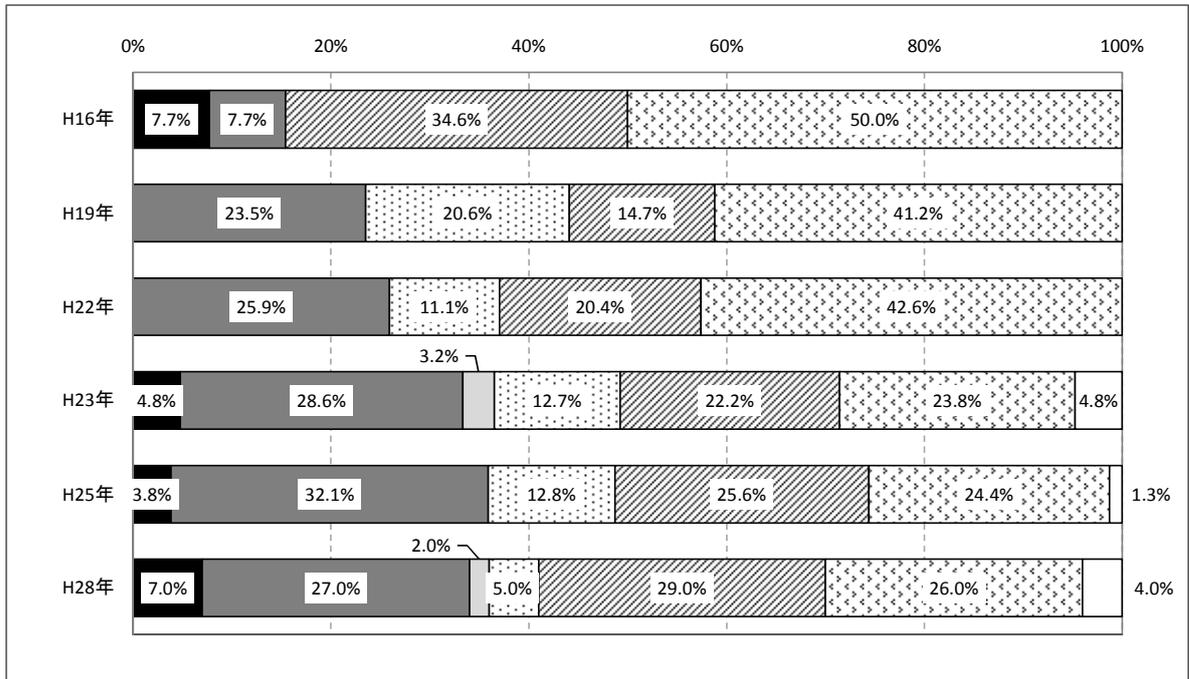


図 3.8-10 耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.8.7 耐震補強をすぐにしない理由は何か

＜問 26－2 で「建て替えも補強もする予定はない」または「まだ決めていない」と回答された方にお聞きします。＞

問 26－3 すぐに補強をしないのはなぜですか(いくつでも○)。

- ・耐震補強が必要と診断されても、すぐに補強をしない理由について、「費用がかかるから」が津波危険地区(64.7%)、全県地区(66.7%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから」が高く、50%を上回っている。

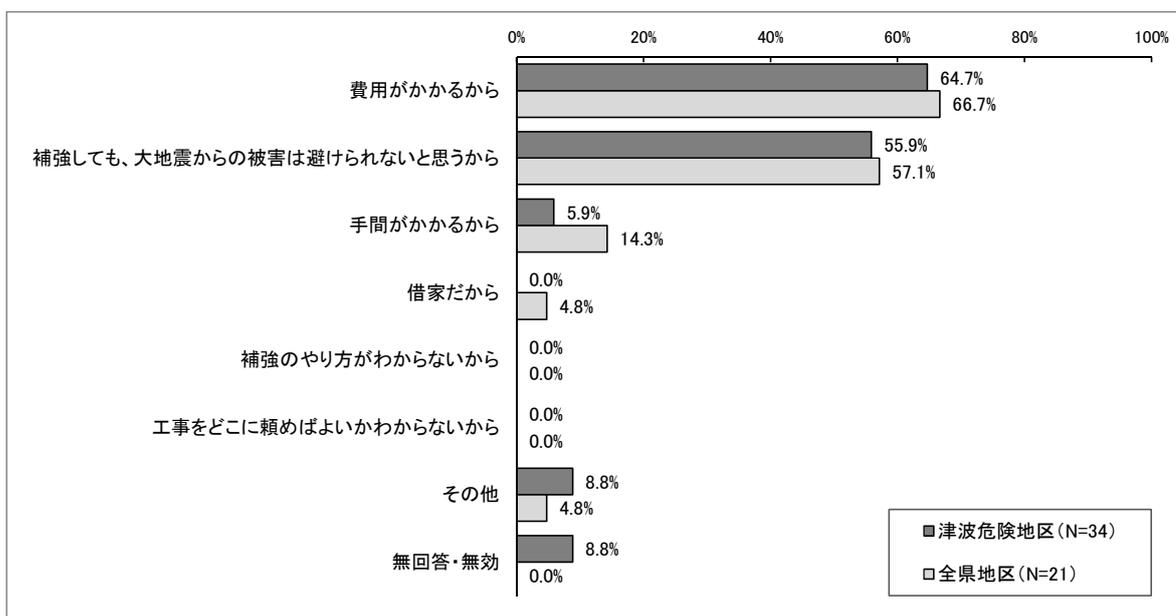


図 3.8-11 耐震補強をすぐにしない理由は何か

3.8.8 耐震診断を受けない理由は何か

<問 26 で「ない」と回答された方にお聞きします。>

問 26-4 耐震診断を受けていないのは、どうしてですか(いくつでも○)。

- ・耐震診断を受けていない理由について、津波危険地区では「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」(27.1%)が最も高く、次いで「耐震診断の費用がかかるから」(24.1%)が高くなっている。
- ・全県地区では「耐震診断の費用がかかるから」(23.2%)が最も高く、次いで「耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから」(20.6%)が高くなっている。

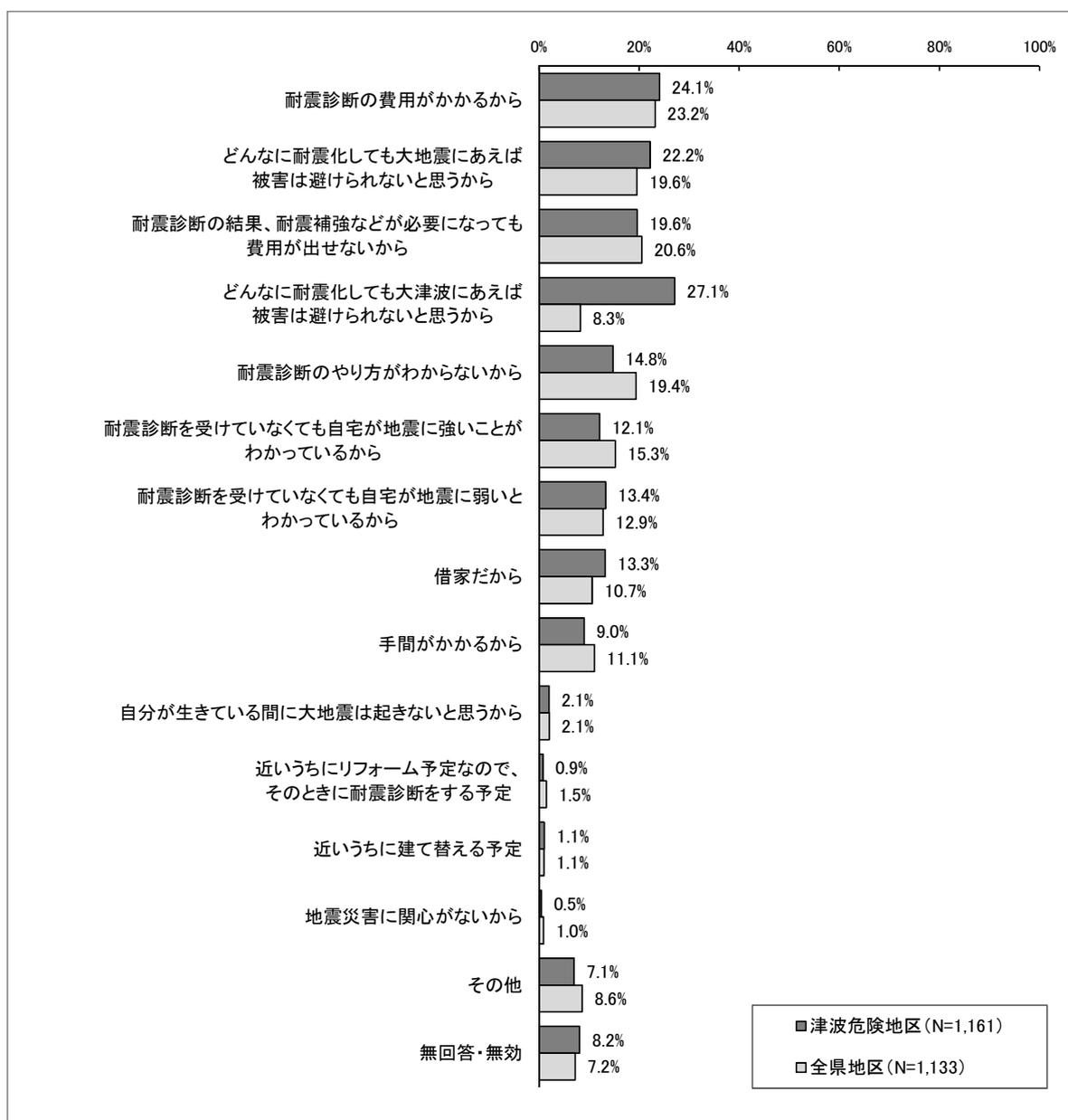


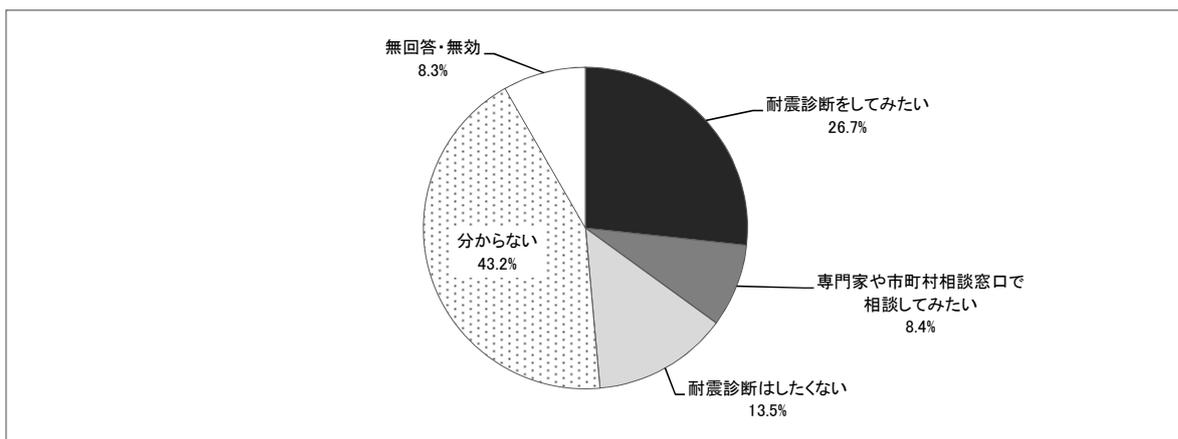
図 3.8-12 耐震診断を受けていない理由は何か

3.8.9 今後耐震診断を受けたいか

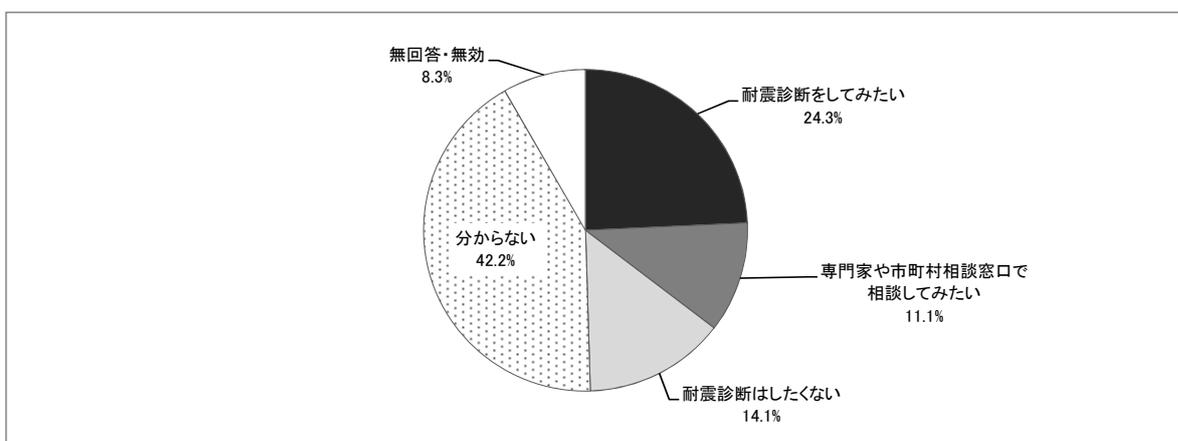
<問 26 で「ない」と回答された方にお聞きします。>

問 26-5 今後、耐震診断をしたいと思いますか(ひとつだけ○)。

- ・今後耐震診断を受けたいかについて、耐震診断に関心を持つ割合(「耐震診断をしてみたい」、「専門家や市町村相談窓口で相談してみたい」の合計)は津波危険地区で 35.1%、全県地区で 35.4%となっている。



津波危険地区 (N=1, 161)



全県地区 (N=1, 133)

図 3.8-13 今後、耐震診断を受けたいか

・経年変化をみると、「耐震診断をしてみたい」(25.5%)は、増加傾向にある。

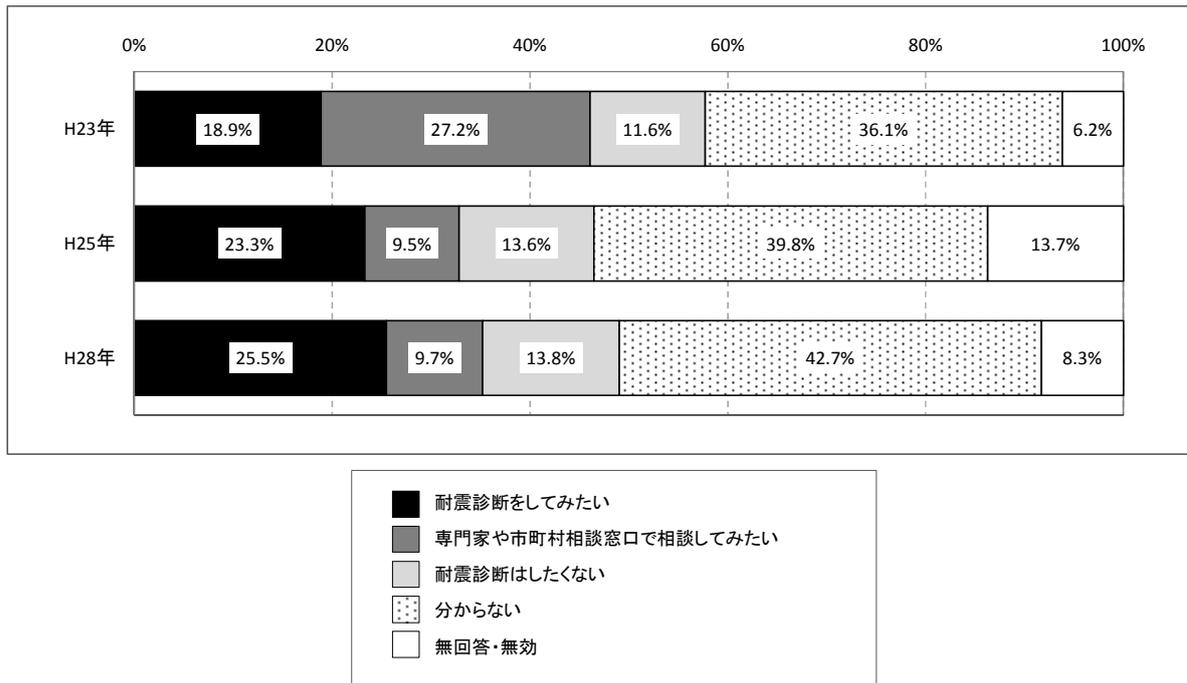


図 3.8-14 今後耐震診断を受けたいか —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.8.10 住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問 27 今後、住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつでも○)。

- ・住宅の耐震化を促進するために県や市町村がすべきことについて、「耐震診断の専門家の無料派遣」が津波危険地区(59.6%)、全県地区(65.6%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充」が高く、津波危険地区で33.8%、全県地区で38.9%となっている。

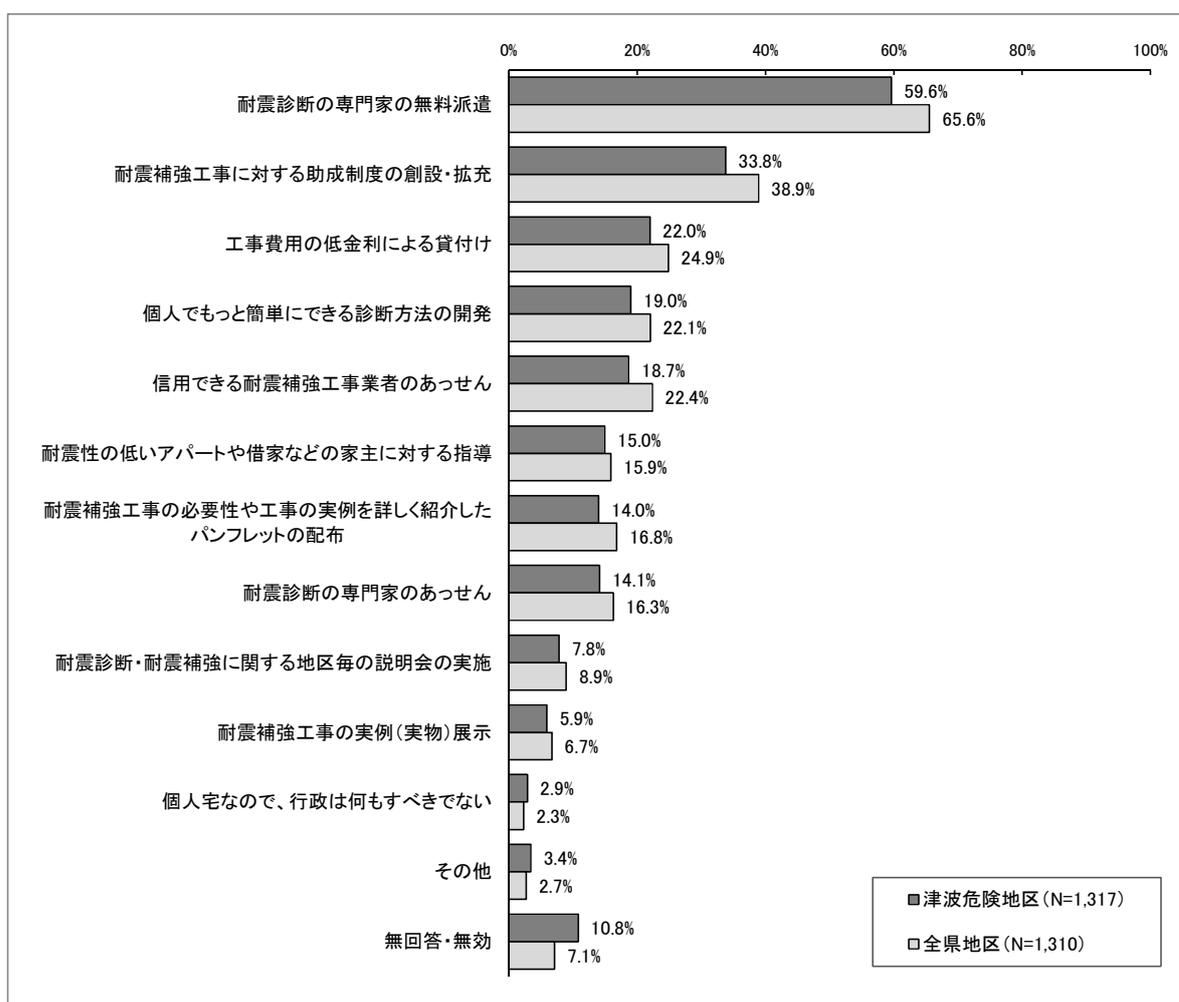


図 3.8-15 住宅の耐震化を促進するため、県や市町村は何をすべきだと思うか

・経年変化をみると、ほとんどの項目で前回(平成25年)から減少している。

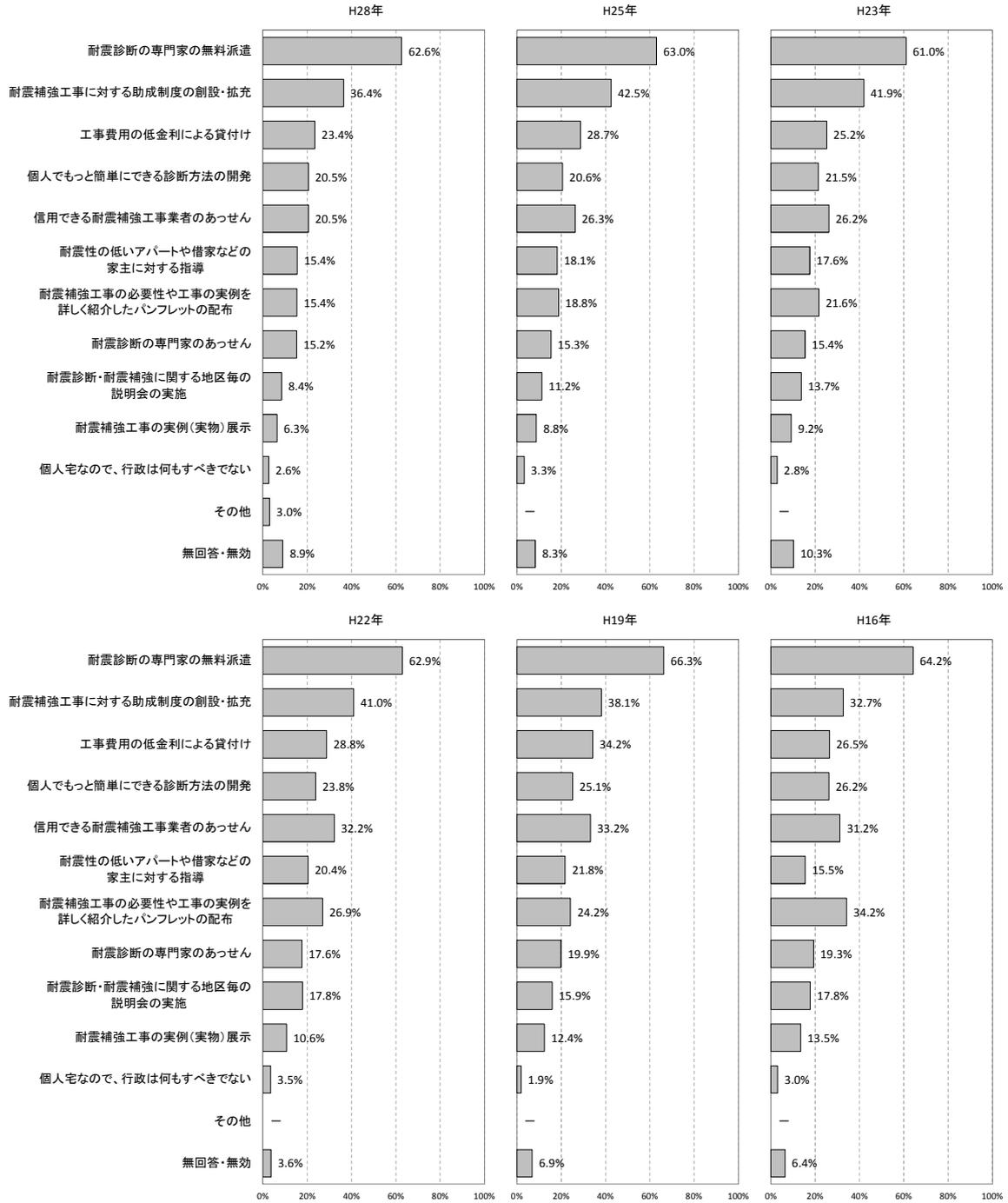
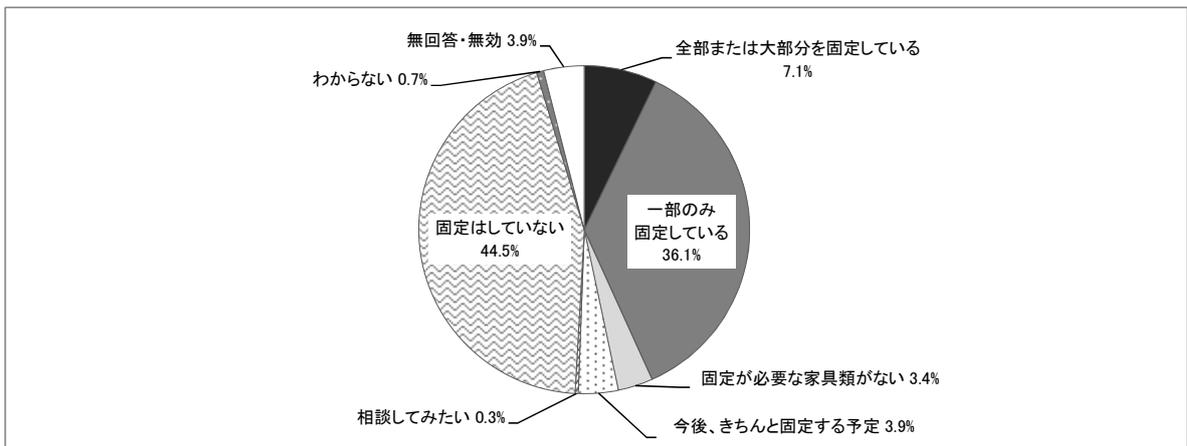


図 3.8-16 住宅の耐震化を促進するため、県や市町村は何をすべきだと思うか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

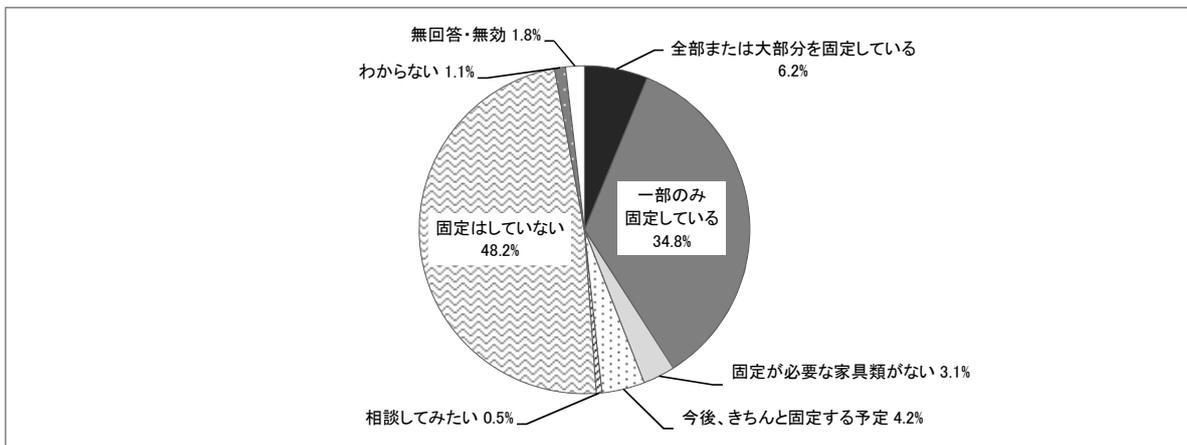
3.8.11 家具等の固定をしているか

問 28 あなたのお宅では家具等の固定をしていますか(ひとつだけ○)。

- ・家具等の固定をしているかについて、「固定はしていない」が津波危険地区(44.5%)、全県地区(48.2%)とも最も高くなっている。
- ・家具等の固定をしている割合(「全部または大部分を固定している」、「一部のみ固定している」、「固定が必要な家具類がない」の合計)は津波危険地区で46.6%、全県地区で44.1%となっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

図 3.8-17 家具等の固定をしているか

・経年変化をみると、家具等を固定している割合は45.5%であり、前回(平成25年)の43.8%からほぼ横ばいとなっている。

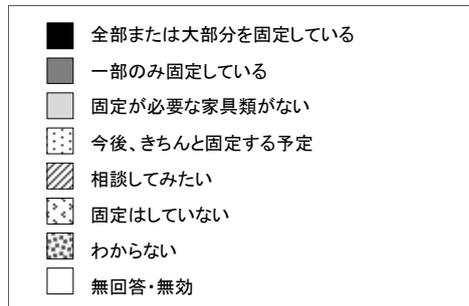
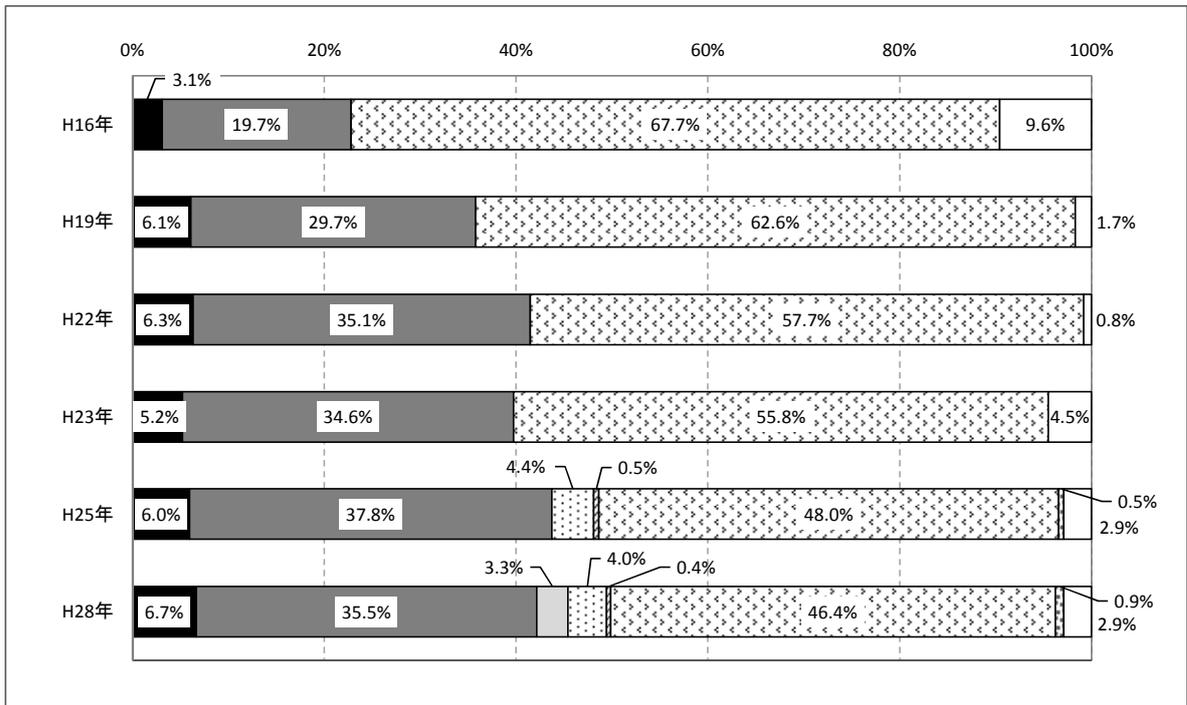


図 3.8-18 家具等の固定をしているか —経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.8.12 家具等の固定をしていないのはなぜか

<問 28 で「固定はしていない」と回答された方にお聞きします。>

問 28-1 家具等の固定をしていないのはどのような理由からですか(いくつでも○)。

- ・家具等を固定していない理由について、津波危険地区では「手間がかかるから」(24.1%)、「固定しても被害は出ると思うから」(24.1%)が最も高くなっている。
- ・全県地区では「手間がかかるから」(28.8%)が最も高く、次いで「費用がかかるから」(22.2%)が高くなっている。

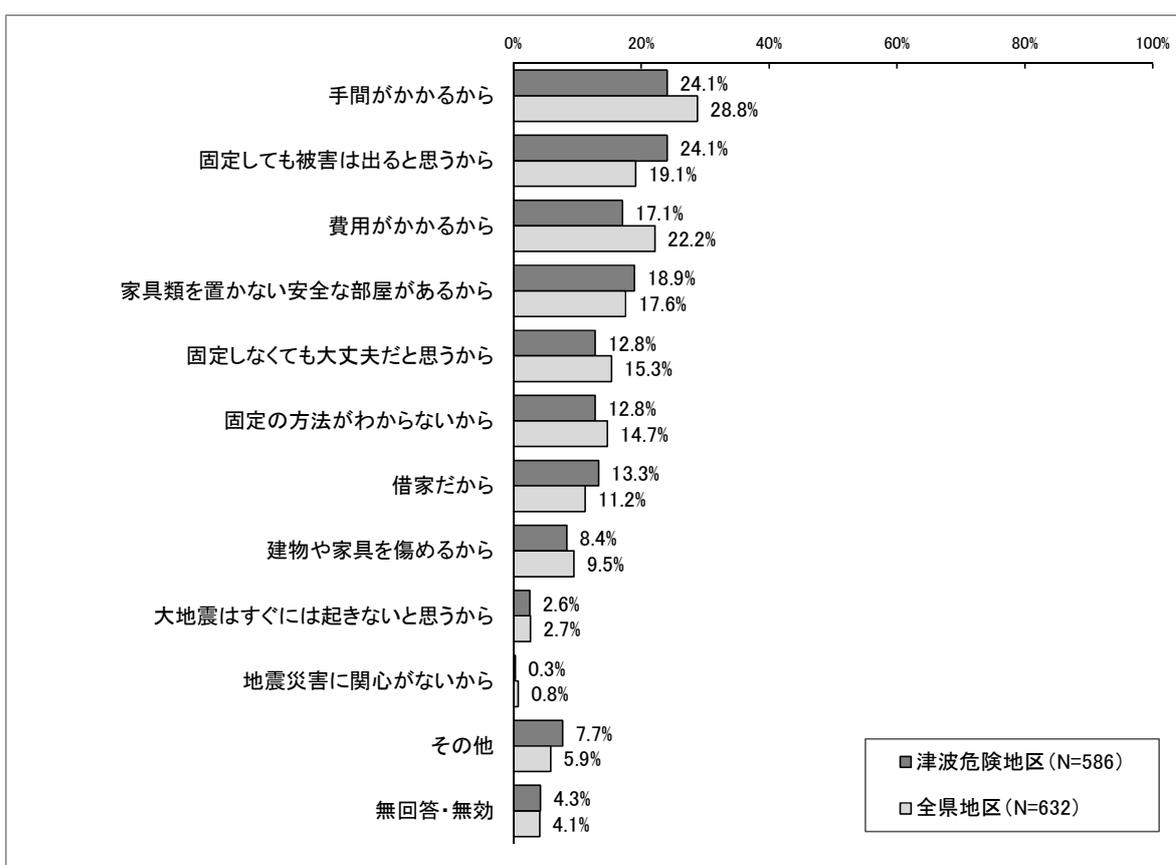


図 3.8-19 家具等を固定していない理由は何か

・経年変化をみると、「費用がかかるから」(19.7%)、「借家だから」(12.2%)は、前回(平成25年)から増加している。一方、「固定しても被害は出ると思うから」(21.5%)は、前回の27.3%から減少している。

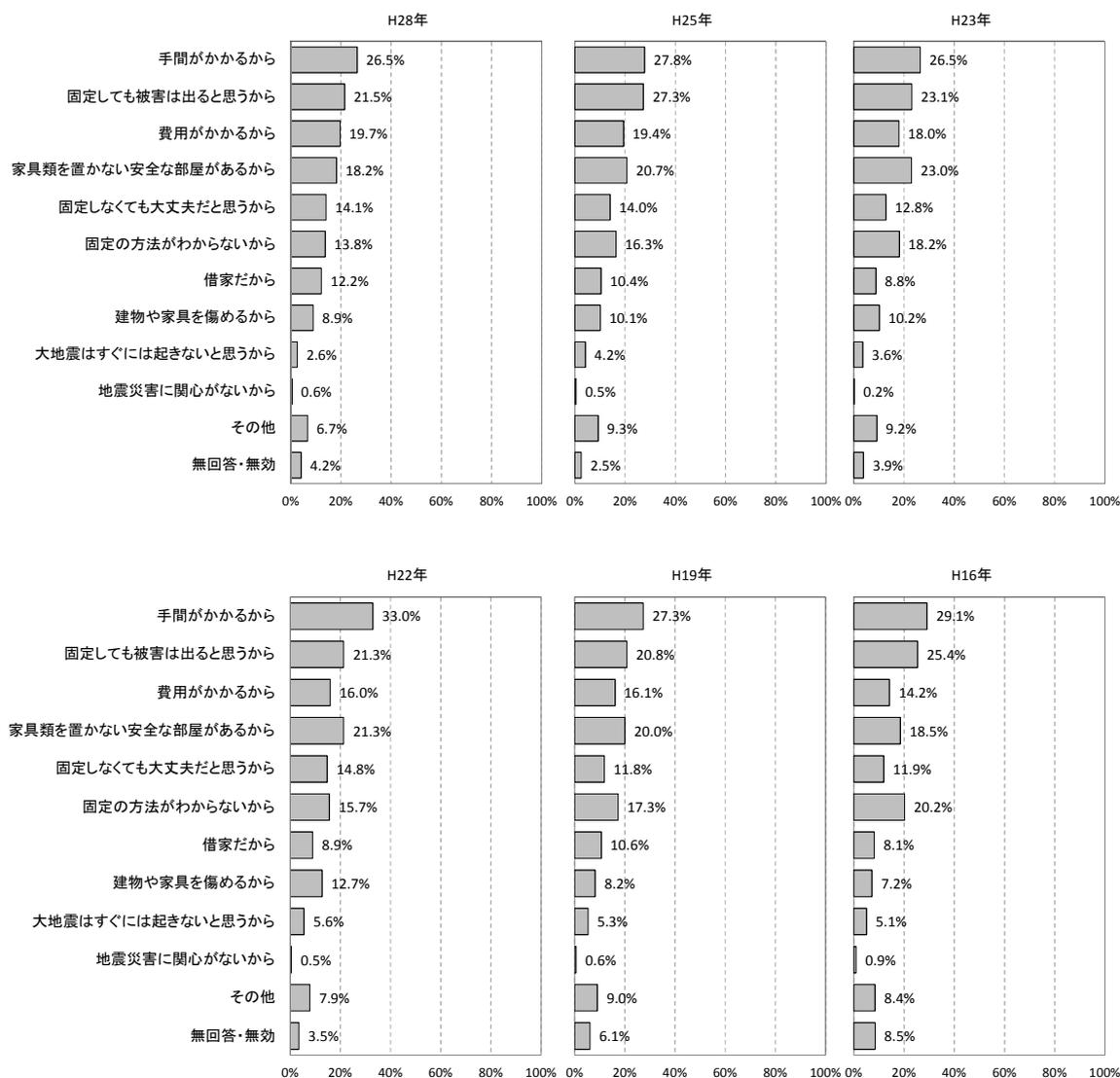


図 3.8-20 家具等を固定していない理由は何か
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.8.13 家具等の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問 29 家具等の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか(いくつでも○)。

- ・家具等の固定を促進するために県や市町村がすべきことについて、津波危険地区、全県地区とも「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」が最も高く、40%を上回っている。
- ・次いで「家具類の固定に必要な援助」、「無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣」が高くなっている。

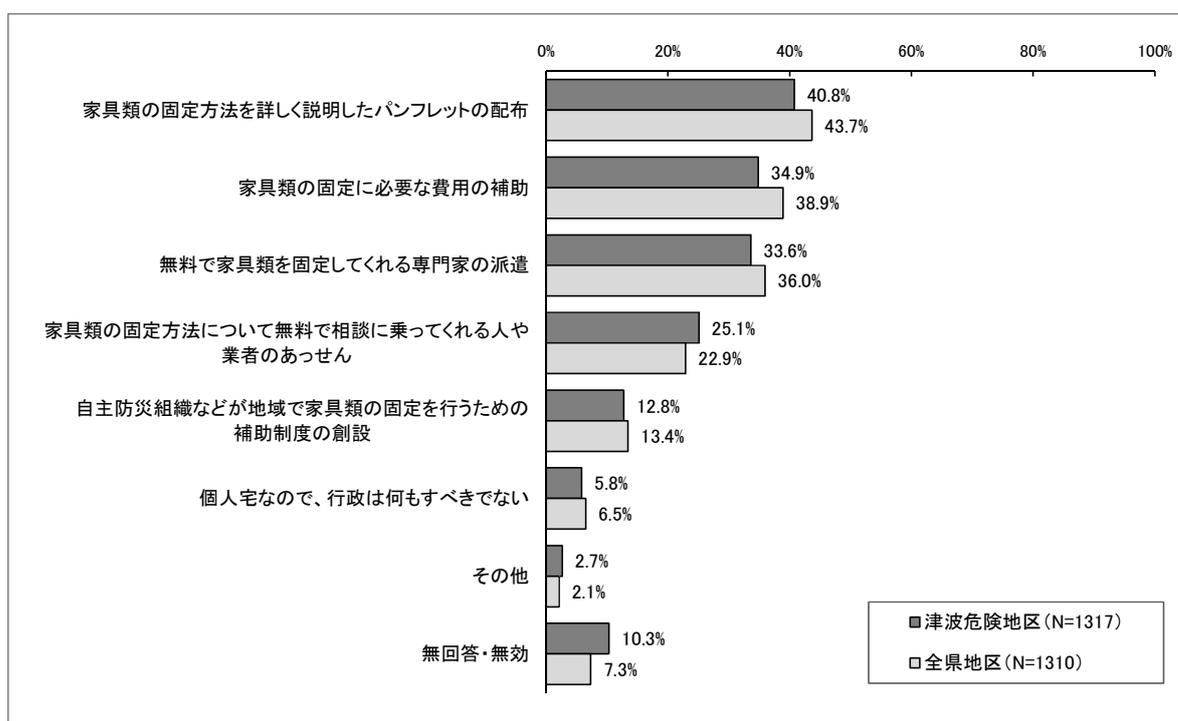


図 3.8-21 家具等の固定を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思うか

- ・経年変化をみると、「家具等の固定に必要な費用の補助」(36.9%)、「無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣」(34.8%)、「家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん」(24.0%)は、前回(平成25年)から増加している。

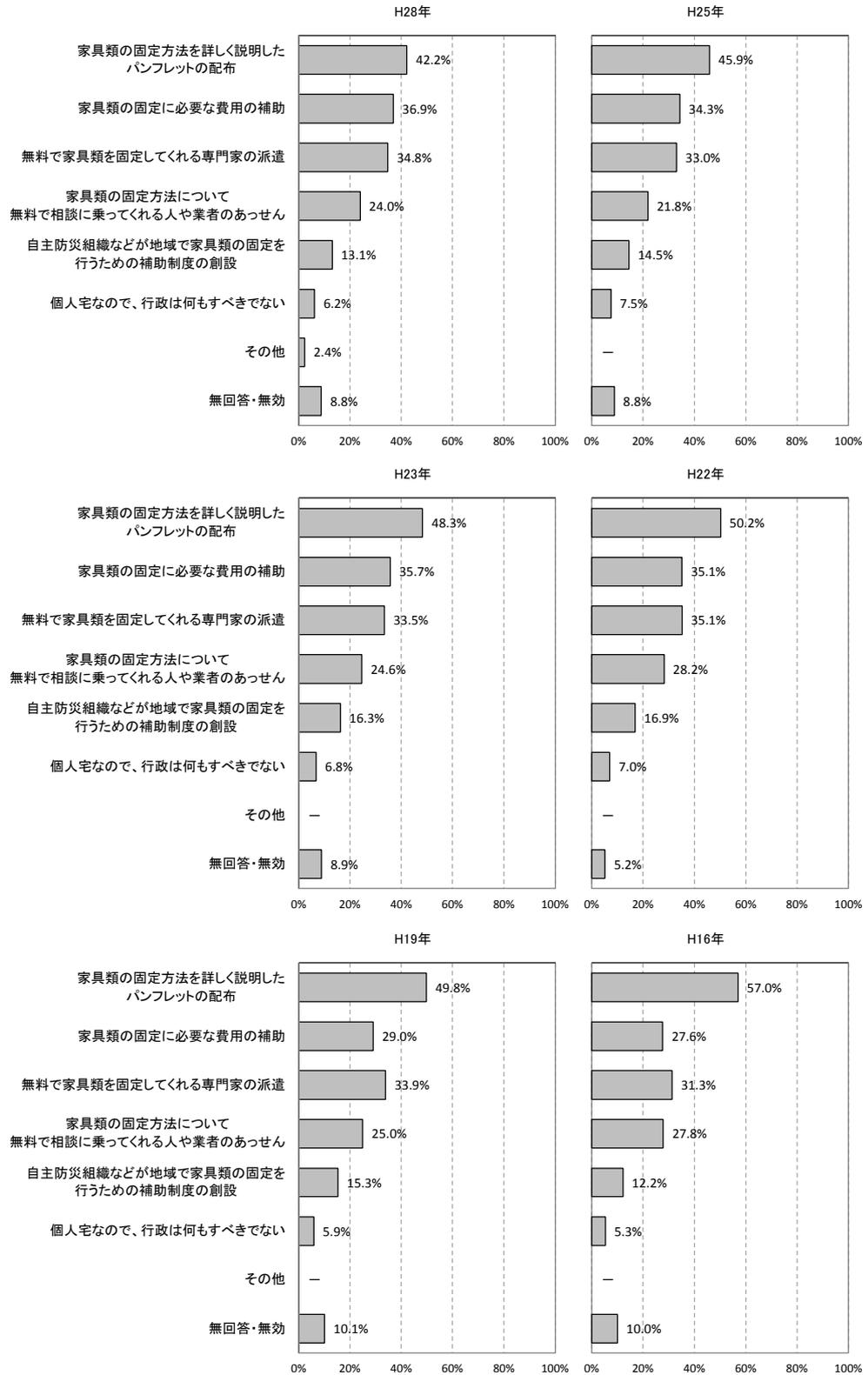
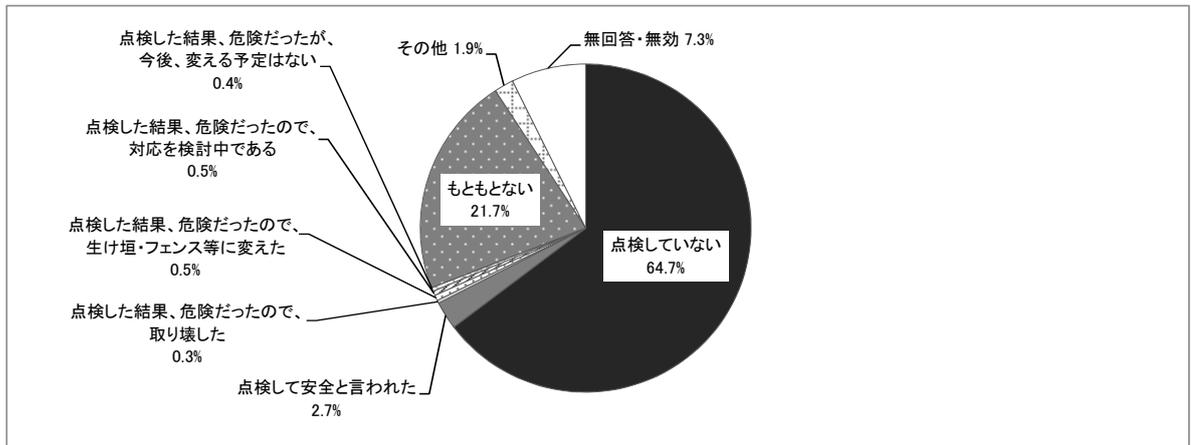


図 3.8-22 家具等の固定を促進するため、県や市町村は何をすべきだと思うか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

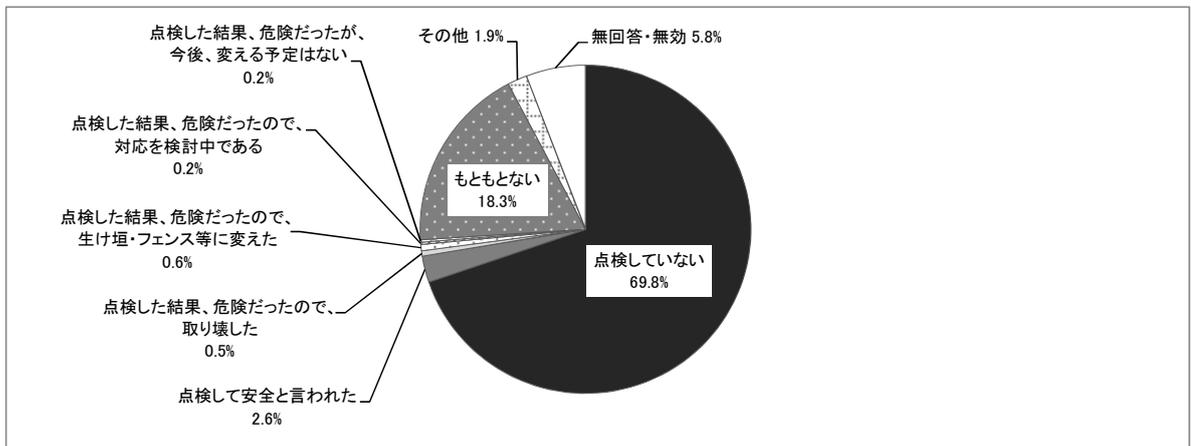
3.8.14 ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検し、どのような対応したか

問 30 ご自宅のブロック塀や石塀、門柱など、地震時の安全性を業者依頼するなどにより点検しましたか。また、点検した結果、どのような対応をしましたか(ひとつだけ○)。

- ・ 自宅のブロック塀や石塀、門柱など地震時の安全性を点検し、どのような対応をしたかについて、「点検していない」が津波危険地区(64.7%)、全県地区(69.8%)とも最も高くなっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

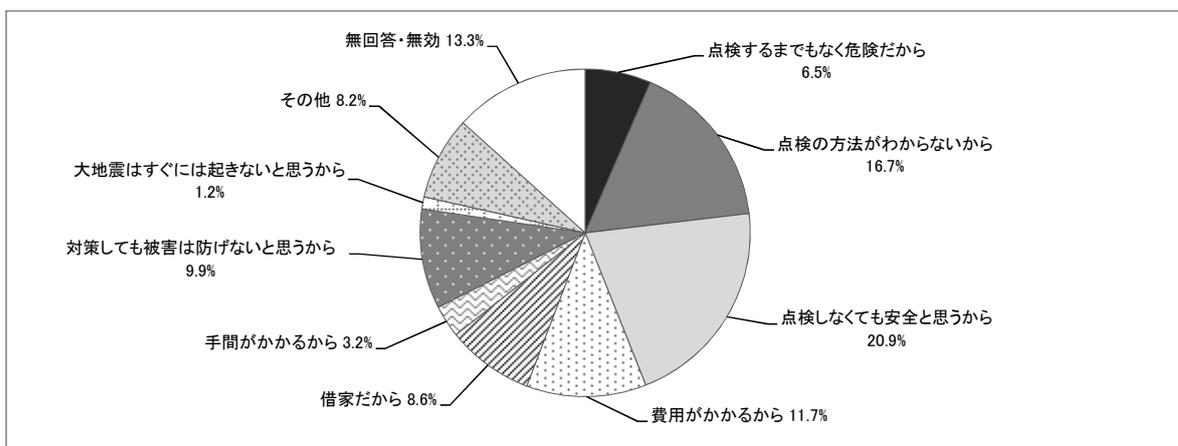
図 3.8-23 ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検し、どのような対応をしたか

3.8.15 点検していないのはなぜか

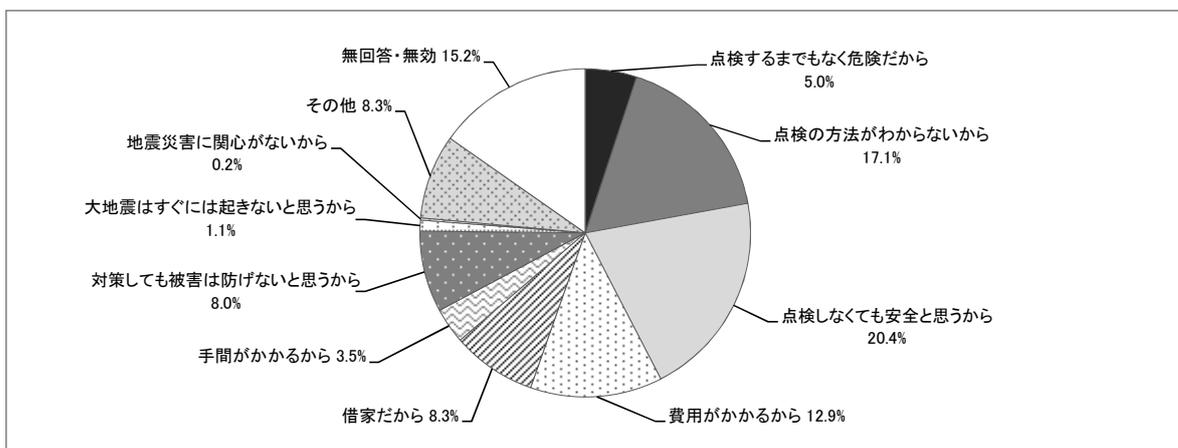
＜問 30 で「点検していない」と回答された方にお聞きします。＞

問 30-1 点検していない主な理由は何ですか(ひとつだけ○)。

- ・ 自宅のブロック塀や石塀、門柱などの安全性の点検をしていない理由について、「点検しなくても安全と思うから」が津波危険地区(20.9%)、全県地区(20.4%)とも最も高くなっている。
- ・ 次いで「点検の方法がわからないから」、「費用がかかるから」が高くなっている。



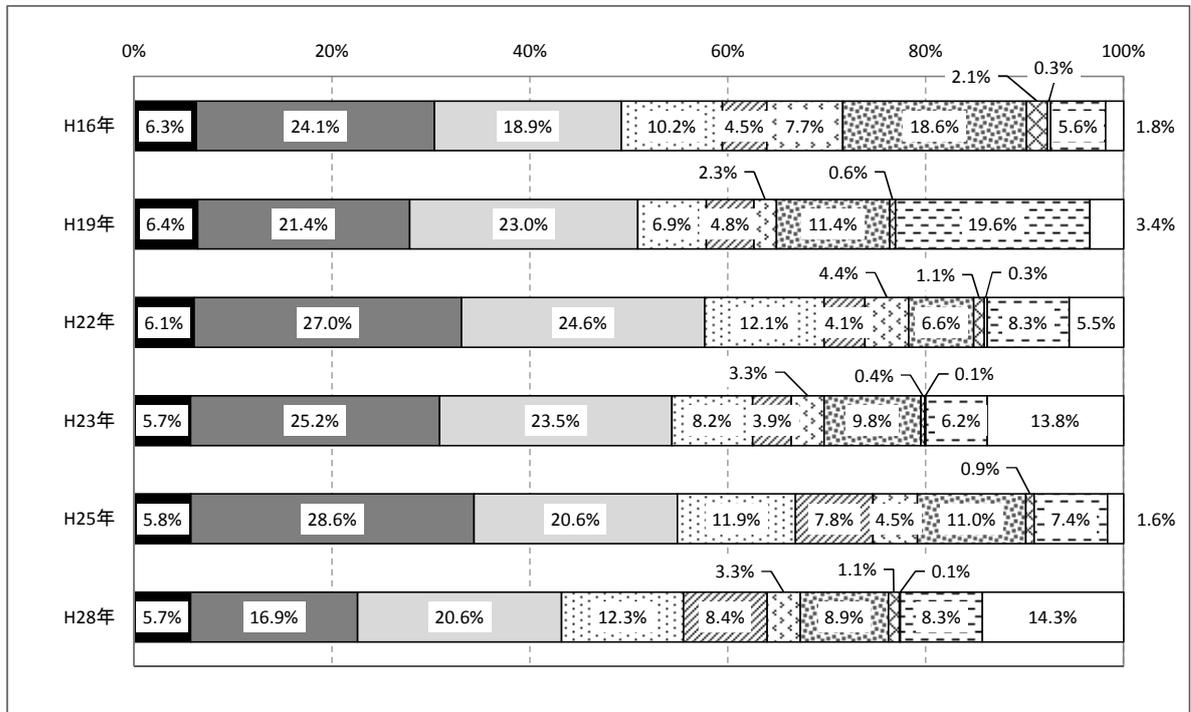
津波危険地区 (N=852)



全県地区 (N=914)

図 3.8-24 (ブロック塀や石塀、門柱などを) 点検していない理由は何か

・経年変化をみると、「点検の方法がわからないから」(16.9%)は、調査開始以降最も低くなっている。一方、「費用がかかるから」(12.3%)は、調査開始以降最も高くなっている。



- 点検するまでもなく危険だから
- 点検の方法がわからないから
- 点検しなくても安全と思うから
- 費用がかかるから
- 借家だから
- 手間がかかるから
- 対策しても被害は防げないと思うから
- 大地震はすぐには起きないと思うから
- 地震災害に関心がないから
- その他
- 無回答・無効

図 3.8-25 (ブロック塀や石塀、門柱などを)点検していない理由は何か
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.8.16 すぐに対応しない理由は何か

＜問 30 で「点検した結果、危険だったので、対応を検討中である」または「点検した結果、危険だったが、今後、変える予定はない」と回答された方にお聞きします。＞

問 30-2 すぐに対応しないのはなぜですか(いくつでも○)。

- ・ 自宅のブロック塀や石塀、門柱などが危険でもすぐに対応しない理由について、津波危険地区では「費用がかかるから」(45.5%)が最も高く、次いで「手間がかかるから」(36.4%)が高くなっている。
- ・ 全県地区では「費用がかかるから」(66.7%)が最も高く、次いで「工事をどこに頼めば良いかわからないから」(33.3%)が高くなっている。

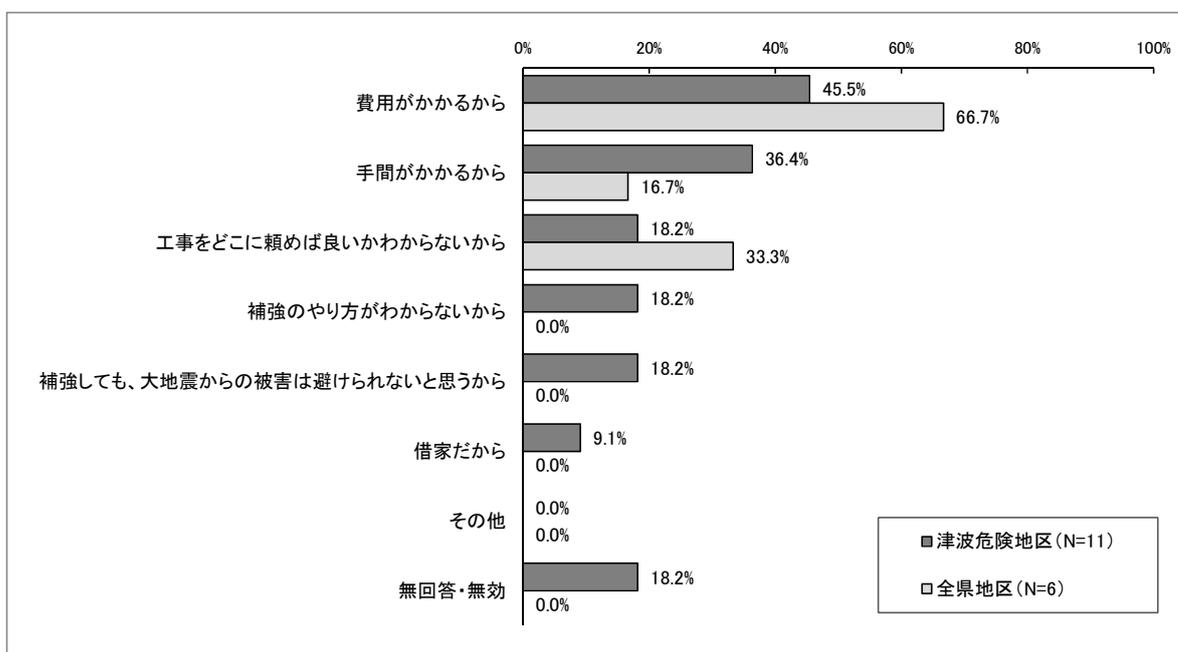


図 3.8-26 (自宅のブロック塀や石塀、門柱などが危険でも) すぐに対応しない理由は何か

3.8.17 ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問 31 今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか(いくつでも○)。

- ・ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきかについて、「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」が津波危険地区(50.7%)、全県地区(53.3%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布」、「塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化等の費用の補助」が高くなっている。

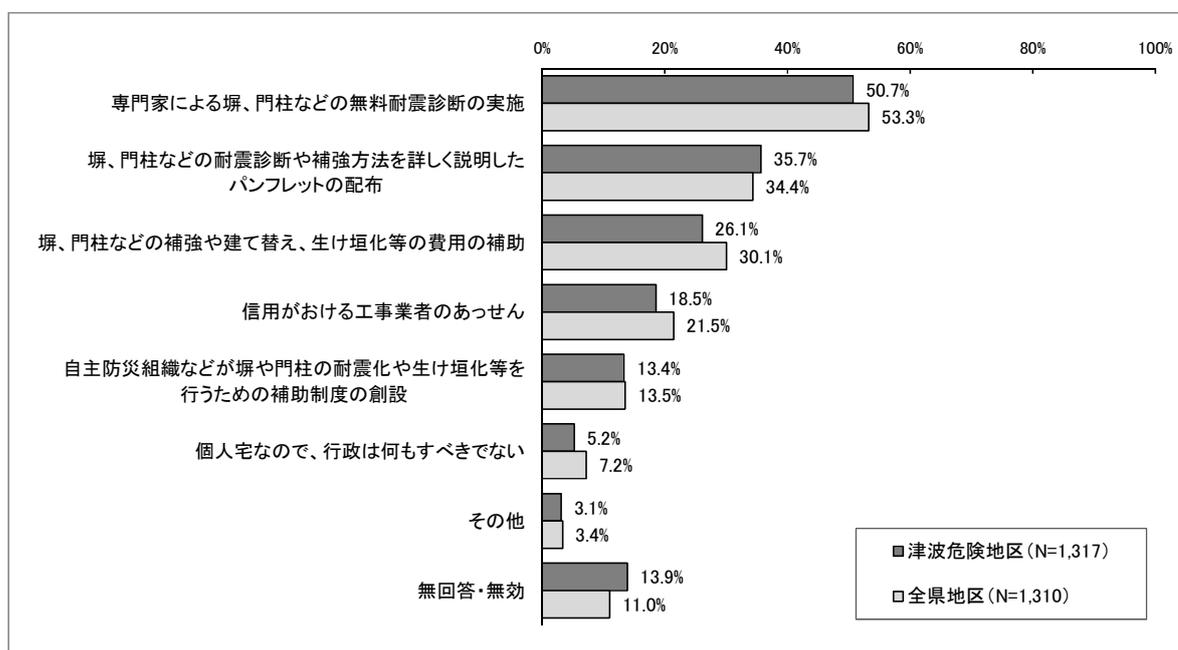


図 3.8-27 耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思うか

3.9. 日頃の防災対策について

3.9.1 どのような地震防災対策を行っているか

問32 南海トラフの地震などに備えて、どのような地震防災対策を行っていますか(いくつでも○)。

- ・南海トラフの地震などに備えた防災対策について、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(65.0%)が最も高くなっている。
- ・全県地区では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(51.9%)が最も高くなっている。

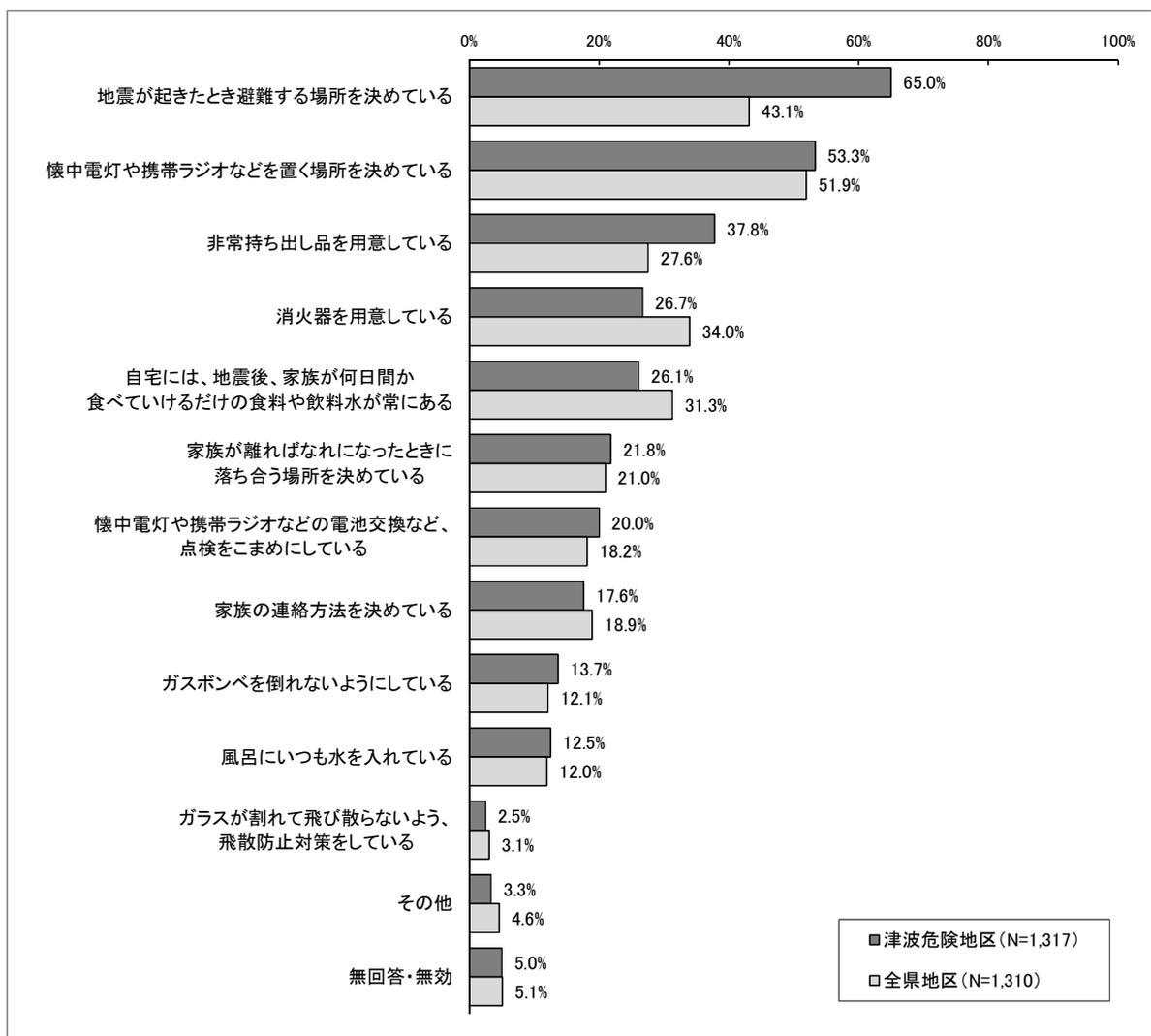


図 3.9-1 どのような地震防災対策を行っているか

- ・経年変化をみると、「非常持ち出し品を用意している」(32.7%)は、前回(平成 25 年)の 48.9%から大きく減少しているが、その他の項目では特に大きな変化はみられない。

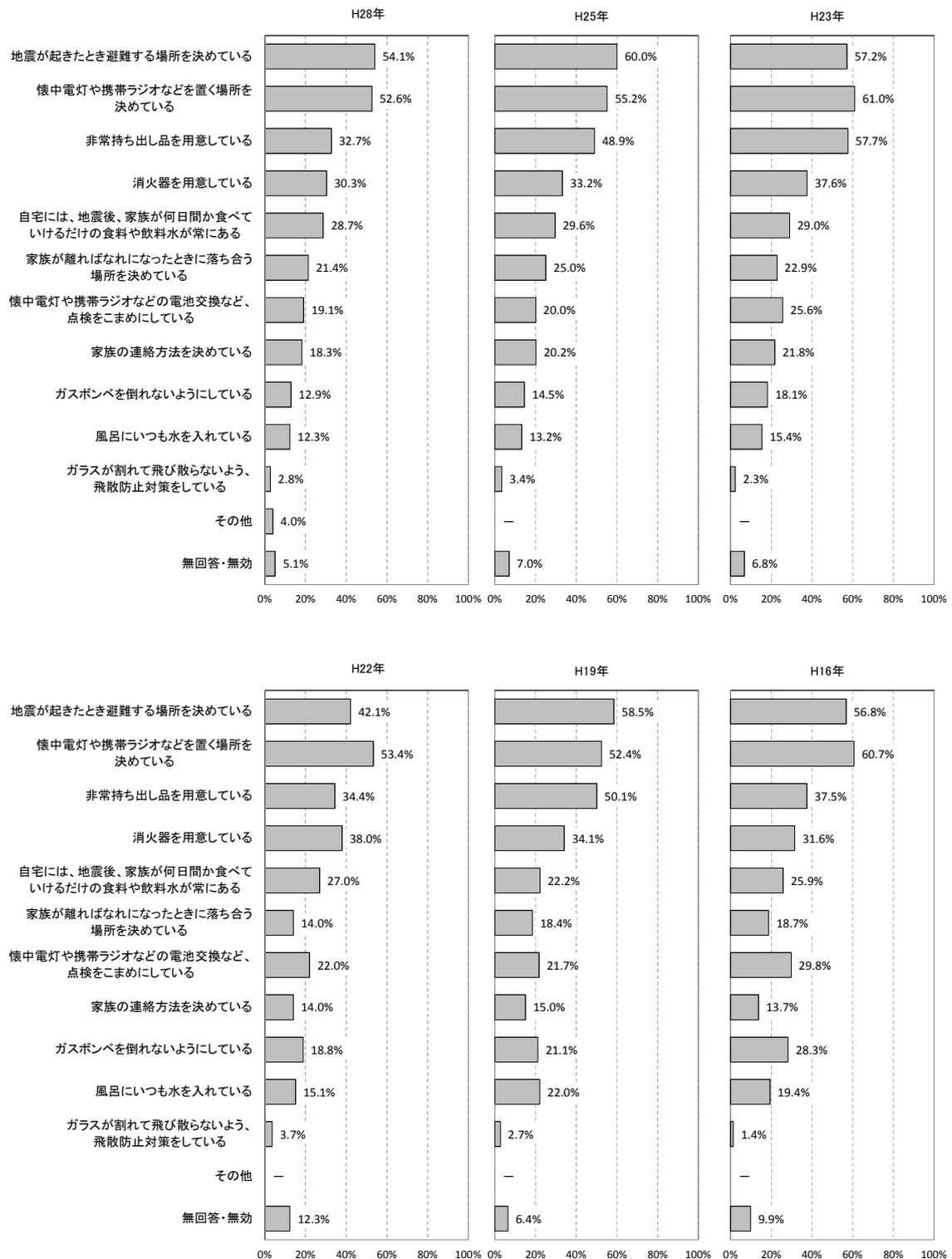


図 3.9-2 どのような地震防災対策を行っているか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.9.2 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か

<問 32 で「非常持ち出し品を用意している」と回答された方にお聞きします。>

問 32-1 非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものに○をつけてください(いくつでも○)。

- ・非常持ち出し品として置いてあるものは、津波危険地区、全県地区とも「懐中電灯」が最も高く、85%を上回っている。
- ・次いで「飲料水」、「携帯ラジオ」、「食料品」が高く、50%を上回っている。

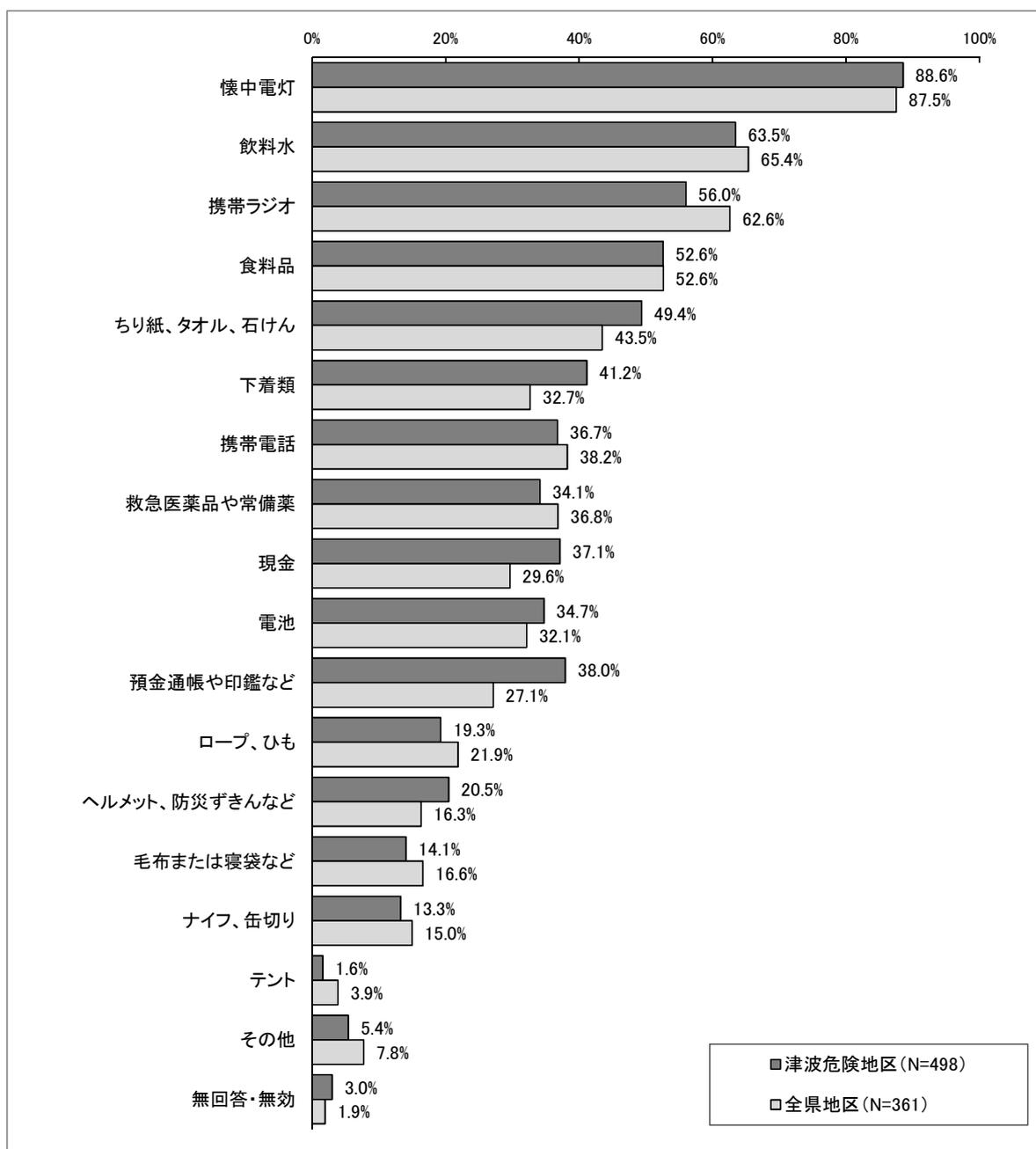


図 3.9-3 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か

・経年変化をみると、多くの項目で前回（平成 25 年度）から増加している。

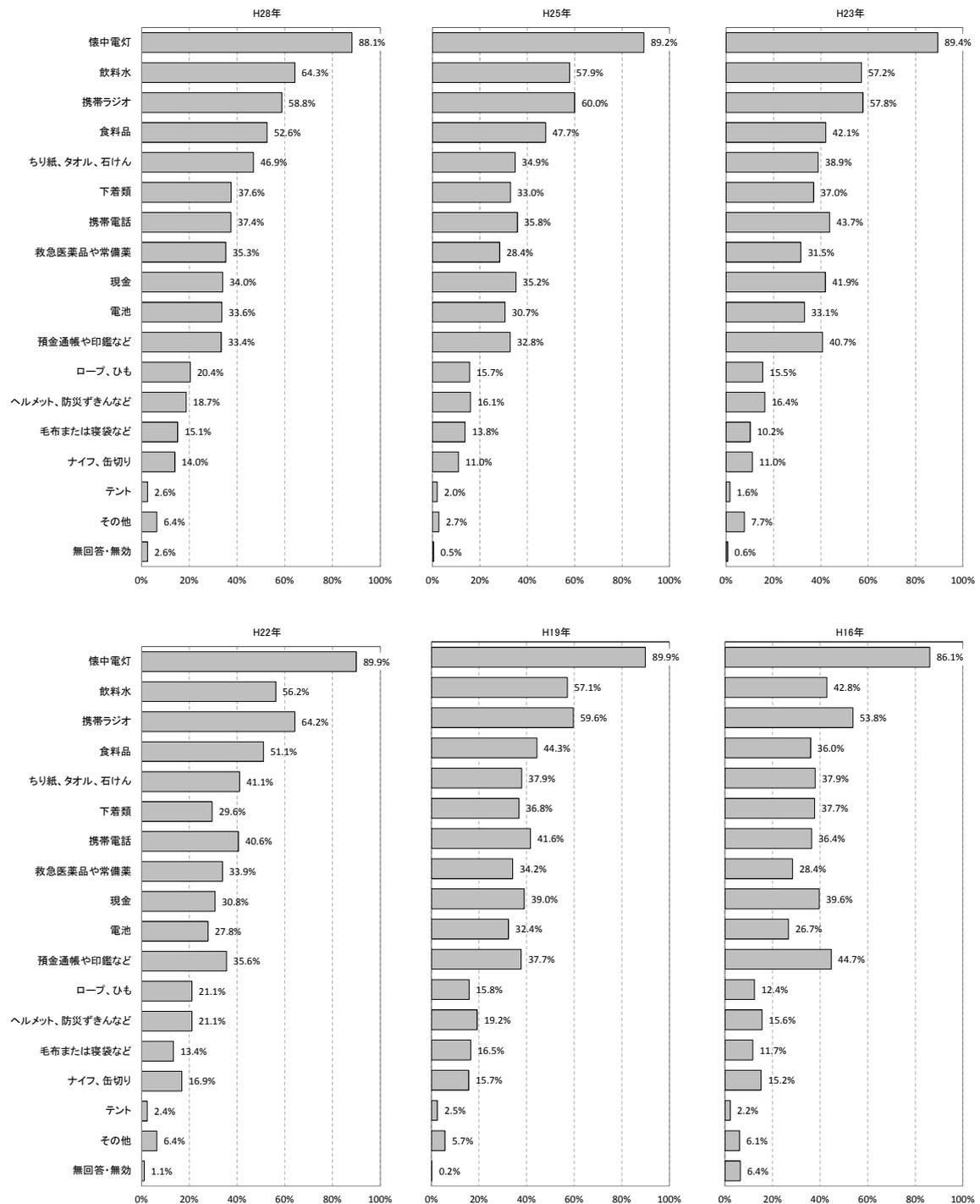
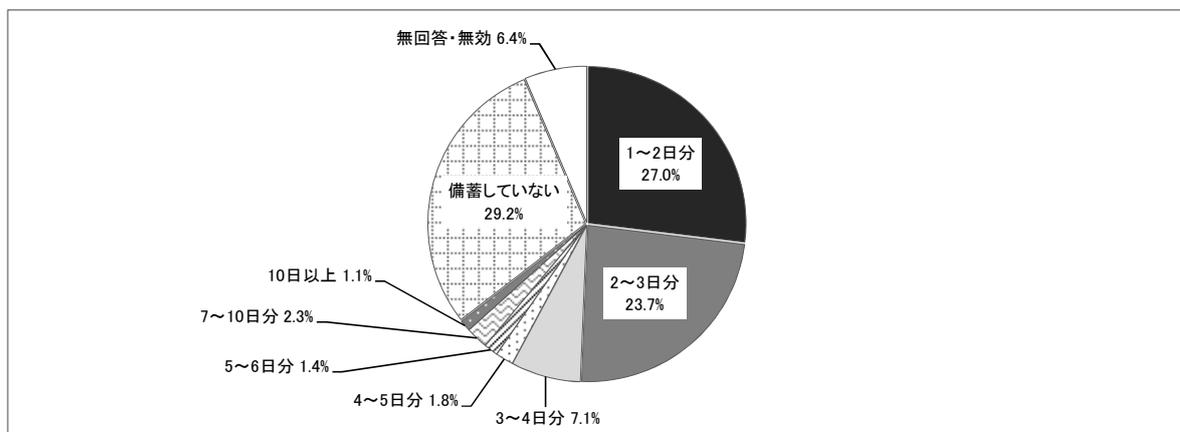


図 3.9-4 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

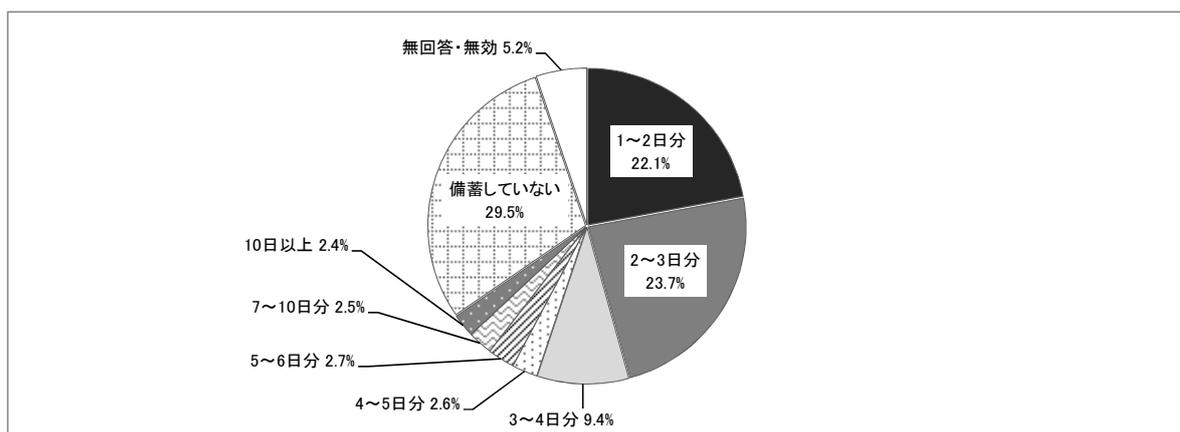
3.9.3 家庭では何日分の水や食料を備蓄しているか

問 33 あなたのご家庭では、何日分の水や食料を備蓄していますか。水は家族1人につき、1日3リットル・食料は1日3食としてお考えください(ひとつだけ○)。

- ・水や食料の備蓄量について、津波危険地区では、「1～2日分」(27.0%)が最も高く、次いで「2～3日分」(23.7%)となっている。
- ・全県地区では「2～3日分」(23.7%)が最も高く、次いで「1～2日分」(22.1%)となっている。
- ・「備蓄していない」は津波危険地区で29.2%、全県地区で29.5%となっている。



津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

図 3.9-5 何日分の水や食料を備蓄しているか

3.9.4 どのような建物や家財に関わる保険に加入しているか

問 34 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか(いくつかでも○)。

- ・建物や家財に関わる保険への加入について、「火災保険」が津波危険地区(57.7%)、全県地区(63.6%)とも最も高くなっている。
- ・次いで「地震保険」が高く、津波危険地区、全県地区とも約35%となっている。

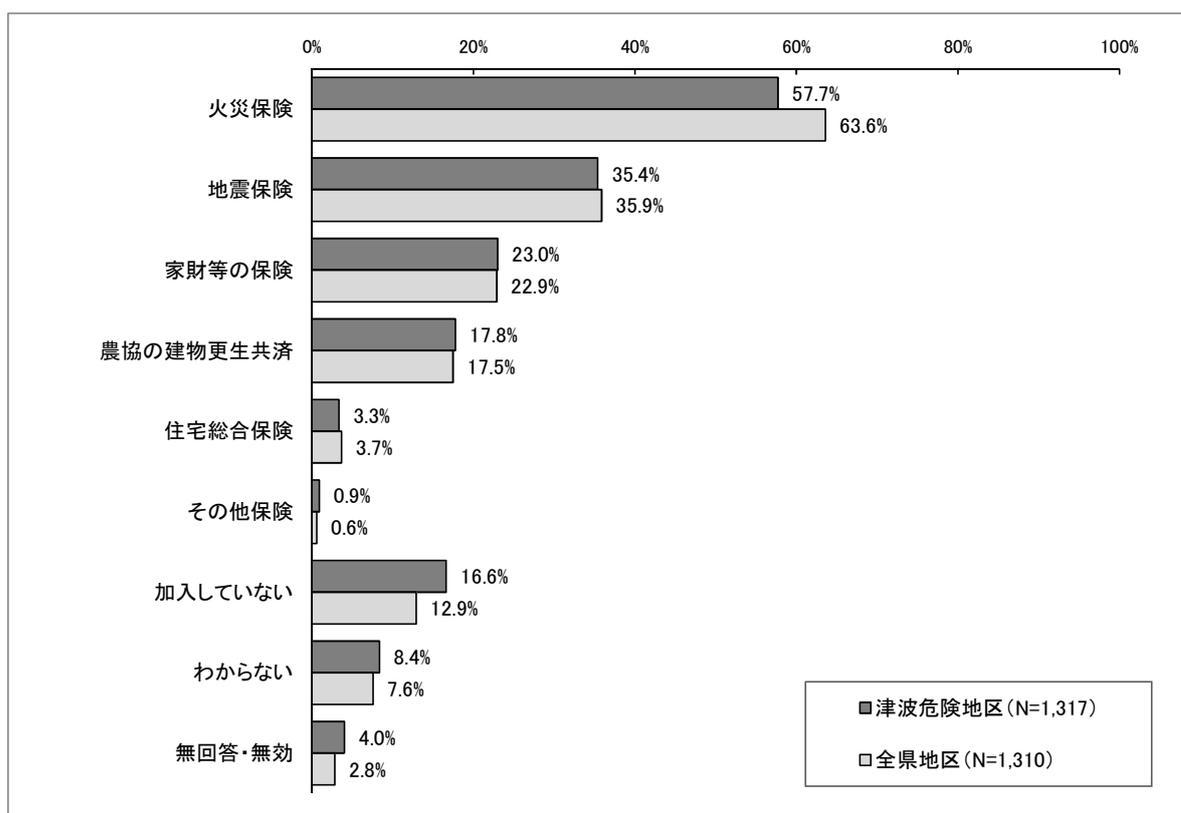


図 3.9-6 どのような建物や家財に関わる保険に加入しているか

3.9.5 「地震保険」等に参加していない理由は何か

<問 34 で「地震保険」、「農協の建物更生共済」、「わからない」以外を回答された方にお聞きします。>

問 34-1 「地震保険」などの地震への被害を補償対象とする保険に参加していない理由は何ですか(いくつでも○)。

- ・地震への被害を補償対象とする保険に参加していない理由について、「保険料が高いから」が津波危険地区(38.8%)、全県地区(45.3%)とも最も高くなっている。

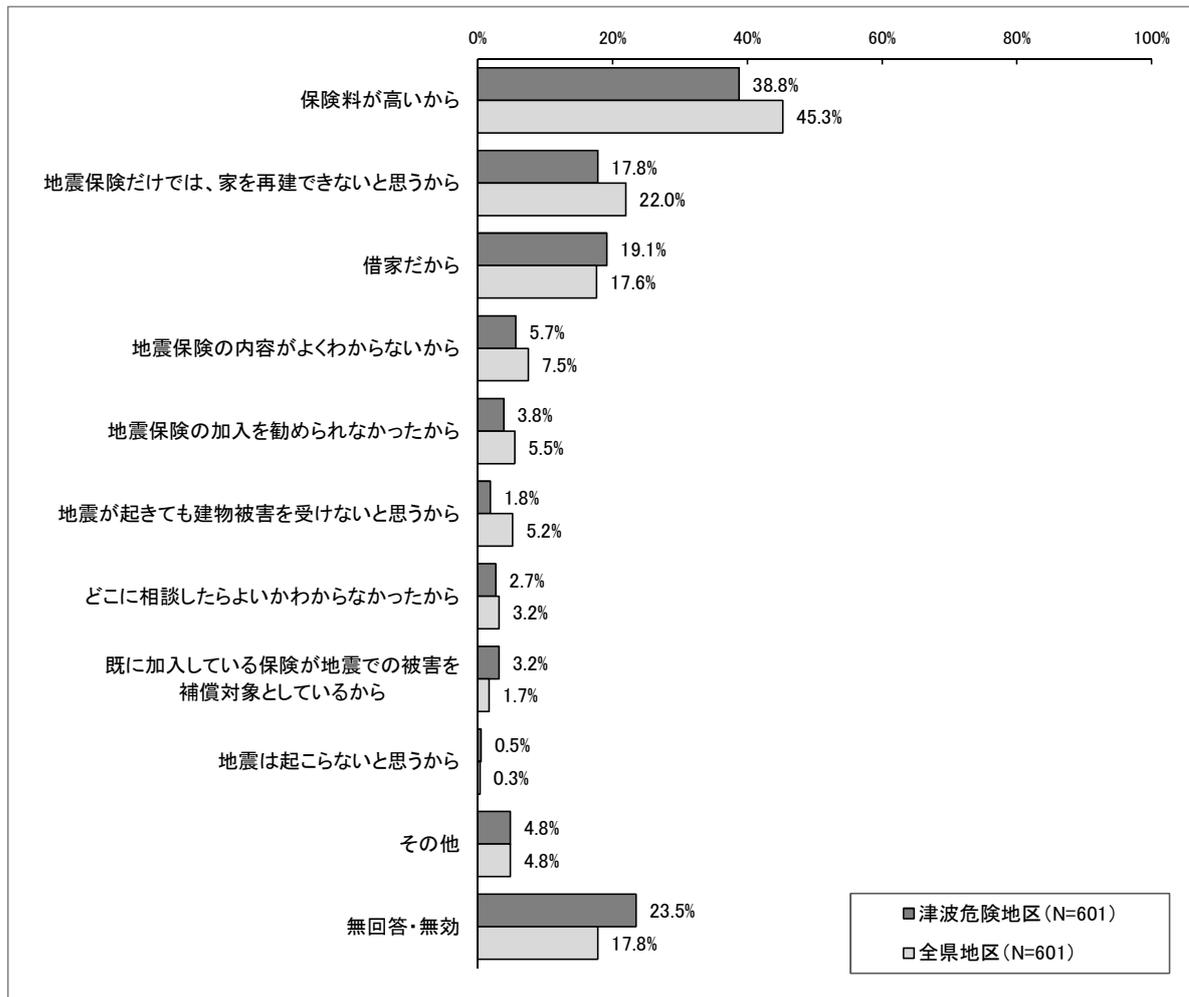


図 3.9-7 「地震保険」などの保険に参加していない理由は何か

3.9.6 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか

問 35 あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する防災訓練に参加したことがありますか(いくつでも○)。

- ・過去一年間に参加した防災訓練について、「県や市町村、消防機関が主催する防災訓練に参加した」が津波危険地区 (36.4%)、全県地区 (21.2%)とも最も高くなっている。
- ・「防災訓練に参加していない」は津波危険地区で38.0%、全県地区で50.7%となっている。

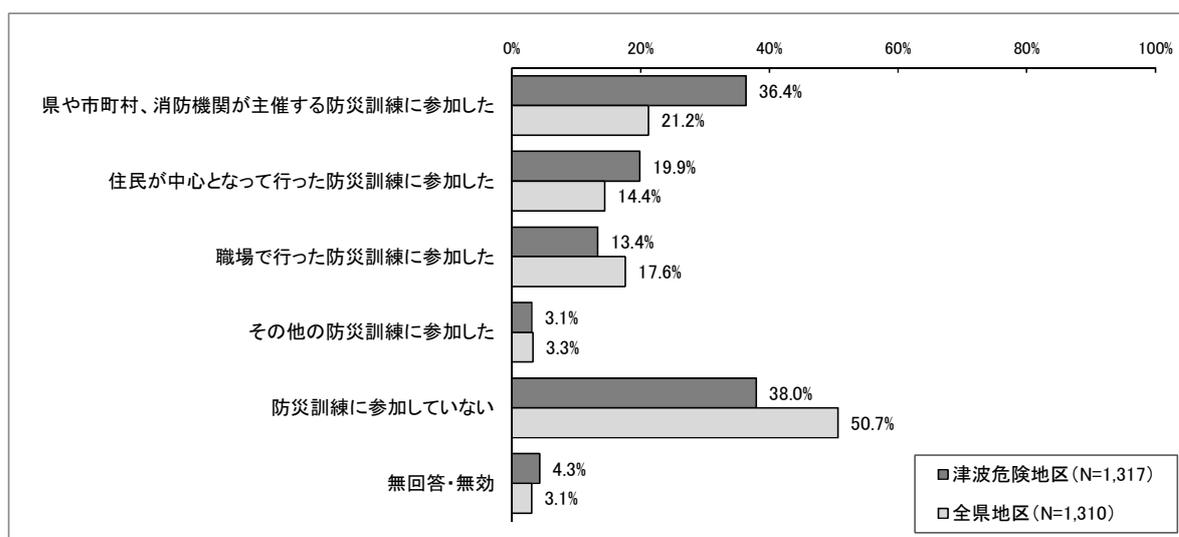


図 3.9-8 過去一年間に地域や職場の防災訓練に参加したことがあるか

・経年変化をみると、「防災訓練に参加していない」(44.3%)は、調査開始以降最も低くなっている。

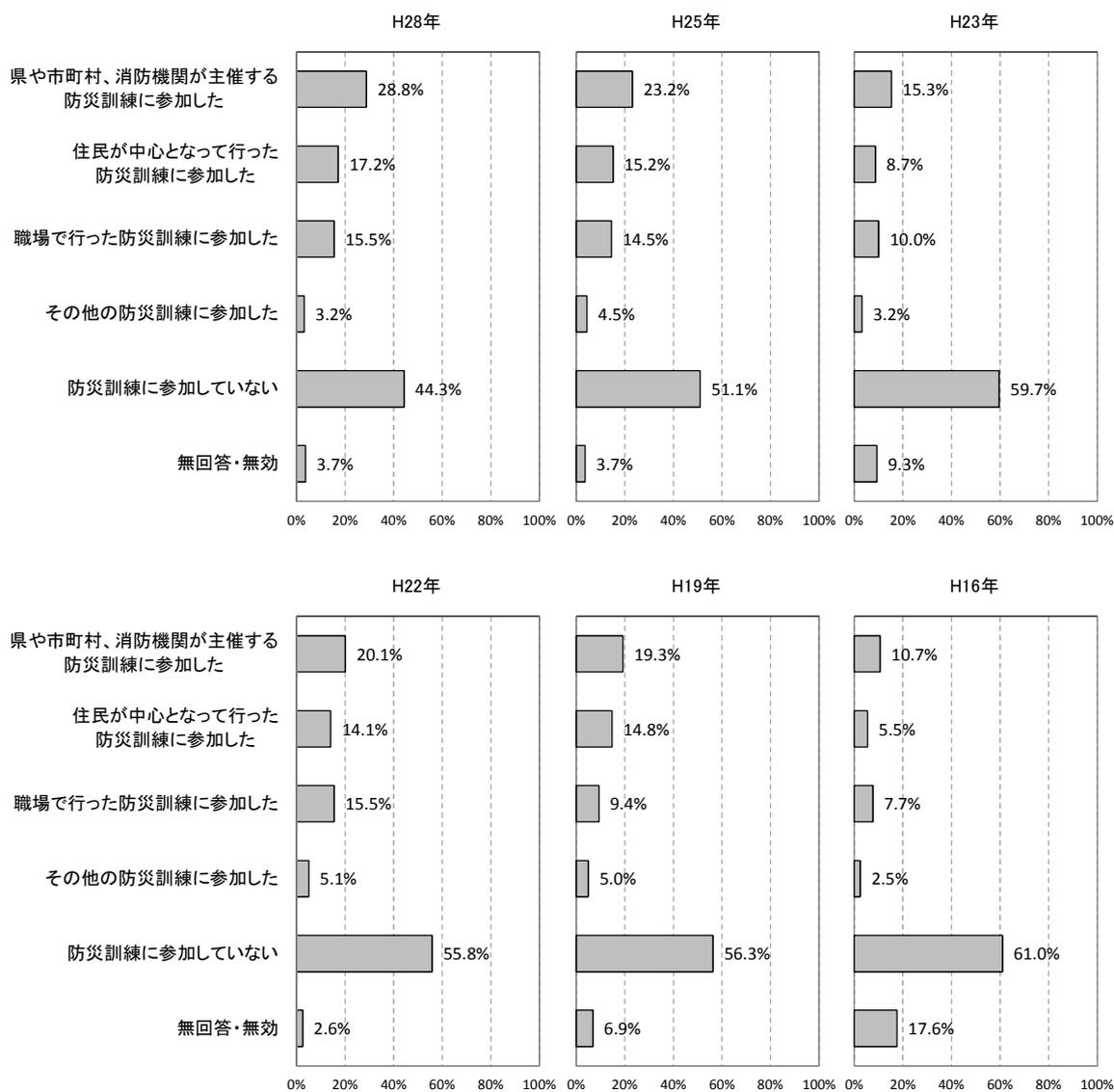


図 3.9-9 過去一年間に地域や職場の防災訓練に参加したことがあるか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

- ・性別・年代別にみると、「防災訓練に参加していない」が、男性では全年代で40%を上回り、女性では20代から50代でほぼ50%となっている。
- ・防災訓練に参加している割合のうち、男女ともに20代、30代では「職場で行った防災訓練に参加した」が高くなっており、50代以上では「県や市町村、消防機関が主催する防災訓練に参加した」が高くなっている。

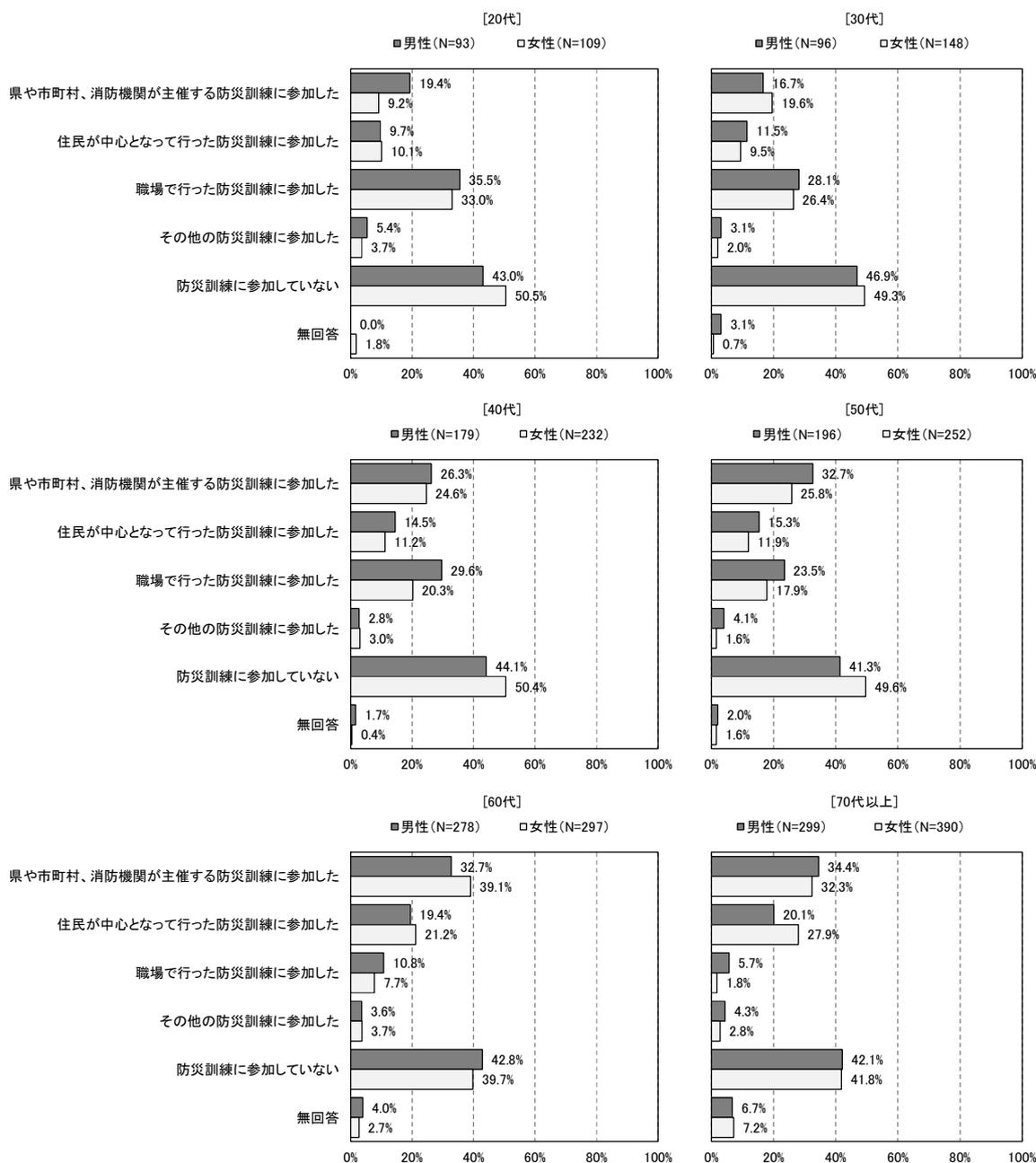


図 3.9-10 過去一年間に地域や職場の防災訓練に参加したことがあるか
—性別・年代別比較（津波危険地区＋全県地区）—

3.9.7 どのような訓練に参加したか

<問 35 で何らかの訓練に「参加した」と回答された方にお聞きします。>

問 35-1 具体的にはどのような訓練に参加しましたか(いくつでも○)。

- ・過去一年間に参加した防災訓練の具体的な訓練内容について、津波危険地区では「津波避難訓練」が最も高く、75.6%となっている。
- ・全県地区では、「消火訓練」(44.9%)が最も高く、次いで「津波避難訓練」(33.4%)が高くなっている。

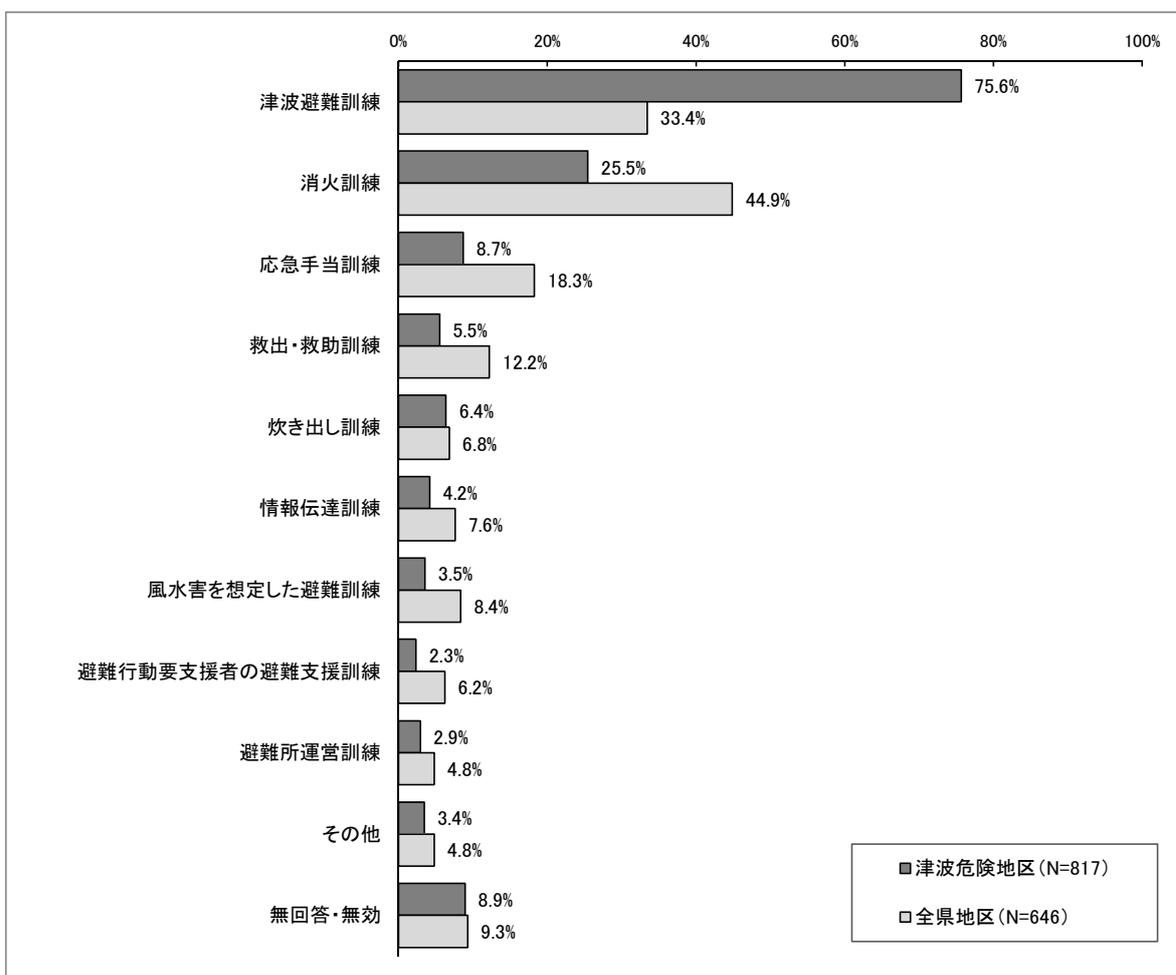


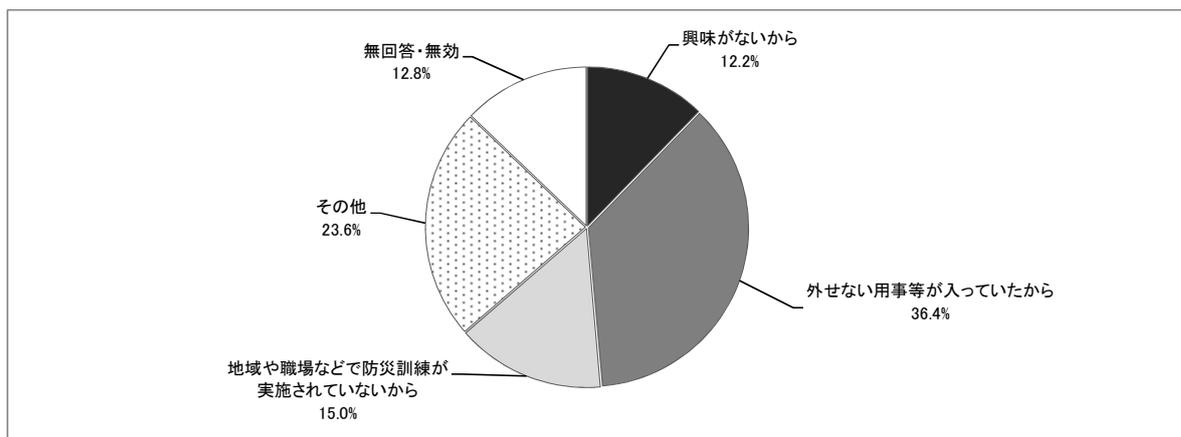
図 3.9-11 どのような訓練に参加したか

3.9.8 訓練に参加しない理由は何か

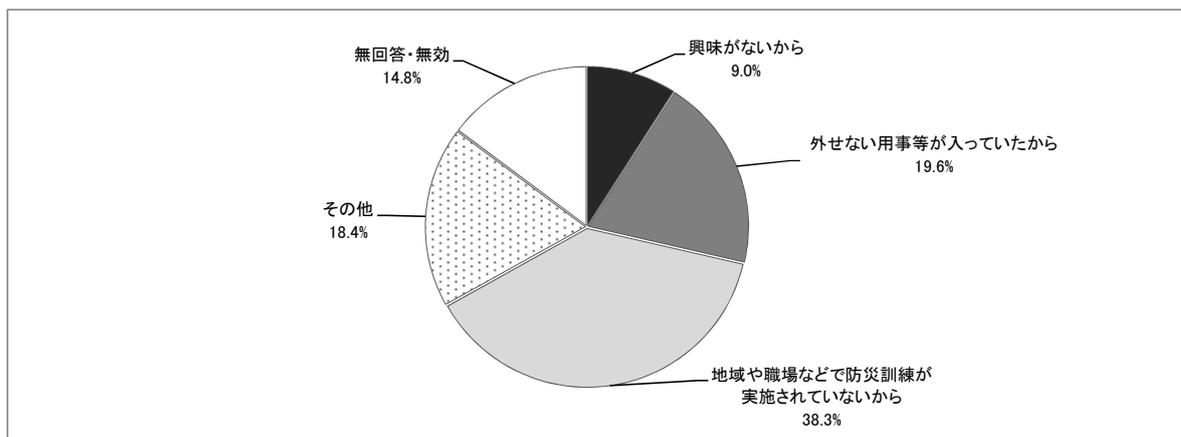
<問 35 で「参加していない」と回答された方にお聞きします。>

問 35-2 なぜ、訓練に参加しないのですか(ひとつだけ○)。

- ・過去一年間の防災訓練への参加していない人の理由について、津波危険地区では「外せない用事等が入っていたから」が最も高く、36.4%となっている。
- ・全県地区では「地域や職場などで防災訓練が実施されていないから」が最も高く、38.3%となっている。



津波危険地区 (N=500)



全県地区 (N=664)

図 3.9-12 訓練に参加しない理由は何か

- ・経年変化をみると、「地域や職場などで防災訓練が実施されていないから」(28.3%)は、前回(平成25年)の40.9%から減少している。

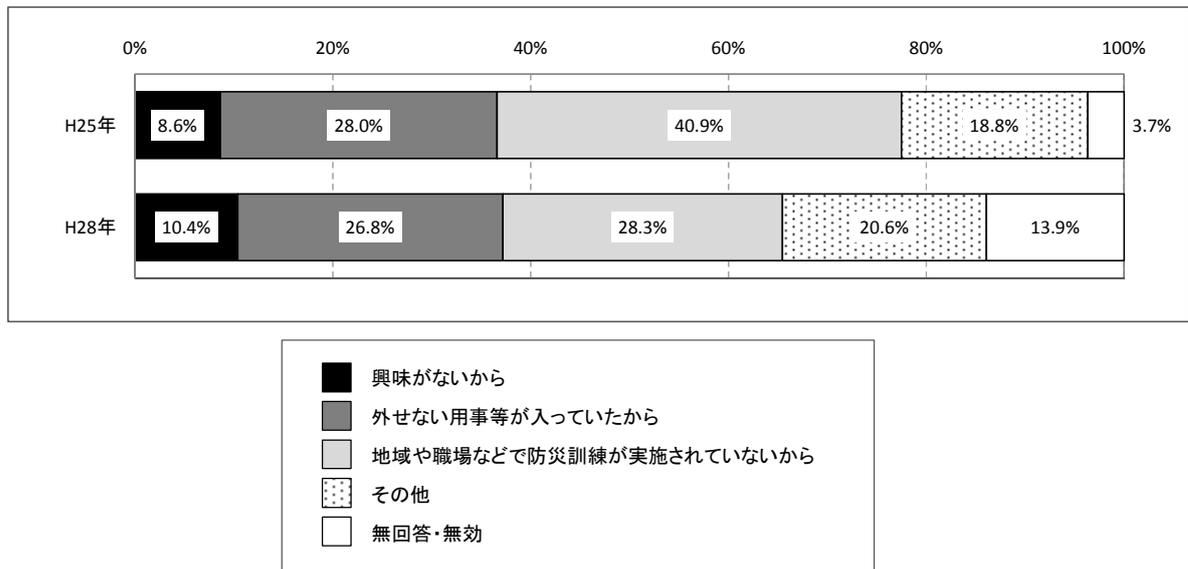


図 3.9-13 訓練に参加しない理由は何か —経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

3.9.9 どのような訓練が必要だと思うか

問 36 今後、どのような訓練が必要であると思いますか(いくつでも○)。

- ・今後どのような訓練が必要だと思うかについて、津波危険地区では「津波避難訓練」が最も高く、60.1%となっている。
- ・全県地区では「応急手当訓練」が最も高く、38.2%となっている。

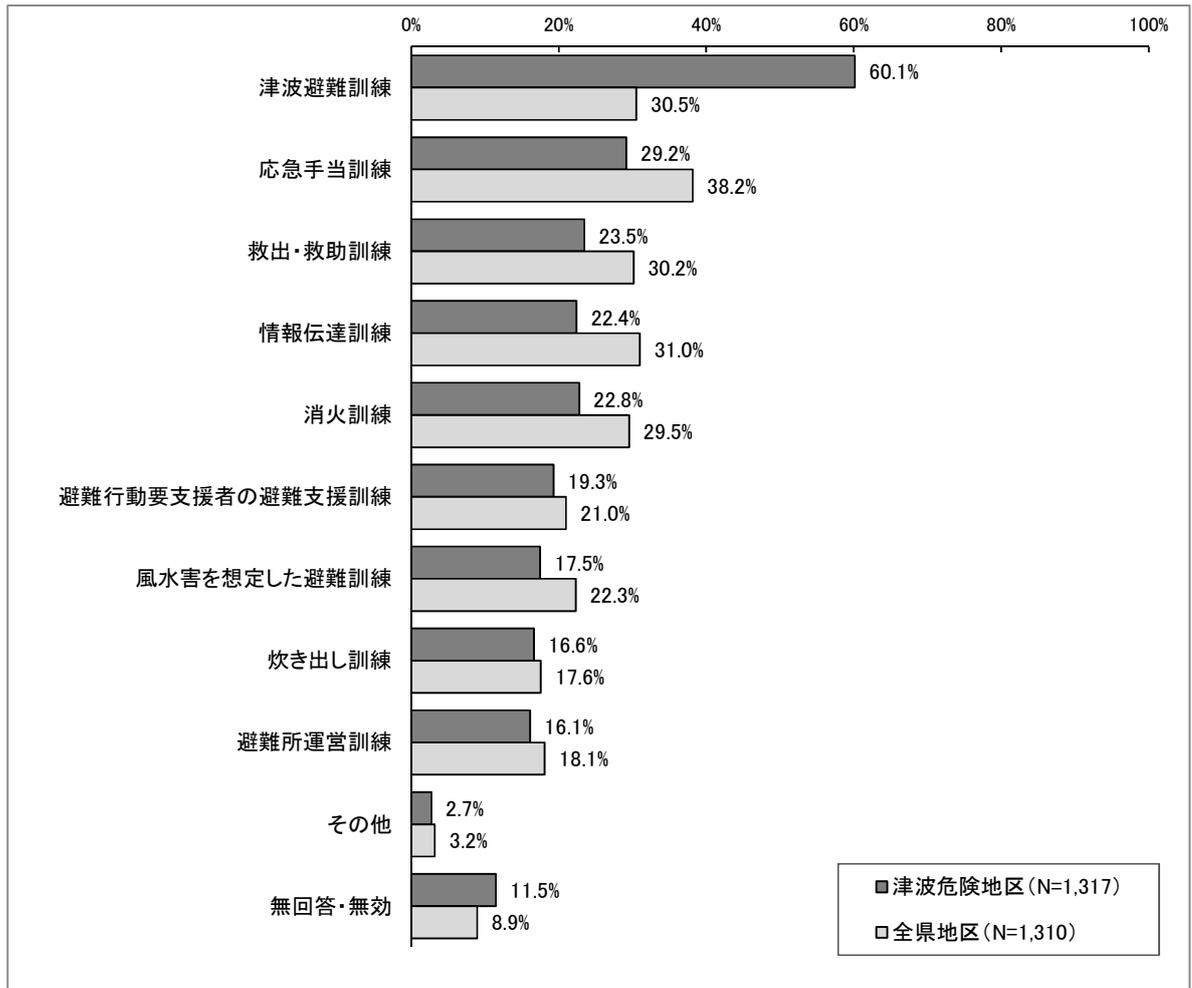


図 3.9-14 どのような訓練が必要だと思うか

3.9.10 地震や防災に関する各知識や情報を知っているか

問 37 次の1～12の項目についてあなたがお存じのことを教えてください。

- ・地震や防災に関する情報の認知度について、津波危険地区では「政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は70%程度」と発表したこと」を知っている割合が最も高く、85.3%となっている。
- ・「県内の災害時の避難場所について、安全度合いに応じて3段階(☆、☆☆、☆☆☆)のレベル分けがされている」を知っている割合は15.2%となっている。

津波危険地区

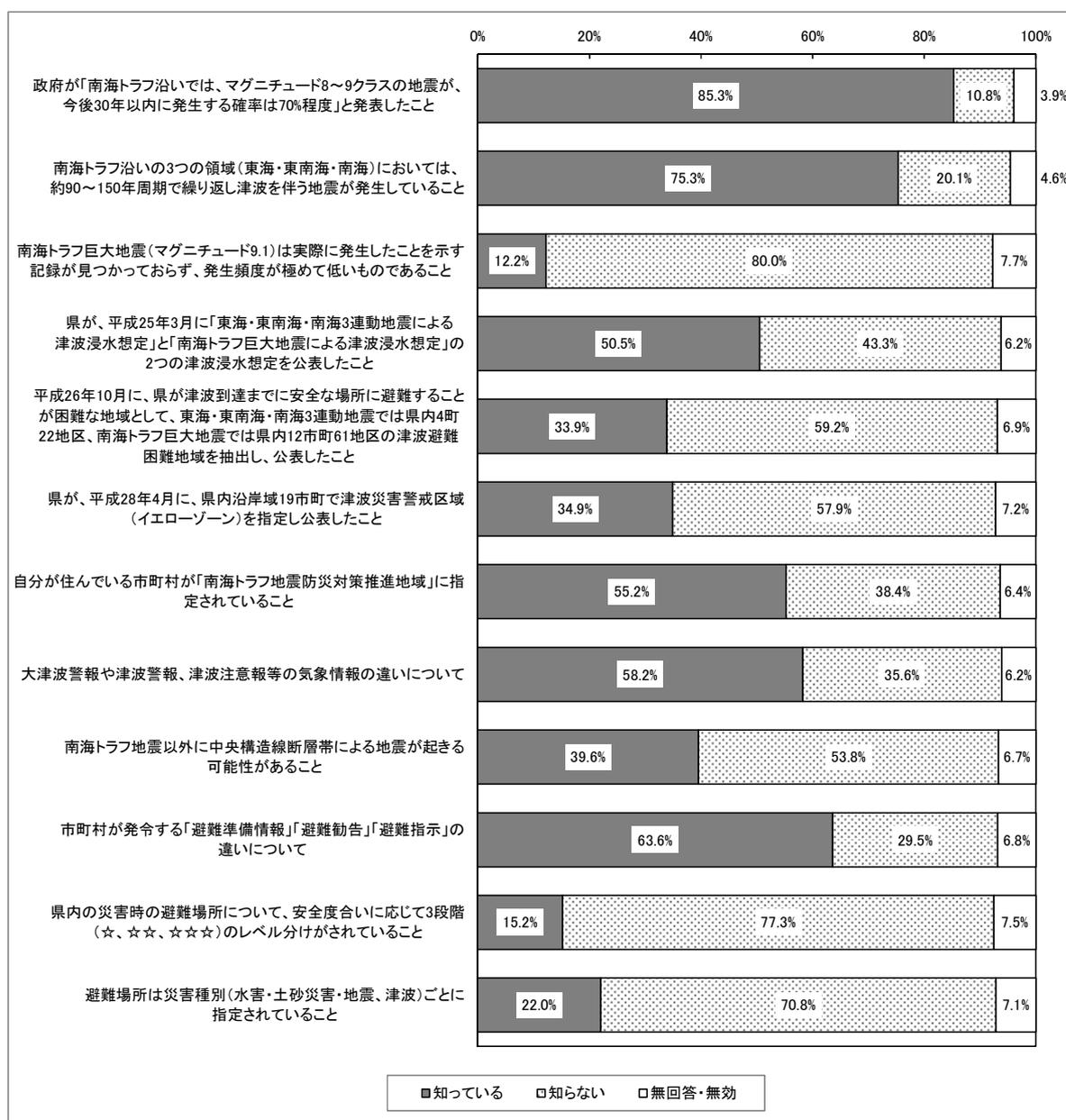


図 3.9-15 地震や防災に関する各知識や情報を知っていますか (津波危険地区)

- ・全県地区では「政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は70%程度」と発表したこと」を知っている割合が最も高く、82.5%となっている。
- ・「県内の災害時の避難場所について、安全度合いに応じて3段階(☆、☆☆、☆☆☆)のレベル分けがされている」を知っている割合は12.6%となっている。
- ・ほとんどの項目で津波危険地区の方が全県地区より知っている割合が高くなっている。

全県地区

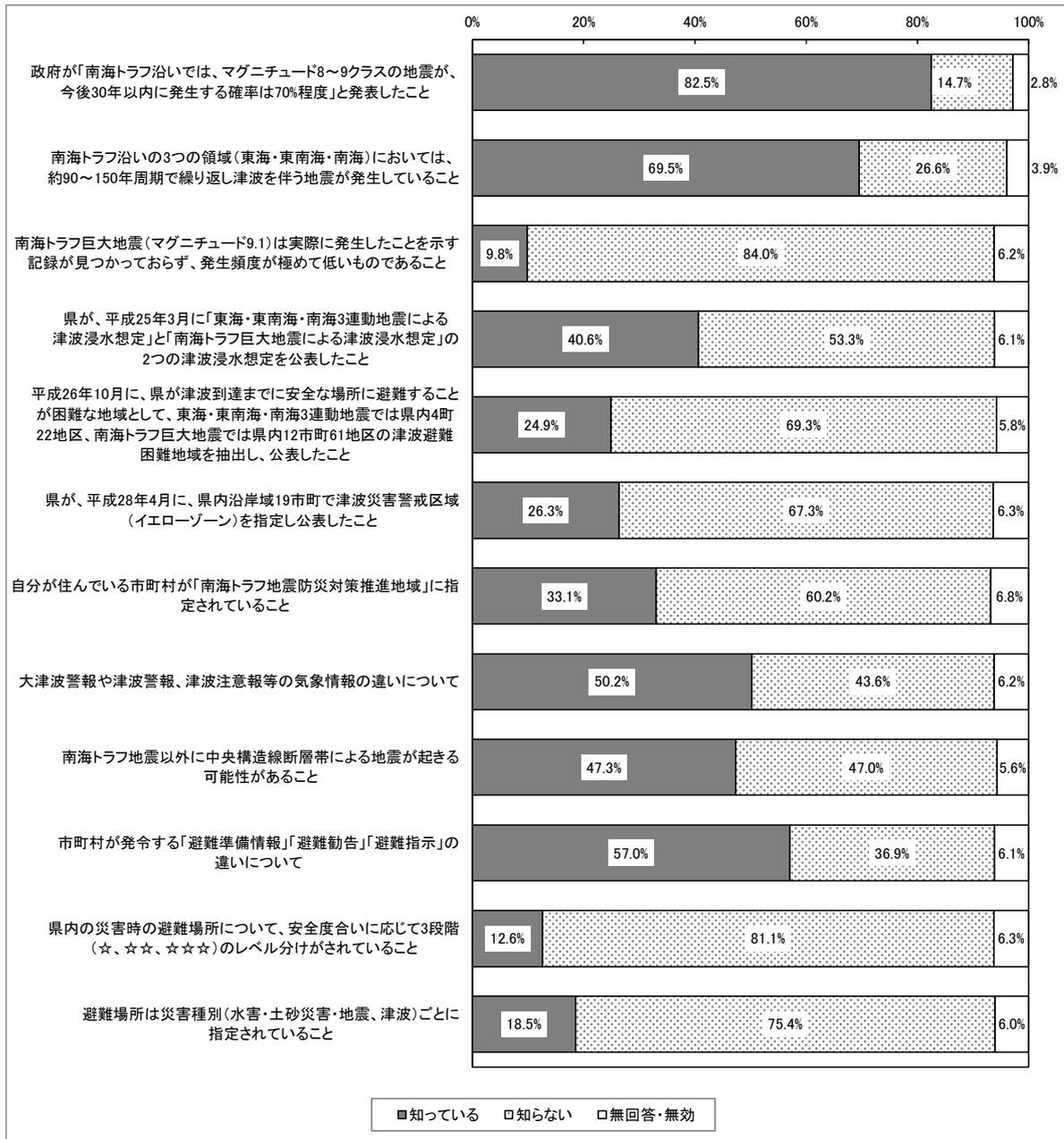


図 3.9-16 地震や防災に関する各知識や情報を知っていますか(全県地区)

- ・経年変化をみると、「南海トラフ沿いの3つの領域(東海・東南海・南海)においては、約90～150年周期で繰り返し津波を伴う地震が発生していること」(72.4%)、「南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること」(43.4%)などを知っている割合は前回(平成25年)から大きく増加している。

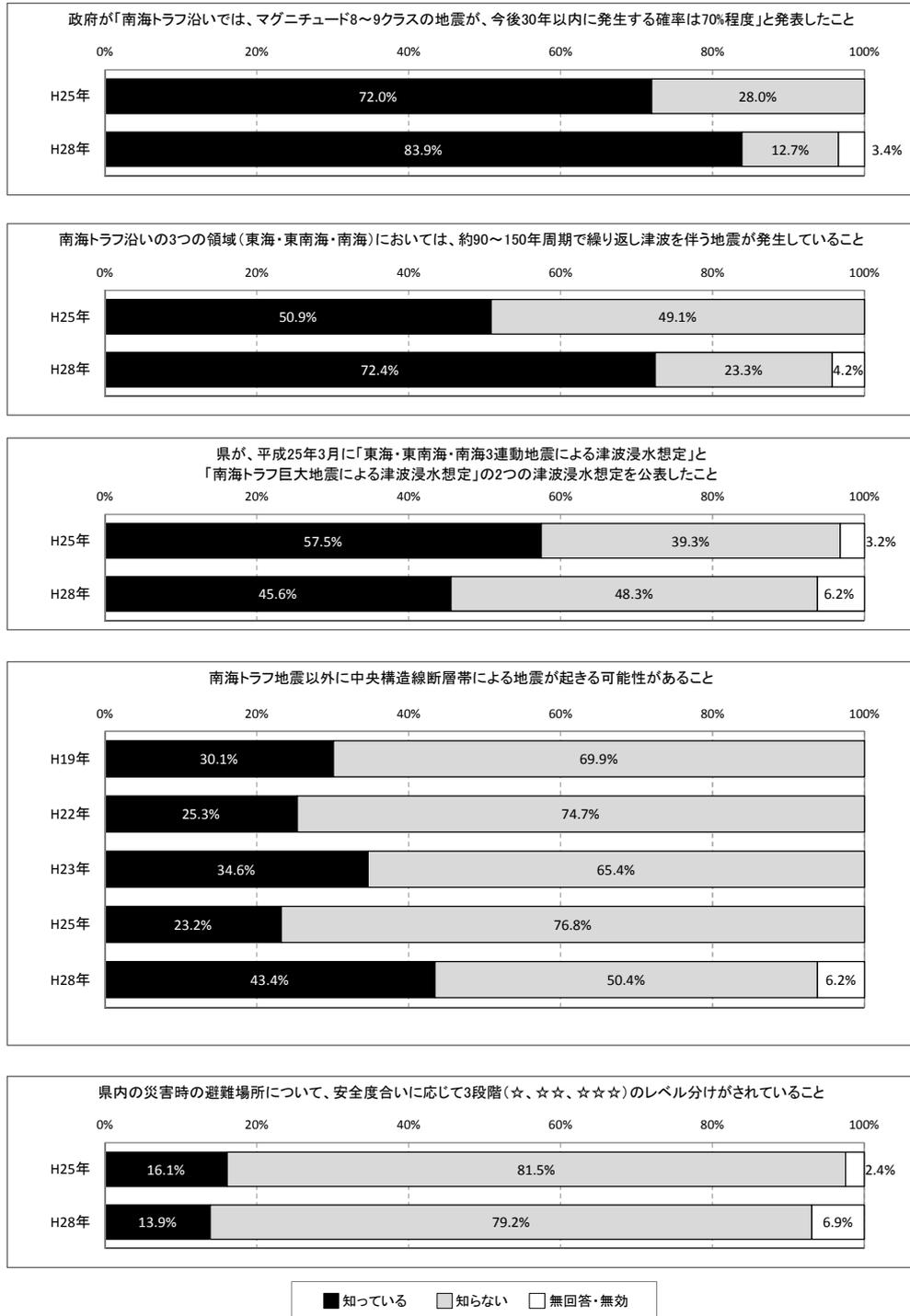


図 3.9-17 地震や防災に関する各知識や情報を知っていますか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.9.11 自然災害や防災についての知識や情報をどこから入手しているか

問 38 あなたはふだん、問 37 のような自然災害や防災についての知識や情報を、どこから入手していますか(いくつでも○)。

- ・自然災害や防災についての知識や情報の入手先について、「テレビ」が津波危険地区(90.7%)、全県地区(89.9%)とも最も高くなっている。

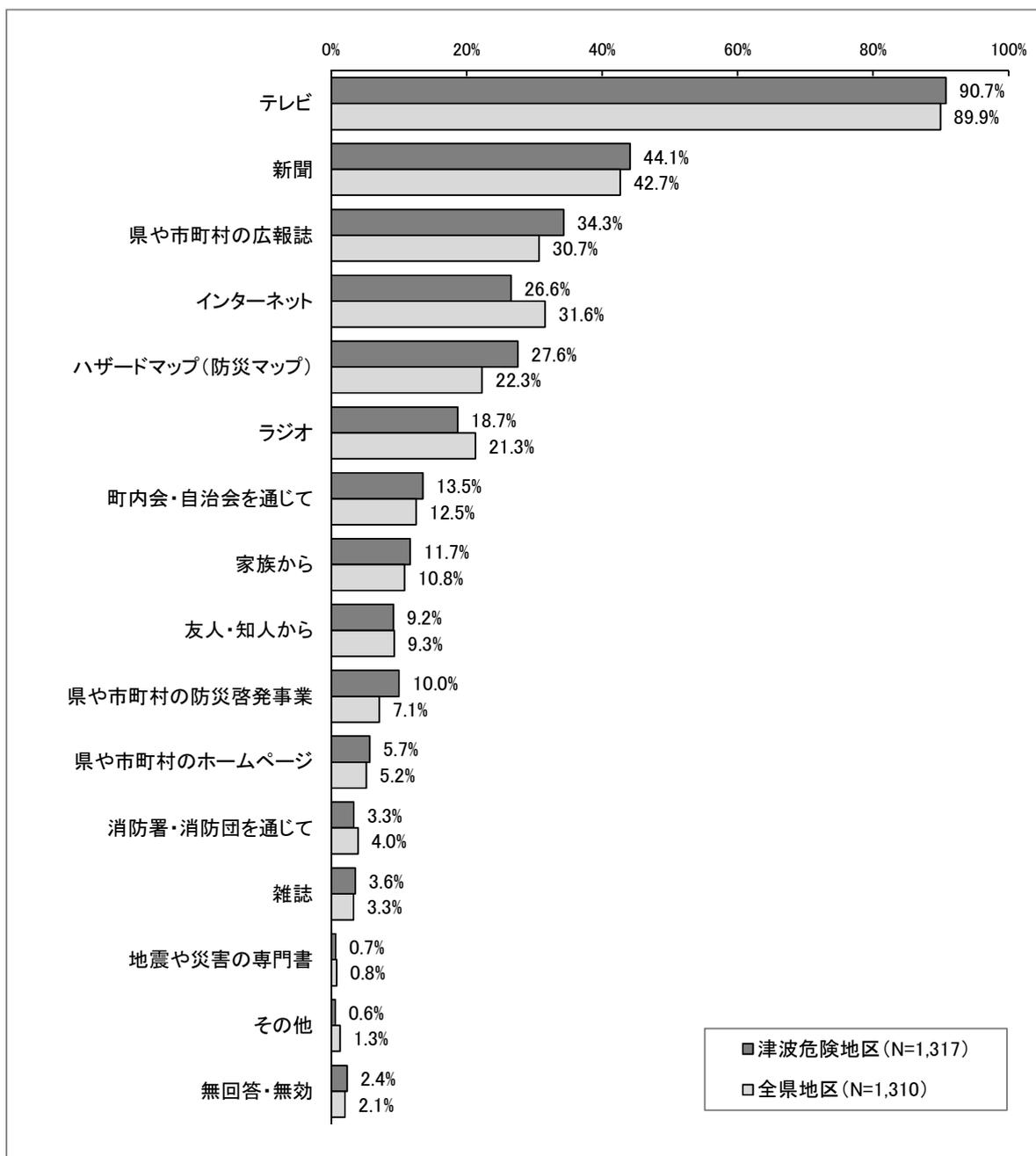


図 3.9-18 自然災害や防災についての知識や情報をどこから入手しているか

・自然災害や防災についての知識や情報の入手先の経年変化をみると、「テレビ」(90.3%)、「新聞」(43.4%)は、平成23年以降減少しており、一方、「インターネット」(29.1%)は、調査開始以降増加傾向にある。

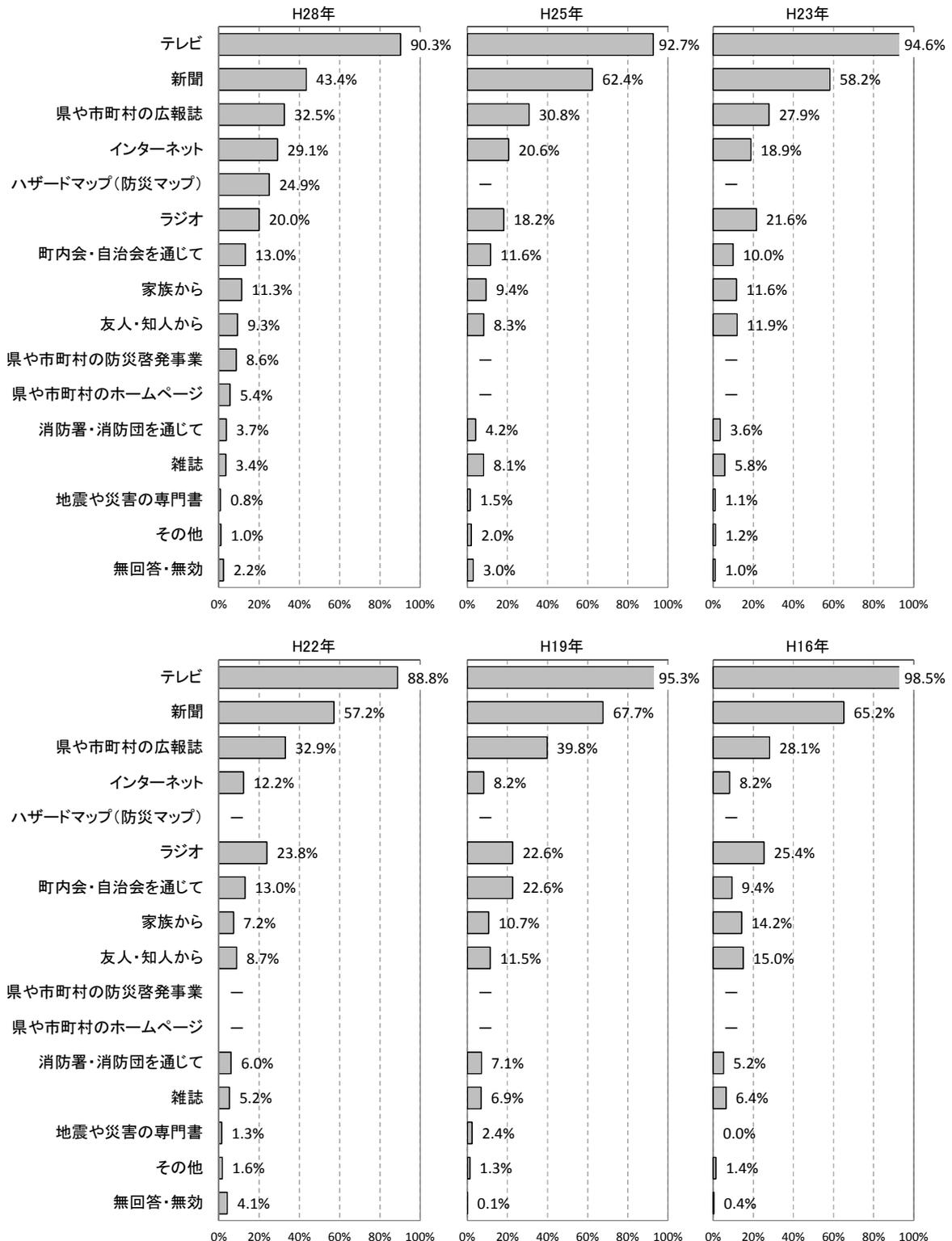


図 3.9-19 自然災害や防災についての知識や情報をどこから入手しているか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—

3.9.12 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか

問 39 あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか(「はい」「いいえ」の欄どちらかに○)。

- ・ 防災に関する活動を行ったり、参加した経験について、津波危険地区では「防災に関するパンフレットを読んだ」(63.5%)、「県や市町村の広報誌の防災対策特集などを読んだ」(56.3%)、「市町村が作成した洪水や津波の浸水想定図で、自宅が浸水するか確認した」(50.9%)、「災害時に避難するのに適切な場所を見て回った」(46.5%)が高くなっている。

津波危険地区

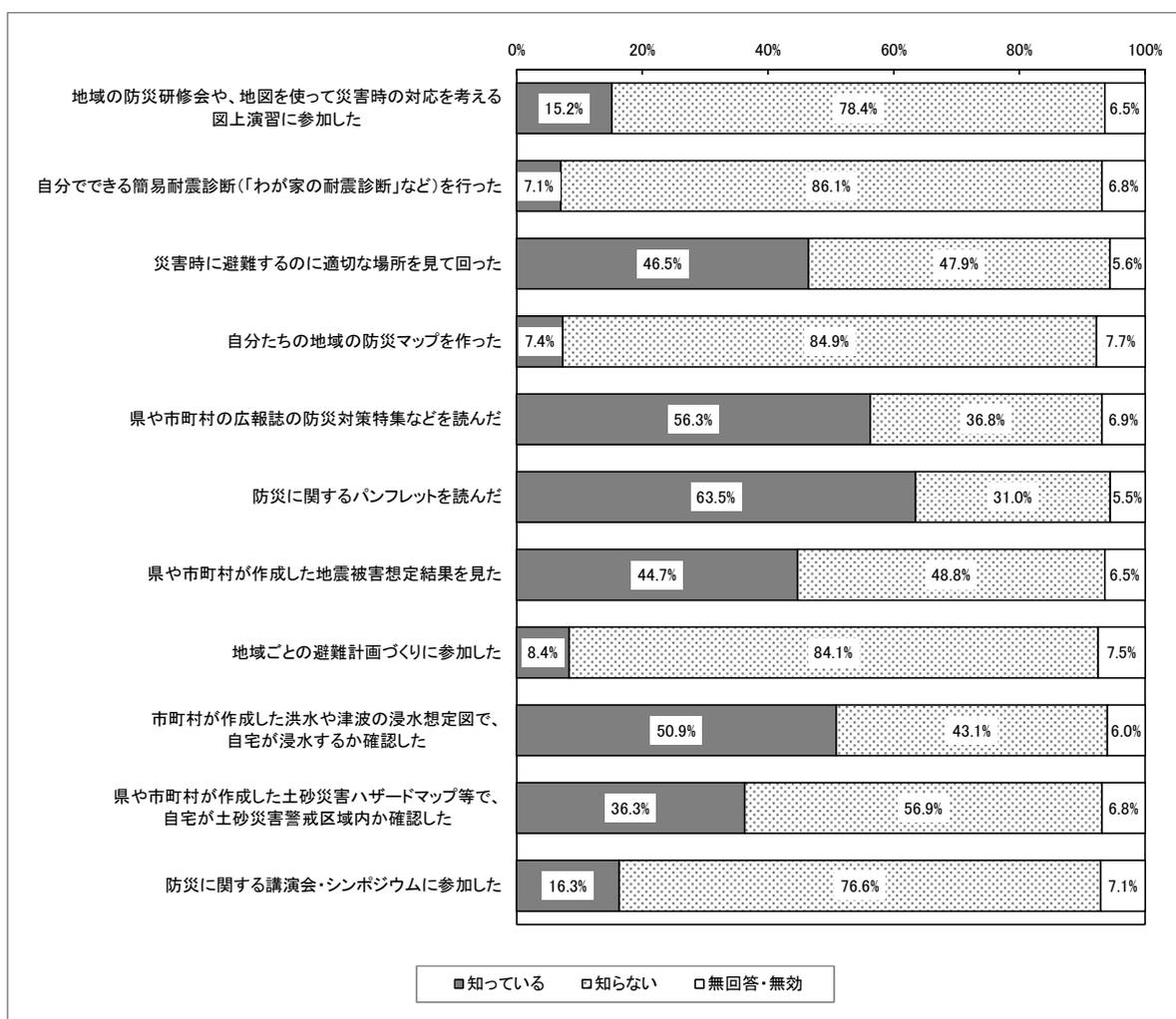


図 3.9-20 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか (津波危険地区)

- ・全県地区では「防災に関するパンフレットを読んだ」(56.9%)、「県や市町村の広報誌の防災対策特集などを読んだ」(46.8%)が高くなっている。
- ・全ての項目で津波危険地区の方が全県地区より防災活動を実施または参加している割合が高くなっている。

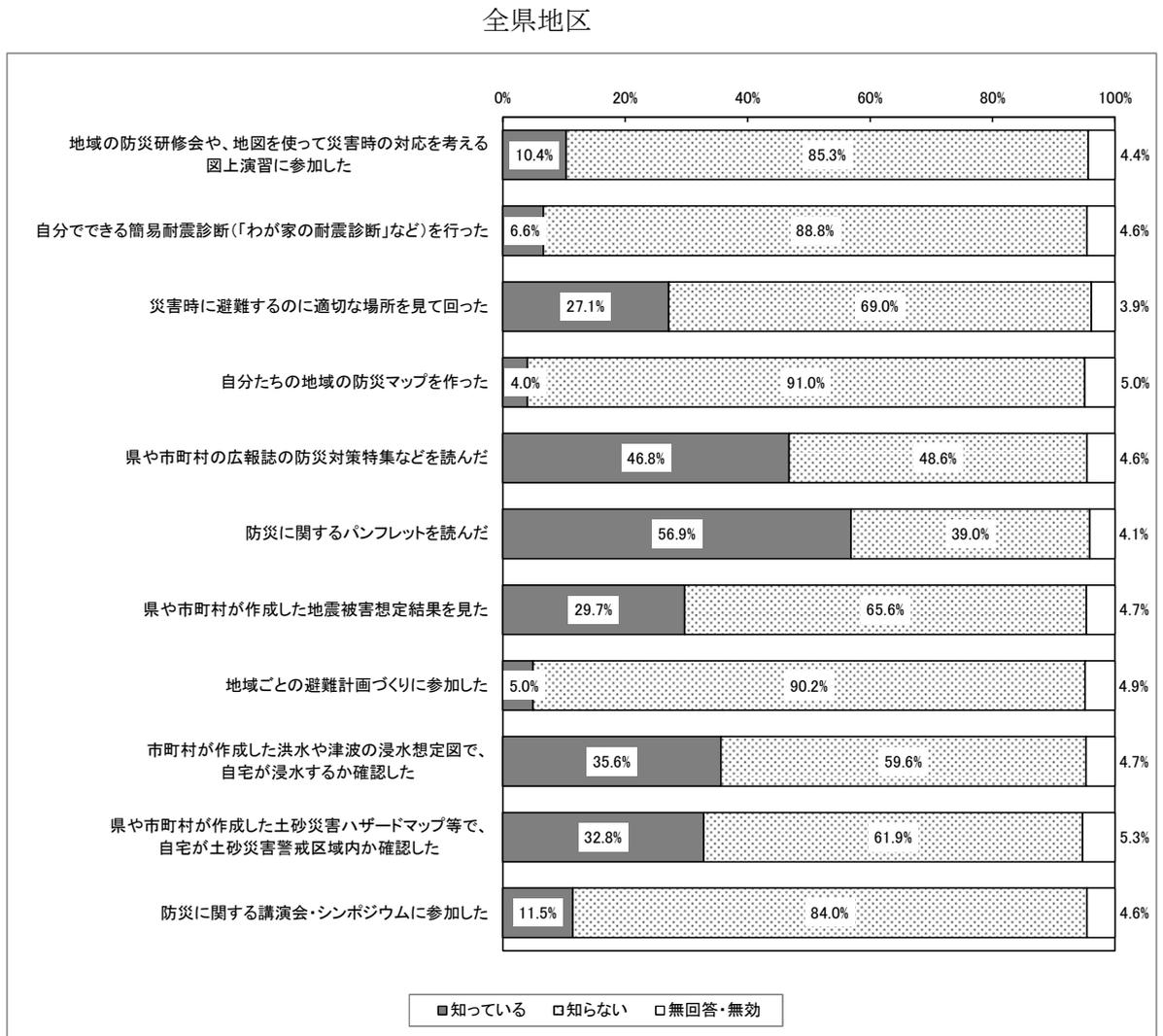
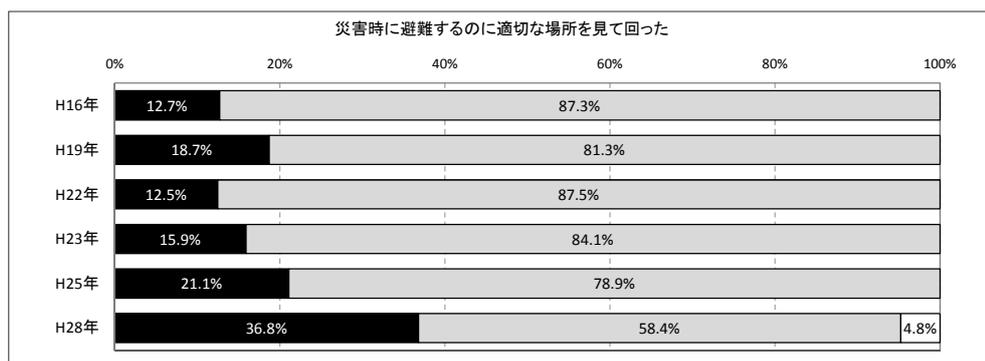
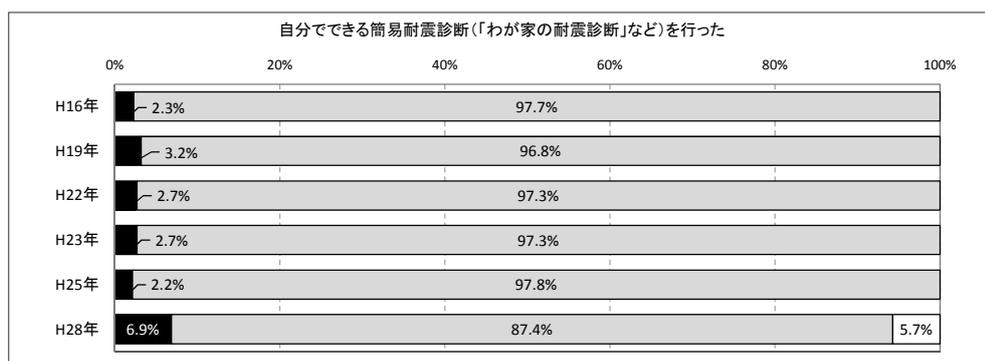
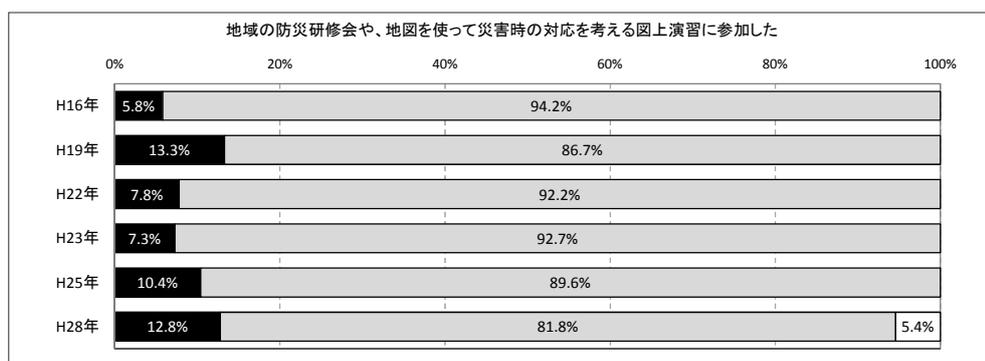


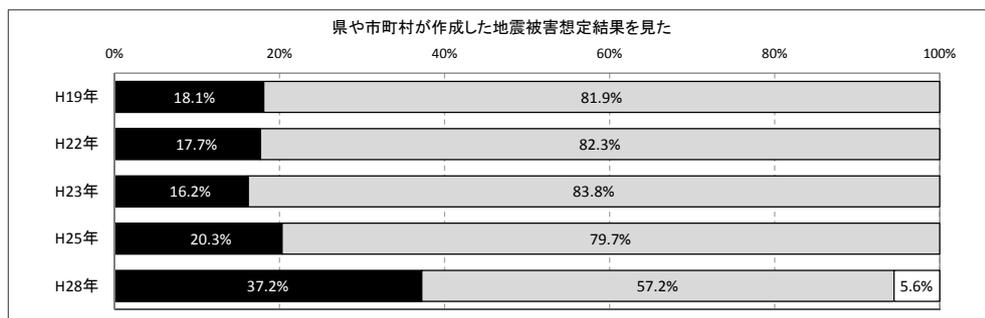
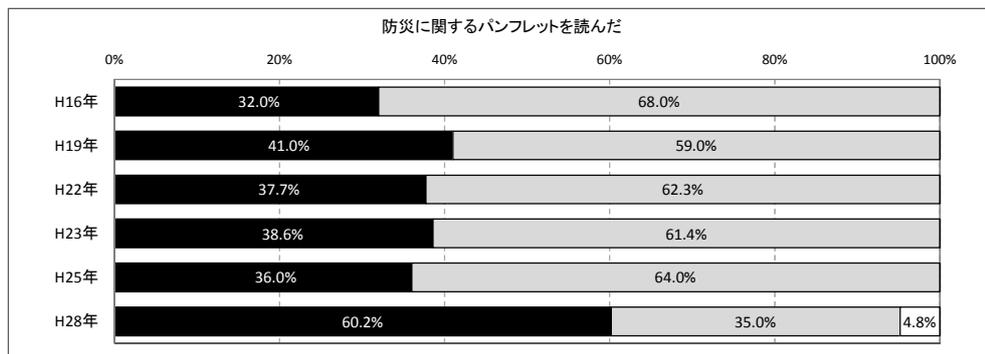
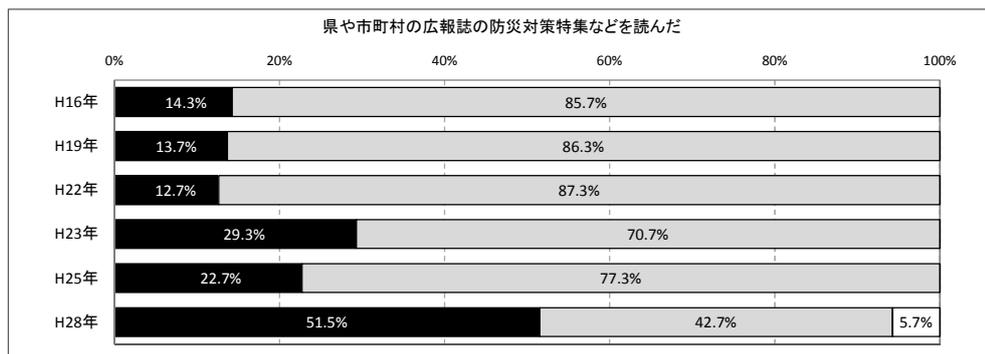
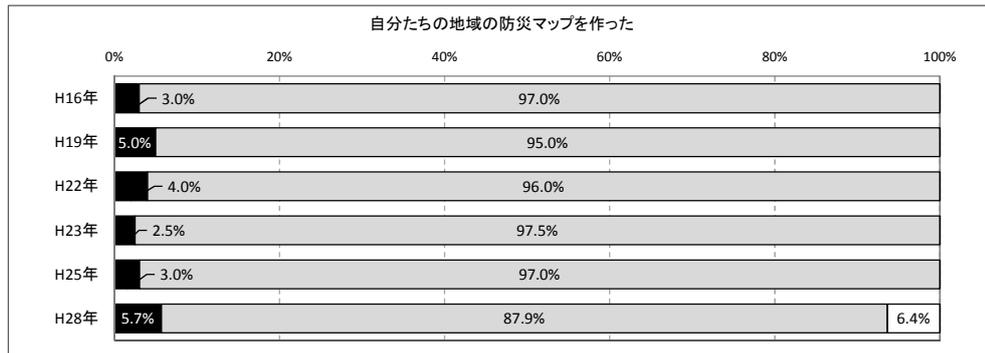
図 3.9-21 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか(全県地区)

- ・経年変化をみると、「災害時に避難するのに適切な場所を見て回った」(36.8%)、「県や市町村の広報誌の防災対策特集などを読んだ」(51.5%)、「防災に関するパンフレットを読んだ」(60.2%)、「県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た」(37.2%)、「市町村が作成した洪水や津波の浸水想定図で、自宅が浸水するか確認した」(43.3%)、が前回(平成25年)から大幅に増加している。



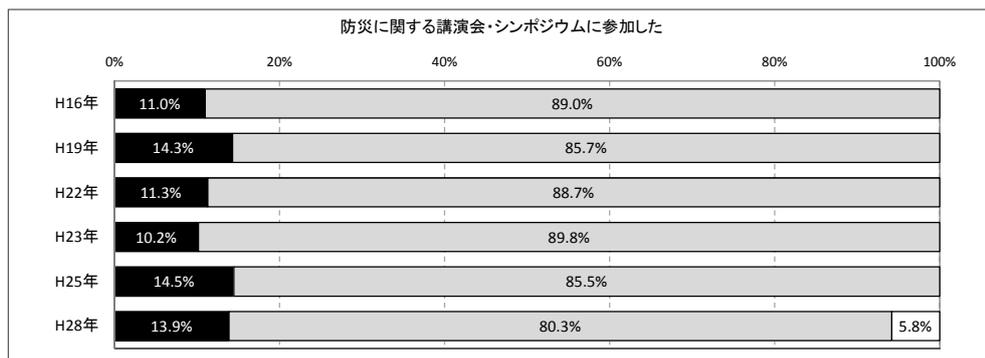
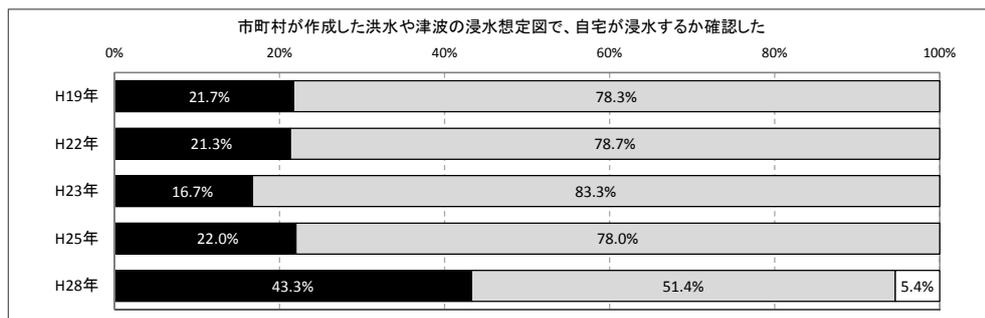
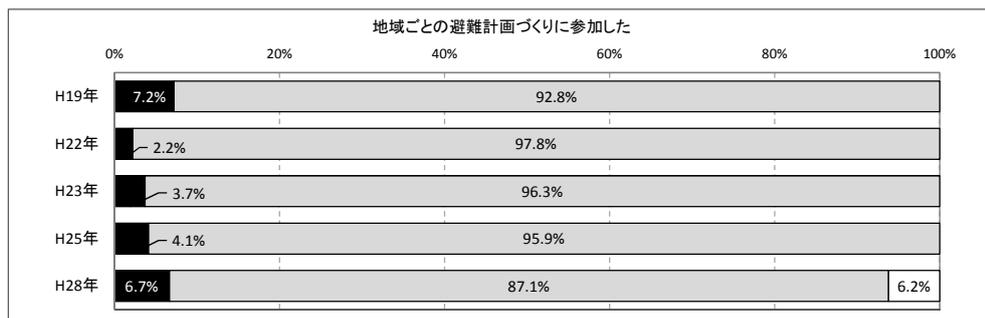
■ はい ■ いいえ □ 無回答・無効

図 3.9-22(1) 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか
—経年変化(津波危険地区+全県地区)—



■ はい □ いいえ □ 無回答・無効

図 3.9-22(2) 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—



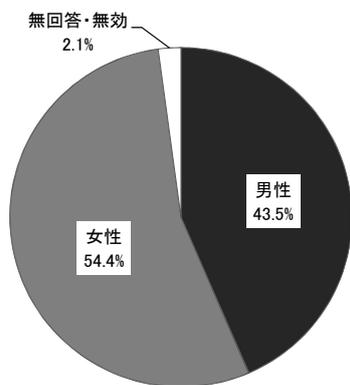
■ はい □ いいえ □ 無回答・無効

図 3.9-22(3) 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか
—経年変化（津波危険地区＋全県地区）—

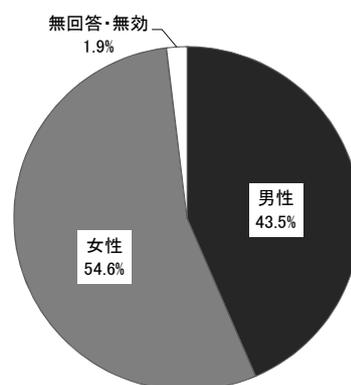
4. アンケート回答者の属性

4.1. 性別

F 1 性別



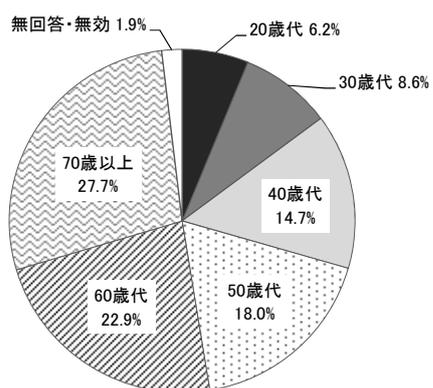
津波危険地区 (N=1, 317)



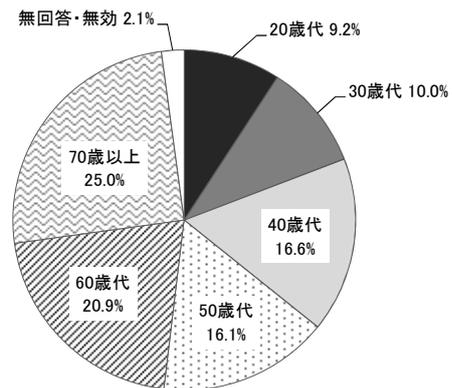
全県地区 (N=1, 310)

4.2. 年齢

F 2 年齢



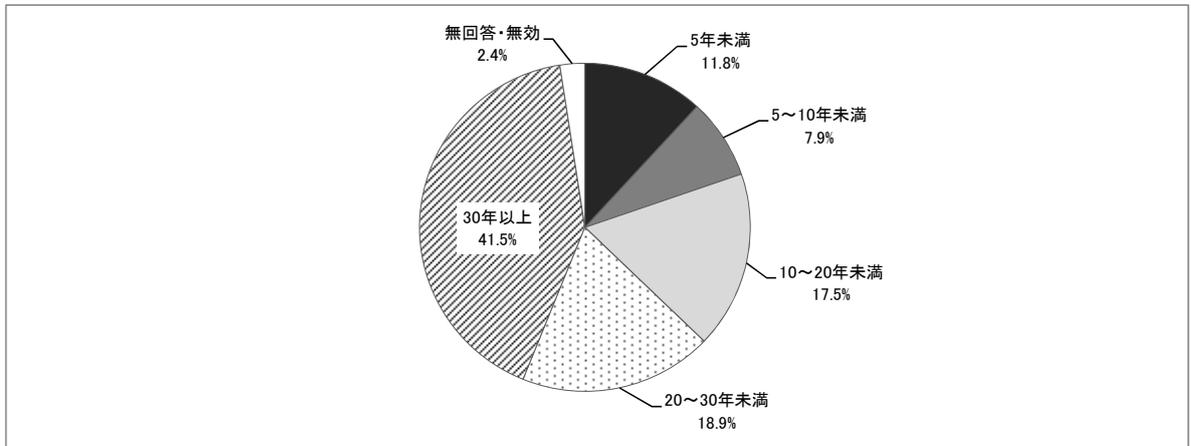
津波危険地区 (N=1, 317)



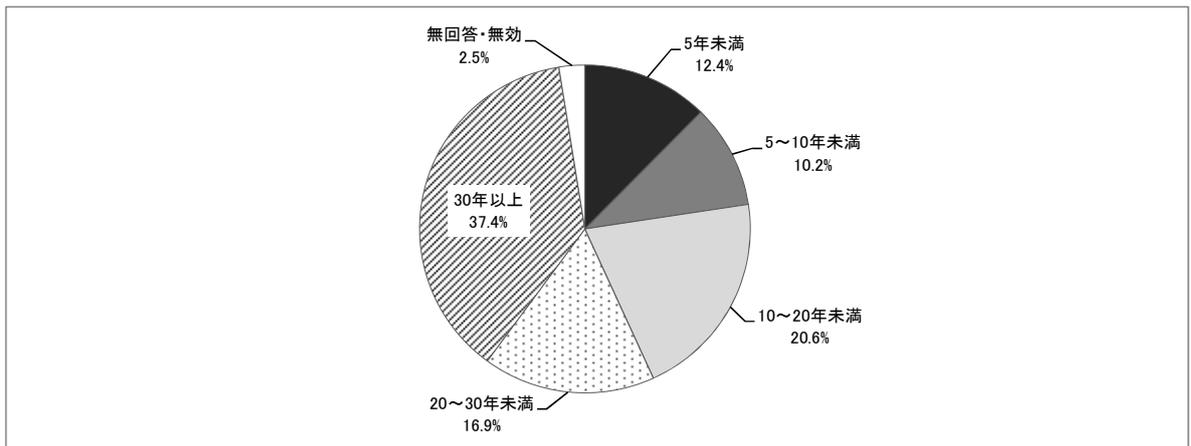
全県地区 (N=1, 310)

4.3. 居住年数

F3 あなたは、現在の住居にお住みになってから何年になりますか(ひとつだけ○)。



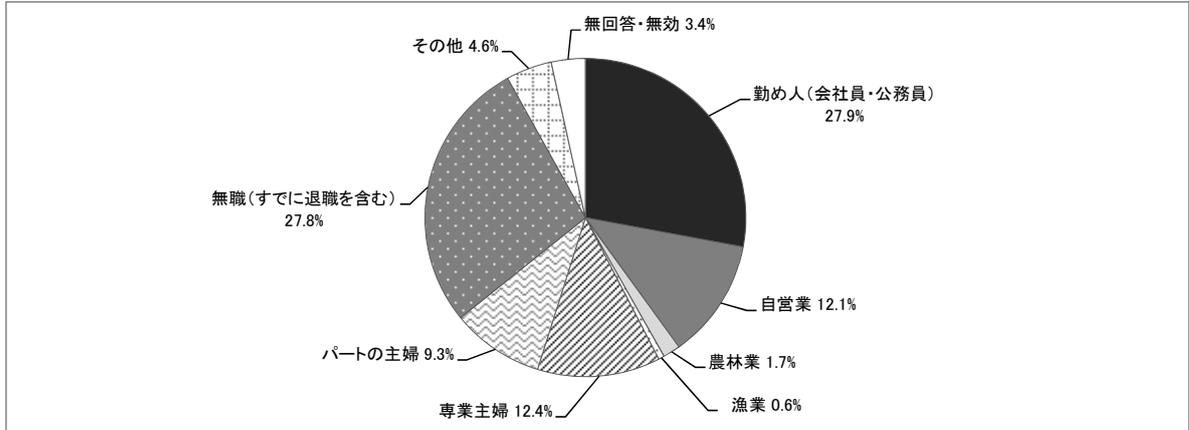
津波危険地区 (N=1,317)



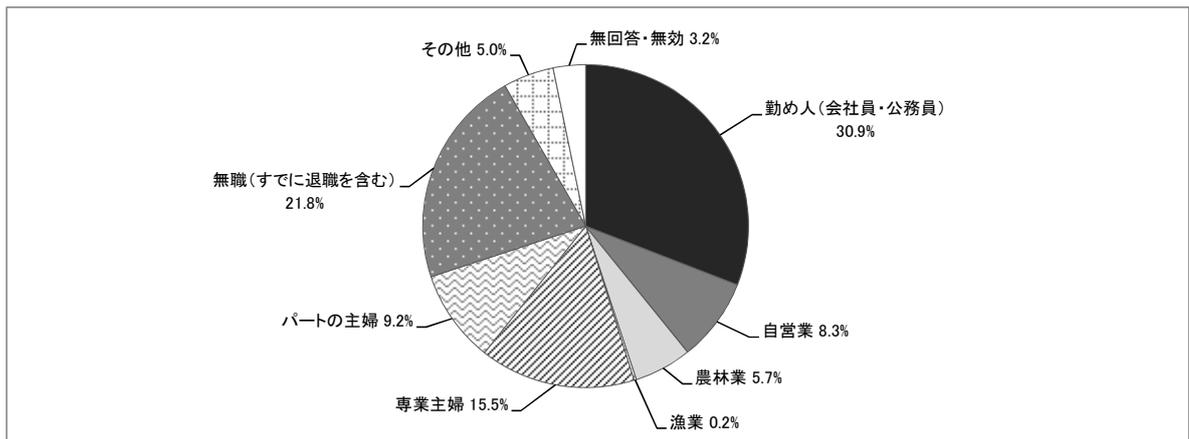
全県地区 (N=1,310)

4.4. 職業

F 4 職業



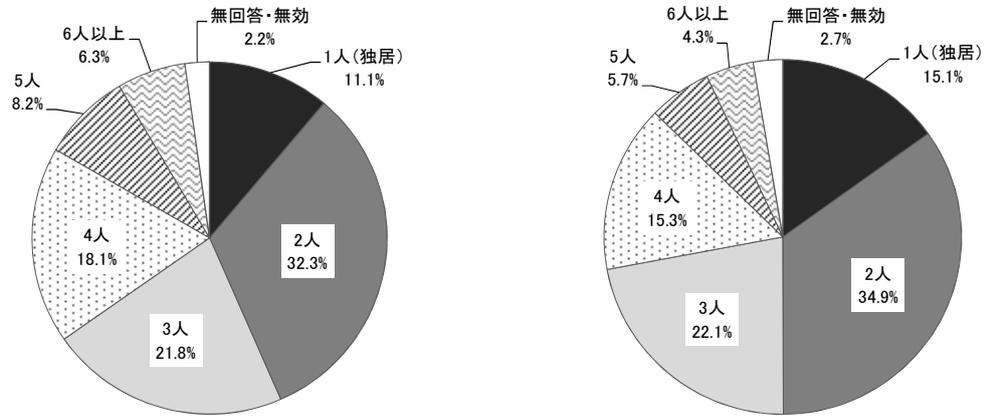
津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

4.5. 家族構成

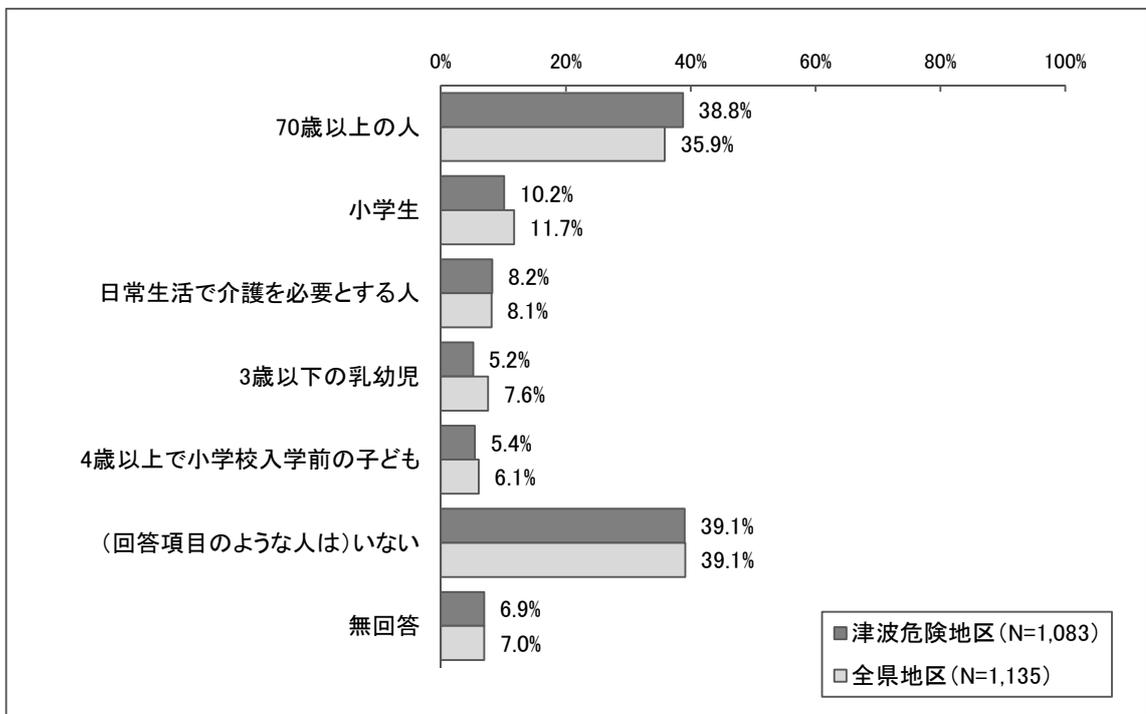
F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ○）。



津波危険地区 (N=1,317)

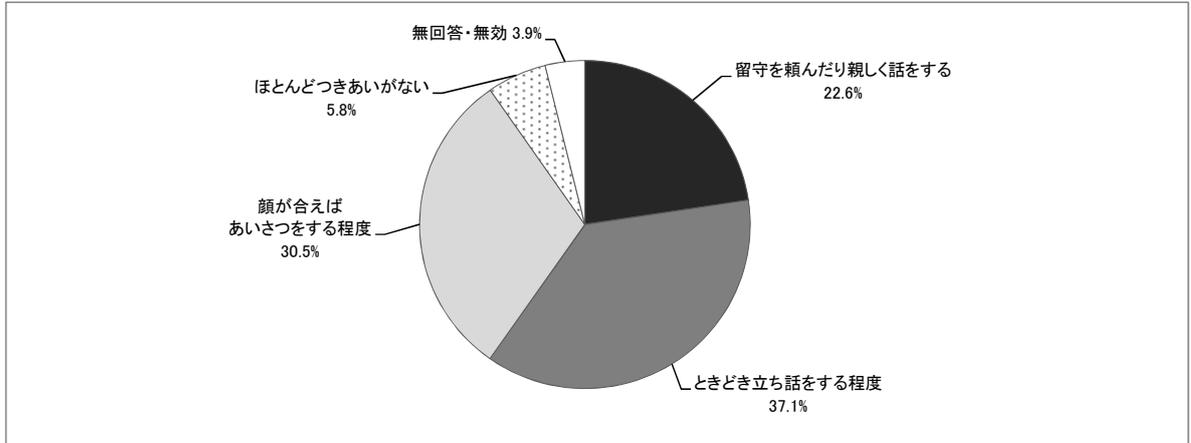
全県地区 (N=1,310)

F 5 - 1 同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも○）。

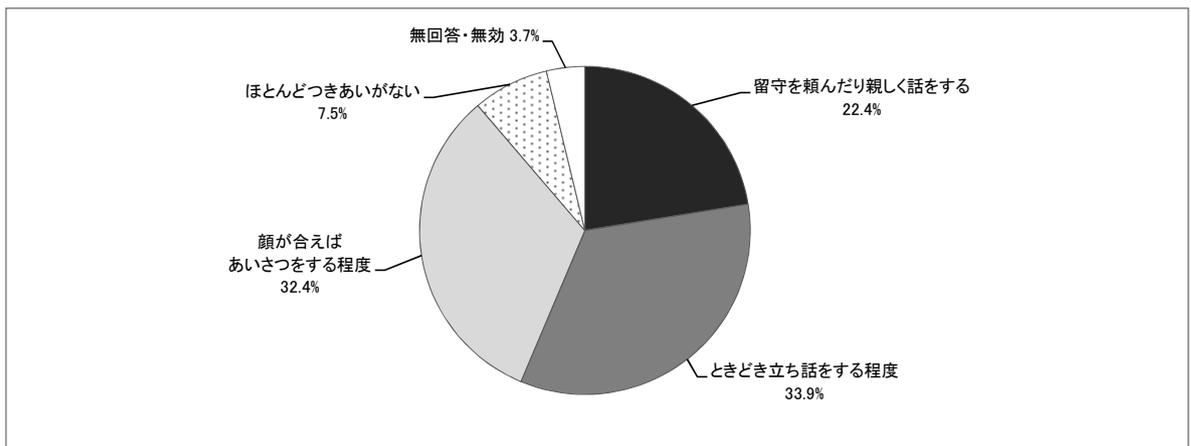


4.6. ご近所とのつきあい

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。



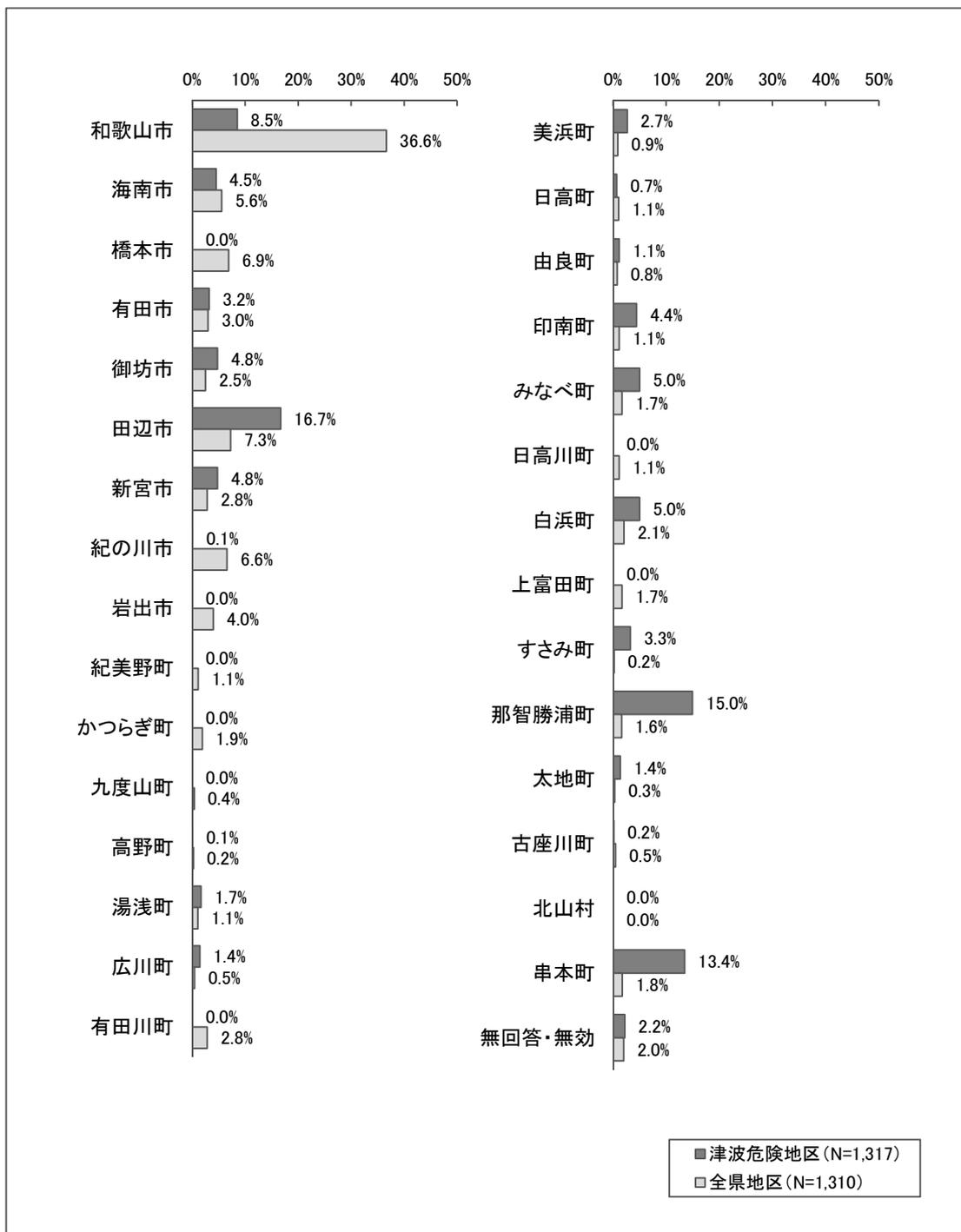
津波危険地区 (N=1, 317)



全県地区 (N=1, 310)

4.7. 居住地

F7 あなたのお住まいの市町村はどちらですか（ひとつだけ○）。



5. 参考資料

5.1. 津波危険地区一覧

津波危険地区：南海トラフ巨大地震による津波で全域もしくはそのほとんどが浸水深1 m以上と想定される地域

市町名	地区名
和歌山市	[砂山地区]金龍寺丁、作事丁、築港1～6丁目、出口甲賀丁、出口新端ノ丁、出口中ノ丁、出口端ノ丁、土佐町2～3丁目、舟津町1～4丁目、湊、湊御殿1～3丁目、湊通丁北4丁目、湊通丁南4丁目、南相生丁、砂山南2～4丁目 [和歌浦地区]新和歌浦、和歌浦東1～4丁目、和歌浦中1～3丁目、和歌浦西1～2丁目、和歌浦南1～3丁目、和歌川町 [名草地区]内原、紀三井寺、毛見、布引、三葛
海南市	黒江・船尾地区、日方地区、内海地区、塩津地区
有田市	箕島、港町、宮崎町、新堂、古江見、千田（高地地域）
御坊市	御坊、菌、名屋、名屋町、塩屋町北塩屋
田辺市	上屋敷一丁目、上屋敷二丁目、上屋敷三丁目、中屋敷町、下屋敷町、新屋敷町、南新町、北町、栄町、今福町、福路町、本町、紺屋町、片町、湊、磯間、末広町、高雄一丁目、高雄二丁目、高雄三丁目、東陽、扇ヶ浜、目良、江川、古尾、天神崎、上の山二丁目、東山二丁目、文里一丁目、文里丁目、神子浜一丁目、神子浜二丁目、芳養町、明洋一丁目、芳養松原一丁目、芳養松原二丁目、新庄町
新宮市	あけぼの、阿須賀1丁目、王子町1丁目、王子町2丁目、王子町3丁目、熊野地1丁目、熊地2丁目、下田1丁目、田鶴原町1丁目、田鶴原町2丁目、蓬萊3丁目、三輪崎1丁目、三輪崎2丁目
湯浅町	港、新屋敷、北浜町、南浜町、北中町、中々町、南中町、北鍛冶町、南鍛冶町、御蔵町、北、道町北、道町中、道町南、北道、宮西、西南道、本町、南栄、中川原、島之内、中之島、北1区、北栄3区、横浜、田、栖原、なぎ区、大宮通1区、大宮通2区、大宮通3区、なぎ団地
広川町	湊浜町地区、西浜町地区、湊中町地区、西中町地区、天皇区、中之町地区、本町地区、田町地区、昭和通北地区、昭和通中地区、昭和通南地区、みどり区、東之町地区、西之町地区、南町地区、北之町地区、熊之町地区、学園町地区、旭町地区、唐尾地区、西広地区、山本地区、殿地区、東中地区、名島地区、柳瀬地区
美浜町	新浜地区、田井畑地区、浜ノ瀬地区
日高町	柏区、小杭区、方杭区、小浦区、津久野区、比井区、産湯区、阿尾区、田杭区、小池区
由良町	横浜、里、南、阿戸、網代、江ノ駒、大引、神谷、糸谷、衣奈、戸津井
印南町	大字印南、大字西ノ地、大字島田
みなべ町	堺（561, 540, 545, 539, 542, 418 番地台除く）、埴田（1540, 1590, 929, 944, 1068, 1063, 1451, 1445, 1253, 1517, 1516, 1210, 1212 番地台除く）、片町、新町、北道、南道（272, 273, 274, 283, 287, 355, 326, 333, 330, 329, 319, 320, 207, 208 番地台除く）、芝（828, 817, 835, 836, 841, 888, 857, 843, 924, 921 番地台除く）、芝崎（10 番地台除く）、東吉田（468, 493, 469, 489, 488, 473, 476, 485, 450, 444, 445, 443, 442, 441, 440, 429, 428, 418, 431, 432 番地台除く）、気佐藤、新庄、千鹿浦、山内（478, 480, 484, 485, 488, 490, 494, 1708, 1711, 704, 1820, 1751, 1642, 231 番地台除く）、東岩代（988 番地より大きい番地除く）、西岩代（除く番地調査困難）
白浜町	中、栄、富田、村島、松原、上町、浜町、本町、日の出
すさみ町	口和深（口和深地区）、周参見（下一地区、下二地区、堀地地区、本地区、石橋地区、田中地区、小泊地区、平松地区）、周参（崎地区）、見老津（見老津地区）、江住（江須之川地区、江住地区）

市町名	地区名
那智勝浦町	里区、向地区、中芝区、出見世区、湊区、川関区・那智の郷区、浜ノ宮区、天満区、須崎区 天満1丁目含む)、朝日区(朝日1～4丁目含む)、二河区、勝浦1区(大勝浦区)、勝浦2区、 勝浦3区、勝浦4区、勝浦5区(北浜区)、勝浦6区(築地区)、下里天満区、下里区、高芝、 八尺鏡野区、粉白区、浦神西区、浦神東区
太地町	太地 大東、太地 小東、太地 新屋敷、太地 寄子路、太地 水の浦、太地 暖海、太地 山、太地 常渡、森浦 森浦
古座川町	高池下部
串本町	伊串、串本、古座、江田、高富、神野川、西向、大島、中湊、津荷、田原、田子、田並、二、 姫、有田、鬮野川

注) 該当する地区名は各市町村調べ(平成28年(2016年)9月現在)

5.2. 単純集計表

5.2.1 南海トラフの地震について

問1 あなたは、南海トラフの地震（東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震を含む。以下同じ。）について、どの程度関心を持っていますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 非常に関心がある	39.1%	36.3%	44.6%	30.3%	37.3%	39.7%
2 関心がある	43.9%	48.4%	40.6%	49.3%	46.3%	40.9%
3 多少関心がある	13.6%	13.5%	12.8%	19.0%	15.1%	15.3%
4 関心がない	1.3%	1.1%	0.7%	1.0%	0.9%	1.0%
無回答・無効	2.2%	0.7%	1.4%	0.4%	0.4%	3.0%

問2 あなたは、南海トラフの地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 明日起きても不思議はないと思っている	43.0%	35.2%	46.1%	36.7%	36.0%	37.3%
2 2～3年以内に起こりそうだ	5.7%	4.0%	3.7%	4.0%	4.8%	6.0%
3 ここ10年くらいの間に起きそうだ	14.5%	15.1%	13.9%	14.3%	17.7%	12.7%
4 ここ20～30年の間に起きそうだ	8.1%	12.0%	10.4%	15.2%	11.4%	9.7%
5 もっと先のことだと思う	1.2%	2.1%	1.7%	3.2%	2.0%	1.4%
6 起きる時期はわからない	25.2%	30.8%	22.6%	26.5%	27.7%	30.4%
無回答・無効	2.4%	0.7%	1.5%	0.1%	0.4%	2.4%

5.2.2 地震・津波への意識と避難について

問3 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 避難する	72.9%	82.9%	79.8%	-	41.9%	27.8%
2 避難しない	22.3%	16.4%	19.4%	-	57.0%	61.0%
無回答・無効	4.8%	0.7%	0.7%	-	1.1%	11.2%

問3-1 あなたが避難する主な理由は何ですか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 津波に襲われる危険があるから	65.8%	87.4%	82.7%	-	86.8%	70.6%
2 がけ崩れ・山崩れの危険があるから	13.7%	7.6%	10.8%	-	12.3%	3.4%
3 余震で家が倒壊する危険があるから	52.5%	37.1%	47.1%	-	51.7%	19.5%
4 火災が発生する危険があるから	19.5%	15.8%	14.8%	-	20.4%	1.9%
5 電気や水道等が止まり生活できなくなるから	21.2%	16.6%	20.2%	-	20.4%	2.5%
6 その他	1.6%	0.6%	1.9%	-	2.1%	2.2%
無回答・無効	0.5%	1.2%	0.0%	-	0.0%	2.5%

問3-2 あなたはいつ避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 揺れが収まったらできるだけ早く	54.3%	56.7%	54.2%	-	65.7%	73.7%
2 津波注意報や警報が出たら	21.4%	17.4%	21.4%	-	17.4%	14.5%
3 大津波警報（特別警報）が出たら	10.7%	14.1%	-	-	-	-
4 市町村から避難の呼びかけがあったら	6.7%	4.7%	14.1%	-	8.8%	5.3%
5 近所の人が避難したら	0.9%	2.4%	3.5%	-	2.2%	2.6%
6 家族が避難したら	1.6%	1.5%	2.9%	-	4.2%	1.8%
7 その他	0.6%	0.5%	1.0%	-	0.2%	0.9%
無回答・無効	3.9%	2.7%	2.9%	-	1.5%	2.2%

問3-3 あなたは、どこに避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 市町村が決めた避難場所	46.8%	37.4%	29.0%	-	45.0%	40.9%
2 地域住民が自分たちで決めた避難場所	11.7%	10.8%	7.9%	-	11.7%	6.7%
3 自宅近くの高台	33.2%	45.4%	53.8%	-	34.8%	35.7%
4 近くの高台に住んでいる親戚や知人の家	2.6%	1.9%	4.8%	-	3.7%	4.6%
5 その他の場所	4.0%	2.3%	3.2%	-	2.2%	2.9%
無回答・無効	1.8%	2.2%	1.3%	-	2.5%	9.4%

問3-4 余震が続く中で、あなたが、避難のため家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電で真っ暗になっており、しかも揺れでダンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 5分以内	13.9%	13.7%	16.5%	-	24.3%	20.6%
2 5～10分後	31.6%	29.5%	31.5%	-	32.4%	26.9%
3 10～15分後	23.5%	21.3%	19.6%	-	19.0%	19.7%
4 15～20分後	12.3%	12.4%	12.2%	-	8.4%	6.7%
5 20～30分後	10.4%	14.8%	9.3%	-	5.9%	13.6%
6 30～40分後	4.9%	4.3%	3.8%	-	3.1%	3.7%
7 40～60分後	1.8%	1.4%	2.1%	-	1.0%	1.0%
8 60分以上	0.8%	0.9%	1.1%	-	1.7%	1.1%
無回答・無効	0.8%	1.6%	4.0%	-	4.1%	6.5%

問3-5 あなたはどのようにして避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 歩いて避難する	77.3%	80.7%	73.1%	-	77.1%	71.5%
2 自転車・バイクで避難する	6.0%	9.4%	10.3%	-	6.6%	5.5%
3 車で避難する	16.0%	8.7%	13.4%	-	9.4%	15.0%
4 船で避難する	0.1%	0.0%	0.0%	-	-	0.0%
無回答・無効	0.7%	1.3%	3.2%	-	6.9%	8.0%

問3-6 あなたが避難しない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 近くの避難場所を知らないから	2.4%	5.3%	6.0%	-	-	-
2 避難経路が危険だから	11.3%	20.7%	16.8%	-	-	-
3 自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから	18.1%	10.1%	7.1%	-	-	-
4 自宅が安全だから	35.4%	22.5%	28.8%	-	-	-
5 家や家財を残して避難することに抵抗があるから	8.5%	9.5%	6.5%	-	-	-
6 その他	19.8%	23.7%	23.4%	-	-	-
無回答・無効	4.4%	8.3%	11.4%	-	-	-

問4 地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 避難路の整備	45.0%	47.9%	48.7%	42.5%	42.6%	44.5%
2 避難所や避難場所の整備	56.6%	60.1%	64.7%	61.0%	53.0%	56.5%
3 看板(避難所、避難場所、避難路)の整備	29.7%	38.6%	42.7%	38.0%	30.3%	36.9%
4 津波の際に緊急避難できる高い建物(避難タワー・避難ビル)の整備	31.4%	39.5%	40.7%	25.2%	28.6%	32.4%
5 市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達	56.5%	59.1%	57.9%	56.0%	61.8%	62.9%
6 避難所となる小中学校等の耐震化	28.5%	30.4%	35.8%	36.4%	40.9%	40.1%
7 地域毎の詳しい津波避難計画の作成	18.9%	28.0%	37.8%	29.0%	32.1%	41.1%
8 緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備	37.9%	46.3%	47.2%	43.7%	45.1%	43.9%
9 支援が必要な人の避難誘導體制の整備	38.9%	44.1%	48.5%	44.1%	46.9%	45.2%
10 避難にあたってのルールづくりとその徹底	21.1%	31.1%	31.6%	28.1%	23.3%	29.2%
11 津波の危険性が高い地域の集団移転	11.3%	11.4%	14.2%	9.4%	12.1%	-
12 地域の防災訓練	22.2%	-	-	-	-	-
13 地震・津波についての説明会・研修	11.7%	-	-	-	-	-
14 家屋やブロック塀の倒壊により避難路がふさがれないよう、住宅等の耐震化の促進	26.4%	-	-	-	-	-
15 その他	4.1%	3.1%	5.6%	3.7%	2.5%	3.6%
無回答・無効	2.9%	2.9%	2.8%	5.8%	2.6%	4.6%

5.2.3 地震発生時の火災防止について

問5 漏電を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置のことを「漏電ブレーカー（漏電遮断器）」といいます。あなたの自宅に漏電ブレーカーを設置していますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 設置している	67.6%	-	-	-	-	-
2 設置していない	14.4%	-	-	-	-	-
3 わからない	15.5%	-	-	-	-	-
無回答・無効	2.4%	-	-	-	-	-

問5-1 なぜ設置していないのですか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 漏電ブレーカーについて知らなかった	53.3%	-	-	-	-	-
2 費用が高額だから	13.5%	-	-	-	-	-
3 建物が老朽化しているから	25.1%	-	-	-	-	-
4 その他	16.6%	-	-	-	-	-
無回答・無効	6.3%	-	-	-	-	-

問6 地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置を感震ブレーカーといいます。あなたの自宅に感震ブレーカーを設置していますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 設置している	22.6%	-	-	-	-	-
2 設置していない	43.2%	-	-	-	-	-
3 わからない	26.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	8.1%	-	-	-	-	-

問6-1 なぜ設置していないのですか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 感震ブレーカーについて知らなかった	78.3%	-	-	-	-	-
2 費用が高額だから	11.3%	-	-	-	-	-
3 避難時に必要な照明が消えるから	4.9%	-	-	-	-	-
4 在宅医療機器に必要な電源がなくなるから	0.3%	-	-	-	-	-
5 要介護者の健康維持のためのエアコンが切れるから	0.5%	-	-	-	-	-
6 その他	9.5%	-	-	-	-	-
無回答・無効	3.3%	-	-	-	-	-

問7 そのほか、地震発生時の火災を防ぐために自宅でどのような対策をしていますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 逃げ遅れを防ぐために、「住宅用火災警報器」を設置している	37.6%	-	-	-	-	-
2 寝具や衣類、カーテンからの火災を防ぐため、「防炎品」を使用している	4.7%	-	-	-	-	-
3 火災を小さいうちに消すために、「住宅用消火器」などを設置している	35.8%	-	-	-	-	-
4 その他	1.9%	-	-	-	-	-
5 特に何もしていない	37.9%	-	-	-	-	-
無回答・無効	4.1%	-	-	-	-	-

5.2.4 風水害への意識と避難について

- 問8 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。
 あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。
 あなたは、以下の状況のうち、どの段階で避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 大雨・洪水注意報や大雨警報が出たら	3.4%	-	-	-	-	-
2 大雨特別警報が出たら	6.1%	-	-	-	-	-
3 避難準備情報が出たら	8.7%	-	-	-	-	-
4 避難勧告が発令されたら	23.3%	-	-	-	-	-
5 避難指示が発令されたら	28.9%	-	-	-	-	-
6 近所の人が避難したら	4.7%	-	-	-	-	-
7 家族が避難したら	3.8%	-	-	-	-	-
8 その他	2.2%	-	-	-	-	-
9 避難しない	14.8%	-	-	-	-	-
無回答・無効	4.0%	-	-	-	-	-

- 問8-1 あなたは、どこに避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 市町村が決めた避難場所	70.0%	-	-	-	-	-
2 地域住民が自分たちで決めた避難場所	16.0%	-	-	-	-	-
3 水想定区域外や土砂災害警戒区域外の施設等	7.3%	-	-	-	-	-
4 その他の場所	5.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	1.6%	-	-	-	-	-

- 問8-2 あなたはどのようにして避難しますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 歩いて避難する	66.7%	-	-	-	-	-
2 自転車・バイクで避難する	3.6%	-	-	-	-	-
3 車で避難する	27.3%	-	-	-	-	-
4 その他	1.1%	-	-	-	-	-
無回答・無効	1.3%	-	-	-	-	-

問8-3 あなたが避難しない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 近くの避難場所を知らないから	1.5%	-	-	-	-	-
2 避難経路が危険だから	6.9%	-	-	-	-	-
3 自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから	8.7%	-	-	-	-	-
4 自宅が安全だから	45.1%	-	-	-	-	-
5 家や家財を残して避難することに抵抗があるから	1.8%	-	-	-	-	-
6 自宅が洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に入っていないから	18.5%	-	-	-	-	-
7 その他	11.3%	-	-	-	-	-
無回答・無効	6.2%	-	-	-	-	-

問9 風水害時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 避難路の整備	42.1%	-	-	-	-	-
2 避難所や避難場所の整備	51.8%	-	-	-	-	-
3 看板(避難所、避難場所、避難路)の整備	27.4%	-	-	-	-	-
4 市町村による避難勧告等の迅速な決定と伝達	57.1%	-	-	-	-	-
5 緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備	40.5%	-	-	-	-	-
6 支援が必要な人の避難誘導體制の整備	39.1%	-	-	-	-	-
7 避難にあたってのルールづくりとその徹底	20.2%	-	-	-	-	-
8 地域の防災訓練	17.5%	-	-	-	-	-
9 水害・土砂災害についての説明会・研修	12.9%	-	-	-	-	-
10 その他	2.9%	-	-	-	-	-
無回答・無効	5.2%	-	-	-	-	-

5.2.5 災害時の情報収集について

問 10 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災行政無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる	28.8%	24.3%	24.3%	-	20.9%	19.0%
2 よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある	35.4%	31.2%	31.0%	-	27.8%	29.4%
3 ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない	24.1%	27.1%	25.5%	-	21.8%	20.2%
4 放送の内容はまったく聞きとれない	4.6%	5.8%	6.4%	-	5.1%	5.5%
5 近くに防災行政無線のスピーカーが設置されていない	3.9%	8.5%	8.3%	-	20.0%	20.7%
無回答・無効	3.2%	3.1%	4.6%	-	4.5%	5.2%

問 11 あなたは、災害時における緊急情報をどのように入手していますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 テレビ	88.2%	68.1%	-	-	-	-
2 ラジオ	23.9%	2.6%	-	-	-	-
3 インターネット	29.4%	2.2%	-	-	-	-
4 電子メール	21.9%	19.1%	-	-	-	-
5 家族から	12.1%	0.7%	-	-	-	-
6 友人・知人から	6.9%	0.1%	-	-	-	-
7 町内会・自治会から	9.6%	2.6%	-	-	-	-
8 消防署・消防団から	6.2%	0.8%	-	-	-	-
9 ツイッターやフェイスブック等の SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）	7.3%	-	-	-	-	-
10 防災行政無線	32.8%	-	-	-	-	-
11 その他	1.0%	0.5%	-	-	-	-
12 どこからも入手していない	0.6%	0.8%	-	-	-	-
無回答・無効	1.0%	2.4%	-	-	-	-

問 12 県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 している	25.0%	19.1%	17.8%	-	-	-
2 していない	68.4%	74.4%	77.7%	-	-	-
無回答・無効	6.6%	6.5%	4.6%	-	-	-

問 13 気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。

問 13-1 あなたはこのことをご存じですか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 よく知っている	49.1%	50.4%	43.2%	-	45.3%	-
2 何となく知っている	36.4%	37.7%	36.9%	-	39.8%	-
3 知らない	12.0%	9.8%	14.9%	-	11.8%	-
無回答・無効	2.6%	2.1%	5.0%	-	3.1%	-

問 13-2 もし、あなたが「あと 10 数秒で震度 6 強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 その場で様子をみる	23.9%	22.9%	18.3%	-	15.2%	-
2 机、テーブル、ベッドの下にもぐる	32.1%	28.5%	31.1%	-	39.2%	-
3 家の中の安全なところを探して身を守る	46.7%	49.6%	47.5%	-	44.1%	-
4 急いで外に出る	21.9%	19.0%	23.4%	-	21.4%	-
5 家族に危険を知らせる	32.9%	43.3%	49.0%	-	46.5%	-
6 テレビでもう一度確認する	21.3%	25.0%	21.7%	-	20.9%	-
7 その他	1.9%	2.3%	3.3%	-	3.0%	-
無回答・無効	2.1%	1.6%	4.4%	-	2.4%	-

問 14 県では、テレビのデータ放送及びホームページ等を用いて河川の水位情報を出しています。あなたは、台風や大雨の際、河川の水位情報を確認していますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 確認している	39.1%	-	-	-	-	-
2 確認していない	57.9%	-	-	-	-	-
無回答・無効	3.0%	-	-	-	-	-

問 14-1 どういった方法によって確認していますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 テレビのデータ放送	78.2%	-	-	-	-	-
2 国や県等のホームページ	12.9%	-	-	-	-	-
3 防災わかやまメール配信サービス	16.4%	-	-	-	-	-
4 河川の状況を直接見に行き確認している	13.0%	-	-	-	-	-
5 その他	2.2%	-	-	-	-	-
無回答・無効	1.1%	-	-	-	-	-

問 14-2 なぜ確認していないのですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 調べ方がわからない	35.1%	-	-	-	-	-
2 洪水浸水想定区域外だから	26.6%	-	-	-	-	-
3 自分の家は大丈夫だと思うから	28.5%	-	-	-	-	-
4 危険であれば避難勧告等が発令されるから	31.7%	-	-	-	-	-
5 その他	5.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	3.4%	-	-	-	-	-

問 15 あなたは、避難カードを知っていますか (ひとつだけ○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 知っている	12.6%	9.7%	-	-	-	-
2 何となく知っている	18.9%	12.4%	-	-	-	-
3 知らなかった	63.4%	73.7%	-	-	-	-
無回答・無効	5.1%	4.2%	-	-	-	-

問 15-1 あなたは、家族と同居している場合は家族等と避難場所や避難経路等を話し合って、緊急避難先等を避難カードに記入していますか (ひとつだけ○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 記入している	28.1%	14.0%	-	-	-	-
2 記入していない	67.1%	85.2%	-	-	-	-
無回答・無効	4.8%	0.8%	-	-	-	-

問 16 あなたの住んでいる地域で大規模な災害が発生し、自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなってしまったとします。あなたはどこで避難生活を送りますか (ひとつだけ○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 最寄りの避難所	52.5%	-	-	-	-	-
2 県内の親せきや友人の家	20.3%	-	-	-	-	-
3 県外の親せきや友人の家	7.7%	-	-	-	-	-
4 テント	1.1%	-	-	-	-	-
5 自家用車の中 (車中泊)	11.5%	-	-	-	-	-
6 その他	2.9%	-	-	-	-	-
無回答・無効	4.1%	-	-	-	-	-

問 16-1 自家用車の中で避難生活を送る主な理由は何ですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 避難所に多くの被災者が殺到し入ることができないと思うから	50.5%	-	-	-	-	-
2 避難所ではプライバシーが確保されないと思うから	58.1%	-	-	-	-	-
3 自分や家族が高齢者であるため、避難所生活が送れるか心配だから	16.8%	-	-	-	-	-
4 家族に乳幼児がいるため、避難所生活が送れるか心配だから	3.3%	-	-	-	-	-
5 自分や家族に障害・持病があるため、避難所生活を送れるか心配だから	7.3%	-	-	-	-	-
6 ペットを飼っているため、避難所生活を送れるか心配だから	29.7%	-	-	-	-	-
7 その他	4.3%	-	-	-	-	-
無回答・無効	1.3%	-	-	-	-	-

問 17 あなたが避難所生活を送ることを考えた時、どのようなことが心配ですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 食料や水の問題	71.9%	-	-	-	-	-
2 日用品の問題	39.4%	-	-	-	-	-
3 プライバシーの問題	53.0%	-	-	-	-	-
4 トイレの問題	76.2%	-	-	-	-	-
5 洗濯・入浴の問題	56.6%	-	-	-	-	-
6 避難生活によるストレスや体調不良	55.6%	-	-	-	-	-
7 持病の治療や悪化	20.2%	-	-	-	-	-
8 自分や家族が高齢者であること	23.7%	-	-	-	-	-
9 自分や家族に障害があること	7.5%	-	-	-	-	-
10 家族に乳幼児がいること	6.3%	-	-	-	-	-
11 ペットの問題	17.2%	-	-	-	-	-
12 避難所が少なく(狭く)、自分や家族が入れるかどうか	15.9%	-	-	-	-	-
13 その他	1.7%	-	-	-	-	-
無回答・無効	0.9%	-	-	-	-	-

5.2.6 自主防災組織等について

問 18 あなたの自宅は、町内会（自治会）に入っていますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 入っている	82.7%	85.0%	86.6%	86.7%	88.0%	84.2%
2 入っていない	7.6%	5.7%	5.1%	5.1%	4.7%	3.6%
3 町内会（自治会）はない	1.8%	1.9%	1.4%	1.1%	1.6%	3.7%
4 わからない	6.2%	5.2%	4.2%	4.5%	4.3%	4.9%
無回答・無効	1.7%	2.2%	2.7%	2.6%	1.4%	3.5%

問 19 あなたの自宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 入っている	27.0%	33.9%	30.1%	35.1%	33.1%	20.4%
2 入っていない	14.9%	16.1%	20.0%	22.2%	22.8%	27.2%
3 自主防災組織はない	8.7%	8.4%	8.8%	9.5%	10.7%	15.8%
4 わからない	45.1%	38.5%	37.0%	31.6%	31.4%	26.6%
無回答・無効	4.3%	3.0%	4.1%	1.7%	2.0%	9.9%

問 19-1 あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 活発に活動している	14.8%	11.2%	13.4%	16.8%	14.6%	13.3%
2 ある程度活動している	54.6%	57.9%	46.2%	43.9%	45.8%	39.3%
3 あまり活動していない	23.3%	22.0%	30.1%	32.0%	26.7%	33.6%
4 よく知らない	4.2%	6.8%	9.1%	7.2%	12.9%	11.8%
無回答・無効	3.1%	2.2%	1.2%	0.2%	-	2.1%

問 19-2 自主防災組織が抱える課題は何だと思いますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 防災訓練の内容がマンネリ化している	34.7%	-	-	-	-	-
2 限られた住民だけの活動となっている	54.3%	-	-	-	-	-
3 住民同士が連携する意識が希薄である	34.6%	-	-	-	-	-
4 住民の防災に関する理解が不十分である	21.7%	-	-	-	-	-
5 率先して活動するリーダーがいない	19.3%	-	-	-	-	-
6 地域を構成する世帯や人員の把握ができていない	8.5%	-	-	-	-	-
7 防災活動に使える予算が少ない	14.7%	-	-	-	-	-
8 行政からの支援やサポートがない	10.0%	-	-	-	-	-
9 防災資機材が不十分である	15.8%	-	-	-	-	-
10 その他	4.5%	-	-	-	-	-
無回答・無効	9.6%	-	-	-	-	-

問 19-3 なぜ、自主防災組織に入っていないのですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 自主防災組織に興味がないから	7.2%	-	-	-	-	-
2 年齢層が高く入りづらいから	14.1%	-	-	-	-	-
3 どんな活動をしているのか知らないから	43.7%	-	-	-	-	-
4 家事や仕事で忙しいから	22.3%	-	-	-	-	-
5 大変そうだから	7.4%	-	-	-	-	-
6 危険を伴いそうだから	0.8%	-	-	-	-	-
7 その他	17.9%	-	-	-	-	-
無回答・無効	11.0%	-	-	-	-	-

問 20 災害時に要配慮者を地域において支援する体制ができていますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 できている	7.2%	8.5%	7.2%	16.6%	7.5%	-
2 できていないが検討している	7.7%	13.8%	13.0%	12.3%	16.8%	-
3 検討していない	8.2%	10.5%	12.3%	5.4%	14.7%	-
4 よく知らない	72.3%	64.6%	64.7%	62.7%	58.1%	-
無回答・無効	4.6%	2.5%	2.8%	3.0%	2.9%	-

問 21 大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力してどのようなことができると思いますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する	38.8%	51.8%	52.3%	55.1%	54.6%	66.4%
2 火災が出たとき消火する	36.3%	49.6%	49.6%	57.3%	54.2%	67.7%
3 重症者が出たとき病院などへ車やリアカーなどで運ぶ	27.6%	40.6%	38.2%	37.6%	38.8%	47.6%
4 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う	53.3%	66.5%	60.8%	64.6%	65.0%	63.3%
5 避難した人たちのために、炊き出しをする	43.5%	50.1%	50.8%	42.9%	43.8%	45.8%
6 避難所の運営を手伝う	36.7%	44.4%	45.3%	38.7%	40.6%	25.2%
7 その他	3.7%	-	-	-	-	-
8 1~7のようなことはできない	13.4%	9.4%	9.8%	10.5%	11.4%	-
無回答・無効	2.7%	2.5%	5.5%	2.8%	2.5%	6.4%

問 22 あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 地震・津波や風水害などの学習会	31.1%	-	-	-	-	-
2 自主防災組織の育成・強化	37.0%	42.1%	43.0%	30.9%	39.2%	36.2%
3 自主防災組織の防災資機材の整備・充実	36.5%	32.5%	34.8%	27.4%	30.8%	32.1%
4 防災訓練や図上演習などの実施	17.2%	24.1%	28.1%	15.4%	25.0%	23.0%
5 地域防災リーダーの育成・研修	29.2%	27.9%	33.6%	19.7%	29.4%	31.7%
6 避難等について考えるワークショップ(研修会)	16.2%	-	-	-	-	-
7 小中学校の防災教育の充実	23.7%	36.5%	38.4%	25.0%	32.9%	25.2%
8 消防団の強化	16.4%	19.9%	24.5%	15.8%	24.7%	29.0%
9 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	30.9%	30.5%	33.6%	26.6%	34.2%	28.8%
10 その他	3.8%	1.6%	1.3%	2.3%	1.7%	2.0%
無回答・無効	8.8%	7.8%	9.7%	14.2%	10.0%	11.3%

5.2.7 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

問 23 あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 昭和 56 年 5 月以前	41.3%	-	-	-	-	-
2 昭和 56 年 6 月～平成 12 年 5 月までの間	35.2%	-	-	-	-	-
3 平成 12 年 6 月以降	20.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	3.5%	-	-	-	-	-

問 24 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 一戸建て	82.5%	83.4%	80.2%	84.2%	-	84.4%
2 1～2階建て集合住宅	6.5%	6.0%	5.8%	5.6%	-	5.0%
3 高層（3階建て以上の）集合住宅	5.9%	4.2%	5.2%	5.7%	-	6.2%
4 住宅と事業所を兼ねた建物	3.2%	3.1%	3.1%	3.5%	-	2.3%
5 その他	1.0%	0.9%	1.2%	0.8%	-	1.5%
無回答・無効	1.0%	2.3%	4.4%	0.3%	-	0.7%

問 25 あなたがお住まいのご自宅の構造は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 木造	71.3%	70.4%	69.5%	70.3%	68.4%	75.5%
2 鉄骨造	12.8%	13.8%	13.3%	13.0%	13.9%	11.4%
3 鉄筋コンクリート造	8.4%	8.3%	8.1%	15.4%	9.1%	10.6%
4 鉄骨鉄筋コンクリート造	4.1%	3.6%	3.7%		4.7%	
5 その他	1.5%	2.1%	1.3%	1.0%	0.9%	1.4%
無回答・無効	1.9%	1.9%	4.1%	0.3%	3.0%	1.2%

問 26 ご自宅は、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 ある	10.6%	11.7%	9.8%	9.9%	8.6%	4.1%
2 ない	87.3%	88.0%	89.4%	89.7%	91.4%	80.1%
無回答・無効	2.1%	0.3%	0.8%	0.4%	-	15.7%

問 26-1 耐震診断をした結果はどうでしたか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震補強が必要	35.8%	44.3%	48.5%	42.9%	51.5%	49.4%
2 耐震補強する必要はない	59.1%	54.0%	46.2%	49.2%	31.8%	48.3%
無回答・無効	5.0%	1.7%	5.4%	7.9%	16.7%	2.3%

問 26-2 耐震補強が必要と診断された後、どう対応しましたか (ひとつだけ○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 建て替えた	7.0%	3.8%	4.8%	0.0%	-	7.7%
2 補強した	27.0%	32.1%	28.6%	25.9%	23.5%	7.7%
3 今後建て替える予定	2.0%	0.0%	3.2%	0.0%	-	0.0%
4 今後補強する予定	5.0%	12.8%	12.7%	11.1%	20.6%	0.0%
5 建て替えも補強もする予定はない	29.0%	25.6%	22.2%	20.4%	14.7%	34.6%
6 まだ決めていない	26.0%	24.4%	23.8%	42.6%	41.2%	50.0%
無回答・無効	4.0%	1.3%	4.8%	0.0%	-	0.0%

問 26-3 すぐに補強をしないのはなぜですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 補強のやり方がわからないから	0.0%	7.7%	-	-	-	-
2 費用がかかるから	65.5%	79.5%	-	-	-	-
3 借家だから	1.8%	5.1%	-	-	-	-
4 手間がかかるから	9.1%	10.3%	-	-	-	-
5 工事をどこに頼めばよいかわからないから	0.0%	2.6%	-	-	-	-
6 補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから	56.4%	56.4%	-	-	-	-
7 その他	7.3%	5.1%	-	-	-	-
無回答・無効	5.5%	0.0%	-	-	-	-

問 26-4 耐震診断を受けていないのは、どうしてですか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから	13.7%	11.9%	12.8%	9.9%	10.8%	9.6%
2 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから	13.1%	16.4%	16.2%	14.0%	18.0%	13.7%
3 手間がかかるから	10.1%	10.4%	13.0%	11.7%	11.3%	9.4%
4 耐震診断の費用がかかるから	23.7%	30.4%	31.6%	32.7%	30.7%	25.2%
5 借家だから	12.0%	6.1%	6.2%	7.1%	9.8%	8.1%
6 耐震診断のやり方がわからないから	17.1%	19.6%	22.2%	20.9%	23.7%	33.0%
7 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をする予定	1.2%	1.1%	0.7%	1.3%	1.7%	-
8 近いうちに建て替える予定	1.1%	1.6%	2.4%	1.3%	1.6%	-
9 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから	20.1%	25.5%	25.7%	27.1%	27.1%	26.0%
10 どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから	20.9%	25.5%	26.5%	25.8%	29.1%	33.9%
11 どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから	17.8%	21.4%	21.9%	17.6%	26.0%	-
12 自分が生きている間に大地震は起きないと思うから	2.1%	1.6%	3.0%	4.0%	4.3%	3.0%
13 地震災害に関心がないから	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.9%	0.9%
14 その他	7.8%	7.7%	6.7%	9.4%	7.3%	7.8%
無回答・無効	7.7%	8.3%	4.7%	13.8%	3.6%	4.4%

問 26-5 今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断をしてみたい	25.5%	23.3%	18.9%	-	-	-
2 専門家や市町村相談窓口で相談してみたい	9.7%	9.5%	27.2%	-	-	-
3 耐震診断はしたくない	13.8%	13.6%	11.6%	-	-	-
4 分からない	42.7%	39.8%	36.1%	-	-	-
無回答・無効	8.3%	13.7%	6.2%	-	-	-

問 27 今後、住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断の専門家のあっせん	15.2%	15.3%	15.4%	17.6%	19.9%	19.3%
2 耐震診断の専門家の無料派遣	62.6%	63.0%	61.0%	62.9%	66.3%	64.2%
3 工事費用の低金利による貸付け	23.4%	28.7%	25.2%	28.8%	34.2%	26.5%
4 耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充	36.4%	42.5%	41.9%	41.0%	38.1%	32.7%
5 耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布	15.4%	18.8%	21.6%	26.9%	24.2%	34.2%
6 耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導	15.4%	18.1%	17.6%	20.4%	21.8%	15.5%
7 個人でもっと簡単にできる診断方法の開発	20.5%	20.6%	21.5%	23.8%	25.1%	26.2%
8 信用できる耐震補強工事業者のあっせん	20.5%	26.3%	26.2%	32.2%	33.2%	31.2%
9 耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施	8.4%	11.2%	13.7%	17.8%	15.9%	17.8%
10 耐震補強工事の実例（実物）展示	6.3%	8.8%	9.2%	10.6%	12.4%	13.5%
11 個人宅なので、行政は何もすべきでない	2.6%	3.3%	2.8%	3.5%	1.9%	3.0%
12 その他	3.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	8.9%	8.3%	10.3%	3.6%	6.9%	6.4%

問 28 あなたのお宅では家具等の固定をしていますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 固定はしていない	46.4%	48.0%	55.8%	57.7%	62.6%	67.7%
2 一部のみ固定している	35.5%	37.8%	34.6%	35.1%	29.7%	19.7%
3 全部または大部分を固定している	6.7%	6.0%	5.2%	6.3%	6.1%	3.1%
4 今後、きちんと固定する予定	4.0%	4.4%	-	-	-	-
5 相談してみたい	0.4%	0.5%	-	-	-	-
6 固定が必要な家具類がない	3.3%	-	-	-	-	-
7 わからない	0.9%	0.5%	-	-	-	-
無回答・無効	2.9%	2.9%	4.5%	0.8%	1.7%	9.6%

問 28-1 家具等の固定をしていないのはどのような理由からですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 建物や家具を傷めるから	8.9%	10.1%	10.2%	12.7%	8.2%	7.2%
2 固定の方法がわからないから	13.8%	16.3%	18.2%	15.7%	17.3%	20.2%
3 借家だから	12.2%	10.4%	8.8%	8.9%	10.6%	8.1%
4 費用がかかるから	19.7%	19.4%	18.0%	16.0%	16.1%	14.2%
5 手間がかかるから	26.5%	27.8%	26.5%	33.0%	27.3%	29.1%
6 固定しなくても大丈夫だと思うから	14.1%	14.0%	12.8%	14.8%	11.8%	11.9%
7 家具類を置かない安全な部屋があるから	18.2%	20.7%	23.0%	21.3%	20.0%	18.5%
8 固定しても被害は出ると思うから	21.5%	27.3%	23.1%	21.3%	20.8%	25.4%
9 大地震はすぐには起きないと思うから	2.6%	4.2%	3.6%	5.6%	5.3%	5.1%
10 地震災害に関心がないから	0.6%	0.5%	0.2%	0.5%	0.6%	0.9%
11 その他	6.7%	9.3%	9.2%	7.9%	9.0%	8.4%
無回答・無効	4.2%	2.5%	3.9%	3.5%	6.1%	8.5%

問 29 家具等の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布	42.2%	45.9%	48.3%	50.2%	49.8%	57.0%
2 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん	24.0%	21.8%	24.6%	28.2%	25.0%	27.8%
3 家具類の固定に必要な費用の補助	36.9%	34.3%	35.7%	35.1%	29.0%	27.6%
4 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣	34.8%	33.0%	33.5%	35.1%	33.9%	31.3%
5 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設	13.1%	14.5%	16.3%	16.9%	15.3%	12.2%
6 個人宅なので、行政は何もすべきでない	6.2%	7.5%	6.8%	7.0%	5.9%	5.3%
7 その他	2.4%	-	-	-	-	-
無回答・無効	8.8%	8.8%	8.9%	5.2%	10.1%	10.0%

問 30 ご自宅のブロック塀や石塀、門柱など、地震時の安全性を業者依頼するなどにより点検しましたか。また、点検した結果、どのような対応をしましたか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 点検していない	67.2%	65.9%	94.4%	91.9%	93.7%	94.3%
2 点検して安全と言われた	2.7%	3.8%	4.1%	5.5%	4.5%	3.8%
3 点検した結果、危険だったので、取り壊した	0.4%	0.4%	-	-	-	-
4 点検した結果、危険だったので、生け垣・フェンス等に変えた	0.6%	0.2%	-	-	-	-
5 点検した結果、危険だったので、対応を検討中である	0.3%	0.4%	-	-	-	-
6 点検した結果、危険だったが、今後、変える予定はない	0.3%	2.1%	-	-	-	-
7 もともとない	20.0%	20.9%	-	-	-	-
8 その他	1.9%	2.1%	-	-	-	-
無回答・無効	6.5%	4.2%	0.4%	1.3%	0.8%	1.7%

問 30-1 点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 点検するまでもなく危険だから	5.7%	5.8%	5.7%	6.1%	6.4%	6.3%
2 点検の方法がわからないから	16.9%	28.6%	25.2%	27.0%	21.4%	24.1%
3 点検しなくても安全と思うから	20.6%	20.6%	23.5%	24.6%	23.0%	18.9%
4 費用がかかるから	12.3%	11.9%	8.2%	12.1%	6.9%	10.2%
5 借家だから	8.4%	7.8%	3.9%	4.1%	4.8%	4.5%
6 手間がかかるから	3.3%	4.5%	3.3%	4.4%	2.3%	7.7%
7 対策しても被害は防げないと思うから	8.9%	11.0%	9.8%	6.6%	11.4%	18.6%
8 大地震はすぐには起きないと思うから	1.1%	0.9%	0.4%	1.1%	0.6%	2.1%
9 地震災害に関心がないから	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	-	0.3%
10 その他	8.3%	7.4%	6.2%	8.3%	19.6%	5.6%
無回答・無効	14.3%	1.6%	13.8%	5.5%	3.4%	1.8%

問 30-2 すぐに対応しないのはなぜですか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 補強のやり方がわからないから	11.8%	7.5%	-	-	-	-
2 費用がかかるから	52.9%	50.9%	-	-	-	-
3 借家だから	5.9%	3.8%	-	-	-	-
4 手間がかかるから	29.4%	22.6%	-	-	-	-
5 工事をどこに頼めばよいかわからないから	23.5%	3.8%	-	-	-	-
6 補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから	11.8%	26.4%	-	-	-	-
7 その他	0.0%	20.8%	-	-	-	-
無回答・無効	11.8%	7.5%	-	-	-	-

問 31 今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布	35.0%	37.1%	38.8%	41.1%	41.4%	45.9%
2 専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施	52.0%	50.5%	47.5%	49.5%	46.9%	45.2%
3 信用がおける工事業者のあっせん	20.0%	18.0%	17.9%	20.0%	20.1%	20.7%
4 塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化等の費用の補助	28.1%	27.4%	28.9%	28.3%	25.7%	19.6%
5 自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化等を行うための補助制度の創設	13.4%	12.9%	15.3%	14.5%	14.8%	13.7%
6 個人宅なので、行政は何もすべきでない	6.2%	7.2%	7.9%	8.4%	6.0%	7.1%
7 その他	3.2%	-	-	-	-	-
無回答・無効	12.4%	12.8%	12.4%	10.2%	16.5%	14.3%

5.2.8 日頃の防災対策について

問 32 南海トラフの地震などに備えて、どのような地震防災対策を行っていますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 地震が起きたとき避難する場所を決めている	54.1%	60.0%	57.2%	42.1%	58.5%	56.8%
2 家族の連絡方法を決めている	18.3%	20.2%	21.8%	14.0%	15.0%	13.7%
3 家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている	21.4%	25.0%	22.9%	14.0%	18.4%	18.7%
4 風呂にいつも水を入れている	12.3%	13.2%	15.4%	15.1%	22.0%	19.4%
5 ガラスが割れて飛び散らないよう、飛散防止対策をしている	2.8%	3.4%	2.3%	3.7%	2.7%	1.4%
6 ガスボンベを倒れないようにしている	12.9%	14.5%	18.1%	18.8%	21.1%	28.3%
7 消火器を用意している	30.3%	33.2%	37.6%	38.0%	34.1%	31.6%
8 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている	52.6%	55.2%	61.0%	53.4%	52.4%	60.7%
9 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている	19.1%	20.0%	25.6%	22.0%	21.7%	29.8%
10 自宅には、地震後、家族が何日間か食べていけるだけの食料や飲料水が常にある	28.7%	29.6%	29.0%	27.0%	22.2%	25.9%
11 非常持ち出し品を用意している	32.7%	48.9%	57.7%	34.4%	50.1%	37.5%
12 その他	4.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	5.1%	7.0%	6.8%	12.3%	6.4%	9.9%

問 32-1 非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものに○をつけてください（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 懐中電灯	88.1%	89.2%	89.4%	89.9%	89.9%	86.1%
2 携帯ラジオ	58.8%	60.0%	57.8%	64.2%	59.6%	53.8%
3 飲料水	64.3%	57.9%	57.2%	56.2%	57.1%	42.8%
4 食料品	52.6%	47.7%	42.1%	51.1%	44.3%	36.0%
5 現金	34.0%	35.2%	41.9%	30.8%	39.0%	39.6%
6 下着類	37.6%	33.0%	37.0%	29.6%	36.8%	37.7%
7 テント	2.6%	2.0%	1.6%	2.4%	2.5%	2.2%
8 預金通帳や印鑑など	33.4%	32.8%	40.7%	35.6%	37.7%	44.7%
9 ヘルメット、防災ずきんなど	18.7%	16.1%	16.4%	21.1%	19.2%	15.6%
10 救急医薬品や常備薬	35.3%	28.4%	31.5%	33.9%	34.2%	28.4%
11 ちり紙、タオル、石けん	46.9%	34.9%	38.9%	41.1%	37.9%	37.9%
12 ナイフ、缶切り	14.0%	11.0%	11.0%	16.9%	15.7%	15.2%
13 ロープ、ひも	20.4%	15.7%	15.5%	21.1%	15.8%	12.4%
14 毛布または寝袋など	15.1%	13.8%	10.2%	13.4%	16.5%	11.7%
15 携帯電話	37.4%	35.8%	43.7%	40.6%	41.6%	36.4%
16 電池	33.6%	30.7%	33.1%	27.8%	32.4%	26.7%
17 その他	6.4%	2.7%	7.7%	6.4%	5.7%	6.1%
無回答・無効	2.6%	0.5%	0.6%	1.1%	0.2%	6.4%

問 33 あなたのご家庭では、何日分の水や食料を備蓄していますか。水は家族1人につき、1日3リットル・食料は1日3食としてお考えください（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 1～2日分	24.5%	33.9%	-	-	-	-
2 2～3日分	23.7%	23.3%	-	-	-	-
3 3～4日分	8.3%	9.6%	-	-	-	-
4 4～5日分	2.2%	2.8%	-	-	-	-
5 5～6日分	2.1%	3.0%	-	-	-	-
6 7～10日分	2.4%	4.8%	-	-	-	-
7 10日以上	1.8%		-	-	-	-
8 備蓄していない	29.3%	-	-	-	-	-
無回答・無効	5.8%	22.6%	-	-	-	-

問 34 あなたの自宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 火災保険	60.6%	60.4%	60.1%	28.3%	62.5%	54.8%
2 地震保険	35.6%	31.4%	31.7%	14.6%	29.5%	14.8%
3 家財等の保険	23.0%	24.5%	26.8%	12.5%	27.1%	24.6%
4 農協の建物更生共済	17.6%	15.9%	18.4%	9.4%	13.8%	24.1%
5 住宅総合保険	3.5%	6.1%	7.7%	3.4%	7.8%	8.6%
6 その他保険	0.8%	10.5%	11.5%	4.7%	12.1%	3.3%
7 加入していない	14.8%	11.2%	12.1%	4.7%	13.7%	12.4%
8 わからない	8.0%	-	-	-	-	-
無回答・無効	3.4%	8.7%	7.9%	5.9%	4.4%	11.6%

問 34-1 「地震保険」などの地震への被害を保障対象とする保険に加入していない理由は何ですか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 保険料が高いから	42.0%	-	-	-	-	-
2 地震が起きても建物被害を受けないと思うから	3.5%	-	-	-	-	-
3 地震保険だけでは、家を再建できないと思うから	19.9%	-	-	-	-	-
4 借家だから	18.4%	-	-	-	-	-
5 地震は起こらないと思うから	0.4%	-	-	-	-	-
6 地震保険の内容がよくわからないから	6.6%	-	-	-	-	-
7 地震保険の加入を勧められなかったから	4.7%	-	-	-	-	-
8 どこに相談したらよいかわからなかったから	2.9%	-	-	-	-	-
9 既に加入している保険が地震での被害を補償対象としているから	2.4%	-	-	-	-	-
10 その他	4.8%	-	-	-	-	-
無回答・無効	20.6%	-	-	-	-	-

問 35 あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 県や市町村、消防機関が主催する防災訓練に参加した	28.8%	23.2%	15.3%	20.1%	19.3%	10.7%
2 住民が中心となって行った防災訓練に参加した	17.2%	15.2%	8.7%	14.1%	14.8%	5.5%
3 職場で行った防災訓練に参加した	15.5%	14.5%	10.0%	15.5%	9.4%	7.7%
4 その他の防災訓練に参加した	3.2%	4.5%	3.2%	5.1%	5.0%	2.5%
5 1~4の訓練には、まったく参加していない	44.3%	51.1%	59.7%	55.8%	56.3%	61.0%
無回答・無効	3.7%	3.7%	9.3%	2.6%	6.9%	17.6%

問 35-1 具体的にはどのような訓練に参加しましたか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 津波避難訓練	57.0%	47.5%	46.2%	35.1%	-	63.9%
2 消火訓練	34.0%	24.5%	40.6%	43.4%	-	46.7%
3 救出・救助訓練	8.5%	8.4%	11.1%	15.8%	-	12.8%
4 応急手当訓練	12.9%	11.3%	17.9%	20.3%	-	23.5%
5 炊き出し訓練	6.6%	4.8%	6.2%	5.1%	-	3.7%
6 情報伝達訓練	5.7%	3.6%	6.2%	7.9%	-	6.8%
7 風水害を想定した避難訓練	5.7%	-	-	-	-	-
8 避難行動要支援者の避難支援訓練	4.0%	3.4%	3.9%	5.2%	-	5.6%
9 避難所運営訓練	3.8%	-	-	-	-	-
10 その他	4.0%	2.0%	3.4%	3.4%	-	3.0%
無回答・無効	9.1%	11.9%	2.3%	4.4%	-	6.0%

問 35-2 なぜ、訓練に参加しないのですか (ひとつだけ○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 興味がないから	10.4%	8.6%	-	-	-	-
2 外せない用事等が入っていたから	26.8%	28.0%	-	-	-	-
3 地域や職場などで防災訓練が実施されていないから	28.3%	40.9%	-	-	-	-
4 その他	20.6%	18.8%	-	-	-	-
無回答・無効	13.9%	3.7%	-	-	-	-

問 36 今後、どのような訓練が必要であると思いますか (いくつでも○)。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 津波避難訓練	45.4%	52.3%	60.5%	-	-	-
2 消火訓練	26.2%	28.6%	36.5%	-	-	-
3 救出・救助訓練	26.8%	32.7%	38.3%	-	-	-
4 応急手当訓練	33.7%	38.2%	42.6%	-	-	-
5 炊き出し訓練	17.1%	15.9%	15.7%	-	-	-
6 情報伝達訓練	26.7%	38.3%	38.7%	-	-	-
7 風水害を想定した避難訓練	19.9%	-	-	-	-	-
8 避難行動要支援者の避難支援訓練	20.1%	31.7%	32.4%	-	-	-
9 避難所運営訓練	17.1%	-	-	-	-	-
10 その他	3.0%	2.9%	1.8%	-	-	-
無回答・無効	10.2%	10.2%	10.9%	-	-	-

問 37 次の項目についてあなたがお存じのことを教えてください。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は70%程度」と発表したこと (平成28年1月1日現在)	83.9%	72.0%	-	-	-	-
2 南海トラフ沿いの3つの領域(東海・東南海・南海)においては、90～150年周期で繰り返し津波を伴う地震が発生していること	72.4%	50.9%	-	-	-	-
3 南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.1)は実際に発生したことを示す記録が見つかっておらず、発生頻度が極めて低いものであること	11.0%	-	-	-	-	-
4 県が、平成25年3月に「東海・東南海・南海3連動地震による津波浸水想定」と「南海トラフ巨大地震による津波浸水想定」の2つの津波浸水想定を公表したこと	45.6%	57.5%	-	-	-	-
5 平成26年10月に、県が津波到達までに安全な場所に避難することが困難な地域として、東海・東南海・南海3連動地震では県内4町22地区、南海トラフ巨大地震では県内12市町61地区の津波避難困難地域を抽出し、公表したこと	29.4%	-	-	-	-	-
6 県が、平成28年4月に、県内沿岸域19市町で津波災害警戒区域(イエローゾーン)を指定し公表したこと	30.6%	-	-	-	-	-
7 自分が住んでいる市町村が「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されていること	44.2%	45.3%	30.3%	33.9%	39.4%	35.0%
8 大津波警報や津波警報、津波注意報等の気象情報の違いについて	54.2%	-	-	-	-	-
9 南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること	43.4%	23.2%	34.6%	25.3%	30.1%	-
10 市町村が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」の違いについて	60.3%	-	-	-	-	-
11 県内の災害時の避難場所について、安全度合いに応じて3段階(☆、☆☆、☆☆☆)のレベル分けがされていること	13.9%	16.1%	-	-	-	-
12 避難場所は災害種別(水害・土砂災害・地震、津波)ごとに指定されていること	20.3%	-	-	-	-	-

問 38 あなたはふだん、問 37 のような自然災害や防災についての知識や情報を、どこから入手していますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 テレビ	90.3%	92.7%	94.6%	88.8%	95.3%	98.5%
2 ラジオ	20.0%	18.2%	21.6%	23.8%	22.6%	25.4%
3 新聞	43.4%	62.4%	58.2%	57.2%	67.7%	65.2%
4 雑誌	3.4%	8.1%	5.8%	5.2%	6.9%	6.4%
5 地震や災害の専門書	0.8%	1.5%	1.1%	1.3%	2.4%	-
6 県や市町村の広報誌	32.5%	30.8%	27.9%	32.9%	39.8%	28.1%
7 県や市町村のホームページ	5.4%	-	-	-	-	-
8 インターネット	29.1%	20.6%	18.9%	12.2%	8.2%	8.2%
9 ハザードマップ(防災マップ)	24.9%	-	-	-	-	-
10 家族から	11.3%	9.4%	11.6%	7.2%	10.7%	14.2%
11 友人・知人から	9.3%	8.3%	11.9%	8.7%	11.5%	15.0%
12 町内会・自治会を通じて	13.0%	11.6%	10.0%	13.0%	22.6%	9.4%
13 消防署・消防団を通じて	3.7%	4.2%	3.6%	6.0%	7.1%	5.2%
14 県や市町村の防災啓発事業	8.6%	-	-	-	-	-
15 その他	1.0%	2.0%	1.2%	1.6%	1.3%	1.4%
無回答・無効	2.2%	3.0%	1.0%	4.1%	0.1%	0.4%

問 39 あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 地域の防災研修会や、地図を使って災害時の対応を考える図上演習に参加した	12.8%	10.4%	7.3%	7.8%	13.3%	5.8%
2 自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った	6.9%	2.2%	2.7%	2.7%	3.2%	2.3%
3 災害時に避難するのに適切な場所を見て回った	36.8%	21.1%	15.9%	12.5%	18.7%	12.7%
4 自分たちの地域の防災マップを作った	5.7%	3.0%	2.5%	4.0%	5.0%	3.0%
5 県や市町村の広報誌の防災対策特集などを読んだ	51.5%	22.7%	29.3%	12.7%	13.7%	14.3%
6 防災に関するパンフレットを読んだ	60.2%	36.0%	38.6%	37.7%	41.0%	32.0%
7 県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た	37.2%	20.3%	16.2%	17.7%	18.1%	-
8 地域ごとの避難計画づくりに参加した	6.7%	4.1%	3.7%	2.2%	7.2%	-
9 市町村が作成した洪水や津波の浸水想定図で、自宅が浸水するか確認した	43.3%	22.0%	16.7%	21.3%	21.7%	-
10 県や市町村が作成した土砂災害ハザードマップ等で、自宅が土砂災害警戒区域内か確認した	34.6%	-	-	-	-	-
11 防災に関する講演会・シンポジウムに参加した	13.9%	14.5%	10.2%	11.3%	14.3%	11.0%

5.2.9 回答者の属性

F 1 性別

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 男性	43.5%	47.7%	47.2%	59.5%	48.1%	45.2%
2 女性	54.5%	45.8%	46.8%	33.1%	50.2%	53.0%
無回答・無効	2.0%	6.5%	6.1%	7.4%	1.7%	1.9%

F 2 年齢

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 20歳代	7.7%	3.8%	6.0%	5.2%	7.0%	8.1%
2 30歳代	9.3%	11.5%	9.3%	11.0%	11.1%	14.1%
3 40歳代	15.6%	17.0%	14.1%	13.4%	15.9%	15.3%
4 50歳代	17.1%	21.6%	19.1%	19.3%	21.7%	19.4%
5 60歳代	21.9%	25.3%	27.3%	24.6%	20.6%	19.6%
6 70歳以上	26.4%	14.2%	18.2%	18.9%	21.9%	21.8%
無回答・無効	2.0%	6.5%	6.1%	7.6%	1.9%	1.8%

F 3 あなたは、現在の住居にお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 5年未満	12.1%	8.5%	7.9%	9.4%	8.5%	11.7%
2 5～10年未満	9.1%	8.6%	8.0%	9.1%	11.4%	9.9%
3 10～20年未満	19.0%	16.2%	13.7%	14.6%	16.2%	16.5%
4 20～30年未満	17.9%	15.3%	17.4%	15.6%	19.3%	19.4%
5 30年以上	39.4%	44.4%	46.6%	43.7%	42.6%	40.7%
無回答・無効	2.5%	7.0%	6.4%	7.6%	2.0%	1.9%

F 4 職業

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 勤め人（会社員・公務員）	29.4%	32.0%	27.5%	31.2%	28.3%	32.5%
2 自営業	10.2%	9.4%	9.4%	9.6%	12.4%	8.3%
3 農林業	3.7%	4.9%	4.9%	4.6%	2.8%	5.6%
4 漁業	0.4%	0.8%	0.5%	1.5%	1.8%	0.4%
5 専業主婦	13.9%	14.7%	15.4%	9.7%	16.4%	25.0%
6 パートの主婦	9.3%	10.0%	6.7%	5.5%	7.1%	-
7 無職（すでに退職を含む。）	24.8%	17.2%	21.8%	25.1%	23.0%	20.9%
8 その他	4.8%	4.1%	6.5%	4.6%	5.6%	4.8%
無回答・無効	3.3%	7.0%	7.4%	8.1%	2.6%	2.4%

F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 1人（独居）	13.1%	6.9%	7.2%	8.0%	8.6%	7.4%
2 2人	33.6%	29.5%	29.5%	31.9%	31.9%	32.0%
3 3人	22.0%	24.3%	23.5%	21.4%	24.3%	21.8%
4 4人	16.7%	18.3%	16.6%	18.0%	17.6%	16.9%
5 5人	6.9%	7.8%	9.8%	7.8%	9.0%	11.6%
6 6人以上	5.3%	5.6%	7.1%	5.4%	6.9%	8.8%
無回答・無効	2.4%	7.6%	6.4%	7.6%	1.7%	1.5%

F 5-1 同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 3歳以下の乳幼児	6.4%	4.8%	7.0%	5.4%	5.7%	6.3%
2 4歳以上で小学校入学前の子ども	5.8%	5.7%	4.8%	5.0%	5.2%	6.7%
3 小学生	11.0%	10.8%	10.6%	10.1%	10.9%	13.0%
4 70歳以上の人	37.3%	28.5%	37.5%	28.4%	37.3%	40.7%
5 日常生活で介護を必要とする人	8.2%	8.2%	10.0%	7.0%	9.1%	6.8%
6 1~5の人はいない	39.1%	35.6%	40.0%	39.2%	32.7%	28.7%
無回答・無効	6.9%	21.5%	10.5%	10.1%	14.6%	13.5%

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 留守を頼んだり親しく話をする	22.5%	22.6%	26.3%	22.1%	30.7%	35.5%
2 ときどき立ち話をする程度	35.5%	37.9%	33.7%	38.9%	36.7%	29.8%
3 顔が合えばあいさつをする程度	31.5%	29.3%	28.7%	27.1%	27.7%	29.5%
4 ほとんどつきあいがいい	6.7%	3.4%	3.9%	4.1%	2.9%	3.4%
無回答・無効	3.8%	6.8%	7.4%	7.8%	2.0%	1.8%

F 7 あなたのお住まいの市町村はどちらですか（ひとつだけ○）。

	H28	H25	H23	H22	H19	H16
1 和歌山市	22.5%	36.6%	-	-	-	-
2 海南市	5.0%	10.3%	-	-	-	-
3 橋本市	3.4%	3.6%	-	-	-	-
4 有田市	3.1%	2.1%	-	-	-	-
5 御坊市	3.7%	3.4%	-	-	-	-
6 田辺市	12.0%	8.6%	-	-	-	-
7 新宮市	3.8%	1.6%	-	-	-	-
8 紀の川市	3.3%	3.0%	-	-	-	-
9 岩出市	2.0%	2.5%	-	-	-	-
10 紀美野町	0.6%	0.0%	-	-	-	-
11 かつらぎ町	1.0%	0.9%	-	-	-	-
12 九度山町	0.2%	0.0%	-	-	-	-
13 高野町	0.2%	0.0%	-	-	-	-
14 湯浅町	1.4%	1.7%	-	-	-	-
15 広川町	1.0%	1.8%	-	-	-	-
16 有田川町	1.4%	1.2%	-	-	-	-
17 美浜町	1.8%	0.3%	-	-	-	-
18 日高町	0.9%	1.1%	-	-	-	-
19 由良町	1.0%	1.7%	-	-	-	-
20 印南町	2.8%	1.7%	-	-	-	-
21 みなべ町	3.3%	1.0%	-	-	-	-
22 日高川町	0.6%	0.7%	-	-	-	-
23 白浜町	3.5%	1.5%	-	-	-	-
24 上富田町	0.8%	0.0%	-	-	-	-
25 すさみ町	1.8%	0.6%	-	-	-	-
26 那智勝浦町	8.3%	3.0%	-	-	-	-
27 太地町	0.8%	0.7%	-	-	-	-
28 古座川町	0.3%	0.0%	-	-	-	-
29 北山村	0.0%	0.0%	-	-	-	-
30 串本町	7.6%	3.9%	-	-	-	-
無回答・無効	2.1%	6.4%	-	-	-	-

6. 調査票

防災・減災に関する県民意識調査

平成28年12月

～ ご記入にあたってのお願い ～

1. ご回答は、宛名にあるご本人がご記入ください。
2. 質問は問1から問40まであり、最後にあなたご自身についての質問がF1からF7まであります。
3. ご回答は、選択肢の中からあてはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
4. 付問のある質問は選択肢後ろの「問○へ」「付問○へ」のとおりお進みください。
5. **皆様のご意見は今後の防災事業の検討資料とさせていただきます。ご協力をお願いします。**
6. ご回答いただいたアンケート用紙は、**12月24日までに同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。**

<調査に対するお問い合わせ先>

和歌山県 総務部 危機管理局 防災企画課 企画班 担当：吹上、和久田
TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652

【調査委託・実施機関】

株式会社総合環境計画 担当：赤井、井上
TEL：06-4390-5102 FAX：06-4390-5601



《南海トラフの地震等についてお聞きします》

問1	あなたは、南海トラフの地震（東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震を含む。以下同じ。）について、どの程度関心を持っていますか（ひとつだけ○）。
1. 非常に関心がある 2. 関心がある 3. 多少関心がある 4. 関心がない	

問2	あなたは、南海トラフの地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。
1. 明日起きても不思議はないと思っている 2. 2～3年以内に起こりそう	
3. ここ10年くらいの間に起きそう 4. ここ20～30年の間に起きそう	
5. もっと先のことだと思う 6. 起きる時期はわからない	

《災害時の情報収集についてお聞きします》

問10 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災行政無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ○）。

1. ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる
2. よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある
3. ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない
4. 放送の内容はまったく聞きとれない
5. 近くに防災行政無線のスピーカーが設置されていない

問11 あなたは、災害時における緊急情報をどのように入手していますか（いくつでも○）。

1. テレビ
2. ラジオ
3. インターネット
4. 電子メール
5. 家族から
6. 友人・知人から
7. 町内会・自治会から
8. 消防署・消防団から
9. ツイッターやフェイスブック等のSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）
10. 防災行政無線
11. その他（ ）
12. どこからも入手していない

問12 県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。

1. している
2. していない

この機会に『防災わかやまメール配信サービス』に登録しましょう！

○『防災わかやまメール配信サービス』とは
 県内の災害に関するさまざまな情報について、携帯電話などにメールでお知らせします。

配信情報
 特別警報・警報・注意報、台風情報、地震情報、津波情報、雨量情報、河川水位情報、被害情報、避難勧告情報、避難所開設情報、ダム放流情報、高温注意情報、その他緊急情報

○『防災わかやまメール配信サービス』への登録手順

1. 空メール送信
 [regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp]
 上記アドレスにそのままメールを送信してください。（件名・本文は不要）
 右のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。
2. 返信メールが届きます
 登録用URLが記載されたメールが返信されます。
3. 登録
 登録用URLにインターネット経由でアクセスし、情報を登録します。
4. 登録完了
 完了登録後に登録完了通知が届けば登録は完了です。



QRコード

《災害時の避難についてお聞きします》

問15	あなたは、避難カード（下図参照）を知っていますか（ひとつだけ○）。
1. 知っている（付問1へ） 2. 何となく知っている（問16へ） 3. 知らなかった（問16へ）	

付問1	あなたは、家族と同居している場合は家族等と避難場所や避難経路等を話し合っ、緊急避難先等を避難カードに記入していますか（ひとつだけ○）。
1. 記入している 2. 記入していない	
（続いて 問16へ）	

避難場所・避難経路を家族で話し合いましょう！

- ・災害が起きたとき、家族全員が一緒にいるとは限りません。
- ・一人ひとりの命を守るために、あらかじめ、家族で避難場所、避難経路、連絡先等を決めておき、避難カードに記入し携帯しておきましょう。
- ・いざというときには家族を信じ、それぞれに率先して避難しましょう。

津波警報が発令されたら、
迅速に高台などの安全な避難場所へ避難しましょう!!

津波避難3原則

- ① 想定にとられない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ

避難カード 大津波対応

氏名	住所	緊急連絡先
性別	年齢	電話番号
生年月日	性別	緊急避難先
緊急連絡先	電話番号	避難経路

片田敏孝群馬大学大学院理工学府教授 監修

問20	<p>災害時に要配慮者[※]を地域において支援する体制ができていますか。 [※]要配慮者：高齢者、障害者、乳幼児等の特に配慮を要する方</p>
<p>1. できている 2. できていないが検討している 3. 検討していない 4. よく知らない</p>	

問21	<p>大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力してどのようなことができると思いますか（いくつでも○）。</p>
<p>1. 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する 2. 火災が出たとき消火する 3. 重症者が出たとき病院などへ車やリアカーなどで運ぶ 4. 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う 5. 避難した人たちのために、炊き出しをする 6. 避難所の運営を手伝う 7. その他（） 8. 1.～7.のようなことはできない</p>	

問22	<p>あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（いくつでも○）。</p>
<p>1. 地震・津波や風水害などの学習会 2. 自主防災組織の育成・強化 3. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実 4. 防災訓練や図上演習などの実施 5. 地域防災リーダーの育成・研修 6. 避難等について考えるワークショップ(研修会) 7. 小中学校の防災教育の充実 8. 消防団の強化 9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進 10. その他（）</p>	

問35	あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも○）。
1. 県や市町村、消防機関が主催する防災訓練に参加した 2. 住民が中心となって行った防災訓練に参加した 3. 職場で行った防災訓練に参加した 4. その他の防災訓練に参加した 5. 1.～4.の訓練には、まったく参加していない（付問2へ）	
（「5.」以外の方は 付問1へ）	

付問1	具体的にはどのような訓練に参加しましたか（いくつでも○）。
1. 津波避難訓練 2. 消火訓練 3. 救出・救助訓練 4. 応急手当訓練 5. 炊き出し訓練 6. 情報伝達訓練 7. 風水害を想定した避難訓練 8. 避難行動要支援者の避難支援訓練 9. 避難所運営訓練 10. その他（ ）（問36へ）	

付問2	なぜ、訓練に参加しないのですか（ひとつだけ○）。
1. 興味がないから 2. 外せない用事等が入っていたから 3. 地域や職場などで防災訓練が実施されていないから 4. その他（ ）	
（続いて 問36へ）	

問36	今後、どのような訓練が必要であると思いますか（いくつでも○）。
1. 津波避難訓練 2. 消火訓練 3. 救出・救助訓練 4. 応急手当訓練 5. 炊き出し訓練 6. 情報伝達訓練 7. 風水害を想定した避難訓練 8. 避難行動要支援者の避難支援訓練 9. 避難所運営訓練 10. その他（ ）	

問37 次の1～12の項目についてあなたがお存じのことを教えてください（「知っている」「知らない」の欄どちらかに○）。

	質問項目	知っている	知らない
1	政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は70%程度」と発表したこと（平成28年1月1日現在）		
2	南海トラフ沿いの3つの領域（東海・東南海・南海）においては、90～150年周期で繰り返し津波を伴う地震が発生していること		
3	南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.1）は実際に発生したことを示す記録が見つかっておらず、発生頻度が極めて低いものであること		
4	県が、平成25年3月に「東海・東南海・南海3連動地震による津波浸水想定」と「南海トラフ巨大地震による津波浸水想定」の2つの津波浸水想定を公表したこと		
5	平成26年10月に、県が津波到達までに安全な場所に避難することが困難な地域として、東海・東南海・南海3連動地震では県内4町22地区、南海トラフ巨大地震では県内12市町61地区の津波避難困難地域を抽出し、公表したこと		
6	県が、平成28年4月に、県内沿岸域19市町で津波災害警戒区域（イエローゾーン）を指定し公表したこと		
7	自分が住んでいる市町村が「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されていること		
8	大津波警報や津波警報、津波注意報等の気象情報の違いについて		
9	南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること		
10	市町村が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」の違いについて		
11	県内の災害時の避難場所について、安全度合いに応じて3段階（☆、☆☆、☆☆☆）のレベル分けがされていること		
12	避難場所は災害種別（水害・土砂災害・地震、津波）ごとに指定されていること		

※上記の情報については、県防災わかやま「災害に備えて」のホームページに記載しています。

是非この機会にご覧ください。

防災わかやま「災害に備えて」ホームページURL : <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/>

右のQRコードもご利用ください。



問38	あなたはふだん、問37のような自然災害や防災についての知識や情報を、どこから入手していますか（いくつでも○）。		
1.	テレビ	2.	ラジオ
3.	新聞	4.	雑誌
5.	地震や災害の専門書	6.	県や市町村の広報誌
7.	県や市町村のホームページ	8.	インターネット
9.	ハザードマップ(防災マップ)	10.	家族から
11.	友人・知人から	12.	町内会・自治会を通じて
13.	消防署・消防団を通じて	14.	県や市町村の防災啓発事業
15.	その他（ ）		

問39	あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか（「はい」「いいえ」の欄どちらかに○）。		
-----	--	--	--

質問項目		はい	いいえ
1	地域の防災研修会や、地図を使って災害時の対応を考える図上演習に参加した		
2	自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った		
3	災害時に避難するのに適切な場所を見て回った		
4	自分たちの地域の防災マップを作った		
5	県や市町村の広報誌の防災対策特集などを読んだ		
6	防災に関するパンフレットを読んだ		
7	県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た		
8	地域ごとの避難計画づくりに参加した		
9	市町村が作成した洪水や津波の浸水想定図で、自宅が浸水するか確認した		
10	県や市町村が作成した土砂災害ハザードマップ等で、自宅が土砂災害警戒区域内か確認した		
11	防災に関する講演会・シンポジウムに参加した		

《最後にあなたご自身のことをお伺いします。 あてはまる番号に○をつけてください。》

F 1	性別
1. 男性	2. 女性

F 2	年齢				
1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

F 3	あなたは、現在の住居にお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ○）。			
1. 5年未満	2. 5～10年未満	3. 10～20年未満	4. 20～30年未満	5. 30年以上

F 4	職業		
1. 勤め人（会社員・公務員）	2. 自営業	3. 農林業	4. 漁業
5. 専業主婦	6. パートの主婦	7. 無職（すでに退職を含む。）	8. その他（ ）

F 5	同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ○）。				
1. 1人（独居）	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
（「1.」以外の方は 付問1へ）					

付問1	同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも○）。
1. 3歳以下の乳幼児	2. 4歳以上で小学校入学前の子ども
3. 小学生	4. 70歳以上の人
5. 日常生活で介護を必要とする人	6. 1.～5. の人はいない

F 6	あなたご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。
1. 留守を頼んだり親しく話をする	2. ときどき立ち話をする程度
3. 顔が合えばあいさつをする程度	4. ほとんどつきあいが無い

F 7	あなたのお住まいの市町村はどちらですか（ひとつだけ○）。			
1. 和歌山市	2. 海南市	3. 橋本市	4. 有田市	5. 御坊市
6. 田辺市	7. 新宮市	8. 紀の川市	9. 岩出市	10. 紀美野町
11. かつらぎ町	12. 九度山町	13. 高野町	14. 湯浅町	15. 広川町
16. 有田川町	17. 美浜町	18. 日高町	19. 由良町	20. 印南町
21. みなべ町	22. 日高川町	23. 白浜町	24. 上富田町	25. すさみ町
26. 那智勝浦町	27. 太地町	28. 古座川町	29. 北山村	30. 串本町

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
この用紙を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。

